

ベトナムの地方大学と日本企業等との連携可能性に関する調査

～ 日本との連携実績のあるベトナム主要大学および連携事例集 ～

日本貿易振興機構（ジェトロ）ハノイ事務所

協力：在ベトナム日本国大使館

2021年 2月

はじめに

本資料の作成目的

ジェトロ・ハノイ事務所では、ハノイ市・ホーチミン市以外に所在する地方大学と、日本企業、大学、自治体等（以下、日本企業等）との連携を図るため本資料を作成しています

- ①日本企業：地域への進出に関わる人材供給力、技術力の判断及び共同研究の可能性
- ②日本の大学：留学生獲得、共同研究、国際化推進
- ③日本の自治体：国際交流、経済交流、留学生・外国人材獲得

本資料の構成

- 第1章：ベトナム地方大学のデータ集
「ベトナムにどのような地方大学があり、どのような特色があり、どのような連携が求められているか」等を把握することを目的として、各地方大学の御担当者様にインタビューを実施し、各地方大学毎に、大学の特色・基本情報(連携事例概要も含む)等をデータ集として紹介しています
- 第2章：連携事例集 ～ベトナム地方大学との連携実績がある日本企業等へのインタビュー～
ベトナム地方大学と連携実績を有する日本の企業・大学・自治体様にインタビューを実施し、連携に関する内容・経験を連携事例集として紹介しています

インタビュー対象

- ベトナム全国の地方大学:

インタビュー実施数	24
選定方法	全地方大学のリストを参照し、学校規模、地域(北部・中部・南部)、主要専攻分野、連携実績有無のバランスを考慮して、地方大学を紹介できるように選定した
注記事項	・本調査では「ハノイ市・ホーチミン市以外に所在する大学」を地方大学と定義・呼称している

- 地方大学と連携実績を持つ日本企業・自治体・大学:

インタビュー実施数	12
選定方法	インターネット検索および地方大学からの情報提供等で地方大学と連携に関するニュースを参照し、実施された連携の概要を把握し、各種法人形態(企業・大学・地方自治体)、多様な業種の連携を紹介できるように選定した
注記事項	・連携事例については、4年制の地方大学との連携を主対象としているが、短期大学・職業教育訓練校およびハノイ市・ホーチミン市に所在する大学との連携も含めて聴取を実施している

調査実施期間

2020年9月～12月末

本報告書作成の背景

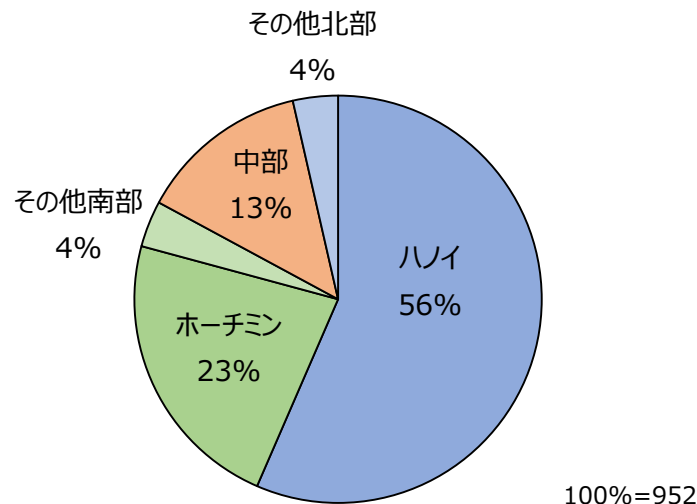
- 日越関係の良好な発展を背景として、日本企業等とベトナムの大学間での各種連携・協力等が増加を続けてきた。今後更に日本企業の地方への進出増加が期待されるが、地方進出の制約として地方人材の質と量、地方の技術力、それを支える大学の研究レベル等の情報は不足している
- 連携・協力等の相手先はハノイ市およびホーチミン市に所在する大学が8割を占め、その他地域に所在する大学との連携はまだ少ない
- その背景から、ハノイ市・ホーチミン市以外に所在する地方大学および日本企業等との間のマッチング強化につなげるべく、本報告書は「地方大学の紹介」および「連携実績の紹介」で構成されている

■参考情報：日本の大学とベトナムの大学間の連携数

文部科学省「海外の大学との大学間交流協定、海外における拠点に関する調査結果(2020年4月30日改定版)」で公表されている「日本の大学が海外の大学と締結している大学間交流協定」データを基に、「日本の大学がベトナムの大学と締結している大学間交流協定数」をグラフにしたものが以下となる

(日本企業および自治体については、連携・協力等の定量データがないため、不明)

地域別でみた日本の大学がベトナムの大学と
締結している大学間交流協定数



日本の大学がベトナムの大学と締結している大学間交流協定数は、2020年4月末段階で約1,000となり、その約80%がハノイ市およびホーチミン市に所在する大学となり、その他の地域に所在する大学は約20%に過ぎない

ご利用上の諸注意

本資料全体について

- 本資料は参考情報の提供を目的としており、本資料の記載内容に関して生じた直接的、間接的、あるいは懲罰的損害および利益の喪失については、一切の責任を負いません
- 掲載情報は実際とは異なる場合があります。ジェットロでは提供する資料・データ等、できる限り正確を期するよう努力しておりますが、掲載情報の確認・採否はお客様の責任と判断で行って頂きますようお願い致します
- 掲載されている写真は各組織の許諾を得て掲載しており、その権利は各権利者に帰属します
- 本資料の無断複製・配布を禁じます

第1章: ベトナム地方大学のデータ集 について

- 各大学からの調査票回答結果およびインタビュー結果に基づいて、ジェットロで翻訳・編集して掲載しています
- 年間研究予算・日本語教育の学生数等の数字部分や、卒業生の能力・連携の実績等の定性情報は、客観的なデータ・情報が少なく、調査票回答結果およびインタビュー結果によるものであり、参考情報としての掲示となります。特に連携実績については各大学のインタビュー時に言及があった事例からの選定あるいは大学ウェブサイト・ニュースにて公開されていた連携からランダムに選定しています。掲載情報は各大学の担当者様による内容確認を頂いたものにはなりますが、実際とは異なる場合がありますので、正確な最新のデータを入手するためには、各大学まで直接お問い合わせください
- ジェットロは中立の立場で、学校規模、地域(北部・中部・南部)、主要専攻分野、連携実績有無のバランスを考慮して、掲載大学を選定したものであり、掲載大学あるいは資料内の特定の大学を推奨するものではありません

第2章: 連携事例集 ~ベトナム地方大学との連携実績がある日本企業等へのインタビュー~ について

- 日本の企業・大学・地方自治体に御協力頂き、御担当者様へのインタビューを通じて聴取した情報を基に、ジェットロで編集して掲載しています
- インタビュー協力者様へのベトナム地方大学との仲介依頼等、直接のお問い合わせは、お控え頂けますようお願い致します
- ジェットロは中立の立場で、各種法人形態(企業・大学・地方自治体)、多様な業種の連携を紹介することを目的としてインタビュー対象を選定したものであり、連携事例の網羅的な紹介を目的としておらず、本資料に記載されていない連携の成功事例も多数ある点に御留意ください

インタビューから得られたベトナム地方大学の概況・要旨 (1/2)

ベトナム地方大学の概況について

■ 教育方針: 研究よりも実用的な人材育成に重点を置いている地方大学が多い

理由:

- ハノイ市、ホーチミン市およびダナン市、フエ市、カントー市等に所在する大学は、研究施設、人材、資金面等で研究活動面で優位な条件が整備されているが、その他地方の大学は整備が不十分となる
- 上記により、研究活動面で大都市の大学と競争面で不利なことがあり、「周辺地域への人材育成・提供」を使命として考えている大学が多い

詳細:

教育・訓練活動:

- 卒業後、企業側での研修が少なく済み、学生が即戦力人材として企業で従事できることを目標とし、理論教育・訓練よりも実践(実習)教育・訓練に費やす時間を増やしている。実践(実習)教育・訓練時間の配分が全体の50%を占める大学が多い
- 基本的に、卒業要件としてインターンシップ参加が義務付けられている。インターンシップ期間は大学・学部・専攻によって、それぞれ設定されている
また、企業等と大学との協定に基づいて、海外での長期インターンシップ(6ヶ月~1年)が可能な大学もある

卒業生の進路:

- 大学は「卒業後の就職率」を重要な指標としている
- 日本での就職・進学については、ダナン市・フエ市・カントー市といった大都市を除き、「日本での進学」は一般的な選択ではなく、「技能実習や特定技能ビザでの日本での就職」がより一般的となっている

理由:

1. 外国の大学への進学を経済的に支援できるほど家族が裕福な学生は多くはない
2. 日本の大学に合格し奨学金を得るためには都市の大学との競争が必要となるが、地方大学の学生の外国語能力および専門知識面で不利がある
3. 地方大学の学生は、日本留学や奨学金といった情報を目にとめるチャンスが都市の大学よりも少ない

研究分野に強い・重点を置いている地方大学:

- 本資料で紹介しているクイニン大学、カントー大学、ラックホン大学、フエ大学外国語大学、ダナン大学外国語大学等は、国際的な認証を取得、共同研究プロジェクトを実施する等、多くの連携・協力等の実績もある

インタビューから得られたベトナム地方大学の概況・要旨 (2/2)

ベトナム地方大学の概況について (前頁からの続き)

■ 外国語教育: 地方大学での日本語教育は課題がある

概況:

- 英語は必修外国語として最も学ばれている言語となる。卒業要件として課されている英語能力は大学によって異なるが、英語学部・専攻以外の学生の場合、基本的にはCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)のA2/B1レベル(TOEIC400~500点に相当)となる
- 英語以外の外国語については、日本語、韓国語、中国語を学ぶ学生が多い。「これらの言語を使いこなせれば、高い給料で良い仕事に就くチャンスがある」のが1つの理由となる。例えば、看護学分野では、外国での研修・就職に向けた学生派遣を目的として、地方大学が外国組織と連携し、特に日本語・ドイツ語に人気がある

日本語教育:

- 卒業生の日本語能力は各大学によって異なる。一般的に日本語学部・専攻の学生や日本での就職を目標にしている学生(看護師等)の方が、大学が日本語教育に注力しているため、能力が高い傾向がある(N2~N3レベル)
- ダナン市・フエ市を除いて、「講師不足」および「低い学習ニーズ」のため、地方大学での日本語教育は課題がある
 - ✓ 講師不足: 日本語クラスや日本語専攻を開設・増設したいと考えている地方大学もあるが、立地条件(大都市から離れているため日本語講師・日本人講師の募集が困難)、財政的な課題(講師募集のために有利な給与条件等を提示できない)等の理由で講師の雇い入れが難しい
 - ✓ 低い学習ニーズ: 日本語習得は英語習得よりも時間・努力を要するため、モチベーションや明確な目標を持って学習に臨む必要があるが、「日本語習得が将来のキャリアに役立つ」と考える学生数が多くない。大都市であれば日本企業も多く、「日本語を習得し、日本企業に就職する」といったモチベーションがより生まれやすい

日本企業等の連携・協力等について

- ドンア大学、ダナン大学外国語大学、フエ大学外国語大学といった、長く日本企業等との連携を進めてきた一部の大学を除き、ほとんどの地方大学は連携・協力等の実績(数・連携種類・内容)が少ない状況にある。一方で、「日本企業等との連携・協力等をもっと増やしていきたい」という意向を示している
- 日本企業等と地方大学の連携・協力等で実施されている主な内容は以下となる
 - ✓ 日本企業 : 施設・設備の寄贈、共同研究、技術移転、奨学金、研修プログラムの企画・実施、インターンシップ、採用 等
 - ✓ 日本の対教育機関 : 共同学術研究、交換留学、奨学金 等
 - ✓ 日本のその他の組織 : 共同研究、インターンシップ、講師派遣、イベント開催 等
- 地方大学が日本企業等との連携・協力等で期待している主な内容は以下となる
 - ✓ 日本企業の採用ニーズ: ニーズに対応した教育・研修プログラムを開発することで、現状の労働市場ニーズに合った教育・研修体制を整備したいと考えている大学側は日本企業と「1年生・2年生からの教育・研修プログラム」の共同開発等、長期間かつ深い連携をより希望しており、企業が必要とする人材を採用できるようサポートを積極的に行いたいと考えている
 - ✓ 双方の強みや地域の特色を活かした研究開発面での連携を希望している。例えば、農業や医療分野の商品開発
 - ✓ 日本語研修の支援を希望している。講師や専門家の派遣、研修教材の提供など
 - ✓ 地方大学は都市の大学と比較して、情報アクセス面で不利な点があるため、各種情報の提供を希望している(例: 日本の留学奨学金制度、日本側連携ニーズの相談 等)

第1章: ベトナム地方大学のデータ集

第2章: 連携事例集 ~ベトナム地方大学との連携実績がある日本企業等へのインタビュー~

第1章: ベトナム地方大学のデータ集

インタビュー概要 (再掲)

ベトナムにどのような地方大学があり、どのような特色があり、どういった連携を求めているかを把握することを目的として、各地方大学の担当者にインタビューを実施し、地方大学毎に、大学の特色・基本情報(連携事例概要も含む)等をデータ集として紹介しています

インタビュー実施数	24
選定方法	全地方大学のリストを参照し、学校規模、地域(北部・中部・南部)、主要専攻分野、連携実績有無のバランスを考慮して、地方大学を紹介できるように選定した
注記事項	・本調査では「ハノイ市・ホーチミン市以外に所在する大学」を地方大学と定義・呼称している

ご利用上の諸注意(再掲)

- ・各大学からの調査票回答結果およびインタビュー結果に基づいて、ジェトロで翻訳・編集して掲載しています
- ・年間研究予算・日本語教育の学生数等の数字部分や、卒業生の能力・連携の実績等の定性情報は、客観的なデータ・情報が少なく、調査票回答結果およびインタビュー結果によるものであり、参考情報としての掲示となります。特に連携実績については各大学のインタビュー時に言及があった事例からの選定あるいは大学ウェブサイト・ニュースにて公開されていた連携からランダムに選定しています。掲載情報は各大学の担当者様による内容確認を頂いたものにはなりますが、実際とは異なる場合がありますので、正確な最新のデータを手に入れるためには、各大学まで直接お問い合わせください
- ・ジェトロは中立の立場で、「学校規模、地域(北部・中部・南部)、主要専攻分野、連携実績有無のバランス」を考慮して、掲載大学を選定したものであり、掲載大学あるいは資料内の特定の大学を推奨するものではありません

用語等の補足説明:

FDI	各大学の所在する各省・市の「地域の特徴」を紹介するため、面積・人口に加えて、外国からの投資動向を説明する目的で、GSO(統計総局)の公表するFDI(外国直接投資)許可額を記載している
中等職業学校	職業訓練に重点を置いた履修期間1~4年間の課程となる。ベトナムの大学の中には学部・修士・博士課程以外に、中等職業学校や短期大学課程を提供している学校もある
年間研究予算	()内に1円=223ベトナムドンで換算した金額を記載している
窓口情報	各校、国際協力部といった名称で、外国の企業・大学・自治体等との窓口を担当する部署が設置されている ベトナムの大学と連携したい場合、まずは、その部署への連絡が推奨される ※ 担当者個人の電話番号・メールも記載していますが、ベトナムでは異動も多いため、つながらない場合、部署の代表番号・メールへの連絡をお試しください
重点分野	首相決定 No.73/2015/ND-CPにより、高等教育機関は「研究に占める予算、講師の保有する学位レベル、生徒当たりの講師人数」等に基づき、以下の3志向に分類されている - 研究志向 (Research-Oriented): 科学分野の基礎原理と理論に特化 および 基礎となるソース技術の開発 - 応用志向 (Application-Oriented): 基礎研究成果の開発 および ソース技術を技術ソリューションや管理プロセスへと応用 - 演習志向 (Practice-Oriented): 技術ソリューション・管理プロセス・ツールの生産・製造 ※ 本資料では、各大学へのインタビュー時に、実用(人材育成)あるいは研究のどちらに重点を置いているかを聞いた
連携等事例	本資料では、以下の分類で「連携」と「協力等」を分けて記述している - 連携: 日本側もベトナム側も何らかの積極的な役割分担を持つ双方向性があり、対等な対場での取り組み - 協力等: 日本側またはベトナム側どちらか一方からの働きかけや便益、資源の提供などを主とした取り組み

調査対象大学

No	大学名	所在地	公立・私立区分	学部・専攻	重点分野 (人材育成 or 研究)*
北部					
1	ハロン大学	クアンニン省	公立	学際系	実用 (人材育成)
2	タイドン大学	ハイズオン省	私立	学際系	実用 (人材育成)
3	ハイフォン大学	ハイフォン市	公立	学際系	実用 (人材育成)
4	タイビン大学	タイビン省	公立	学際系	実用 (人材育成)
5	タイビン医科薬科大学	タイビン省	公立	医・薬	実用 (人材育成)
6	ナムディン看護大学	ナムディン省	公立	看護	実用 (人材育成)
7	タイグエン工科大学	タイグエン省	公立	エンジニアリング/ テクノロジー	実用 (人材育成)
8	タイグエン農林大学	タイグエン省	公立	農業/林業	実用 (人材育成)
中部					
9	ヴイン大学	ゲアン省	公立	学際系	実用 (人材育成)
10	ヴイン工業大学	ゲアン省	私立	エンジニアリング/ テクノロジー	実用 (人材育成)
11	フエ大学外国語大学	トゥアティエン・フエ省	公立	言語	実用(人材育成) & 研究
12	ダナン大学外国語大学	ダナン市	公立	言語	実用(人材育成) & 研究

No	大学名	所在地	公立・私立区分	学部・専攻	重点分野 (人材育成 or 研究)*
13	ドンア(東亜)大学	ダナン市	私立	学際系	実用 (人材育成)
14	クイニン大学	ビンディン省	公立	学際系	実用 (人材育成)
15	クアンチュン大学	ビンディン省	私立	学際系	実用 (人材育成)
16	ダラット大学	ラムドン省	公立	学際系	実用 (人材育成)
17	ダラットヤーシン大学	ラムドン省	私立	学際系	実用 (人材育成)
南部					
18	ラクホン大学	ドンナイ省	私立	学際系	実用 (人材育成)
19	バリア・ブントウ大学	バリア・ブントウ省	私立	学際系	実用 (人材育成)
20	ミンタイ建設大学	ヴインロン省	公立	建設	実用 (人材育成)
21	アンザン大学	アンザン省	公立	学際系	実用 (人材育成)
22	カントー大学	カントー市	公立	学際系	研究
23	カントー工学技術大学	カントー市	公立	エンジニアリング/ テクノロジー	実用 (人材育成)
24	テイドー大学	カントー市	私立	学際系	実用 (人材育成)

* 各大学へのインタビュー時に、実用(人材育成)あるいは研究のどちらに重点を置いているか聞いた結果を基に、記載している

ハロン大学

英語名 HA LONG UNIVERSITY

略称 HALOU

北部

公立

日本語教育あり

地域の特徴

- クアンニン省はUNESCO世界遺産に登録されているハロン湾があり、観光地としても有名
- 石炭、石灰石、粘土、カオリン等、天然鉱物資源が豊富であり、国内総石炭生産量の90%を占めている

統計 (2019年)

ランキング

面積	6178.2 km ²	21/63
人口	1324.8 千人	23/63
FDI	242.1 百万 USD	24/63

ハロン大学

沿革

- 2014年、50年以上の歴史を持つクアンニン教育短期大学とハロン文化芸術観光短期大学が統合され、ハロン大学として設立された

特色

- クアンニン省人民委員会の管轄下の公立大学となる
- クアンニン省で初めて唯一の複数課程を備えた総合大学である
- キャンパスはUong Bi市(メインキャンパス)およびHa Long市にある

特に強みがある専攻

- Tourism Majors
- Foreign Language Majors
- Natural Resources and Environment Management



基本情報

所在地	258 Bach Dang, Nam Khe Ward, Uong Bi city, Quang Ninh (Van Don 国際空港から約80 km)				
URL	https://uhl.edu.vn/				
創立年	2014年				
課程 専攻数	<input checked="" type="checkbox"/> 中等職業学校 11	<input checked="" type="checkbox"/> 短期大学 20	<input checked="" type="checkbox"/> 学部 11	<input type="checkbox"/> 修士 -	<input type="checkbox"/> 博士 -
学生数	4,419				
教員数	290				
日本留学経験のある教員	人数	7			
	例示	Ms. Vuong Thi Bich Lien (外国語学部・日本語専攻長)			
年間研究予算	67億 VND (約3004万円 - 2020年度予算)				

窓口情報 (国際連携担当の部門)

部署代表番号・メール	-	phongqlkhqhqdt.dhhl@moet.edu.vn
担当者 氏名・役職	Mr. Nguyen Quoc Tuan	部長
担当者 電話番号・メール	(84) 982 084 014	nguyenquoctuan@daihochalong.edu.vn
対応可能な言語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他 ()	

学長 略歴

Dr. Nguyen Van Thang
1973年生まれ
専攻分野: Finance - Money Circulation
2020年-現在: 大学長 ハロン大学
2020年-2025年: 委員長 クアンニン省人民委員会
2015年-2020年: 副書記 クアンニン省党委員会
2014年-2018年: 取締役会会長 ベトナム産業貿易銀行 (Vietinbank)
2007年-2013年: 博士課程修了 財政学院



A - 教育体制

1. 教育状況の概要

教育方針(配分)	重点分野: 実用(人材育成) 訓練時間の配分: 実践50%-理論50% (専攻によって異なる)	
インターンシップ	任意	まだ無い
	必修	3年目、4年目に2回のインターンシップ
卒業生の状況	“(大体のデータになりますが)日本語学部の学生23名のうち進学は1人もおらず、半数が在ベトナム日本企業に就職、約5%が日本で働いています。” - Dr. Le Hoang (外国語学部・前日本語専攻長)	

2. 外国語教育

概要		
外国語の授業	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他(中国語, 韓国語)	
必須の外国語科目	英語	
最も学習されている外国語 (英語を除く)	中国語	
英語の卒業要件	英語専攻 C1	英語専攻以外 B1

日本語の教育

授業種別	卒業要件	卒業生の能力		学生数/年
<input checked="" type="checkbox"/> 日本語学科・学部	N3	N3~N2		102
<input type="checkbox"/> 単位認定授業	-	-		-
<input type="checkbox"/> 単位が出ない授業	-	-		-
指導教員の数/能力	ベトナム人 7	N2~N1	日本人 0	-

B - 国際連携・協力等の実績

概要		
連携・協力等パートナーの国籍	オーストラリア、中国、日本、韓国、オランダ、ニュージーランド、フィリピン	
パートナーが最も多い国籍	オーストラリア、中国	
日本パートナーとの連携・協力等		
連携・協力等確立方法	相手側からのコンタクト、大学側からコンタクト、第三者からの紹介、大学上層部のネットワーク	
パートナーの数	5	
連携・協力等形態	<input type="checkbox"/> 企業	-
	<input checked="" type="checkbox"/> 教育機関	奨学金付き学生交換プログラム
	<input checked="" type="checkbox"/> その他(行政機関)	行政機関: 研究、専門家の派遣、書籍等の寄贈、文化交流、ジョブフェアに参加するため学生を招待

C - 就職支援活動

ジョブフェア開催	2月、6月
その他の活動	パートナーとのインターンシップおよび採用契約、講師や支援部署による職業紹介、大学ウェブサイト上での求職情報の更新

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		中等職業学校	短期大学	学部
芸術	Art (Painting/Drawing)	○	○	
	Handicrafts	○		
	Theater Dance	○		
	Traditional Music Instrument	○		
	Vocal Training	○	○	
	Western Music Instrument	○		
教育	Art Pedagogy		○	
	Biology Pedagogy		○	
	Chemistry Pedagogy		○	
	English Language Pedagogy		○	
	Literature Pedagogy		○	
	Mathematics Pedagogy		○	
	Music Pedagogy		○	
	Primary Education		○	
Pre-school Education	○	○		
外国語	Chinese			○
	English			○
	Tourism English		○	
	Japanese			○
	Korean			○
テクノロジー	Applied Informatics		○	
	Information Technology			○

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		中等職業学校	短期大学	学部
観光	Bartender and Beverage Serving	○		
	Cooking Techniques	○		
	Hotel Management		○	○
	Professional Reception	○		
	Hotel, Restaurant Profession	○		
	Restaurant and Food Service Management		○	○
	Tour Guide		○	
その他	Travel and Tourism Service Management		○	○
	Aquaculture			○
	Community Service		○	
	Culture Management		○	○
	Library Science		○	
Natural Resources& Environment Management			○	

特に強みのある学部・専攻は何ですか？

“ハロン大学の特に強みのある専攻は、観光、外国語、環境です。

観光専攻については、御存知かもしれませんが、当大学が所在するクアンニン省は観光業が盛んであり、この分野の人材が特に必要とされています。卒業生のうち90%は卒業前または卒業直後に企業から内定を受け、国際/国内大会で優勝した学生も多く在籍しています。

外国語については、英語、日本語、韓国語、中国語の授業を行っています。これらの言語は、国際協力と観光に不可欠です。加えて、学生は多くの奨学金を取得しており、国際サマーキャンプに参加し、国際機関/大学から高い評価を受けています。

環境専攻については、クアンニン省のサービス業および産業の発展に伴い、持続可能な開発の観点から環境も注目を集めています。環境学部は、JICAとクアンニン省人民委員会とで協力して設立したハロン湾研究センターも管轄しています。”

- Dr. Phan Thi Hue (副学長)



情報技術および外国語学部の学生向けの教室



観光学部の演習エリア



養殖演習エリア

連携等事例

自治体と協力等

連携先・協力先	国際交流基金 (Japan Foundation)
時期	2016年 - 現在
専攻	日本語言語・文化
内容	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流基金が書籍を寄贈 国際交流基金とハロン大学で日越文化交流活動を実施



書籍の贈呈式

大学と連携

連携先・協力先	大阪大学
時期	2018年 - 現在
専攻	言語・文化
内容	<p>学生交流: ハロン大学は大阪大学に学生を送り、大阪大学はハロン大学でベトナム語を学ぶために6~9ヶ月間学生を送る</p>



大阪大学の学生へ「学生交換プログラム」の修了証を授与

自治体と連携

連携先・協力先	<ul style="list-style-type: none"> 国際協力機構 (JICA) 滋賀県琵琶湖環境部 クアンニン省人民委員会
時期	2018年 - 現在
専攻	環境
内容	<ul style="list-style-type: none"> クアンニン省人民委員会とJICAの「グリーン開発推進プロジェクト」の一環として、ハロン大学のキャンパス内にハロン湾研究センターを設立 同センターは、ハロン大学の環境学部が管轄しており、環境資源・生物多様性保全の分野における科学研究および技術適用の役割を果たす



ハロン湾研究センターと琵琶湖環境科学研究センターとの会合

大学関係者へのインタビュー



Dr. Phan Thi Hue
(副学長)

写真なし

Dr. Le Hoang
(外国語学部の
前日本語専攻長)

「2016年に日本語専攻を設立しました。現在は第1期の卒業生が出ていますが、奨学金を受け取っていたり、様々な組織から高く評価されています。

現在、外国語学部内の日本語専攻となっていますが、2022年に日本語学部の設置を予定となります。ハロン大学はこの分野に注力しているため、様々な日本パートナーと協力したいと考えています。」

貴学が目指している今後の方向性を教えてください。

“ハロン大学は研究活動にも非常に興味を持っています。2018年、クアンニン省はJICAのプロジェクトの一環として滋賀県と協力し、琵琶湖の事例をモデルとして、大学内にハロン湾研究センターを設立しました。ハロン大学は琵琶湖環境科学研究センターと共同研究も進めようとしています。

また、国内全土の専門家をクアンニン省およびハロン大学へとつなぐ目的で設置した科学技術センターもあります。2021年には「イノベーションおよび起業家センター」をクアンニン省に設立し、同センターを「革新的なアイデアを引き付け、学生の起業への熱意を創造し、学生のアイデアを国内外の企業と結び付ける」拠点にしたいと考えており、日本からも専門家の参加を呼び掛けたいと考えています。

このような施策を通じて、ハロン大学は「クアンニン省の人材を育成するだけでなく、研究および技術移転の中心」を目指しています。”

日本企業等との連携に、どのような内容を期待しますか？

対 企業

“在ベトナム日本企業が、学生をインターンシップで受け入れ、ジョブフェアに参加して頂き、日本企業で就職する機会を増やすことを望んでいます。”

“卒業後に企業で働くことを決定した学生向けに奨学金の提供”

“学生を日本で雇用したい日本企業は、直接、ハロン大学に連絡して訪問し、ジョブフェアに参加して頂きたいと思います。”

“例えば、日本で成功した起業家によるハロン大学の学生へのプレゼン、起業家精神についての講義等、様々な業界の日本の専門家がワークショップを開き、学生と対話する機会を設けて頂くことを希望しています。”

対 教育機関

“現在、大阪大学と実施しているような交換留学プログラムを継続し、日本語を学ぶ機会を学生に与えたいと考えています。”

“科学研究へ協力し、学生が参画する機会が増えればと考えています。”

対 行政機関/教育機関/企業等

“現時点では、日本語教育の開発・強化を優先したいと考えています。

現在、ハロン大学は、日本語授業の規模拡大を画策する一方で日本語講師が不足している状況にあるため、日本の組織、企業、大学等から教師派遣等の支援を希望しています。日本語専攻の学生以外も「自分の専攻以外の機会や知識を得るために日本語を勉強したい」というニーズがあります。”

“日本語トレーニングだけでなく、ホスピタリティ等、職業訓練への協力も希望しています。専門家を大学に招聘し、日本語専攻の学生向けの研修プログラムを開発・設計したいと考えています。日本語に加えて、他の専門分野も学ぶことで、学生は卒業後に長期キャリアを構築できます。”

“現時点で、ハロン大学の日本語専攻の学生数が不足しているため、日本企業とのジョブフェアの開催に苦労しています。ハノイにある大学の場合、日本語専攻の卒業生が数百名規模でいるので、企業と連携してジョブフェアを開催することは難しくありません。一方、ハロン大学の場合、日本語専攻の学生数は数十人単位ではないため、日本ジョブフェアの開催は効果的でないと考えられています。

ただし、効果的になるまで待つというのは、当大学にとっては遅いです。「小規模過ぎて協力する価値がない」とみなされ、日本の組織から協力を得ることができなければ、ハロン大学は成長できません。例えば、JETROはハロン大学の学生をハノイで企画されたジョブフェアへと招待してくれましたが、このように現段階での協力を頂ければ有難く考えています。ハノイやダナンで企画されるジョブフェアへの招待、また、もし可能であれば、ハロン大学で開催し、逆にハノイの学生をハロン大学に招待する形もできれば、と思います。”



タイドン大学

英語名 THANH DONG UNIVERSITY

略称 THANH DONG

北部

私立

日本語教育あり

地域の特徴

- ・ハイズオン省はハノイから東に60km程度に位置し、北部の主要経済地域となっている
- ・省都はハイズオン市であり、ハノイ大都市圏内での産業分野の中心地の1つとなっている

統計 (2019年)

ランキング

面積	1,668.2 km ²	52/63
人口	1,896.9 千人	9/63
FDI	691.4 百万 USD	12/63



タイドン大学

沿革

- ・タイドン大学は「学生が大学のブランドとなる(卒業後の学生の成功が大学の名前や評価へとつながる)」という理念にて、2009年に設立された私立大学

特色

- ・ハイズオン省で初めての私立大学
- ・タイドン大学は開発戦略の1つとして国際協力に焦点を当てている

特に強みがある専攻

- ・ Information Technology
- ・ Medical majors (Nursing, Traditional Medicine, Pharmacy, Nutrition)
- ・ Law



基本情報

所在地	3 Vu Cong Dan, Tu Minh Ward, Hai Duong City, Hai Duong (Noi Bai 国際空港から約92 km)				
URL	https://thanhdong.edu.vn/				
創立年	2009年				
課程 専攻数	<input type="checkbox"/> 中等職業学校	<input type="checkbox"/> 短期大学	<input checked="" type="checkbox"/> 学部	<input checked="" type="checkbox"/> 修士	<input checked="" type="checkbox"/> 博士
	-	-	17	4	1
学生数	5,000				
教員数	282				
日本留学経験のある教員	人数	9			
	例示	Mr. Le Anh Tuan (日本センター長)			
年間研究予算	15億 VND (約672万円)				

窓口情報 (国際連携担当の部門)

部署代表番号・メール	(84) 220 3559 666	tuyensinh3@thanhdong.edu.vn
担当者 氏名・役職	Mr. Le Anh Tuan	日本センター長
担当者 電話番号・メール	(84) 984 439 108	N/A
対応可能な言語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他 ()	

学長 略歴

准教授 - Dr. Le Van Hung
 1955年生まれ
 専攻分野: 免疫、経営管理
 2015年-現在: 理事長兼学長 タイドン大学
 1986年: 博士 ホーチミン市農林大学
 1979年: 学部 ハノイ農業大学





タイドン大学

英語名 THANH DONG UNIVERSITY

略称 THANH DONG

北部

私立

日本語教育あり

A - 教育体制

1. 教育状況の概要

教育方針(配分)	重点分野: 実用 (人材育成) 訓練時間の配分: 実践50%-理論50%
インターンシップ	任意 海外でインターンシップ
	必修 3回のインターンシップ
卒業生の状況	“大学の調査によれば、卒業後6か月以内に85%超の学生が就職できています。タイドン大学は2019年-20年の学生について、「卒業後、国の最低賃金の1.5倍の給与で、100%の学生が就職できる」ことを目標として掲げています。” - Le Van Hung (学長)

2. 外国語教育

概要	
外国語の授業	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (ドイツ語)
必須の外国語科目	英語 (全学生) ドイツ語又は日本語 (ドイツ/日本で就職を希望する学生)
最も学習されている外国語 (英語を除く)	日本語
英語の卒業要件	英語専攻 - 英語専攻以外 B1

日本語の教育

授業種別	卒業要件	卒業生の能力		学生数/年
<input type="checkbox"/> 日本語学科・学部	-	-	-	-
<input checked="" type="checkbox"/> 単位認定授業	N4	N4-N3		30
<input type="checkbox"/> 単位が出ない授業	-	-	-	-
指導教員の数/能力	ベトナム人 3	N2~N1	日本人 1	-

B - 国際連携・協力等の実績

概要	
連携・協力等パートナーの国籍	ドイツ、日本、韓国、アメリカ
パートナーが最も多い国籍	ドイツ、日本
日本パートナーとの連携・協力等	
連携・協力等確立方法	相手側からのコンタクト
パートナーの数	6
連携・協力等形態	<input checked="" type="checkbox"/> 企業 インターンシップ、機器・設備への投資、日本語および専門教育の支援のための専門家の派遣、日本で働きたい人材の採用、日本語テストの実施
	<input checked="" type="checkbox"/> 教育機関 日本で勉強したい学生の受入、学生交換
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (行政機関) 行政機関 日本語教育の支援のための専門家の派遣

C - 就職支援活動

ジョブフェア開催	省内で企画されるジョブフェアへの参加 (5月/6月、11月)
その他の活動	大学ウェブサイト上での求職情報の更新



タイドン大学

英語名 THANH DONG UNIVERSITY

略称 THANH DONG

北部

私立

日本語教育あり

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
経済・経営	Business Administration	○	○	○
	Finance – Banking	○		
	Accounting	○		
	Economic Management		○	
テクノロジー	Construction Engineering Technology	○		
	Information Technology	○		
医学	Nursing	○		
	Nutrition	○		
	Traditional Medicine	○		
	Veterinary	○		
	Pharmacy	○		
観光	Hotel Management	○		
	Travel and Tourism Administration	○		
その他	State Management	○		
	Business Law	○	○	
	Law	○		
	Politics	○		
	Land Management	○	○	

特に強みのある学部・専攻は何ですか？

“特に強みがある専攻の1つは看護です。ドイツや日本といった先進国との連携により、国際的な医療水準の引き上げに常時対応できるよう、外国パートナーの要求に応じて、カリキュラムおよびプログラムを頻繁に更新しています。また、ドイツと日本から講師を招聘し、学生の研修を行っています。”

- Dr. Nguyen Thi Hoa Ly (副学長兼国際協力部長)



タイドン大学

英語名	THANH DONG UNIVERSITY
略称	THANH DONG

北部
私立
日本語教育あり

連携等事例

企業と協力等

連携先・協力先	専門教育出版
時期	2014年
専攻	日本語教育
内容	NATテスト(日本語テスト)の開催

企業と連携

連携先・協力先	アドバンス および An Khang
時期	2020年
専攻	看護、情報技術
内容	<ul style="list-style-type: none"> 日本側は大学へ訓練用の介護機器を寄贈、また専門家を派遣し、日本語および看護・情報技術のスキルを訓練 N4以上を取得した学生について、特定技能ビザにて日本で従事することを計画

教育機関と協力等

連携先・協力先	タイケン学園 および Asian Union
時期	2014年
専攻	日本語
内容	<ul style="list-style-type: none"> 日本にて日本語を勉強したい学生をタイケン学園で受け入れる タイドン大学の学生を対象に、日本語クラスを実施

写真なし



調印式



調印式



タイドン大学

英語名	THANH DONG UNIVERSITY
略称	THANH DONG

北部
私立
日本語教育あり

大学関係者へのインタビュー



Dr. Nguyen Thi Hoa Ly
(副学長兼国際協力部長)

「タイドン大学は、ハイズオン省とドイツの都市・企業との間の仲介役としての役割も果たしており、日本の自治体とハイズオン省との間で物品取引の話が進められています。その仲介役も担う予定です。タイドン大学のキャンパスは公園のように整備されており、北部で最も美しい私立大学の1つとなっています。外国パートナーがハイズオン省を訪問する時は、大学側の負担でキャンパスに滞在することもできます。」

貴学が目指している今後の方向性を教えてください。

“ハイズオン省も含めてベトナム全国の高齢者数が増加しており、5年後には介護施設の不足が予想されています。現在、タイドン大学の講師は国際基準に基づいた形でドイツや日本のための人材育成に協力しています。我々はこれらの取り組みを通じて、ハイズオン省およびベトナムの医療従事者の育成方法についても経験を積むことができました。

情報技術については、ハイズオン省は、他の省と同じく情報化都市を目指しています。まだ経験の少ない自治体であるハイズオン省が、日本の他の自治体と連携して、スマートシティ構築の経験を得ることができれば、それは素晴らしいことだと考えています。

グローバル化に伴い、ドイツ語、日本語、中国語の需要が高まっています。タイドン大学では、日本語、中国語などの外国語専攻を開設する予定です。私立大学であるため、非常に柔軟に対応でき、全てのパートナーを歓迎しています。これまで連携したパートナーとは長期間の協力体制を築くことができました。本校は、経済的な利益でなく人道的な活動に着目しており、「学生の成功」を目標としています。”

日本企業等との連携に、どのような内容を期待しますか？

対 企業

“学生には、日本での就業を強くお勧めしています。日本での就業を通じて、経験を積むことも、家族に仕送りがすることもできます。日本での経験は、高スキル労働力の育成へとつながり、ベトナムにとっても役立つでしょう。

“ですので、タイドン大学は、日本の企業との連携を望んでいます。企業側が必要としていることを提示して頂き、大学側も何が可能か伝え、双方の状況が一致すれば、協力関係は良好かつ迅速なものになると考えています。

“タイドン大学は、機能的食品を製造する目的で伝統医薬品の研究を多数行っていますので、機能的食品の製造企業に対して、技術移転・製品の研究開発といった面での協力を望んでいます。タイドン大学は研究のために日本からも樹木を購入しており、将来的にはハイズオン省を薬用資材のエリアにできればとも考えています。ベトナムでは、日本で製造されたスピルリナという機能的食品が人気となっていますが、その研究も興味があります。”

“タイドン大学の情報技術や建設エンジニアリング専攻は優秀な学生が多く、日本のITや建設企業と協力して研究や研修を行い、学生や講師を受け入れて頂ければと考えています。”

“ドイツでは看護師業務を代替するロボット研究が始まっていますが、日本もロボット工学分野は発展しています。もし、日本で「そのような技術があるが人材が不足している」のであれば、そのような研究にも協力したいです。”

対 企業 および 自治体

“ハイズオン省に老人ホームを建設したいと考えているため、日本の県や企業の協力を得られれば、と考えています。例えば、外国人も利用対象にすれば、自国の冬の寒さをしのぐための滞在先としての利用も考えられます。タイドン大学の敷地面積は18ヘクタールありますので、標準的な規模の老人ホームの建設が可能です。ベトナムの既存の老人ホームはあまり品質が良くありません。タイドン大学の運営母体となる企業は病院も運営しています。”

対 教育機関

“学長は日本の就学前教育を高く評価しているため、日本の学校から講師を招聘し、日本の教育現場の教育方法・設備等を学び、研修プログラムを導入できればと考えています。”

人材採用について、日本企業等へのアドバイスがありますか？

“最も重要なのは、日本側が求めている要件を正しく把握することです。日本側から「どのような学生、必要な日本語能力、何人」といった情報提供が必要です。例えば、ITと言われても幅広く、ソフトウェア開発なのか、モバイル製品の製造なのか分かりませんので、明確に伝えて頂ければと思います。”



ハイフォン大学

英語名 HAI PHONG UNIVERSITY

略称 HPU

北部

公立

日本語教育あり

地域の特徴

- ハイフォン市は中央直轄市 (ベトナムでは5中央直轄市がある)
- 港湾都市であり、北部最大の輸出入・流通の拠点となっており、ベトナム国内でも有数の経済の中心地の1つとなる

統計 (2019年)

ランキング

面積	1,561.8 km ²	55/63
人口	2,033.3 千人	7/63
FDI	1,374 百万 USD	6/63



ハイフォン大学

沿革

- 1959年、前身のハイフォン中等職業学校が設立
- 2000年、ハイフォン中等職業学校は、ハイフォン教育学短期大学、ハイフォン外国語センター、教育管理及び教師育成スタッフトレーニングハイフォン学校が統合され、ハイフォン教育大学となる
- 2004年、ハイフォン大学に改称

特色

- ハイフォン市人民委員会の管轄下にある公立の学際的・総合大学

特に強みがある専攻

- Information Technology
- Tourism Management
- Electrical & Electronic engineering technology
- Foreign Trade Economics
- Corporate Accounting
- Foreign Languages (English, Chinese)



基本情報

所在地	171 Phan Dang Luu, Ngoc Son Ward, Kien An District, Hai Phong (Cat Bi 国際空港から約16 km)				
URL	http://dhhp.edu.vn/vi/trang-chu/				
創立年	1959年				
課程 専攻数	<input type="checkbox"/> 中等職業学校	<input type="checkbox"/> 短期大学	<input checked="" type="checkbox"/> 学部	<input checked="" type="checkbox"/> 修士	<input checked="" type="checkbox"/> 博士
	-	-	37*	5	2
学生数	6,774				
教員数	421				
日本留学経験のある教員	人数	1			
	例示	Ms. Nguyen Thi Thanh Van (日本語科目の講師)			
年間研究予算	3億 VND (約134万円)				

窓口情報 (国際連携担当の部門)

部署代表番号・メール	(84) 225 876 894	phonghtdtqt@dhhp.edu.vn
担当者 氏名・役職	Ms. Nguyen Thi Minh Loan	部長
担当者 電話番号・メール	(84) 904 377 758	loanntm@dhhp.edu.vn
対応可能な言語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (ロシア語)	

副学長 略歴

准教授- Dr. Nguyen Hoai Nam
 1975年生まれ
 専攻分野: 経済
 2020年-現在: 学長 ハイフォン大学
 2010年: 博士 ハノイ国民経済大学
 2004年: 修士 ハノイ国民経済大学
 1998年: 学部 ハノイ国民経済大学



* 専攻リスト頁で紹介している学部数と一致していないが、これは「いくつかの学部は複数履修が可能」、「学生数が少なく廃止が決まっている」、「学部の中に複数専攻があり、数え方が異なる」等の事情による



ハイフォン大学

英語名 HAI PHONG UNIVERSITY

略称 HPU

北部

公立

日本語教育あり

A - 教育体制

1. 教育状況の概要

教育方針(配分)	重点分野: 実用 (人材育成) 訓練時間の配分: 実践30%-理論70%
インターンシップ	任意 日本でインターンシップ 必修 英語・日本語教育専攻の場合: 高校にて4回のインターンシップ 2年目、3年目、4年目に6週間の英語教育インターンシップ および 4年目に6週間の日本語教育インターンシップ
卒業生の状況	“修士号を取得しようとする学部卒業生は0.05%程度です。どのくらいの卒業生がベトナムや日本の日本企業に就職しているかはデータがありません。” - Ms. Nguyen Thi Minh Loan (国際協力部長)

2. 外国語教育

概要

外国語の授業	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (中国語, 韓国語)		
必須の外国語科目	英語 (全学生)、中国語、日本語 (特定の専攻の場合)		
最も学習されている外国語 (英語を除く)	日本語		
英語の卒業要件	英語専攻	N/A	英語専攻以外 TOEIC 400

日本語の教育

授業種別	卒業要件	卒業生の能力		学生数/年
<input checked="" type="checkbox"/> 日本語学科・学部*	N3	N3		40
<input checked="" type="checkbox"/> 単位認定授業	N4	N4		35
<input type="checkbox"/> 単位が出ない授業	-	-		-
指導教員の数/能力	ベトナム人 7	N2~N1	日本人	1

B - 国際連携・協力等の実績

概要

連携・協力等パートナーの国籍	中国、韓国、日本、ラオス、タイ、ロシア、ブルガリア	
パートナーが最も多い国籍	中国	
日本パートナーとの連携・協力等		
連携・協力等確立方法	第三者からの紹介、大学講師のネットワーク	
パートナーの数	4	
連携・協力等形態	<input checked="" type="checkbox"/> Corporation	インターンシップ
	<input checked="" type="checkbox"/> 教育機関	日本語講師に対するトレーニング、日本語教育インターンシップとしてのパートナー側に所属する学生の受入、オンラインでの文化・言語交換会の開催
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (行政機関)	行政機関 日本語講師に対するトレーニング

C - 就職支援活動

ジョブフェア開催	5月
その他の活動	大学ウェブサイト上での求職情報の更新、講師による職業紹介、パートナーとの採用契約

* 日本語学科・学部ではないが、英語・日本語教育学部(English - Japanese Pedagogy)がある



ハイフォン大学

英語名 HAI PHONG UNIVERSITY

略称 HPU

北部

公立

日本語教育あり

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
経済・経営	Transport Economics and Services	○		
	Foreign Trade Economics	○		
	Construction Economics	○		
	Economic Management	○	○	○
	Business Administration	○	○	
	Finance and Accounting Administration	○		
	Marketing Administration	○		
	Corporate Finance	○		
	Banking	○		
	Finance - Insurance	○		
	Valuation	○		
	Corporate Accounting	○		
	Accounting and auditing	○		
	教育	Preschool education	○	
Primary Education		○		
Political Education		○		
Physical Pedagogy		○		
Mathematics Pedagogy		○		
Mathematics - Physics Pedagogy		○		
Mathematics - Chemistry Pedagogy		○		
Accounting Teaching Methodology			○	
Primary Teaching Methodology			○	

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
教育	Literature – History Pedagogy	○		
	Literature Pedagogy	○		
	Literature - Geography Pedagogy	○		
	Literature - Citizenship education	○		
	Literature - The Youth Union work	○		
	English Pedagogy	○		
	English - Japanese Pedagogy	○		
	外国語	English language	○	
Chinese language		○		
Vietnamese Language			○	○
Literary		○		
テクノロジー	Information Technology	○		
	Communication and computer network	○		
	Economic information System	○		
	Civil and Industrial Construction Engineering	○		
	Manufacturing technology	○		
	Mechatronic engineering technology	○		
	Electrical & Electronic engineering technology	○		
	Control engineering & automation (Industrial Automation Electrical Engineering)	○		
	Control engineering & automation (Electrical Systems Automation Engineering)	○		



ハイフォン大学

英語名 HAI PHONG UNIVERSITY

略称 HPU

北部

公立

日本語教育あり

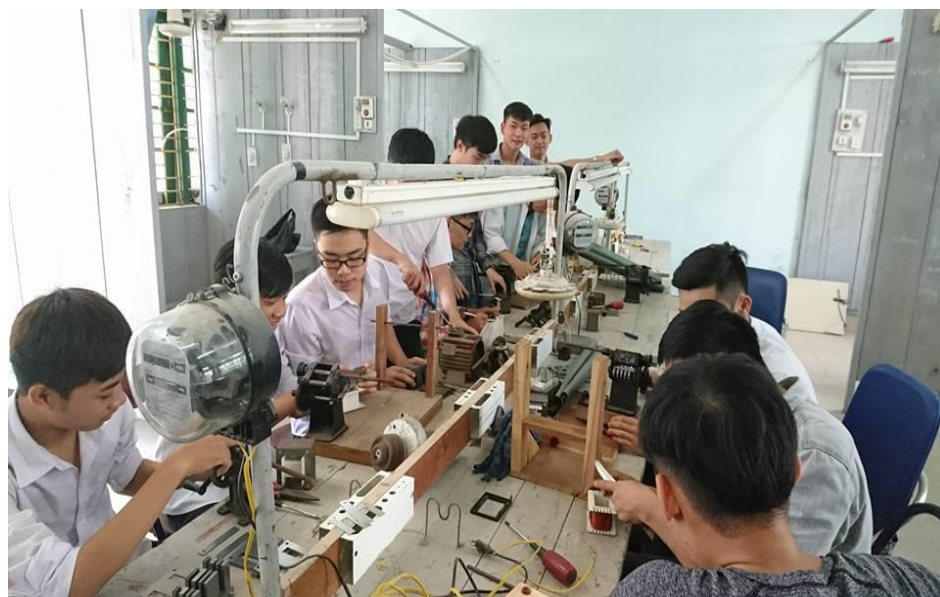
専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
観光	Traveling culture	○		
	Tourism Administration	○		
	Travel and tourism service management	○		
その他	Architecture	○		
	Plant Science (Agronomist)	○		
	Community service	○		

特に強みのある学部・専攻は何ですか？

“英語、中国語、会計-財務、建設の5つが主要な専攻となっています。ハイフォン大学はこれらの専攻により多くの投資を行っているため、これらの専攻には設備、演習ワークショップ、シミュレーションルーム等、教育機器が特に充実しています。”

- Ms. Nguyen Thi Minh Loan (国際協力部長)



電気・電子工学技術の実習



外国語クラス



ハイフォン大学

英語名 HAI PHONG UNIVERSITY

略称 HPU

北部

公立

日本語教育あり

連携等事例

教育機関と協力等

- 連携先・協力先 文教大学
- 時期 2019年
- 専攻 日本語教育
- 内容
- 文教大学の日本語教員養成関連の学部・コースの学生がハイフォン大学にて日本語を教える3週間のインターンシップを実施
 - 両大学の学生間でオンラインにて文化・言語交換会を開催



オンラインでの文化・言語交換会

行政機関と協力等

- 連携先・協力先 国際交流基金および国際大学
- 時期 2014年
- 専攻 日本語教育
- 内容
- ハイフォン市の日本語教師のために、日本語教育および教育方法についてのコースを開催、100人の教師が訓練された



国際交流基金はHPUを訪問

企業と協力等

- 連携先・協力先 アドバンス
- 時期 2018年
- 専攻 日本語教育
- 内容
- 英語学部の学生(第二外国語として日本語を専攻)が、日本で管理業務を実施するため6ヶ月の有給インターンシップへ参加

写真なし



ハイフォン大学

英語名	HAI PHONG UNIVERSITY
略称	HPU

北部
公立
日本語教育あり

大学関係者へのインタビュー



Ms. Nguyen Thi Minh Loan
(国際協力部長)

「ハイフォン大学は、ハイフォン市内の人材需要について継続的な調査を行っています。ハイフォン市は工業都市であるため、特に韓国、日本、中国等の外資企業等を含め、多数の企業が事業を行っているため、ハイフォン大学はこれらの企業向けの人材育成を担っています。ハイフォン大学は、学生卒業時点での実際の状況、企業が求める就業要件を満たすことができるよう、適時、トレーニングプログラムの修正・変更を行っています。」

人材採用について、日本企業等へのアドバイスがありますか？

“ハイフォン大学が適した人材を輩出できる、また日本企業が適した人材を見つけるためには、会って情報交換することが非常に重要です。ハイフォン大学が企業の求める要件を満たすようトレーニング・実践するためには、日本企業側から、必要な要件・人数・専攻・その他の職務に関する情報を提供できるよう、密な連絡を希望します。”

ベトナム政府や関連当局との関係はどうか？

“ハイフォン市には4大学ありますが、ハイフォン大学は市内で唯一の公立大学です。ハイフォン市人民委員会の管轄下であり、かつ唯一の公立大学であるため、市当局幹部の注目・関心を集めており、市当局のすべての部局・部署との良好な関係にあります。”

日本企業等との連携に、どのような内容を期待しますか？

対 企業

“在ベトナムや在日本の日本企業とトレーニング分野および人材供給面で協力したいと考えています。例えば、トレーニング用の設備機器の提供は有難いです。現在、ハイフォン大学は設備・機器の支援をしてくれる組織がありません。ハイフォン大学に限らず、ベトナムのほとんど全ての大学で、教育や研究のための施設が不足しています。どの産業にもその産業・業界に必要な機器・設備があり、その設備・機器を使いこなすには実践的な演習が必要です。現在は企業にを通じた実習であったり、学生を企業に派遣して演習を行う必要があります。”

対 教育機関

“日本の大学との間で講師や学生の交換プログラムを実施したく、また科学研究分野での協力も希望しています。ハイフォン大学は現在、外国パートナーとの間で科学研究プロジェクトを実施していません。ハイフォン大学に属する講師の条件に合った専門性・研究テーマを備えた大学を見つけたいと考えています。現時点では科学研究活動に参加するために十分な英語能力を持った教師が多くはない、という制限がありますが、強化していきたいと考えており、近い将来には、研究活動に参加するための優れた英語スキルを持つ講師を数十人単位で増やすことができると思います。”

対 行政機関

“ハイフォン大学は、国際交流基金およびJICAに連絡し一定の協力を頂き、講師派遣を検討頂いています。現在、ハイフォン大学では日本語講師が不足しているため、日本語学科・学部を開設できていません*。日本語教育のため、ベトナム人講師6名、日本人講師1名を抱えています。学科・学部の開設にはまだ足りませんので、日本語教師を派遣頂ければ、と期待しています。”

連携を期待する分野・専攻

“基本的に、どの分野・専攻でも構いません。日本側パートナーが期待する分野・専攻で連携・協力したいと希望しています。”

* 日本語学科・学部ではないが、英語・日本語教育学部(English - Japanese Pedagogy)がある



タイビン大学

英語名 THAI BINH UNIVERSITY

略称 TBU

北部

公立

日本語教育あり

地域の特徴

- ・タイビン省は紅河デルタ地域に属し、ハノイから110キロ南東・ハイフォン港から50キロに位置する
- ・2017年、沿岸地域の31のコミューン/町で構成されたエリア約31,000ヘクタールにタイビン経済特区の設立が決定。外資企業の誘致が期待されており、現在建設中となる

統計 (2019年)

ランキング

面積	1586.4 km ²	54/63
人口	1862.2 千人	11/63
FDI	67.5 百万 USD	40/63



タイビン大学

沿革

- ・1960年、前身のタイビンファイナンススクールが設立
- ・1989年、他校と統合し、タイビン経済技術学校に改称
- ・2000年、タイビン経済技術短期大学へと更新・改称
- ・2011年、タイビン大学へと更新・改称

特色

タイビン省人民委員会の管轄下にある唯一の公立大学

特に強みがある専攻

- ・Accounting
- ・Business Administration
- ・Electrics - Electronics
- ・Mechanical Engineering Technology



基本情報

所在地	Tan Binh Commune, Thai Binh City, Thai Binh (Noi Bai 国際空港から約130 km)				
URL	http://tbu.edu.vn/				
創立年	1960年				
課程 専攻数	<input checked="" type="checkbox"/> 中等職業学校	<input checked="" type="checkbox"/> 短期大学	<input checked="" type="checkbox"/> 学部	<input type="checkbox"/> 修士	<input type="checkbox"/> 博士
	18	18	21	-	-
学生数	3,000				
教員数	200				
日本留学経験のある教員	人数	2			
	例示	Hoang Thi Thu (日本語講師)			
年間研究予算	10.5 億 VND (約470万円)				

窓口情報 (国際連携担当の部門)

部署代表番号・メール	(84) 227 3633 886	-
担当者 氏名・役職	Mr. Le Nam Hai	部長
担当者 電話番号・メール	(84) 986 622 078	hailn@tbu.edu.vn
対応可能な言語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他 ()	

学長 略歴

Dr. Nguyen Thi Kim Ly
 1979 年生まれ
 専攻分野: 経済
 2017年-現在: 学長 タイビン大学
 2013年: 博士 ハノイ工科大学
 2001年: 修士 ハノイ工科大学
 1992年: 学部 財務会計大学





タイビン大学

英語名 THAI BINH UNIVERSITY

略称 TBU

北部

公立

日本語教育あり

A - 教育体制

1. 教育状況の概要

教育方針(配分)	重点分野: 実用 (人材育成) 訓練時間の配分: 実践50%-理論50% (専攻によって異なる)
インターンシップ	国内あるいは海外でインターンシップ
任意	
必修	4年目に1回のインターンシップ
卒業生の状況	“データがありませんが、私が覚えている限りでは50名程度の学生が働くために日本に行っていると思います。” - Mr. Le Nam Hai (国際協力部長)

2. 外国語教育

概要

外国語の授業	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (中国語)		
必須の外国語科目	英語		
最も学習されている外国語 (英語を除く)	日本語		
英語の卒業要件	英語専攻	-	英語専攻以外 A2

日本語の教育

授業種別	卒業要件	卒業生の能力		学生数/年
<input type="checkbox"/> 日本語学科・学部	-	-	-	-
<input type="checkbox"/> 単位認定授業	-	-	-	-
<input checked="" type="checkbox"/> 単位が出ない授業	-	N5		63
指導教員の数/能力	ベトナム人 1	N3	日本人 2	-

B - 国際連携・協力等の実績

概要

連携・協力等パートナーの国籍	台湾、日本
パートナーが最も多い国籍	台湾

日本パートナーとの連携・協力等

連携・協力等確立方法	相手側からのコンタクト、第三者からの紹介	
パートナーの数	2	
連携・協力等形態	<input checked="" type="checkbox"/> 企業	インターンシップ
	<input checked="" type="checkbox"/> 教育機関	日本語を勉強するために日本に学生を送る、日本語クラスの開講
	<input type="checkbox"/> その他	-

C - 就職支援活動

ジョブフェア開催	省内で企画されるジョブフェアへの参加
その他の活動	大学ウェブサイト・Facebook上での求職情報の更新、パートナーとの採用契約



タイビン大学

英語名 THAI BINH UNIVERSITY

略称 TBU

北部

公立

日本語教育あり

専攻リスト

分野・専攻	課程		
	中等職業学校	短期大学	学部
経済・経営	Economic Management		○
	Foreign Relation Economics		○
	Investment Economics		○
	Agricultural Economics & Rural Development		○
	Insurance Economics		○
	Corporate Accounting	○	○
	General Accounting		○
	Tax accounting	○	
	Accounting		○
	Human Resource Management		○
	Commercial Marketing	○	○
	General Business Administration	○	○
	Corporate Administration	○	
	Quality Management		○
	Finance - Banking		○
エンジニアリング・テクノロジー	Industrial Electrics	○	○
	Civil Electrics	○	○
	Civil Electronics	○	○
	Industrial Electronics		○
	Refrigeration	○	
	Power supply		○
	Telecommunication		○

専攻リスト

分野・専攻	課程		
	中等職業学校	短期大学	学部
エンジニアリング・テクノロジー	Mechanical Engineering Technology		○
	Computer Network Administration		○
	Network Design - Administration	○	
	Computer repair and maintenance	○	
	Air Conditioning Engineering		○
	Electrical-electronic Engineering Technology		○
	Automotive Technology		○
	Trimming (Sheet metal processing)	○	
	Motorcycle repair	○	
	Mobile phone repair	○	
	Welding	○	○
	Sewing Technology		○
	Industrial sewing	○	
	Office informatics	○	
	Applied Mathematics		
観光	Information Technology		○
	Tourism & Hotel Management		○
	Professional chef	○	
Hotel and restaurant service	○		



タイビン大学

英語名 THAI BINH UNIVERSITY

略称 TBU

北部

公立

日本語教育あり

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		中等職業学校	短期大学	学部
その他	Law		○	○
	Fashion design		○	
	Graphic design	○		
	Legal services		○	

特に強みのある学部・専攻は何ですか？

“会計、経営管理、電気-電子、機械工学技術専攻を志望する学生数が多く、学んだ専門分野への就職率が高くなっています。”

- Mr. Le Nam Hai (国際協力部長)



演習室/ワークショップ



タイビン大学

英語名 THAI BINH UNIVERSITY

略称 TBU

北部

公立

日本語教育あり

連携等事例

教育機関と協力等

連携先・協力先 仙台ランゲージスクール

時期 2017年

専攻 日本語クラス

内容

- タイビン大学内で日本語クラスを開講し、仙台ランゲージスクールにて日本語を学ぶことを希望する学生を募集した



タイビン大学の学生向けに仙台ランゲージスクールが開講した日本語クラス



調印式



タイビン大学

英語名	THAI BINH UNIVERSITY
略称	TBU

北部
公立
日本語教育あり

大学関係者へのインタビュー



Mr. Le Nam Hai
(国際協力部長)

「タイビン大学は“近代的で持続可能な教育・訓練機関”としての使命を果たし、質の高い人材を教育・訓練でき、タイビン省・地域の研究および技術移転の中心となれるよう努めています。また、国際的な連携のための準備も進めたいと考えています。」

人材採用について、日本企業等へのアドバイスがありますか？

“日本企業は大学を訪問し、直接、大学側と共に取り組みを進めるべきだと思います。学生が自分の利益をはっきりと認識できるよう明確なプランや将来の方向性を提供することが、連携を成功させるために必要です。そこを明確にできれば、大学側も企業と共に、そのニーズに応じたトレーニングに協力することができます。”

日本企業等との連携に、どのような内容を期待しますか？

対 企業

“以前、日本語クラスを開講しましたが、それは無料ですが単位を取れない授業でしたので、単位認定授業として日本語クラスを実現するために連携したいと考えています。日本語を選定した学生には英語に代わって日本語を卒業要件にできれば、と思います。”

“学生の就職に結びつくようなプログラムの策定で連携したいです。もちろん、専門知識や日本語能力等の企業側の要件を満たす必要はありますが、そのプログラムに参加した学生は、卒業後に職探しに困らない、そのようなプログラムが構築できれば、と思います。”

“より実際に則した教育を実践できるよう、設備、実験室、教育施設等の寄付・贈与も期待します。技術系の専攻は機械・設備に多額の資金が必要とされます。例えば、機械専攻はCNC、ミーリング等、自動車技術専攻は自動車・モデル、電気・電子専攻や冷蔵技術専攻については、デュアルインバーターを備えた空調等が必要ですので、適用性の高い機器・設備があれば助かる状況にあります。また、文系に関しても、経営管理、ファイナンス、銀行、会計専攻の学生は、実際の職場での作業を理解するため、シミュレーションルームは有益です。”

“エンジニアとして日本で働けるよう卒業生の採用にも協力できます。例えば、タイビン大学の卒業生が、日本で1.5～2年間で専門学校で学びながら、日本語学校で日本語を勉強できれば、その後、エンジニアでの就業ビザに切り替えられるかもしれません。”

“在ベトナムあるいは在日本の日本企業は、日本語や専門知識等、満たさなければならない基準を設定した上で、2年生や3年生の学生に奨学金プログラムを提供してはどうでしょうか。そのようなプログラムは、同じ志を持った学生を集めることができるため、きっと成功すると考えています。”

“事業ニーズに応じた研修にも連携・協力できます。一般研修でなく、特定の企業、特定の目的のために研修プログラムを構築できます。”

対 自治体 / 行政機関

“JETROのような日本の機関が学生に企業を紹介したり、そのプログラムを勉強すれば、確実にその企業に就職できるようなプログラムを提供いただければ有難いと考えています。”



タイビン医科薬科大学

英語名	THAI BINH UNIVERSITY OF MEDICINE AND PHARMACY
略称	TBUMP

北部

公立

日本語教育あり

地域の特徴

- ・タイビン省は紅河デルタ地域に属し、ハノイから110キロ南東・ハイフォン港から50キロに位置する
- ・2017年、沿岸地域の31のコミューン/町で構成されたエリア約31,000ヘクタールにタイビン経済特区の設立が決定。外資企業の誘致が期待されており、現在建設中となる

統計 (2019年)

ランキング

面積	1586.4 km ²	54/63
人口	1862.2 千人	11/63
FDI	67.5 百万 USD	40/63



タイビン医科・薬科大学

沿革

- ・1968年、政府評議会がタイビン医科大学支部を設立
- ・1979年、タイビン医科大学支部をタイビン医科大学に改称
- ・2013年、タイビン医科薬科大学に改称

特色

- ・保健省の管轄下となる
- ・ラオスやカンボジアからの留学生もあり、ベトナムの主要医師養成機関の1つとなっている

特に強みがある専攻

- ・ General practitioner
- ・ Pharmacy
- ・ Nursing



基本情報

所在地	373 Ly Bon, Ky Ba Ward, Thai Binh City, Thai Binh (Noi Bai 国際空港から約130 km)				
URL	http://tbump.edu.vn/				
創立年	1968年				
課程 専攻数	<input type="checkbox"/> 中等職業学校	<input type="checkbox"/> 短期大学	<input checked="" type="checkbox"/> 学部	<input checked="" type="checkbox"/> 修士	<input checked="" type="checkbox"/> 博士
	-	-	8	3	1
学生数	7,000				
教員数	677				
日本留学経験のある教員	人数	12			
	例示	Dr. Nguyen Nam Thang (准教授、生物学および遺伝学科目の講師)			
年間研究予算	10億 VND (約448万円)				

窓口情報 (国際連携担当の部門)

部署代表番号・メール	-	htqt@tbump.edu.vn
担当者 氏名・役職	Dr. Nguyen Duc Thanh (准教授)	bsthanh@hotmail.com
担当者 電話番号・メール	(84) 912 357 575	
対応可能な言語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他 ()	

副学長 略歴

(政府公認の)人民を代表する教師 - 准教授 - Dr. Nguyen Quoc Tien
 現在: 副学長 タイビン医科薬科大学
 2016年-現在: 院長 タイビン医科薬科大学病院





タイビン医科薬科大学

英語名

THAI BINH UNIVERSITY OF MEDICINE AND PHARMACY

略称

TBUMP

北部

公立

日本語教育あり

A - 教育体制

1. 教育状況の概要

教育方針(配分)	重点分野: 実用 (人材育成) 訓練時間の配分: 実践3分の2-理論3分の1 (専攻によって異なる)	
インターンシップ	任意	無し
	必修	専攻によって異なる、大学病院や連携病院でインターンシップ
卒業生の状況	“今年の卒業生971名のうち、70名が進学しました。在ベトナムや在日本の日本企業に就職した卒業生数についてデータはありません。” - Dr. Nguyen Duc Thanh (准教授、国際協力部長)	

2. 外国語教育

概要

外国語の授業	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (フランス語)		
必須の外国語科目	英語		
最も学習されている外国語 (英語を除く)	フランス語、日本語		
英語の卒業要件	英語専攻	-	英語専攻以外 A2

日本語の教育

授業種別	卒業要件	卒業生の能力	学生数/年
<input type="checkbox"/> 日本語学科・学部	-	-	-
<input type="checkbox"/> 単位認定授業	-	-	-
<input checked="" type="checkbox"/> 単位が出ない授業	-	N3-N1	16
指導教員の数/能力*	ベトナム人 -	-	日本人 -

B - 国際連携・協力等の実績

概要

連携・協力等パートナーの国籍	フランス、オランダ、スウェーデン、ドイツ、日本、アメリカ、中国、イタリア、ハンガリー、ブルガリア
パートナーが最も多い国籍	日本
日本パートナーとの連携・協力等	
連携・協力等確立方法	相手側からのコンタクト、第三者からの紹介
パートナーの数	3
<input checked="" type="checkbox"/> 企業	日本語クラスの開講、職業訓練プログラムの開講、日本での仕事を紹介
連携・協力等形態 <input checked="" type="checkbox"/> 教育機関	研究、日本で博士課程を勉強するための学生・講師の派遣
<input type="checkbox"/> その他	-

C - 就職支援活動

ジョブフェア開催	6月/7月
その他の活動	大学ウェブサイト上での求職情報の更新

* 日本語クラスを教えている講師はいるが、大学の講師ではなく、連携パートナー等から派遣される講師となる



タイビン医科薬科大学

英語名

THAI BINH UNIVERSITY OF MEDICINE AND PHARMACY

略称

TBUMP

北部

公立

日本語教育あり

専攻リスト

分野・専攻	課程		
	学部	修士	博士
General Practitioner	○		
Pediatric Oriented General Practitioner	○		
Forensic-oriented Doctor	○		
Traditional Medicine	○		
Preventive Healthcare	○		
Public Healthcare	○	○	○
Pharmacy	○		
Internal Medicine Doctor		○	
Surgery		○	
Nursing	○		

医学・薬学

特に強みのある学部・専攻は何ですか？

“総合診療医、薬学、看護学に特に多くの投資をしています。素晴らしい講師陣を抱えており、またヘルスケア分野では高品質の人材が社会的に求められていることがあり、多数の学生が在籍しています。”

- Dr. Nguyen Quoc Tien (副学長)



演習室



皮膚科専攻の演習クラス



演習室



タイビン医科薬科大学病院



タイビン医科薬科大学

英語名

THAI BINH UNIVERSITY OF MEDICINE AND PHARMACY

略称

TBUMP

北部

公立

日本語教育あり

連携等事例

教育機関と連携

連携先・協力先 大阪大学

時期 2017年

専攻

内容

- 大阪大学で博士号取得を目指すタイビン医科薬科大学の学生・講師を募集、これまでに5名が博士号を取得した
- 日本の専門家とタイビン医科薬科大学の教授で「薬剤耐性菌」に関して共同研究を実施

写真なし

教育機関と連携

連携先・協力先 岐阜大学大学院 連合創薬医療情報研究科

時期 2020年

専攻

内容

2020年3月、部局間学術協定を締結
(締結して間もないため、具体的な活動はこれからとなる)

写真なし

企業と連携

連携先・協力先 イノベーションオブメディカルサービス (IMS)

時期 2013年

専攻 看護

内容

- IMS社は、日本語と日本の看護プログラムを教えるため、専門家を派遣
- 学生は4年間日本語を勉強し、N1を取得できた場合、まずベトナムで看護師免許を取得、日本へ渡航後、日本で従事するため、日本の看護師国家試験の合格を目指す(2013年に入学した1期生の中でN1を取得した学生が2019年2月に看護師国家試験を受験し、1人が合格)

写真なし



タイビン医科薬科大学

英語名	THAI BINH UNIVERSITY OF MEDICINE AND PHARMACY
略称	TBUMP

北部
公立
日本語教育あり

大学関係者へのインタビュー



Dr. Nguyen Quoc Tien
(副学長)



Dr. Nguyen Duc Thanh
(国際協力部長)

「医科系大学の中で、日本と長期的かつ深い関係性を築いた大学はタイビン医科薬科大学だけだと思います。他の医科系大学は、フランスとの協力が多いようです。タイビン医科薬科大学には公衆衛生分野の有名な専門家が多数在籍しており、強みとなっています。」

日本企業等との連携経験について教えてください。

“近年、先進国は地方農村エリアへより関心を寄せているという印象を受けています。過去には、外国企業はハノイ・ホーチミンといった大都市を中心に多数のパートナーと取り組みを進めていました。大都市には研究機関等の他の組織が多くありますので、大学にアプローチする必要性がありません。しかし、地方農村エリアでは(組織が多くありませんので)大学との連携は重要となります。”

“タイビン医科薬科大学は2013年からIMS社と長く連携して看護師養成事業を進めてきました。当初、IMS社は年単位の時間をかけてベトナム全国の大学を対象にパートナー候補の検討を進め、他の大学とも比較したうえでタイビン医科薬科大学を選んで頂きました。私は学問を進めるうえでも重要な要素である「慎重さ、徹底した姿勢」という日本人の国民性・性格を高く評価しています。タイビン医科薬科大学とIMS社は長年の協力を通じて、互いに信頼関係を築いてきました。”

日本企業等との連携に、どのような内容を期待しますか？

対 企業

“タイビン医科薬科大学の専攻は大きく、医学および薬学に大別されます。薬学分野については、さらに研究を重ねて商品化を図りたいと画策しています。現在、タイビン医科薬科大学は機能性食品を開発・製造しており、例えば、よもぎ油、しょうがアロマ油、水生植物環境処理用の有機廃棄物分解物等を市場で販売しています。可能であれば他にも多くの製品を研究して市場に投入したいと考えているため、日本のパートナーから機器、設備、研究および製造プロセスの高度な技術に関する支援の提供を受けられればと希望しています。

医学分野については、学生のトレーニングへの協力を希望しており、学生を日本へ留学させたいと考えています。タイビン医科薬科大学は、トレーニング、学術研究、人々の健康管理のための大学病院を備えています。日本パートナーからの病院設備への投資も期待します。現在、大学病院の人材は優れたスキルを持っていますが、設備はまだ不十分です。また、学生が病院で従事する前には演習のためのモデルが多く必要です。日本企業等がモデルのスポンサーとなり、前臨床スキル向上の支援をしてくれることを期待しています。”

“今後、IMS社との連携事例と似たような連携が他の専攻でも展開され、より多くの学生が参加できるようになることを願っています。現在、私たちは日本の組織と連携して、学生が日本で働くことができるように、より優れた専門スキルを身に付けるような訓練を提供できるように努めています。”

対 教育機関

“学術や研究分野での長期的な連携ができれば、と考えています。”

人材採用について、日本企業等へのアドバイスがありますか？

“企業は主に、トレーニングが完了した後に採用をします。IMS社のようにトレーニングプロセス全体で協力している企業はほとんどありません。日本の企業が学生の訓練初期段階から参加し、専門知識だけでなく、海外で働く時に生じる全ての課題を含めて、多くの側面を考慮した形で、学生を指導できるような連携体制を希望しています。”



ナムディン看護大学

英語名 NAM DINH UNIVERSITY OF NURSING

略称 NDUN

北部

公立

日本語教育あり

地域の特徴

- ナムディン省は、紅河デルタ地域に位置している
- 教育分野で長い伝統を持っており、省別の高校生の成績等で国内ランキング上位の常連となっている

統計 (2019年)

ランキング

面積	1668.6 km ²	51/63
人口	1780.9 千人	13/63
FDI	267.7 百万 USD	23/63



ナムディン看護大学

沿革

- 1960年、ナムディン医師助手学校として設立
- 1981年、ナムディン医科短期大学へ更新
- 1988年から1997年にかけて、保健省の決定に基づき、タイビン医科大学およびハノイ医科大学と協力して、一般開業医、看護、助産師、医療技術者の訓練を開始した
- 2004年、ナムディン看護大学へ更新

特色

- 看護を専門とする最初の公立大学
- 看護分野での博士号課程を許可された最初で唯一の大学
- 助産学士課程が許可されたが最初で唯一の大学
- 大学病院(ナムディン看護大学病院)を運営

特に強みがある専攻

- Nursing
- Midwifery



基本情報

所在地	257 Han Thuyen, Vi Xuyen Ward, Nam Dinh City, Nam Dinh Province (Noi Bai 国際空港から約119 km)			
URL	http://www.ndun.edu.vn			
創立年	1960年			
課程 専攻数	<input type="checkbox"/> 中等職業学校	<input type="checkbox"/> 短期大学	<input checked="" type="checkbox"/> 学部	<input checked="" type="checkbox"/> 修士
	-	-	4	1
学生数	5,000			
教員数	586			
日本留学経験のある教員	人数	20		
	例示	Ms. Tuong Thi Hue (国際連携部のスタッフ 兼 看護専攻講師)		
年間研究予算	11億 VND (6億 VNDは大学予算から、5億 VNDは省から) (約493万円)			

窓口情報 (国際連携担当の部門)

部署代表番号・メール	(84) 2283 632 051	-
担当者 氏名・役職	Ms. Mai Thi Thanh Thu	部長
担当者 電話番号・メール	(84) 904 545 056 (84) 917 542 389	maithanhthu76@yahoo.com
対応可能な言語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> その他 ()	

福学長 略歴

Dr. Truong Tuan Anh
 1969年生まれ
 研究分野：神経学
 2015年-現在：副学長 ナムディン看護大学
 2011年：博士課程修了 軍事医科大学
 2004年：修士課程修了 ハノイ医科大学
 1994年：学部 タイビン医科薬科大学





ナムディン看護大学

英語名 NAM DINH UNIVERSITY OF NURSING

略称 NDUN

北部

公立

日本語教育あり

A - 教育体制

1. 教育状況の概要

教育方針(配分)	重点分野: 実用(人材育成) 訓練時間の配分: 実践60%-理論40% (専攻によって異なる)	
インターンシップ	任意	まだ無い
	必修	3年目と4年目から学習時間の半分は病院での研修
卒業生の状況	“学生の95%超が卒業後1年以内に専攻と同分野の仕事をしており、うち約5-10%が日本政府のプログラム等を通じて日本で働いています。” - Dr. Truong Tuan Anh (副学長)	

2. 外国語教育

概要

外国語の授業	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他(ドイツ語)	
必須の外国語科目	英語/日本語/ドイツ語 (Students choose)	
最も学習されている外国語 (英語を除く)	日本	
英語の卒業要件	英語専攻	英語専攻以外 A2 (Current) B1 (From 2021)

日本語の教育

授業種別	卒業要件	卒業生の能力	学生数/年
<input type="checkbox"/> 日本語学科・学部	-	-	-
<input checked="" type="checkbox"/> 単位認定授業	100~150	N4~N2	N4
<input type="checkbox"/> 単位が出ない授業	-	-	-
指導教員の数/能力*	ベトナム人 -	日本人 -	-

B - 国際連携・協力等の実績

概要

連携・協力等パートナーの国籍	アメリカ、オーストラリア、日本、イギリス、ドイツ、タイ、フィリピン、フィンランド、デンマーク、ギリシャ、ポルトガル、カンボジア等 (合計50カ国)
パートナーが最も多い国籍	日本

日本パートナーとの連携・協力等

連携・協力等確立方法	相手側からのコンタクト、講師・同窓生による紹介、大学上層部のネットワーク、第三者からの紹介	
パートナーの数	7	
連携・協力等形態	<input checked="" type="checkbox"/> 企業	機器・設備への投資、文化交流、日本語クラスの開講
	<input checked="" type="checkbox"/> 教育機関	研究、学生・講師の交換、パートナー側の学生をインターンシップ生として受入
	<input checked="" type="checkbox"/> その他(協会)	協会 日本の老人介護施設等の視察へ学生を招待、日本語クラスの開講

C - 就職支援活動

ジョブフェア開催	10月
その他の活動	大学ウェブサイト上での求職情報の更新、講師・同窓生による職業紹介、セミナーの開催、学生・パートナー間の会合の実施

* 日本語クラスを教えている講師はいるが、大学の講師ではなく、連携パートナー等から派遣される講師となる



ナムディン看護大学

英語名 NAM DINH UNIVERSITY OF NURSING

略称 NDUN

北部

公立

日本語教育あり

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
医学	Nursing	○	○	○
	Midwifery	○		
	Nutrition	○		
	Public Healthcare	○		

特に強みのある学部・専攻は何ですか？

「看護と助産が強みとなっています。ナムディン看護大学は60年の長い歴史を持つ、国内で初めて唯一の看護の訓練を専門とする大学です。看護研修プログラムや講師は標準化されており、プログラムも認定を受けています。また、ナムディン看護大学は助産師の学士課程を提供するために保健省に割り当てられた最初の大学であり、今年、第1期の卒業生となり、17名が助産分野で学士号を取得しました。これらの専攻の施設には特に多額の投資を行っており、前臨床実習センター、シミュレーションセンターを設置しました。練習用機器は、保健省によって投資されています。外国パートナーから、教授法、前臨床実践、および研究に関して支援を受けています。」

- Dr. Truong Tuan Anh (副学長)



演習室



ナムディン看護大学病院



ナムディン看護大学

英語名

NAM DINH UNIVERSITY OF NURSING

略称

NDUN

北部

公立

日本語教育あり

連携等事例

教育機関と連携

連携先・協力先 日本赤十字九州国際看護大学

時期 2013年

専攻 看護

内容
・ 学生・講師の交流
(例: 日本側の講師がナムディン看護大学の修士課程の看護科目を教える等)



小児看護に関して両大学の学生間のディスカッション

協会と協力等

連携先・協力先 全国盲老人福祉施設連絡協議会

時期 2018年

専攻 看護

内容
・ 日本語クラスの開講
・ 学生・講師による日本の老人福祉施設への視察を支援

写真なし

教育機関と連携

連携先・協力先
・ 青森県立保健大学
・ 十文字学園女子大学
・ ベトナム国立栄養研究所

時期 2018年

専攻 栄養

内容
・ 患者・妊婦のための食事に関する研究協力
・ 学生・講師の交流



調印式



ナムディン看護大学

英語名	NAM DINH UNIVERSITY OF NURSING
略称	NDUN

北部
公立
日本語教育あり

大学関係者へのインタビュー



Dr. Truong Tuan Anh
(副学長)

「日本で看護師ほど就職先に困らない職種はありません。ナムディン看護大学は60年の長い伝統を持っており、卒業生は都市部から地方にてあらゆるレベルの仕事に就くことができ、日本やドイツで働いている卒業生も多くいます。初期に日本で働きはじめた卒業生は、看護師として介護施設で働くだけでなく、今は介護施設のコーディネーターとなり、ナムディン看護大学と日本の介護施設とをつなぐ架け橋になってくれていることを誇りに思っています。」

人材採用について、日本企業等へのアドバイスがありますか？

“高校に出向き、ナムディン看護大学では、外国語も学ぶことができ、海外で働く機会が得られると紹介しています。学生は入学時に勉強する言語を選択しますが、時にはパートナーを招いて語学力のテストをしてもらったりしています。

1年生の時期から日本のパートナーにサポートして貰えれば、と考えています。これまでの連携は3年生・4年生のみのサポートでしたが、1年生からしっかり勉強しようというモチベーションを保つ環境を整備できれば、4年間勉強した後、より日本語レベルが上がると考えています。

また、経済的に恵まれていない学生も多いため、経済的な支援も求めています。経済的な支援を通じて、学生に対して、プログラムを完遂しようという気持ちが高めることができると思います。

給料も良く、職場環境も良く、ベトナム帰国後には優秀な人材としての成長が期待できるため、日本で働くチャンスをもっと多くの学生に与えたいと考えています。

もう一つ日本の介護分野に対する違う観点でのアドバイスとなりますが、もし老人介護のために人材を求めるとすれば、学生とは別に、日本で既に結婚して子供が大きくなっている30～40代のベトナム人女性のことも考えるべきだと思います。言語の勉強が難しいというデメリットもありますが、仕事があれば一生懸命、責任感が強く、献身的に働いてくれるはずで、これは私の個人的な意見だけでなく、台湾での成功体験によるものです。台湾では、その層にアプローチし、非常に良い結果が得られています。看護学部卒業生の1つの障壁は、ほとんどが女性であり結婚する必要があるため、本人は渡航を希望していても、家族は「娘が帰国後に結婚相手を見つけれない」状況を恐れていることにあります。”

日本企業等との連携に、どのような内容を期待しますか？

対 企業

“ナムディン看護大学は、日本の企業とより具体的かつ深い協力関係を望んでいます。例えば、全国盲老人福祉施設連絡協議会とのプログラムでは、学生が日本の介護施設を訪問することを支援してくれていますし、加えて、日本語教育のサポートもしてくれているため、とても助かっています。また、EE21社(介護を中心とした資格取得講座の運営・人材紹介/派遣事業を手掛ける企業)との連携プログラムでは、日本の老人ホームで利用されている機器・設備を提供して頂き、学生が設備・機器に慣れることができる環境を整えて頂きました。”

対 教育機関

“日本赤十字九州国際看護大学との学生交流の経験がありますが、その時期に日本が自然災害に見舞われたこともあり、連携規模は大きくできず、学生の交流のみの連携となってしまいました。今後は、日本が進んでいる分野である高齢者介護や栄養学等にベトナムでも関心が高まっていくと考えていますので、講師の交流や看護・助産学の交流をもっと深めていければと思っています。大学と協力して、より多くの交流ができるようにしたいと考えます。”

対 自治体 および 行政機関

“ナムディン省は日本の自治体と協力プログラムを進めています。日本の自治体は農業分野で効果的にナムディン省を支援しており、協力関係は非常に上手くいっています。本校は看護大学であり、日本への留学を希望する学生も多いことから、その自治体の代表に本校を訪問して頂きました。日本の他の自治体とも連携して、学術交流、学生・講師の交流、病院活動等、様々な分野・レベルで交流し、協力できれば、と期待しています。”

貴学が目指している今後の方向性を教えてください。

“これからの時代、国際連携の流れが加速していき、研修プログラムの設計にも影響を与えるでしょう。現在、ナムディン看護大学の研修プログラムはすでに高度に連携されていますが、まだまだより深い連携が必要です。ですので、10～20年以内に、高度なプログラムを開発するための強力なイノベーションが必要と考えています。本学の学生や他の医科大学の学生にとっては、看護人材が必要とされている国で活躍するためには、卒業時点で、専門性に加えて、外国語能力が求められます。日本語およびドイツ語を学びたい学生が増えていくことが予想されますので、この2言語を教える講師を増やし、学生のニーズに応えていきたいと考えています。”



タイグエン工科大学

英語名

THAI NGUYEN UNIVERSITY OF TECHNOLOGY

略称

TNUT

北部

公立

日本語教育なし

地域の特徴

- ・タイグエン省は、東北地域における経済、社会政治の中心地となる
- ・タイグエン省は、多くの大学、短期大学、中等職業学校、研究機関等が設置されており、国内の人材育成センターという側面もある

統計 (2019年)

ランキング

面積	3526.6 km ²	39/63
人口	1290.9 千人	25/63
FDI	616 百万 USD	13/63



タイグエン工科大学

沿革

- ・1965年、北部の工業化の推進およびタイグエン鉄鋼地帯の技術分野の労働力を育成するために科学技術大学タイグエン支部が設立
- ・同支部は、タイグエン鉄鋼社、ハノイ工科大学、重工業省(現、商工省)、大学・短期大学省(現、教育訓練省)の管轄であった
- ・数度の改称を経て、1994年、タイグエン大学の設立と共に、その傘下となり、タイグエン工科大学へと改称

特色

- ・ベトナム国内でトップ10に入るテクノロジー系の大学

特に強みがある専攻

- ・ Control Engineering & Automation
- ・ Mechatronics
- ・ Automotive Engineering Technology
- ・ Computer Engineering



基本情報

所在地	No. 666, 3/2 Street, Tich Luong Ward, Thai Nguyen City, Thai Nguyen (Noi Bai 国際空港から約51 km)				
URL	http://en.tnut.edu.vn/				
創立年	1965年				
課程 専攻数	<input type="checkbox"/> 中等職業学校	<input type="checkbox"/> 短期大学	<input checked="" type="checkbox"/> 学部	<input checked="" type="checkbox"/> 修士	<input checked="" type="checkbox"/> 博士
	-	-	16	7	2
学生数	6,196				
教員数	380				
日本留学経験のある教員	人数	N/A			
	例示	N/A			
年間研究予算	30~40億 VND (約1345万円~1794万円)				

窓口情報 (国際連携担当の部門)

部署代表番号・メール	(84) 915 434 771	nguyenminhtamcn@gmail.com
担当者 氏名・役職	Mr. Nguyen Khac Tuan	部長
担当者 電話番号・メール	(84) 912 262 771	tuannkcn@gmail.com
対応可能な言語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ()	

学長 略歴

准教授 - Dr. Nguyen Duy Cuong
 1962年生まれ
 専攻分野: 制御工学
 2016年-現在: 学長 タイグエン工科大学
 2011年-2016年: 電機学部長 タイグエン工科大学
 2008年: 博士 University of Twente - オランダ
 2001年: 修士 タイグエン工科大学
 1984年: 学部 タイグエン工科大学





タイグエン工科大学

英語名

THAI NGUYEN UNIVERSITY OF TECHNOLOGY

略称

TNUT

北部

公立

日本語教育なし

A - 教育体制

1. 教育状況の概要

教育方針(配分)	重点分野: 実用 (人材育成) 訓練時間の配分: N/A	
インターンシップ	任意	海外でのインターンシップ
	必修	3回のインターンシップ
卒業生の状況	<p>“修士に進学する卒業生数は多くなく、約2~3%に過ぎません。全卒業生の90%超が、卒業後すぐに企業に就職します。日本企業で働くことに興味を持つ学生も多く、2018年から2019年にかけて、20名以上の卒業生が、日本語を勉強して日本で働いています。”</p> <p>- Dr. Nguyen Quoc Tuan (訓練部長)</p>	

2. 外国語教育

概要	
外国語の授業	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (中国語)
必須の外国語科目	英語
最も学習されている外国語 (英語を除く)	-
英語の卒業要件	英語専攻 C1 英語専攻以外 A2

日本語の教育

授業種別	卒業要件	卒業生の能力	学生数/年
<input type="checkbox"/> 日本語学科・学部	-	-	-
<input type="checkbox"/> 単位認定授業	-	-	-
<input type="checkbox"/> 単位が出ない授業	-	-	-
指導教員の数/能力	ベトナム人 -	日本人 -	-

B - 国際連携・協力等の実績

概要		
連携・協力等パートナーの国籍	ドイツ、台湾、日本、韓国、ロシア、アメリカ	
パートナーが最も多い国籍	日本	
日本パートナーとの連携・協力等		
連携・協力等確立方法	相手側からのコンタクト、第三者からの紹介、大学上層部のネットワーク	
パートナーの数	N/A	
連携・協力等形態	<input checked="" type="checkbox"/> 企業	機器・設備への投資、トレーニング・技術移転の支援のための専門家の派遣、日本での仕事を紹介
	<input checked="" type="checkbox"/> 教育機関	日本の高等教育機関へ留学するための奨学金
	<input type="checkbox"/> その他	-

C - 就職支援活動

ジョブフェア開催	5月又は6月、8月又は9月
その他の活動	パートナーとの採用契約



タイグエン工科大学

英語名

THAI NGUYEN UNIVERSITY OF TECHNOLOGY

略称

TNUT

北部

公立

日本語教育なし

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
経済・経営	Industrial Economy	○		
	Industrial Management	○		
エンジニアリング・テクノロジー	Mechanical engineering	○	○	○
	Electrical Engineering	○	○	
	Electronic Engineering		○	
	Engineering Mechanics		○	
	Materials Engineering	○		
	Mechatronics	○		
	Control Engineering & Automation	○	○	○
	Electronics & Telecommunications Engineering	○		
	Automotive Mechanical Engineering	○		
	Telecommunication Engineering		○	
	Construction Engineering	○		
	Automotive Engineering Technology	○	○	
	Environmental Engineering	○		
	Manufacturing Technology	○		
Electrical & Electronic Engineering Technology	○			
Computer Engineering	○			
外国語	English Language	○		

特に強みのある学部・専攻は何ですか？

“制御工学&オートメーション、メカトロニクス、自動車エンジニアリングテクノロジー、コンピュータエンジニアリング専攻に強みがあります。これらはタイグエン工科大学設立初期から継続している専攻あるいは社会的ニーズのために数年前に設置した専攻となりますが、高度なスキルを持つ講師が多数おり、志望する学生も多いです。

これらの専攻では、卒業生の就職率が100%であること、卒業生が多く自治体や企業で高い地位にあり(Hanoi Beer Company、Trang Tien Ice Creamの取締役など)、北部山岳地域の電気関連企業の社長にはタイグエン工科大学の卒業生が多くなっています。”

- Dr. Nguyen Quoc Tuan (訓練部長)



演習室



タイグエン工科大学

英語名

THAI NGUYEN UNIVERSITY OF TECHNOLOGY

略称

TNUT

北部

公立

日本語教育なし

連携等事例

企業と協力等

- 連携先・協力先 SMCベトナム
- 時期 2019年 - 現在
- 専攻 電気専攻
- 内容
- ・オートメーションラボへ機器・設備を寄付
 - ・専門家を派遣し、トレーニングと技術移転をサポート



SMCにより開設されたSMCオートメーションラボ

企業と協力等

- 連携先・協力先 三菱電機ベトナム
- 時期 2020年 - 現在
- 専攻 電気専攻
- 内容
- ・オートメーションラボへ機器・設備を寄付
 - ・専門家を派遣し、トレーニングと技術移転をサポート



三菱電機により開設されたオートメーションラボ

教育機関と協力等

- 連携先・協力先 南富士 株式会社
- 時期 2016年
- 専攻 機械、電気、電子、英語、建設、環境工学、経営学、情報技術
- 内容
- ・日本語および日本の文化、ビジネスマナーに関するトレーニングを実施
 - ・日本で働きたい学生を募集



日本文化クラス



タイグエン工科大学

英語名	THAI NGUYEN UNIVERSITY OF TECHNOLOGY
略称	TNUT

北部

公立

日本語教育なし

大学関係者へのインタビュー

写真なし

Dr. Nguyen Quoc Tuan
(訓練部長)

「日本パートナーとの共同研究を期待しています。現在、タイグエン工科大学に対して、日本パートナーが専門家を派遣して技術移転を進めています。将来的には、研究・開発プロジェクト等、より深い協力体制を構築できれば、と考えています。」

人材採用について、日本企業等へのアドバイスがありますか？

“日本企業が採用を希望する場合、大学へ連絡してください。大学側から、学生へ通知できます。企業が優秀な労働力を採用するために最も良い方法は、大学と直接協力し、要件に合わせたカリキュラムを調整することです。インターンシップを実施したり、日本でエンジニアとして働く前に、学生が実際の職場に適用するために、日本語やその他の事を学ぶ必要があります。

大学側から日本側に対して研修カリキュラム案の送付もできますし、それに対して、日本語教育も含めて、日本側の修正・変更についてのコメント、要求、提案を聞くこともできます。3年生、4年生は大学の授業とは別に追加授業を受講することができます。

その他には、機械工学等の専攻の場合、日本企業側から設備や技術の提供を頂ければ有難いと考えています。例えば、学生が追加のトレーニング無しですぐに日本で従事できるようになるには、事前に日本で操作する設備・機械について理解している必要があります。”

日本企業等との連携に、どのような内容を期待しますか？

対 企業 および 教育機関

“タイグエン工科大学は日本の企業・大学等との連携に強い関心を持っていますので、タイグエン工科大学にもっと注目してもらえればと思っています。ラボ等の設備・機器への投資、研究分野・トレーニングプログラムでの協力、卒業後の学生への就業機会の提供等を希望しています。”

対 行政機関

“JICAのような日本政府の機関が、研修プログラムや学生の就職活動を支援してくれることを希望しています。”

連携を期待する分野・専攻

“日本はタイグエン工科大学が専攻を設置している全ての分野で、発展性が高いため、全ての専攻・分野で連携できればと思っています。特に制御と自動化、力学、自動車技術、環境工学で協力したいと思っています”

貴学が目指している今後の方向性を教えてください。

“タイグエン工科大学の全ての専攻は、今日の社会で必要とされるホットな専攻です。ですが、タイグエン省という小さな省に所在するため、タイグエン工科大学は長い伝統を持った学校であるにも関わらず、優秀な学生はハワイのような大都市での勉強を選択する傾向があるという課題に晒されています。

タイグエン工科大学は、タイグエン市内にある他の学校と比較すれば、まだ多くの志望学生をキープ出来ているものの、この課題を解決するため、講師陣の品質の向上、設備への投資、トレーニングプログラムの変更等、学生を引き付けるための施策を検討しています。”



タイグエン農林大学

英語名	THAI NGUYEN UNIVERSITY OF AGRICULTURE AND FORESTRY
略称	TUAF

北部

公立

日本語教育あり

地域の特徴

- ・タイグエン省は、東北地域における経済、社会政治の中心地となる
- ・タイグエン省は、多くの大学、短期大学、中等職業学校、研究機関等が設置されており、国内の人材育成センターという側面もある

統計 (2019年) ランキング

面積	3526.6 km ²	39/63
人口	1290.9 千人	25/63
FDI	616 百万 USD	13/63



タイグエン農林大学

沿革

- ・1970年、マウンテン工科大学設立
- ・1994年、タイグエン大学の設立と共に、その傘下となり、農林大学へと改称(一般的には、タイグエン農林大学と呼称されている)

特色

- ・メインキャンパスは102ヘクタール
- ・加えて、講師・学生の研究目的のため、トゥエンクアン省に林業研究センター(138ヘクタール)、カオバン省に温帯樹木研究センター(19ヘクタール)を持つ
- ・民族学生(キン族以外)の割合は全学生の約40%を占める

特に強みがある専攻

- ・Veterinary Husbandry
- ・Food Technology
- ・High-tech Agriculture
- ・Ecotourism and Resource Management



基本情報

所在地	Quyêt Thang Commune, Thai Nguyen City, Thai Nguyen (Noi Bai 国際空港から約58 km)				
URL	http://tuaf.edu.vn/				
創立年	1970				
課程 専攻数	<input type="checkbox"/> 中等職業学校	<input type="checkbox"/> 短期大学	<input checked="" type="checkbox"/> 学部	<input checked="" type="checkbox"/> 修士	<input checked="" type="checkbox"/> 博士
	-	-	24	9	8
学生数	7,000				
教員数	280				
日本留学経験のある教員	人数	28			
	例示	Ms. Hoang Thi Bich Thao (訓練・国際協力センター長)			
年間研究予算	2019年: 約680億 VND (約3億円) ※ 大学の研究プロジェクトは、主に政府当局あるいは省傘下の機関からの予算に基づいて実施されている				

窓口情報 (国際連携担当の部門)

部署代表番号・メール	(84) 2083 656 996	itc.admin2@tuaf.edu.vn
担当者 氏名・役職	Ms. Hoang Thi Bich Thao	センター長
担当者 電話番号・メール	(84) 974 408 029	hoangbichthao.tuaf.tnu@gmail.com hoangbichthao@tuaf.edu.vn
対応可能な言語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (中国語)	

学長 略歴

准教授 - Dr. Tran Van Dien
 1961年生まれ
 専攻分野: 作物
 2011年-現在: 学長 タイグエン農林大学
 2010年: 博士 タイグエン農林大学
 1997年: 修士 Adelaide University - オーストラリア
 1983年: 学部 タイグエン農林大学





タイグエン農林大学

英語名

THAI NGUYEN UNIVERSITY OF AGRICULTURE AND FORESTRY

略称

TUAF

北部

公立

日本語教育あり

A - 教育体制

1. 教育状況の概要

教育方針(配分)	重点分野: 実用 (人材育成) 訓練時間の配分: 実践50%-理論50%	
インターンシップ	任意	海外でインターンシップ
	必修	3年目又は4年目に6か月～12か月のインターンシップ
卒業生の状況	“卒業生の10～15%程度がベトナム(80%)、日本(5%)、その他の国(15%)で修士に進学します。 日本で働いている卒業生やベトナムの日本企業で働いている卒業生に関するデータはありません。” - Ms. Hoang Thi Bich Thao (訓練・国際協力センター長)	

2. 外国語教育

概要

外国語の授業	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (中国語)		
必須の外国語科目	英語		
最も学習されている外国語 (英語を除く)	日本語		
英語の卒業要件	英語専攻	-	英語専攻以外 A2

日本語の教育

授業種別	卒業要件	卒業生の能力	学生数/年
<input type="checkbox"/> 日本語学科・学部	-	-	-
<input type="checkbox"/> 単位認定授業	-	-	-
<input checked="" type="checkbox"/> 単位が出ない授業	-	N5～N4	80～100
指導教員の数/能力	ベトナム人 2	N3～N2	日本人 1 -

B - 国際連携・協力等の実績

概要

連携・協力等パートナーの国籍	イスラエル、日本、台湾、アメリカ、オーストラリア、デンマーク、ドイツ
パートナーが最も多い国籍	イスラエル

日本パートナーとの連携・協力等

連携・協力等確立方法	講師・同窓生による職業紹介、大学側からコンタクト、相手側からのコンタクト	
パートナーの数	～27	
連携・協力等形態	<input checked="" type="checkbox"/> 企業	インターンシップ、日本語教育支援のための専門家の派遣
	<input checked="" type="checkbox"/> 教育機関	研究、学生交換、日本へ留学する学生のための奨学金、日本の高等教育機関で勉強するための学生・講師の派遣
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (行政機関)	行政機関: インターンシップ

C - 就職支援活動

ジョブフェア開催	11月
その他の活動	大学ウェブサイト上での求職情報の更新



タイグエン農林大学

英語名

THAI NGUYEN UNIVERSITY OF AGRICULTURE AND FORESTRY

略称

TUAF

北部

公立

日本語教育あり

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
経済・経営	Real Estate Management & Business	○		
	Import & Export of Agricultural & Forestry Products	○		
	Agricultural Economics	○	○	
	Agricultural Business Administration	○		
農学・林学	Agricultural Biotechnology	○		
	Biotechnology		○	
	Food Technology	○		
	Biotechnology in Livestock & Veterinary Medicine	○		
	Environmental Science	○	○	○
	Crop Science	○	○	○
	Wood Processing Technology	○		
	High-tech Agriculture	○		
	Information System Administration	○		
	Veterinary Husbandry	○		
	Veterinary Medicine	○		
	Veterinary		○	
	Pharmacy - Veterinary	○		
	Nutrition & Animal Feed			○
	Parasites & Veterinary Microbiology			○
	Husbandry		○	○
Plant Protection	○			

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
農学・林学	Agroforestry	○		
	Silviculture	○	○	○
	Management of Forest Resources	○		
	Food Quality and Safety	○		
	Rural development		○	○
	Land Management	○	○	○
	Cadastral - Environment	○		
	Ecotourism & Resource Management	○		
	Environmental Science & Management	○		

特に強みのある学部・専攻は何ですか？

“特に強みがある専攻について、まずは獣医畜産学です。畜産分野は需要が多く、仕事はハードワークを求められますが、給料が高いため、多くの学生がこの専攻を志望しています。他には、食品技術、ハイテク農業、エコツーリズム、資源管理は、志望学生が増えてきています。それらと比較すると他の専攻は志望学生がそれほど多くありません。

卒業後の就職状況について、獣医畜産学の卒業生は就職率100%であり、それでも需要を満たすことができていません。今月、企業は600名の卒業生を求めています、タイグエン農林大学が供給できるのは300人だけです。この分野では人材が不足しています。近年の繁殖農場の景気は非常に良好であり、近代的な酪農場、養豚場、養鶏場は人的資源を必要としています。その他の専攻全般については卒業から6か月以内に70～80%の学生が専攻に適した仕事に就いています。”

- Dr. Tran Van Dien (学長)



タイグエン農林大学

英語名

THAI NGUYEN UNIVERSITY OF AGRICULTURE AND FORESTRY

略称

TUAF

北部

公立

日本語教育あり



ラボ・研究所



タイグエン農林大学

英語名

THAI NGUYEN UNIVERSITY OF AGRICULTURE AND FORESTRY

略称

TUAF

北部

公立

日本語教育あり

連携等事例

教育機関と連携

- 連携先・協力先 九州大学
- 時期 2019年
- 専攻 多数の専攻
- 内容
- タイグエン農林大学の学生・講師を九州大学に派遣し、勉強する
 - 植物育種、生化学的研究および天然化合物の抽出、財政・経済に関連する研究等の共同研究を実施



調印式

自治体と連携

- 連携先・協力先 長野県南佐久郡川上村
- 時期 2014年
- 専攻 農業
- 内容
- 長野県の川上村での7ヶ月間のインターンシッププログラム
 - これまでに計100名超の学生が参加



川上村でのインターンシップに参加する学生

教育機関と連携

- 連携先・協力先 アドバンス
- 時期 2019年
- 専攻 食品技術
- 内容 日本でのインターンシッププログラム



調印式



タイグエン農林大学

英語名	THAI NGUYEN UNIVERSITY OF AGRICULTURE AND FORESTRY
略称	TUAF

北部
公立
日本語教育あり

大学関係者へのインタビュー



Dr. Tran Van Dien
(学長)

「各国との連携には、それぞれメリット・デメリットがあります。イスラエルによるインターンシップ学生受入の人数は毎年安定しているため、タイグエン農林大学は積極的に準備を進めることができます。一方、日本は受け入れられるインターンシップ学生数が毎年、異なり、またビザの申請手続きも他国に比べて厳しいです。ただ日本に行った後は、学生はよく学び、規律を保つことができます。アメリカやオーストラリアの場合、開放的な環境を体験できますが、高いIELTSスコアが求められます。」

人材採用について、日本企業等へのアドバイスがありますか？

“まず、日本企業は大学へ直接、リクエストを伝えるべきです。次に、企業毎に要件が異なるため、企業はベトナムでのトレーニングについて大学側と調整する必要があります。他大学では「ベトナムに専門家を派遣し、2～3週間の基礎研修を行う」企業もあります。この方法は、学生が日本に渡航した後で研修を実施するよりも効果的で安価です。”

ベトナム政府や関連当局との関係はどうか？

“タイグエン農林大学はタイグエン省と良好な関係を築いており、支援も受けています。大学側は、北部の山岳地帯の多くの主要な問題の調査等の面で省を支援しています。北部の山岳地帯の人口の60～70%が農民であるため、省はタイグエン農林大学へ有益な状況を整備していますし、大学の意見は高く評価されています。省が重要な政治報告書を作成する際には、意見を求められます。例えば、農業再編、新しい農業製品の開発等の省の主要プロジェクトについては、タイグエン農林大学の専門家がアドバイザーになったりもしています。”

日本企業等との連携に、どのような内容を期待しますか？

対 企業

“タイグエン農林大学の卒業生を、在ベトナムの日本企業に採用検討頂ければ嬉しく思います。日本留学から帰国した学生は日本をよく理解しているため、日本企業に適していると考えています。”

“企業が職業訓練インターンシップのための人材を必要としている場合、直接大学へ提案することができます。日本と連携する際には、仲介者を複数、経由していることが多いと思います。我々が訪問した組合等の仲介者の中には、少人数かつ劣悪な設備のみ保有しているケースもあります。組合等を介して活動するのの一つの手段ですが、私の意見としては、具体的なニーズがある企業が直接、タイグエン農林大学へ連絡して欲しいです。”

対 教育機関

“現在、日本の複数の大学との間で、二国間共同研究を行っています。例えば、「バイオアルコール用エタノールを生産するためのオレンジの木などのエネルギー作物の研究」、「植物の品種改良」、「生物多様性の開発と保全のための研究」等です。日本は「天然化合物の研究」、「生物多様性の研究」が非常に進んでいるため、優秀な教授が率いる研究室が複数あります。

また、機能性食品や医薬品の生産に関する研究・技術に秀でているため、それを学ぶため多くの学生を日本に派遣しています。研究から商品化まで非常に強く、抹茶、茶菓子等、茶葉から多くの茶製品を作ることができます。タイグエン省はお茶の栽培で有名ですが、我々は乾燥茶しか作れません。ベトナムの農作物を使った製品の多様化や、薬用・機能性食品の製造など、技術面でぜひ支援してもらいたいと考えています。

ベトナムの生物多様性資源は豊富ですが、未開拓です。日本は有機農業や農業の自動化の研究にも強い。現在、ベトナムはハイテク農業を強化したいと考えており、可能であれば、日本側からの協力も募りたいですし、日本の大学がベトナムの学生、講師、研究者が日本で留学・就業できるよう奨学金の提供も有難く思います。”

対 行政機関

“日本のビザ取得は非常に難しく、手続きも複雑なので、日本政府がもっと学生に有利な条件を整えてくれることを期待しています。また、一定の割合でビザ申請が却下される学生もいますが、イスラエルと比較して、その割合が高いです。アメリカと比べても日本のビザ取得は難しいと感じています。”

連携を期待する分野・専攻

“日本が優れている分野である食品技術、育種技術、獣医学等で協力してくれることを特に期待しています。食品技術については、ポストハーベスト加工技術、製品の多種加工、獣医学的なワクチン製造等があります。バイオテクノロジー、遺伝子、細胞技術に関しては、タイグエン農林大学も強く、日本も強いので協力できると思います。インフラ面では、著名な学術誌へ論文を掲載するための基準を確保するためには、今はまだ日本の設備を利用しなければならない状況にあります。”



ヴィン大学

英語名 VINH UNIVERSITY

略称 VU

中部

公立

日本語教育あり

地域の特徴

- ・ ゲアン省はハノイから南に約300kmに位置し、北中部地域に属する
- ・ 省都はヴィン市であり、北中部地域の経済・文化の中心地となっている
- ・ 建国の父ホーチミンの出身省
- ・ 出身者は、就業あるいは勉強のため、海外への渡航が多い傾向があることで知られる

統計 (2019年)

ランキング

面積	16,481.4 km ²	1/63
人口	3,337.2 千人	4/63
FDI	315.1 百万 USD	22/63



ヴィン大学

沿革

- ・ 1959年、ヴィン教育大学が設立
- ・ 2001年、ヴィン大学に改名され、同時に学際大学へと変更

特色

- ・ 国家重点大学
- ・ 国家試験センター(国家レベルの各種試験の作成等を担当)
- ・ 教師の養成校としても有名
- ・ 学生数最多の大学の1つ (36,000名)
- ・ 同地域内でキャンパス面積が大規模な大学 (283ヘクタール)
- ・ 就学前教育から博士号課程まで複数課程を備えている (中等職業学校および短期大学除く)

特に強みがある専攻

- ・ Information Technology
- ・ Food Technology
- ・ Electrical and Electronic Engineering
- ・ Hostel Management



基本情報

所在地	182 Le Duan, Trung Thi Ward, Vinh City, Nghe An (Vinh 国際空港から約10 km)				
URL	http://vinhuni.edu.vn/				
創立年	1959				
課程 専攻数	<input type="checkbox"/> 中等職業学校	<input type="checkbox"/> 短期大学	<input checked="" type="checkbox"/> 学部	<input checked="" type="checkbox"/> 修士	<input checked="" type="checkbox"/> 博士
	-	-	59	37	14
学生数	36,000				
教員数	750				
日本留学経験のある教員	人数	5			
	例示	Dr. Nguyen Huu Quyet (外国語教育学部・副部長)			
年間研究予算	200~250億VND (約8969万円~1億円)				

窓口情報 (国際連携担当の部門)

部署代表番号・メール	(84) 383 555 738	international@vinhuni.edu.vn
担当者 氏名・役職	Mr. Le Cong Duc	部長
担当者 電話番号・メール	(84) 902 169 799	duclc.dhv@gmail.com duclc@vinhuni.edu.vn
対応可能な言語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他 ()	

学長 略歴

教授 - Dr. Nguyen Huy Bang
 1977年生まれ
 専攻分野: 物理光学
 2020年-現在: 学長 ヴィン大学
 2013-2017年: 物理学&テクノロジー学部長 ヴィン大学
 2008: 博士 Polish Academy of Sciences - ポーランド
 2002: 修士 ヴィン大学
 2000: 学部 ヴィン大学





ヴィン大学

英語名 VINH UNIVERSITY

略称 VU

中部

公立

日本語教育あり

A - 教育体制			
1. 教育状況の概要			
教育方針(配分)	重点分野: 実用(人材育成) 訓練時間の配分: 実践40%-理論60% (専攻によって異なる)		
インターンシップ	任意	海外でインターンシップ	
	必修	2回のインターンシップ (専攻によって異なる)	
卒業生の状況	<p>"2018年のデータでは、卒業生の92.85%が就職しています。海外での就業状況について、全学生のうち10%~15%を占める教育学専攻の学生は海外就職が認められていません。一方で、IT、オートメーション、製薬化学、電子工学、建設、水産養殖等の他専攻の学生の約6%が海外で働いています。"</p> <p style="text-align: right;">- Mr. Le Cong Duc (国際協力部長)</p>		
2. 外国語教育			
概要			
外国語の授業	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、ロシア語)		
必須の外国語科目	英語		
最も学習されている外国語 (英語を除く)	韓国語		
英語の卒業要件	英語専攻	C1	英語専攻以外 B1
日本語の教育			
授業種別	卒業要件	卒業生の能力	学生数/年
<input type="checkbox"/> 日本語学科・学部	-	-	-
<input type="checkbox"/> 単位認定授業	-	-	-
<input checked="" type="checkbox"/> 単位が出ない授業	-	N4-N2	120~150
指導教員の数/能力 *	ベトナム人 0	-	日本人 0

B - 国際連携・協力等の実績		
概要		
連携・協力等パートナーの国籍	ポーランド、アメリカ、オーストラリア、日本、ドイツ、インド、台湾、韓国等 (60~70か国)	
パートナーが最も多い国籍	ポーランド	
日本パートナーとの連携・協力等		
連携・協力等確立方法	相手側からのコンタクト、大学側からコンタクト、第三者からの紹介	
パートナーの数	6~7	
連携・協力等形態	<input checked="" type="checkbox"/> Corporation	機器・設備への投資、インターンシップ、採用契約、日本語クラスの開講、職業訓練プログラムの実施
	<input checked="" type="checkbox"/> 教育機関	文化交流、奨学金、学生交換、3+1および3+2(ベトナムで3年、日本で1年あるいは2年勉強)プログラムの実施、研究
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (行政機関)	行政機関: 日本語教育支援のための専門家の派遣; 書籍等の寄贈

C - 就職支援活動	
ジョブフェア開催	3月、5月、10月、12月
その他の活動	パートナーとのインターンシップおよび採用契約、大学ウェブサイト・Facebook上での求職情報の更新、学生との交流目的で企業を招いたキャリア相談会を実施

* 日本語クラスを教えている講師はいるが、大学の講師ではなく、連携パートナー等から派遣される講師となる



ヴィン大学

英語名 VINH UNIVERSITY

略称 VU

中部

公立

日本語教育あり

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
経済・経営	Accounting	○		
	Finance and Banking	○		
	Business Administration	○		
	Economics	○		
	Agricultural Economics	○		
	Economic Management		○	○
	Construction Economics	○		
	Electronic Commerce	○		
教育	Mathematics Pedagogy	○		
	Natural Sciences Pedagogy	○		
	IT Pedagogy	○		
	Physics Pedagogy	○	○	
	Chemistry Pedagogy	○		
	Biology Pedagogy	○		
	Philology Pedagogy	○		
	History Pedagogy	○		
	Geography Pedagogy	○		
	Politics Pedagogy	○		
	Primary Pedagogy	○	○	
	Physical Pedagogy	○	○	
	English Pedagogy	○		
	Mathematics Teaching Theory & Methodology		○	○

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
教育	Philology Teaching Theory & Methodology		○	
	English Teaching Theory & Methodology		○	
	Physics Teaching Theory & Methodology		○	
	Chemistry Teaching Theory & Methodology		○	○
	Biology Teaching Theory & Methodology		○	
	History Teaching Theory & Methodology		○	
	Political Education Teaching Theory & Methodology		○	
	Education Management	○	○	○
	National defense – Security Education	○		
	Preschool Pedagogy	○	○	
エンジニアリング・テクノロジー	Electrical & Electronic Engineering	○		
	Electronic & Telecommunications Engineering	○		
	Control and Automation Engineering	○		
	Construction Engineering	○	○	
	Traffic Work Building Engineering	○		
	Hydraulic Work Engineering	○		
	Food Technology	○		
	Chemical Technique Technology	○		
	Information Technology	○	○	
	Computer Science	○		
	Biotechnology	○		
	Data Science and Statistics	○		



ヴィン大学

英語名 VINH UNIVERSITY

略称 VU

中部

公立

日本語教育あり

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
エンジニアリング・テクノロジー	Software Engineering	○		
	Thermal Engineering	○		
	Automotive Engineering Technology	○		
外国語	English Language	○		
医学	Nursing	○		
サイエンス	Analytic Mathematics		○	○
	Algebra and Number Theory		○	○
	Geometry and Topology		○	
	Mathematical Probability & Statistics Theories		○	○
	Optics		○	
	Organic Chemistry		○	○
	Inorganic Chemistry		○	
	Analytical Chemistry		○	
	Botany		○	○
	Zoology		○	
	Experimental Biology		○	
	Geography		○	
	Biology	○	○	
	Literature Theory		○	
	Vietnamese Literature		○	○
Vietnamese Linguistics		○	○	
観光	Tourism	○		

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
その他	Agronomy	○		
	Aquaculture	○	○	
	Vietnamese History		○	○
	World History		○	○
	Environment Science	○		
	Natural Resource & Environment Management	○		
	Land Management	○		
	Breeding	○		
	Culture Management	○		
	Political Science (Public policies)	○		
	Political Science	○		
	Politics		○	○
	Plant Science		○	
	Culture Management	○		
	Vietnamese Studies	○		
	Theory and History of State and Law			
	Social Works	○		
	Journalism	○		
	Law	○		
	Economic Law	○		
State Management	○			
Agricultural Extension	○			



ヴィン大学

英語名	VINH UNIVERSITY
略称	VU

中部
公立
日本語教育あり

特に強みのある学部・専攻は何ですか？

“ヴィン大学は元々、教育大学であり、国内で最も有名な教育大学2校のうちの1校でした。ヴィン大学の教育学部の卒業生は、全国で教師となっており、クイニン大学、フエ大学、クアンビン大学、ハティン大学、ドンタップ大学といった大学の理事会メンバーにもなっていますし、例えば、副大臣、総局長といった政府の重要役職に就いた人もいます。

ヴィン大学の専攻は市場の需要が高いこともあり、水産養殖と建設工学が特に多くの支援を受けています。外資企業の中には、1年生の時から財政面でのサポートや仕事の機会を与えて頂いている企業もあります。情報技術分野も市場の需要が大きく、またヴィン大学の学生も優秀であり、特に優秀な学生を集めた「特別クラス」も設置しています。”

- Mr. Le Cong Duc (国際協力部長)



生物学ラボラトリー



情報技術演習室



建設演習室



物理学演習室



食品技術演習室



ヴィン大学

英語名 VINH UNIVERSITY

略称 VU

中部

公立

日本語教育あり

連携等事例

企業と連携

- 連携先・協力先 OLC Group (ベトナム送り出し機関)
- 時期 2019年
- 専攻 工学、看護
- 内容
- 日本でのインターンシッププログラム参加や就業を希望する学生のために日本語クラスを開催 (N4取得が目標)
 - 8億ドンかけて介護機器ルームを整備
 - 5年以内に200名超の規模で、OLC社およびOLC社が紹介する企業でのインターンシップおよび就職の機会を提供



OLC社による日本語クラス

企業と連携

- 連携先・協力先 IMAid株式会社
- 時期 2016年
- 専攻 情報技術、介護
- 内容
- 看護学生を対象として日本の介護施設1,200カ所でのインターンシップおよび就職の機会を提供
 - 日本語および介護スキルのクラスを開催



IMAid社による「日本で働く」セミナーの開催

教育機関と連携

- 連携先・協力先 学校法人神野学園
- 時期 2017年
- 専攻 技術工学、看護
- 内容
- 日本での就業を希望する技術工学専攻学生に対して、無料の日本語トレーニングコースを開講
 - 技術工学専攻学生に対して、在ベトナム・在日本の日本企業での就職の機会を提供
 - 日本での看護研修プログラムに学生を紹介
 - 科学研究、講師研修に関して連携



神野学園による日本語コースの開講式



ヴィン大学

英語名	VINH UNIVERSITY
略称	VU

中部
公立
日本語教育あり

大学関係者へのインタビュー



Mr. Le Cong Duc
(国際協力部長)

“ゲアン省およびハティン省は、日本を含む海外への労働力輸出が最も多い省となっています。
 ヴィン市は北中部地域の玄関口となり、ヴィン市からラオス、タイへのアクセスは他よりも早く利便性が高い場所になっています。ヴィン市は市場としても大きく、ベトナムで自動車ユーザーの割合が最も高く、5人あたり1台の車が利用されています。ヴィン市民は耐久性を重視しているため、日本ブランドの自動車が過半数を占めています。車の利用率が高い理由としては、悪天候、広い道路、敷地面積が広い家等もあるかもしれませんが、海外で従事する家族からの送金が資金源となっています。”

人材採用について、日本企業等へのアドバイスがありますか？

“日本企業は、ただ市場の需要に従って人材を求めるのではなく、前もって計画的に大学と協力すべきです。大学の履修期間は4年間ですが、人材採用の意向がある場合、できる限り早い段階での投資をお勧めします。まず、必要としている専門・数を伝えて頂ければ、ヴィン大学は十分な数の適した学生を集めたいと思います。そして企業は、研修やその他の課題に関して、初期段階からの支援をお願ひできればと思います。”

理由は、大学を卒業して日本企業に就職するという方向性があれば、入学時から日本語を勉強し、卒業時にN1～N2に達することができる可能性があるからです。そうでなく、ただ今ほしいと言われた場合、卒業後に1年間日本語を勉強しなければならず、時間とお金の無駄になりますし、質も担保されません。

また、卒業後に専門知識等の再教育を実施するのは非常に難しくなってしまうため、初期段階から企業が教える日本の基準に沿った形で専門分野を勉強した方が効果的だと考えます。”

日本企業等との連携に、どのような内容を期待しますか？

対 企業

“日本企業はヴィン大学に対して、どのような人材が必要かを伝えてもらえれば、大学側は、それに基づいて学生を訓練できると考えています。研修内容については、日本企業から基準を提供することも可能です。例えば、企業が看護、自動車、ITといった専門の人材を必要とする場合、一から頂いた基準に従って、それらの専攻の学生を訓練し、その基準を学生の卒業要件として定めることも検討できます。”

対 教育機関

“日本の大学とは、双方の強みを活かすことができるような科学研究および技術移転について連携したいです。ヴィン大学にはすでに強力な研究チームがあります。ゲアン省の固有植物の抽出物の研究チーム、ハイテク農産物研究チームといったチームがあり、日本もこの分野では強いと思います。”

“日本の学位または日越両大学の学位を取得できるような、2+2プログラム(ベトナムで2年勉強+日本に2年留学)を実施、学生が卒業した後、日本の大学が日本での仕事を紹介するといったことができれば、と思います。また、例えば「ヴィン大学がITエンジニアの基礎トレーニングをし、その後、日本側が国際基準を満たすためにさらに高度なトレーニングを続ける」といった連携も検討できればと思います。”

対 自治体 行政機関

“日本の政府機関等には、ヴィン大学が学生の就職を支援できるよう日本企業にアプローチする際の架け橋として連携を期待します。また、日本政府機関はトレーニングプログラムのスポンサーとなり、学生が仲介業を通さず日本に行って働ける状況の整備を支援頂ければと考えています。”

連携を期待する分野・専攻

“日本で人材が不足している分野で連携したいと思っています。例えば、看護、IT、薬品科学・生化学、自動車エンジニアリング、電気・電子、オートメーション、産業土木、橋梁・道路工学、バイオテクノロジー、ホスピタリティ、会計、食品技術、農業等です。”

ベトナム政府や関連当局との関係はどうか？

“ヴィン大学は、ゲアン省ではなく教育訓練省に属しています。ただし、ゲアン省に所在していますので、土地の割り当てを含むすべての面で、ゲアン省はヴィン大学をサポートしてくれています。キャンパスは国内最大規模であり、ゲアン省側から256ヘクタールと水産養殖モデルの技術移転するための研究施設2拠点を提供して頂きました。”



ヴィン工業大学

英語名

INDUSTRIAL UNIVERSITY OF VINH

略称

IUV

中部

私立

日本語教育あり

地域の特徴

- ・ ゲアン省はハノイから南に約300kmに位置し、北中部地域に属する
- ・ 省都はヴィン市であり、北中部地域の経済・文化の中心地となっている
- ・ 建国の父ホーチミンの出身省
- ・ 出身者は、就業あるいは勉強のため、海外への渡航が多い傾向があることで知られる

統計 (2019年)

ランキング

面積	16,481.4 km ²	1/63
人口	3,337.2 千人	4/63
FDI	315.1 百万 USD	22/63



ヴィン工業大学

沿革

- ・ 2008年3月、国会議長Nguyen Sinh Hung氏は「ホーチミンの故郷ゲアン省における技術・エンジニアリング分野の大学設立」を投資家に募った。同年8月、投資家がそれに呼応し、ホーチミン工業大学傘下の機関を設立
- ・ 2013年、ヴィン工業大学へと変更
- ・ Vinaceglass社前会長Tran Le Dung氏、LienVietPostBankの前会長Nguyen Dinh Thang氏、Ha Quang Real Estate JSCの社長Ha Van Hai氏といった財界関係者が「営利目的でなく、国の教育への貢献」目的で株主となっている

特色

ヴィン工業大学は、教育分野に関心が高い投資家によって設立されたため、トレーニングモデルは非常に実践的であり、実際の事業と包括的にリンクしており、社会へと貢献している

特に強みがある専攻

- ・ Information Technology
- ・ Food Technology
- ・ Electrical and Electronic Engineering
- ・ Hostel Management



基本情報

所在地	26 Nguyen Thai Hoc, Le Loi Ward, Vinh City, Nghe An (Vinh 国際空港から約4km)				
URL	http://iuv.edu.vn/				
創立年	2013年				
課程 専攻数	<input type="checkbox"/> 中等職業学校	<input checked="" type="checkbox"/> 短期大学	<input checked="" type="checkbox"/> 学部	<input type="checkbox"/> 修士	<input type="checkbox"/> 博士
	-	17	11	-	-
学生数	1,100				
教員数	109				
日本留学経験のある教員	人数	5			
	例示	Ms. Nguyen Thi Bich (外国語部・英語講師)			
年間研究予算	N/A				

窓口情報 (国際連携担当の部門)

部署代表番号・メール	-	-
担当者 氏名・役職	Ms. Nguyen Thi Bich	部長
担当者 電話番号・メール	(84) 988 800 748	nguyenbich1008@gmail.com
対応可能な言語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他 ()	

学長 略歴

Dr. Tran Manh Ha
 1983年生まれ
 専攻分野: 機械工学
 2018年-現在: 学長 ヴィン工業大学
 2017年-2018年: 副学長 ヴィン工業大学
 2015年: 博士 ハノイ工科大学
 2010年: 修士 ハノイ工科大学
 2008年: 学部卒業 ハノイ工科大学





ヴィン工業大学

英語名 INDUSTRIAL UNIVERSITY OF VINH

略称 IUV

中部

私立

日本語教育あり

A - 教育体制

1. 教育状況の概要		
教育方針(配分)	重点分野: 実用(人材育成) 訓練時間の配分: 実践50%-理論50% (専攻によって異なる)	
インターンシップ	任意	海外でインターンシップ
	必修	1年目、2年目、4年目に2-3回のインターンシップ (専攻によって異なり、例えばテクノロジー分野は3回)
卒業生の状況	“学生の約10%がベトナム国内で進学、海外で進学する人はいませんが、約5%が日本で就職しました。在ベトナムの日本企業に就職した学生数のデータはありません。” - Ms. Nguyen Thi Bich (国際協力部長)	

2. 外国語教育

概要	
外国語の授業	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他 ()
必須の外国語科目	英語
最も学習されている外国語 (英語を除く)	日本語
英語の卒業要件	英語専攻 - 英語専攻以外 TOEIC 450

日本語の教育

授業種別	卒業要件	卒業生の能力	学生数/年
<input type="checkbox"/> 日本語学科・学部	-	-	-
<input type="checkbox"/> 単位認定授業	-	-	-
<input checked="" type="checkbox"/> 単位が出ない授業	-	N4	200
指導教員の数/能力	ベトナム人 1 N2	日本人 2	-

B - 国際連携・協力等の実績

概要		
連携・協力等パートナーの国籍	中国語、ドイツ、韓国、日本、ポルトガル、シンガポール、スペイン	
パートナーが最も多い国籍	韓国、日本	
日本パートナーとの連携・協力等		
連携・協力等確立方法	相手側からのコンタクト、大学上層部のネットワーク	
パートナーの数	2	
連携・協力等形態	<input checked="" type="checkbox"/> 企業	日本語・日本文化トレーニングプログラムの実施、インターンシップ
	<input checked="" type="checkbox"/> 教育機関	日本での仕事を紹介
	<input type="checkbox"/> その他 ()	-

C - 就職支援活動

ジョブフェア開催	6月又は7月(卒業式の後)
その他の活動	講師による職業紹介、パートナーとの採用契約、大学ウェブサイト・Facebook上での求職情報の更新



ヴィン工業大学

英語名 INDUSTRIAL UNIVERSITY OF VINH

略称 IUV

中部

私立

日本語教育あり

専攻リスト

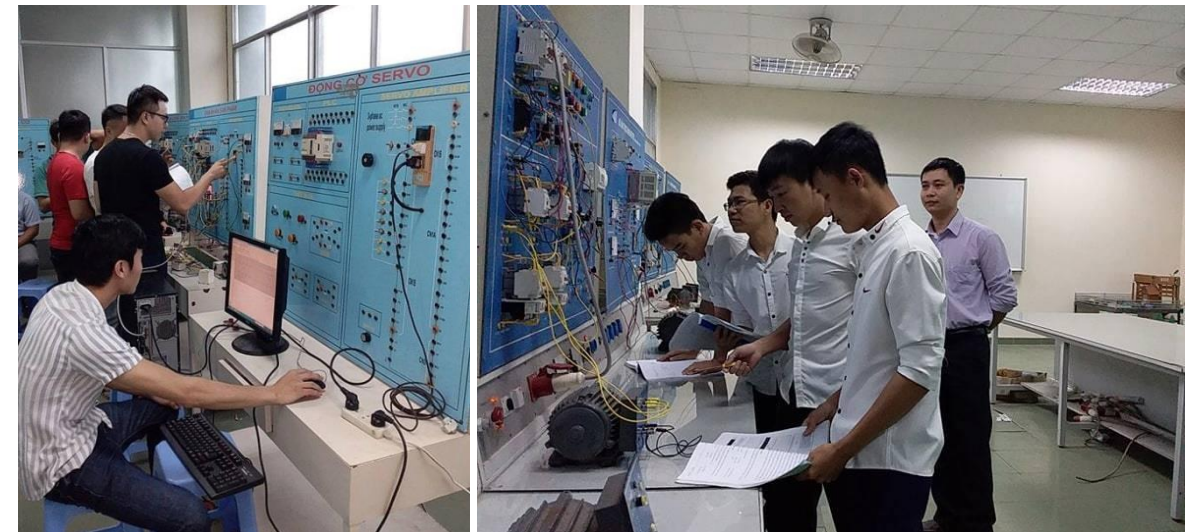
分野・専攻		課程		
		中等職業学校	短期大学	学部
経済・経営	Accounting		○	○
	Enterprise Accounting		○	
	Industrial Management			○
エンジニアリング・テクノロジー	Alcohol Production		○	
	Automotive Technology		○	
	Civil Electricity		○	
	Chemical Engineering Technology			○
	Computer Network Administration		○	
	Computer Repair and Assembly Technique		○	
	Control Engineering and Automation Technology			○
	Electrical and Electronic Engineering		○	○
	Electrical Installation and Control Technology In Industry		○	
	Food Technology		○	○
	Industrial Electricity		○	
	Information Technology		○	○
	Information Technology - Software		○	
Mechanical Engineering Technology		○	○	
Thermal Engineering Technology			○	
観光	Hotel Management		○	○
	Tour Guide		○	
	Travel and Tourism Service Management		○	○

特に強みのある学部・専攻は何ですか？

「経験豊富な講師陣が揃っているため、特に強みのある専攻は情報技術、食品技術、電気エンジニアリング、ホテルマネジメントとなります。情報技術は第四次産業革命の重要要素であり、企業側はIT(特にAI)専攻の人材を必要としています。

食品技術専攻の学生を必要としている日本企業も多いです。電気・電子系のエンジニアリング専攻では、演習ニーズを満たす十分な設備も整備を進めてきました。北中部地域でホテルマネジメント分野を教えている大学はヴィン工業大学のみになりますし、この分野の人材も市場に必要とされています。」

- Ms. Nguyen Thi Bich (国際協力部長)



演習室



ヴィン工業大学

英語名	INDUSTRIAL UNIVERSITY OF VINH
略称	IUV

中部
私立
日本語教育あり

連携等事例

企業と連携

- 連携先・協力先 株式会社エフエージェイ (FAJ - ウィルグループ)
- 時期 2018年
- 専攻 テクノロジー
- 内容
- ・ トレーニング:
日本側は4人の専門家を派遣し、日本語やスキルのトレーニングコースを提供
 - ・ インターンシップ:
日本での6カ月の有給インターンシップを実施
 - ・ 採用契約:
N4-N3を取得した学生に日本での就業機会を提供



日本語クラス



調印式



ヴィン工業大学

英語名	INDUSTRIAL UNIVERSITY OF VINH
略称	IUV

中部
私立
日本語教育あり

大学関係者へのインタビュー



Mr. Tran Le Dung
(理事長)



Dr. Tran Manh Ha
(学長)

「ファン・ボイ・チャウ(自身も日本へ留学すると共に、日本への留学を推奨したゲアン省出身で独立運動の指導者の1人)はベトナム国のために、日本と協力し、日本人から学びましたので、日本側がパートナーとしてゲアン省を選ぶことは適しています。ゲアン省の人々は日本に好感を持っています。タインホア省、ゲアン省、ハティン省出身の卒業生は、高校・短期大学卒業後に、就業あるいは勉強のために日本に行きたいと考えている人も多いです。」

ベトナム政府や関連当局との関係はどうか？

“国会議長 Nguyen Sinh Hung氏が「ゲアン省周辺に技術分野の人材開発のための大学設立」を呼びかけてから、当時、ゲアン省人民委員会副委員長であった Trac氏・Phuoc氏および現ヴィン工業大学理事長とで協力し、その期待を実現しました。ですから、設立当初から、ヴィン工業大学は政府の支援を受けています。理事長は Phuoc氏、Trac氏とも良い関係にありますし、現在のゲアン省人民委員会のリーダーとも緊密な友好関係を築いているため、政府規則・制度に関する課題は、人民委員会によって支援を期待できます。”

“ゲアン省人民委員会の現委員長 Chung氏との面談機会も多く、ベトナム大統領府の高官、党中央経済委員会の副会長とも友好関係にあります。彼らの出身地はゲアン省であり、教育分野に関して非常に熱意を持って取り組んでいて、故郷へ貢献したいと考えています。国家レベルの大型プロジェクトの場合は彼らを巻き込んで取り組むことも可能と思います。”

日本企業等との連携に、どのような内容を期待しますか？

対 企業

“友好的な協力関係を構築するために、日本企業には是非ベトナムを訪問して頂きたいと思います。また、日本の言語、文化、働き方を学ぶため、日本でのインターンシップができればと思います。「日本でのインターンシップ後、ベトナムに帰国し、大学を卒業、またインターンに参加した日本企業で働く」というプログラムを期待しています。”
 “科学的な研究をヴィン工業大学としたいと考えている日本企業があれば御連絡ください。”
 “ヴィン工業大学のジョブフェアに多くの日本企業を招待したいと考えています。”

対 教育機関

“日本の大学の水準に従って、学生を教育・訓練したいと考えています。例えば、1+3 (ベトナムで1年勉強+日本に3年留学)、2+2 (ベトナムで2年勉強+日本に2年留学)といった連携プログラム、科学研究の連携、訓練方針又は科学研究についてのセミナー開催等、日本の大学と包括的な連携をできればと思います。”
 “人材育成の質を確保するため、日本パートナーと直接連携したいです。現在、ベトナム人労働者は仲介者を通じて日本に行くため費用が多くかかります。ヴィン工業大学は、学生が日本に行くための機会を透明性をもった形で構築したいと考えています。”

対 行政機関

“日本政府機関には、ベトナムの大学と日本パートナーとの連携を促進するプログラム、より包括的な規模で両政府を結びつけるプログラムを引き続き期待しています。”

連携を期待する分野・専攻

“ヴィン工業大学の強みである情報技術、食品技術、電気エンジニアリング等の専攻の育成に力を入れています。これらは日本でも人材需要の高い分野となっています。”

人材採用について、日本企業等へのアドバイスがありますか？

“ゲアン省の人々と信頼関係を構築するのは時間が必要です。日本企業がゲアン省出身の学生にアプローチしたい場合、企業自ら自己紹介をする必要があると感じます。日本の「どこで、どの分野で事業を行っていて、日本に渡航した場合の生活・給与」といった情報は会社から直接、説明されるべきです。そうでないと、学生は企業を信頼できません。もちろん、大学が企業のパートナーになる場合、大学は企業に同行しますし、日本で働きたい学生の募集も可能です。”



フエ大学外国語大学

英語名

UNIVERSITY OF FOREIGN LANGUAGES, HUE UNIVERSITY

略称

HUCFL

中部

公立

日本語教育あり

地域の特徴

- ・ トゥアティエン・フエ省は北中部地域に属する
- ・ 省都はフエ市であり、ベトナム最後の王朝の都であったことが有名
- ・ 同市は、現在、同地域の文化、観光、医療、教育・訓練、科学技術の中心地の1つとなっており、また建造物群がユネスコの世界遺産として登録されている

統計 (2019年)

ランキング

面積	4,902.4 km ²	30/63
人口	1,129.5 千人	40/63
FDI	324.5 百万 USD	21/63



フエ大学外国語大学

沿革

- ・ 1957年、フエ大学が設立
- ・ 2004年、フエ大学傘下の大学群の外国語学部が統合され、フエ大学の傘下にフエ大学外国語大学が設立

特色

地方部で国家外国語プロジェクトを実施している外国語センター5拠点のうちの1つ

特に強みがある専攻

- ・ English Pedagogy
- ・ English Language
- ・ Chinese Language
- ・ Japanese Language



基本情報

所在地	57 Nguyen Khoa Chiem, An Cuu Ward, Hue City, Thua Thien Hue (Phu Bai 空港から14 km)				
URL	https://hucfl.edu.vn/vi/				
創立年	2004年				
課程 専攻数	<input type="checkbox"/> 中等職業学校	<input type="checkbox"/> 短期大学	<input checked="" type="checkbox"/> 学部	<input checked="" type="checkbox"/> 修士	<input checked="" type="checkbox"/> 博士
	-	-	11	6	2
学生数	6,131				
教員数	300				
日本留学経験のある教員	人数	10			
	例示	Ms. Dang Thai Quynh Chi (日本語文化学部の科学研究・国際協力アシスタント)			
年間研究予算	40億 VND (約1793万円)				

窓口情報 (国際連携担当の部門)

部署代表番号・メール	(84) 234 3830 722	khcn_htqt@hueuni.edu.vn
担当者 氏名・役職	Ms. Nguyen Vu Quynh Nhu	部長
担当者 電話番号・メール	(84) 935 509 761	nvqnhu@hueuni.edu.vn
対応可能な言語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (韓国語、中国語、フランス語)	

学長 略歴

准教授- Dr. Pham Thi Hong Nhung
 1976年生まれ
 専攻分野: 言語学
 2020年-現在: 学長 フエ大学外国語大学
 2014年-2019年: 副学長 フエ大学外国語大学
 2008年: 博士 Queensland University, Australia
 2002年: 修士 Queensland University - Australia
 1997年: 学部 フエ教育大学





フエ大学外国語大学

英語名

UNIVERSITY OF FOREIGN LANGUAGES, HUE UNIVERSITY

略称

HUCFL

中部

公立

日本語教育あり

A - 教育体制

1. 教育状況の概要		
教育方針(配分)	応用及び研究大学（人材育成の大学） 訓練時間の配分：実践50%-理論50%（専攻によって異なる）	
インターンシップ	任意	まだ無い
	必修	3年目又は4年目に1回のインターンシップ
卒業生の状況	<p>“2020年に卒業した696人の学生のうち、28人が進学(ベトナムで7人、日本で2人、その他の国で19人)しました。また、(把握している限りとなりますが、)在ベトナムの日本企業に就職したのは8人、日本では誰も就職していません。”</p> <p style="text-align: right;">- Mr. Nguyen Tinh (副学長)</p>	

2. 外国語教育

概要					
外国語の授業	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (中国語、韓国語、ロシア語、フランス語)				
必須の外国語科目	英語 (全学生)、中国語、日本語 (特定専攻に限る)				
最も学習されている外国語 (英語を除く)	中国語				
英語の卒業要件	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>英語専攻</td> <td>B2 (現在) C1 (2021年以降)</td> <td>英語専攻以外</td> <td>B1</td> </tr> </table>	英語専攻	B2 (現在) C1 (2021年以降)	英語専攻以外	B1
英語専攻	B2 (現在) C1 (2021年以降)	英語専攻以外	B1		

日本語の教育

授業種別	卒業要件	卒業生の能力	学生数/年
<input checked="" type="checkbox"/> 日本語学科・学部	B2	N3-N2	750
<input checked="" type="checkbox"/> 単位認定授業	B1	N5	150
<input type="checkbox"/> 単位が出ない授業	-	-	-
指導教員の数/能力	ベトナム人 19	N2~N1	日本人 0

B - 国際連携・協力等の実績

概要		
連携・協力等パートナーの国籍	日本、韓国、中国、タイ、アメリカ、ドイツ、オーストラリア、フランス、台湾、ベルギー	
パートナーが最も多い国籍	中国	
日本パートナーとの連携・協力等		
連携・協力等確立方法	第三者からの紹介、大学上層部のネットワーク、講師・同窓生による紹介、相手側からのコンタクト	
パートナーの数	~30	
連携・協力等形態	<input checked="" type="checkbox"/> 企業	日本での仕事を紹介
	<input checked="" type="checkbox"/> 教育機関	奨学金付き学生・教員交換プログラム、文化交流、日本語教師の派遣、カンファレンスの実施
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (行政機関)	行政機関 日本語テストの実施、本語教育書籍の寄贈、日本語教師の派遣、講師のための育成セミナーの開催、講師のトレーニング目的での日本渡航支援、文化交流

C - 就職支援活動

ジョブフェア開催	4月/5月
その他の活動	大学ウェブサイト上での求職情報の更新、職業紹介イベントの開催、就職面接のトレーニングセッションの実施



フエ大学外国語大学

英語名

UNIVERSITY OF FOREIGN LANGUAGES, HUE UNIVERSITY

略称

HUCFL

中部

公立

日本語教育あり

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
教育	English Pedagogy	○		
	French Pedagogy	○		
	Chinese Pedagogy	○		
	Vietnamese studies	○		
	International studies	○		
	Theory & Methodology of Teaching English Language Subject		○	○
	Theory & Methodology of Teaching French language Subject		○	
外国語	English Language	○	○	
	Chinese Language	○	○	
	French Language	○	○	
	Japanese Language	○		
	Korean Language	○		
	Comparative linguistics		○	○
	Russian Language	○		

特に強みのある学部・専攻は何ですか？

“英語教育学、英語、中国語、日本語専攻は、入学するために高得点が必要であり、卒業生の就職率も高く、また経験豊富な講師陣、標準化されたトレーニングプログラムを整備しています。英語講師のほとんどが留学経験者であり、日本語、英語、中国語は多くのキャリアオプションがあるため、学生に人気の学部となっています。”

- Ms. Nguyen Vu Quynh Nhu (国際協力部長)



フエ大学外国語大学

英語名	UNIVERSITY OF FOREIGN LANGUAGES, HUE UNIVERSITY
略称	HUCFL

中部
公立
日本語教育あり

連携等事例

教育機関と連携

連携先・協力先 北海道教育大学

時期 2015年

専攻 日本語

内容

- 北海道教育大学で修士・博士課程を学びたい講師を募集 (これまでに4名の講師が参加)
- 北海道教育大学に1年間留学するための奨学金を支給 (学生5名/年)
- 言語学・言語教育学に関する国際カンファレンスの開催



国際カンファレンス

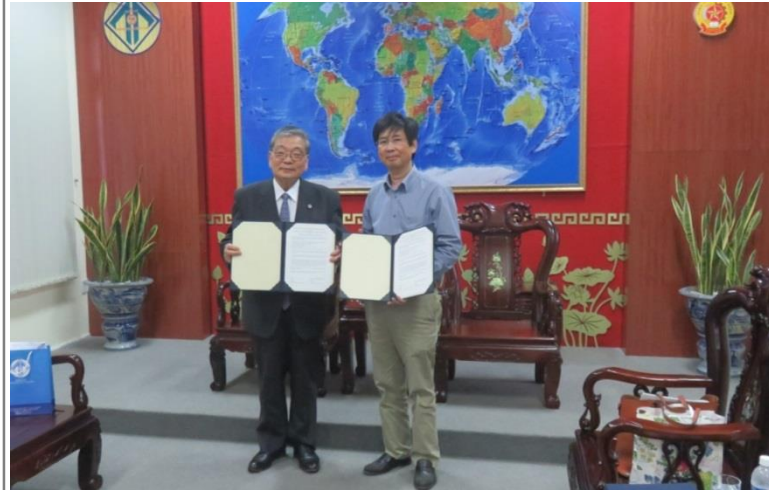
教育機関と連携

連携先・協力先 札幌国際大学

時期 2018年

専攻 日本語

内容 学生交換



調印式

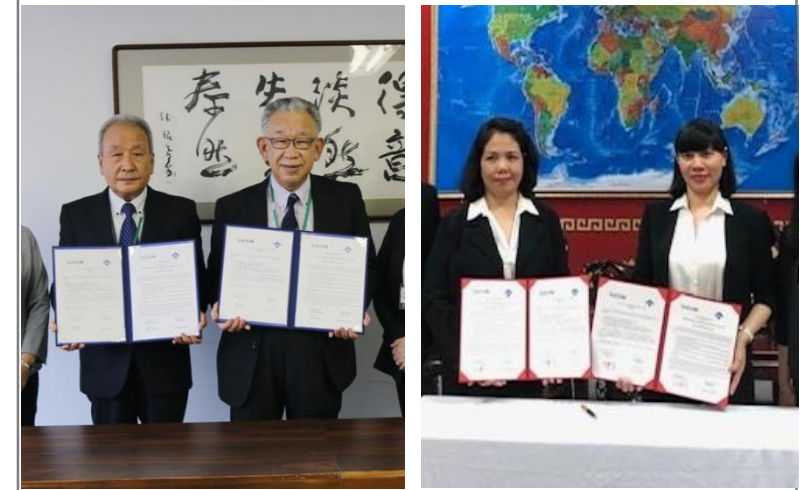
教育機関と協力等

連携先・協力先 エール学園

時期 2020年

専攻 日本語

内容 教育支援のため日本側から講師を派遣



オンラインでの調印式



フエ大学外国語大学

英語名	UNIVERSITY OF FOREIGN LANGUAGES, HUE UNIVERSITY
略称	HUCFL

中部
公立
日本語教育あり

大学関係者へのインタビュー



Mr. Nguyen Tinh
(副学長)

“2006年に設立された日本語学部は、英語、中国語に次いで学生数が多い学部となっています。日本語学部は現在、日本語専攻のみとなりますが、日本語講師数を増強できれば、日本語教育学専攻を開設する予定です。”

貴学が目指している今後の方向性を教えてください。

“この地域の外国語ニーズに関する調査によれば、整備された学習条件および広いコミュニケーション環境(英語の汎用性)から英語が最も人気があり、次いで中国語、日本語、韓国語となっており、我々もこの3言語に投資をしています。中国語、日本語、韓国語は、今後数年の間に、さらに需要が高まっていくでしょう。”

日本語学部の開発に力を入れています。現在、講師数が限られています。中には修士課程や博士課程を目指して海外に留学している講師もいます。しかし、彼らの多くがベトナムに戻ってこないという課題があります。例えば、韓国の博士号課程に4~5人の講師を送り出しましたが、彼らは研究を終えた後、韓国に残って働くことになりました。フエ大学外国語大学は、そのような講師を呼び戻すことができるよう魅力的な環境を整えなければなりません。”

フランス語とロシア語はまだ志望学生数が多くないですが、人材の需要はポテンシャルが高くなっています。例えば、ロシア語を学ぶ学生数は少ないですが、就職先は非常に有望で、就職率100%となっています。”

日本企業等との連携に、どのような内容を期待しますか？

対 企業

“企業が提供するインターンシップは3ヶ月を超えるべきではありません。3ヶ月未満であれば、学生を海外に派遣する機会もあるかもしれません。教育訓練省は「学生が勉強のために大学を離れる場合は3ヶ月を超えてもよいが、インターンシップのために大学を離れることは3ヶ月を超えることはできない」と規定しています。企業が「日本の大学と協力して、インターンシップしながら、日本の大学に留学する」ことで3ヶ月超のインターンシップができるという案もあります。また、学生がベトナムに帰国した際には、フエ大学外国語大学の履修科目を省略することも検討可能です。”

“就職情報を提供し、卒業生の就職支援環境を整えられればと思います。”

“「大学での教育・訓練内容が、企業の要求と合っているかどうか」企業からコメントを頂ければと思います。フエ大学外国語大学では、カリキュラム変更の会議を頻繁に開催しており、毎年、見直し・調整も行っています。ですので、もしご協力頂けるのであれば、「会議への参加」や「アンケートでの評価」をお願いできれば、と考えています。”

対 教育機関

“外国語の教育手法や言語システムの研究を共同で行いたいと考えており、「互いにチームを構成しカンファレンスを開催」、「講師が外国語ジャーナルに掲載される論文を書ける有利な条件を構築」といった形態ができれば、と思います。”

対 自治体 行政機関

“日本語講師の数が限られているため、より多くのボランティアを紹介頂き、また、ベトナムと日本を行き来するボランティアにとって有利な条件を整備頂ければと思います。また、この地域に日本企業を増やし、学生の雇用が増えれば、と期待しています。”

人材採用について、日本企業等へのアドバイスがありますか？

“人材需要をお持ちであれば、その旨を伝えて頂ければ、学生が応募できるよう大学側から学生への通知が可能です。フエ大学外国語大学は「当大学の教育プログラムについて企業からのフィードバックを得られ、かつ、企業のニーズを把握できれば、その要件に合わせた教育プログラムを構築できる」ため、仲介者を通さずに、企業と直接やり取りをしたいと考えています。”



ダナン大学外国語大学

英語名

UNIVERSITY OF FOREIGN LANGUAGE STUDIES - THE UNIVERSITY OF DA NANG

略称

UFLS-UD

中部

公立

日本語教育あり

地域の特徴

- ダナン市は中央直轄市(ベトナムでは5中央直轄市がある)、中部の経済および教育の中心地である
- 港湾都市であり、陸路・海路・空路含めて交通の重要ハブとなっている
- 観光地としても有名で「ベトナムで最も住みやすい都市」として語られることも多い

統計 (2019年)

ランキング

面積	1,284.9 km ²	59/63
人口	1,141.1 千人	39/63
FDI	515.2 百万 USD	15/63



ダナン大学外国語大学

沿革

- 1985年、ダナン外国語教育大学支部が設立
- 1994年、ダナン大学が設立されると同時に、クアンナム教育短期大学と統合され、ダナン大学傘下として教育大学が設立
- 2002年、教育大学の中の5外国語学部を分離・再編成され、ダナン大学外国語大学が設立

特色

- 地方部で国家外国語プロジェクトを実施している外国語センター5拠点のうちの1つ
- ベトナム中部初の日本語教育機関 (国内で4番目に設立)

特に強みがある専攻

- English Language
- Japanese Language
- Korean Language
- Chinese Language
- Foreign Language Teacher Education



基本情報

所在地	131 Luong Nhu Hoc, Khue Trung Ward, Cam Le District, Da Nang (Da Nang 国際空港から約3 km)				
URL	http://ufl.udn.vn/eng/				
創立年	2002年				
課程 専攻数	<input type="checkbox"/> 中等職業学校	<input type="checkbox"/> 短期大学	<input checked="" type="checkbox"/> 学部	<input checked="" type="checkbox"/> 修士	<input checked="" type="checkbox"/> 博士
	-	-	19*	4	1
学生数	6107				
教員数	212				
日本留学経験のある教員	人数	7			
	例示	Ms. Nguyen Thi Nhu Y (日本語・韓国語・タイ語学部長)			
年間研究予算	30~60億 VND (約1345万~2689万円)				

窓口情報 (国際連携担当の部門)

部署代表番号・メール	(84) 236 3699 340	oric@ufl.udn.vn
担当者 氏名・役職	Ho Le Hoang Ha	部長
担当者 電話番号・メール	(84) 905 540 981	hlhha@ufl.udn.vn
対応可能な言語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他 ()	

学長 略歴

准教授- Dr. Tran Huu Phuc
1971年生まれ
専攻分野: 応用言語学
2014年-現在: 学長 ダナン大学外国語大学
2013年: 博士 University of the West of England - イギリス
学部 ダナン外国語教育大学



* 専攻リスト頁で紹介している学部数と一致していないが、これは「いくつかの学部は複数履修が可能」、「学生数が少なく廃止が決まっている」、「学部の中に複数専攻があり、数え方が異なる」等の事情による



ダナン大学外国語大学

英語名

UNIVERSITY OF FOREIGN LANGUAGE STUDIES -
THE UNIVERSITY OF DA NANG

略称

UFLS-UD

中部

公立

日本語教育あり

A - 教育体制			
1. 教育状況の概要			
教育方針(配分)	応用及び研究大学（人材育成の大学） 訓練時間の配分：N/A		
インターンシップ	任意	海外でのインターンシップ	
	必修	8週間のインターンシップ	
卒業生の状況	“日本語学部の卒業生については、約2%が進学し、15%が日本で就業し、83%が在ベトナムの日本企業で就業しています。” - Ms. Ho Le Ngoc Ha (国際協力部長)		
2. 外国語教育			
概要			
外国語の授業	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他（中国語、フランス語、韓国語、タイ語、ロシア語）		
必須の外国語科目	英語、日本語、中国語、フランス語、韓国語、タイ語、ロシア語（専攻によって異なる）		
最も学習されている外国語（英語を除く）	日本、中国語、韓国語		
英語の卒業要件	英語専攻	C1	英語専攻以外 B1 English A2 others
日本語の教育			
授業種別	卒業要件	卒業生の能力	学生数/年
<input checked="" type="checkbox"/> 日本語学科・学部	N2	N2~N1	75
<input checked="" type="checkbox"/> 単位認定授業	N4	N4~N3	100
<input checked="" type="checkbox"/> 単位が出ない授業	-	N4~N3	150
指導教員の数/能力	ベトナム人 12	N1	日本人 2 -

B - 国際連携・協力等の実績		
概要		
連携・協力等パートナーの国籍	日本、韓国、中国、台湾、タイ、フランス、ラオス、マレーシア、イギリス、ニュージーランド、ロシア	
パートナーが最も多い国籍	台湾	
日本パートナーとの連携・協力等		
連携・協力等確立方法	第三者からの紹介、相手側からのコンタクト、大学上層部のネットワーク	
パートナーの数	15	
連携・協力等形態	<input checked="" type="checkbox"/> 企業	インターンシップ、採用
	<input checked="" type="checkbox"/> 教育機関	学生交換、短期トレーニングプログラムの実施、カンファレンス・セミナー・フォーラムへの招待、文化交流プログラムの実施、学術交流プログラムの実施、日本の高等教育機関で勉強するための学生・講師への奨学金、ダナン市における日本語スピーチコンテストの実施、日本語教育インターンシップとしてのパートナー側に所属する学生の受入
	<input checked="" type="checkbox"/> その他（行政機関、自治体）	行政機関 日本語教育書籍の寄贈、日本語教育支援のための専門家の派遣、日本語テストの実施 自治体 日本での文化交流プログラムに学生・講師が参加

C - 就職支援活動	
ジョブフェア開催	7月（全学生対象） 11月（日本語学部の学生が対象）
その他の活動	大学ウェブサイト上での求職情報の更新、キャリア相談会およびガイダンスプログラムの開催、パートナーとインターンシップ・採用を実施



ダナン大学外国語大学

英語名	UNIVERSITY OF FOREIGN LANGUAGE STUDIES - THE UNIVERSITY OF DA NANG
略称	UFLS-UD

中部
公立
日本語教育あり

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
教育	English Pedagogy	○	○	
	French Pedagogy	○		
	Chinese Pedagogy	○		
外国語	English Language	○	○	○
	Russian Language	○		
	French Language	○	○	
	Chinese Language	○		
	Japanese Language	○		
	Korean Language	○		
	Thai Language	○		
	International Studies	○		
	Oriental Studies	○		
	Vietnamese as a Foreign Language	○		
	Comparative Linguistics		○	

特に強みのある学部・専攻は何ですか？

“それぞれの専攻に独自の強みがあるため、どこが強みがあるか一概に言えません。全体像としては、大学への出願率は全ての専攻で長年、100%を超えており、ダナン大学外国語大学の全専攻において、その教育・訓練は非常に高い評価を得ています。

入学者に関して、英語、韓国語、日本語、中国語は、他大学と比較し、入学者数が多く、入学に必要なスコアも高いです。入学するのが最も難しいのが英語教育学となります。

東洋学、フランス語、国際学、ロシア語の専攻は、企業あるいはその他の組織との連携が多く、トレーニングに強みを持っており、学生のスキルが特に向上しています。”

- Dr. Huynh Ngoc Mai Kha (副学長)



外国語演習室



日本文化ルーム



ダナン大学外国語大学

英語名

UNIVERSITY OF FOREIGN LANGUAGE STUDIES -
THE UNIVERSITY OF DA NANG

略称

UFLS-UD

中部

公立

日本語教育あり

連携等事例

教育機関と連携

連携先・協力先 一橋大学

時期 2018年

専攻 日本語

内容 両大学の学士・修士課程の学生間で学術交流プログラムの実施



学術交流プログラム

企業と連携

連携先・協力先 勝浦ホテル三日月

時期 2017年

専攻 日本語-観光

内容 勝浦ホテル三日月社がダナン市で運営するリゾート施設5拠点での学生のインターンシップ受入および卒業生の採用

写真なし

企業と連携

連携先・協力先 ヒューマンレスト

時期 2015年

専攻 日本語-IT

内容

- 在ダナン市のヒューマンレスト社のベトナム法人および日本放射でのインターンシップ採用
- ベトナム法人および日本法人での採用

写真なし



ダナン大学外国語大学

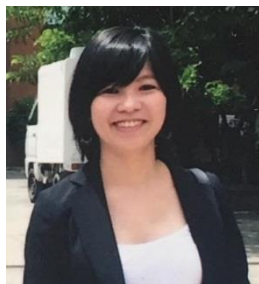
英語名	UNIVERSITY OF FOREIGN LANGUAGE STUDIES - THE UNIVERSITY OF DA NANG
略称	UFLS-UD

中部
公立
日本語教育あり

大学関係者へのインタビュー



Dr. Huynh Ngoc Mai Kha
(副学長)



Dr. Nguyen Thi Nhu Y
(日本語・韓国語・タイ語学部長)

「ダナン大学外国語大学は、日本語教育を非常に早い時期からスタートした外国語大学の一つとなります。既存の日本語学士課程に加えて、日本語教育学およびより高いレベルの日本語教育を開設するといった方針を立てています。」

人材採用について、日本企業等へのアドバイスがありますか？

“企業が学生に直接働きかけ、学生の在学中に、事業内容・採用ニーズ・要件等を紹介することが一番の近道であり、最も効果的な方法だと思います。ダナン大学外国語大学は、毎年、日本語学部の学生のみを対象としたジョブフェアを開催していますので、企業と学生間だけでなく、学生同士交流機会にもなっています。”

貴学が目指している今後の方向性を教えてください。

“ダナン市では観光業が重要産業と位置付けられています。ダナン大学外国語大学の教育・研修戦略は、外国語教育を通じ、ダナン市および中北部地域の社会経済発展に貢献することに重点を置いています。当大学の調査によれば、多くの卒業生が観光業界で良い条件の仕事に就いています。大学としては、基本的に社会ニーズを満たせるよう教育プログラムを更新し続けています。”

日本企業等との連携に、どのような内容を期待しますか？

対 企業

“教育訓練省は、企業のニーズに合わせた教育・訓練プログラムを推進していく方針を掲げています。そのため、ダナン大学外国語大学としては、企業からのアドバイス・コメントに基づいてより良い教育・訓練プログラムを構築することで、人材需要の高い大企業との関係構築や、企業のニーズに応じたトレーニングができることを期待しています。”

対 教育機関

“有名大学との二国間協力により、教育方法の知見交換、学術交流プログラムへの講師参加の機会の創出、研修教材・カリキュラムの作成等を希望しています。日本の先生方と協力して、短期コース、研究プログラム、研修プログラムを作成し、社会経済の発展に貢献したいと考えています。”

“科学研究プロジェクトを受け、日本の大学と連携を通じて、ダナン大学外国語大学の講師陣の研究能力を強化し、研究論文を共に出版できれば、と考えています。”

対 自治体 行政機関

“現在の連携は、主にダナン市の観光、産業、貿易の分野で行われています。ダナン大学外国語大学は、貿易促進のためにダナン市を訪問される方々を歓迎しており、その訪問の際、是非、当大学を訪問してもらい、ダナン大学外国語大学の人材紹介、協力促進、大学の開発・発展のために当大学のサポートをお願いできれば、と考えています。”

“ダナン大学外国語大学が、学生のための教育プログラムの開発に必要なリソースの要件を満たすことができるよう、専門家のサポートを得たいと考えています。”

“日本企業を紹介頂ける団体・活動がもっと増えることを期待しています。”

連携を期待する分野・専攻

“観光、IT、ジャーナリズム、メディアといった分野に対して、ダナン大学外国語大学の日本語学部の学生を供給したいと考えています。”

ベトナム政府や関連当局との関係はどうか？

“日本語学部は、ダナン市の内務局、友好団体連合会、地方政府、投資促進機関の支援を受けているため、ダナン市を訪れる国際機関やビジネス団体ともコンタクトできるようになっています。また、ダナンに日本の領事事務所が開設されましたが、ダナン大学外国語大学と日本の企業等とをつないでくれることを期待しています。”

地域の特徴

- ダナン市は中央直轄市(ベトナムでは5中央直轄市がある)、中部の経済および教育の中心地である
- 港湾都市であり、陸路・海路・空路含めて交通の重要ハブとなっている
- 観光地としても有名で「ベトナムで最も住みやすい都市」として語られることも多い

統計 (2019年)

ランキング

面積	1,284.9 km ²	59/63
人口	1,141.1 千人	39/63
FDI	515.2 百万 USD	15/63



ドンア(東亜)大学

沿革

- Dr. Nguyen Thi Anh Dao氏は、2002年、日本を筆頭に東アジアに向けた高度人材を育成し、東アジア全土に貢献する大学になることを目標として、東アジアを意味するドン・ア(東亜)という名称で本大学を創立した。大学のシンボルとして桜の花びらを採用している

特色

- ダナン市の私立大学の中で大学規模Top3に入る私立大学
- 現在、ダナン市(メインキャンパス)、ザライ省、ダクラク省の3キャンパスがある

特に強みがある専攻

- Nursing
- Hospitality Management
- Automotive Engineering
- Information Technology
- Japanese Language



基本情報

所在地	33 Xo Viet Nghe Tinh, Hoa Cuong Nam Ward, Hai Chau district, Da Nang (Da Nang 国際空港から約5 km)				
URL	https://donga.edu.vn/				
創立年	2002年				
課程 専攻数	<input type="checkbox"/> 中等職業学校	<input type="checkbox"/> 短期大学	<input checked="" type="checkbox"/> 学部	<input checked="" type="checkbox"/> 修士	<input type="checkbox"/> 博士
	-	-	28	5	-
学生数	9,000				
教員数	660				
日本留学経験のある教員	人数	9			
	例	Dr. Ngo Quang Vinh (一橋大学卒業) 教育学部・言語学部担当副学長 兼 日本語文化学部長			
年間研究予算	20~30億 VND (約897万円~1345万円)				

窓口情報 (国際連携担当の部門)

部署代表番号・メール	02363532014	
担当者 氏名・役職	Mr. Luong Minh Sam	理事長 (兼大学副学長)
担当者 電話番号・メール	(84) 913 405 919	samlm@donga.edu.vn
対応可能な言語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他 ()	

学長 略歴

Dr. Nguyen Thi Anh Dao
1958年生まれ
専攻分野：教育管理
2018年-2019年：理事長兼学長 ドンア大学
2008年-2012年：博士課程修了 ハノイ国立大学
2002年-2018年：会長兼副学長 ドンア大学
1993年-2002年：会長兼社長 Minh Anh Food株式会社
1981年-1984年：教授 フエ大学理学部



A - 教育体制

1. 教育状況の概要

教育方針(配分)	重点分野: 実用(人材育成) 訓練時間の配分: 実践50%-理論50% (専攻によって異なる)		
インターンシップ	任意	国内: 4~6カ月、国際 6~12カ月	
	必修	2年目、3年目、4年目に3回のインターンシップ	
卒業生の状況	<p>“多くの卒業生が日本で働いています。過去数年間、全体のうち日本で就職した卒業生の割合は、看護学生の約80%、自動車工学生学生の約70%、ホスピタリティマネジメント学生の約30-40%、他の専攻の学生は約30~50%です。本年はもっと多くの学生が日本で就職すると予想しており、例えば、ホスピタリティマネジメントの学生の約50%が日本で就職すると思います。”</p> <p style="text-align: right;">- Mr. Luong Minh Sam (理事長兼副学長)</p>		

2. 外国語教育

概要			
外国語の授業	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他(中国語, 韓国語)		
必須の外国語科目	英語		
最も学習されている外国語(英語を除く)	日本語		
英語の卒業要件	英語専攻	IELTS 6.5	英語専攻以外 TOEIC 500

日本語の教育

授業種別	卒業要件	卒業生の能力		学生数/年
<input checked="" type="checkbox"/> 日本語学科・学部	N2	N/A		150-200
<input checked="" type="checkbox"/> 単位認定授業	N5-N4	N5-N4		600-700
<input type="checkbox"/> 単位が出ない授業	-	-		-
指導教員の数/能力	ベトナム人 9	N2-N1	日本人 1	-

B - 国際連携・協力等の実績

概要		
連携・協力等パートナーの国籍	ドイツ、日本、韓国、シンガポール、イギリス、アメリカ	
パートナーが最も多い国籍	日本	
日本パートナーとの連携・協力等		
連携・協力等確立方法	相手側からのコンタクト、大学上層部のネットワーク	
パートナーの数	72	
連携・協力等形態	<input checked="" type="checkbox"/> 企業	施設への投資、インターンシップ、ジャパン・ジョブフェアの開催、日本に滞在する学生への支援、採用、奨学金、エキスパートの派遣、トレーニングプログラムの企画/協力
	<input checked="" type="checkbox"/> 教育機関	交換プログラム、大学間での協働プログラム、トレーニングプログラムの企画/協力、大学院への進学、奨学金
	<input checked="" type="checkbox"/> その他(自治体, 行政機関, 協会)	自治体: 文化交流、インターンシップ、日本留学フェアの開催、トレーニングプログラムの企画/協力、日本に滞在する学生への支援、採用、特定技能ビザ申請の支援 行政機関: 日本語試験の開催、エキスパートの派遣、教材の寄付 協会: インターンシップ; 採用; 特定技能ビザ申請の支援

C - 就職支援活動

ジョブフェア開催	3月, 7月, 9月, 12月
その他の活動	パートナーとインターンシップおよび採用契約の締結

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
ビジネス	Accounting	○		
	Auditing	○		
	Banking and Finance	○		
	Business Administration	○	○	
	Business Law	○	○	
	Human Resources Management	○		
	Marketing	○		
	Office Administration	○		
エンジニアリング・テクノロジー	Artificial Intelligence and Computer Science	○		
	Automation	○		
	Automotive Engineering	○		
	Construction Engineering	○		
	Electronic Engineering	○		
	Food Technology	○	○	
	Information Technology	○		
言語・教育	Education (Preschool, Primary, Psychology)	○		
	Chinese	○		
	English	○		
	Japanese	○		
	Korean	○		

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
医学・薬学	General Nursing	○		
	Nutrition	○		
	Obstetrics and gynecology nursing	○		
	Pharmacy	○		
観光	Hospitality Management	○		
	Travel and Tourism Management	○	○	
その他	Agriculture	○		
	Land Management		○	
	Psychology	○		

特に強みのある学部・専攻は何ですか？

“ドンア大学の特に強い専攻は、看護、ホスピタリティマネジメント、自動車工学、情報技術、日本語になります。これらの専攻は特に、日本市場にターゲットしています。

ドンア大学はこれらの専攻に限らず「農業、オートメーション、自動車工学、経営学、建設エンジニアリング、電子工学、ホスピタリティ管理、情報技術、日本語、中国語、英語、看護、栄養、保育」等、様々な分野での連携を期待しています。”

- Mr. Luong Minh Sam (理事長兼副学長)

“日本語教育に関しては、ドンア大学では様々な専攻の数千人の学生が日本語を勉強しており、JLPT N4-N3を取得しています。また、日本で1年間インターンシップを経験した学生のうち、約10～20%がN2にも合格しています。憚りながら、日本語教育においては、ドンア大学より優れた大学はないと自負しています。2020年6月には日本語学部を設立し、日本語のトレーニングをより深化させ、同学部では、他の外国語専門大学よりも多い、年間150人が教育を受けています。”

- Dr. Ngo Quang Vinh (教育学部・言語学部担当副学長 兼 日本語文化学部長)



看護学科の実習室



看護学科の実習室



電気工学の実習室



情報技術実習室



バーテンダー実習室



観光学科の実習室

連携等事例

自治体と連携

連携先・協力先	横浜市の健康福祉局
時期	2018年 - 現在
専攻	看護
内容	<ul style="list-style-type: none"> 看護専攻の学生を対象にして年間50名の規模で、日本での9か月のインターンシップを実施する インターンシップ受け入れ先は、横浜市福祉事業経営者会に所属している会員である99の社会福祉法人が管轄している老人福祉施設となる



調印式

企業と連携

連携先・協力先	セブン-イレブン
時期	2018年-現在
専攻	経営管理
内容	<ul style="list-style-type: none"> コンビニエンスストアでのインターンシップ 工場見学 販売組織、経費管理、事業利益、製品注文等、店舗経営に関する基礎知識を学ぶ



インターンシップに参加する学生

企業と連携

連携先・協力先	愛仁会グループ
時期	2019年 - 現在
専攻	看護
内容	<ul style="list-style-type: none"> 愛仁会は同大学内に250㎡の面積でスキルラボを設立 同ラボは、リハビリテーション、高齢者介護、感染管理の実習ゾーンに区分されており、41台の機器が設置され、うち25台は日本から搬送されている 日本の看護スキルクラスを開講し、1セッションあたり学生30名、計60名が参加し、講師として愛仁会側から6名の専門家が派遣される ドンア大学の学生は、愛仁会の管轄する日本での病院で看護補助者として1年間のインターンシップに参加 奨学金、宿泊施設、生活費、日本語と日本文化に関する知識を向上するためのプログラムを行う



スキルラボ内での看護スキルクラス

英語名	DONG A UNIVERSITY
略称	UDA

中部
私立
日本語教育あり

大学関係者へのインタビュー



Mr. Luong Minh Sam
(理事長兼副学長)



Dr. Ngo Quang Vinh
(教育学部・言語学部担当副学長 兼 日本言語文化学部長)

「ドンア大学は、日本企業からの要求レベルを満たす高度人材の育成に努めています。これまで多くの日本パートナーとの間で長期的な関係性を構築できている点を、ドンア大学の最大の成功と考えています。ベトナムの中部高原地域出身の学生がドンア大学を選ぶ理由は、卒業後に日本で働くことができるためです。」

日本企業に対して、人材採用についてのアドバイスがありますか？

“日本企業が、大学に対して単に採用希望のみ要求する場合、低スキルの人材しか採用できません。ドンア大学は低スキルの労働者を送り出すつもりはありません。当大学は、高スキル人材を育成したいと考えています。

施設への投資、トレーニングカリキュラムの設計、専門家の派遣、インターンシップ、採用契約等を含む、トレーニングから採用までのプロセス全体について、大学との間で、永続的かつ包括的な連携プランを検討・構築する必要があります。そのようなプランがあれば、卒業生の熟練度が向上し、日本企業の要件を満たすことができると思います。”

貴学が目指している今後の方向性を教えてください。

“第4次産業革命に対応したトレーニングプログラムを設計・革新したいと考えています。E-university、スマート大学へと変えていきたいと思っています。加えて、多くの学生の日本での就業を実現させた当大学の経験に基づいて、「卒業後、高報酬の仕事を得るためには、言語だけでなく、ホテルマネジメント、セールス、マーケティング等、専門性を身に付けることも非常に重要である」と考えており、学際的なトレーニングを重視します。国際協力も、長期的な発展を実現するための、コア戦略の1つとして位置付けています。”

日本企業等との連携に、どのような内容を期待しますか？

対 企業

“より多くのジョブフェアを開催するために連携したい。”

“施設への投資、トレーニングカリキュラムの設計、専門家の派遣、インターンシップ、採用契約等を含む、トレーニングから採用までのプロセス全体を含んだ包括的な連携を実施したい。”

対 大学

“看護、オートメーション、情報技術、電子工学、幼児教育等の専攻の教育・訓練に関する連携がしたい。ベトナム人は、日本の幼児教育(保育園教育)への関心が非常に高いです。”

対 自治体

“日本に滞在しているベトナム人学生に対する日本人との文化交流プログラムで協力したい。また、宿泊施設や健康に問題がある場合等のベトナム人学生支援等の活動を希望したい。”

“ビザ申請手続きのサポートが受けられれば、より良い。”

対 協会

“ホテル協会、レストラン協会、看護協会等、より多くの日本の協会・業界団体と協力し、特定技能ビザ申請やトレーニング等について連携がしたい。”

“日本でインターンシップや就職をした学生は、将来的にベトナムへ帰国します。日本語が可能な人材であり、協会がドンア大学と連携して、仕事の紹介・提供をしてくれることを期待します。”

対 行政機関

“日本の企業、地方自治体、協会の紹介、マッチングのサポートを期待します。”

“日本に渡航する学生に対して、カルチャーショックを緩衝するため、学生向けに日本を紹介する日越文化交流デー等の祭りの開催で連携したい。”

“ベトナム人学生だけでなく、ドンア大学で勉強している留学生のためにも、特定技能ビザの試験をベトナム国内(可能であればドンア大学内)で実施できるように協力したい。各所に提案していますが、コロナ感染拡大の影響もあり、プロセスが遅れています。現時点では、学生が日本に行って、特定技能ビザの申請をする必要があります。”

“J-Test、BJT等、日本語試験をドンア大学で開催したい。”

“ドンア大学を訪問したり、セミナーに招待して頂ければと思います。日本のパートナーとより良い連携ができるように、政府の体制・活動をもっと理解したいと考えています。”

“公立大学と私立大学とを公正に評価してもらいたいです。例えば、ある日本の大企業との連携でみると、ベトナムでは当初、公立4校、私立2校の計6大学との連携を開始しましたが、現在まで連携を続けているのは私立大学2校のみです。ベトナム政府からの支援が少ない、ドンア大学のような私立大学でも、日本との連携を成功させている事例も多いため、ドンア大学へも関心を持っていただければと思います。”



クイニン大学

英語名 QUY NHON UNIVERSITY

略称 QNU

中部

公立

日本語教育あり

地域の特徴

- ビンディン省は、南中部地域に位置しており、家具製造業で有名となる
- 省都はクイニン市であり、ダナン市、ニャチャン市に次ぐ、地域で3番目の規模の産業都市となる

統計 (2019年)

ランキング

面積	6066.2 km ²	22/63
人口	1487.8 千人	20/63
FDI	96.6 百万 USD	36/63



クイニン大学

沿革

- 1977年、ベトナム統一から2年後の年にクイニン教育大学が設立
- 2003年、クイニン大学に改称され、同時に学際大学へと変更

特色

南中部沿岸・中部高原地域を代表する学際的な公立大学となる

特に強みがある専攻

- Chemistry Pedagogy
- Mathematics Pedagogy
- Business Administration
- Accounting



基本情報

所在地	170 An Duong Vuong, Quy Nhon City, Binh Dinh (Phu Cat 国際空港から約35 km)				
URL	http://www.qnu.edu.vn/				
創立年	1977年				
課程 専攻数	<input type="checkbox"/> 中等職業学校	<input type="checkbox"/> 短期大学	<input checked="" type="checkbox"/> 学部	<input checked="" type="checkbox"/> 修士	<input checked="" type="checkbox"/> 博士
	-	-	46	22	3
学生数	15,000				
教員数	523				
日本留学経験のある教員	人数	3			
	例示	Mr. Tran Minh Chuong (英語専攻の講師)			
年間研究予算	140億 VND (約6,278万円)				

窓口情報 (国際連携担当の部門)

部署代表番号・メール	(84) 25 63844156	international@qnu.edu.vn
担当者 氏名・役職	Dr. Nguyen Van Thang	課長
担当者 電話番号・メール	(84) 978 910 088	nguyenvanthang@qnu.edu.vn
対応可能な言語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他 ()	

学長 略歴

准教授- Dr. Do Ngoc My
 1963年生まれ
 専攻分野: 経営科学
 2017年-現在: 学長 クイニン大学
 2002年: 博士 University of Nantes - フランス
 1997年: 修士 University of Nantes - フランス
 1986年: 学部 ダナン科学技術大学





クイコン大学

英語名 QUY NHON UNIVERSITY

略称 QNU

中部

公立

日本語教育あり

A - 教育体制

1. 教育状況の概要

教育方針(配分)	重点分野: 実用 (人材育成) 訓練時間の配分: 実践30%-理論70% (専攻によって異なる)	
インターンシップ	任意	日本でインターンシッププログラム
	必修	2年目、3年目、4年目に、3回インターンシップ
卒業生の状況	“学生の約10%がベトナムで修士・博士課程へ進学、約30%が在ベトナムの日本企業に就職していると推定しています。2020年の卒業生の就職率は90%となります。” - Mr. Nguyen Van Thang (国際協力課課長)	

2. 外国語教育

概要	
外国語の授業	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (中国語, フランス語)
必須の外国語科目	英語
最も学習されている外国語 (英語を除く)	中国語
英語の卒業要件	英語専攻 C1 英語専攻以外 B1

日本語の教育

授業種別	卒業要件	卒業生の能力	学生数/年
<input checked="" type="checkbox"/> 日本語学科・学部	N4	N4	50
<input type="checkbox"/> 単位認定授業	-	-	-
<input checked="" type="checkbox"/> 単位が出ない授業	-	N5~N3	200
指導教員の数/能力	ベトナム人 3	N3-N1 日本人 0	-

B - 国際連携・協力等の実績

概要		
連携・協力等パートナーの国籍	ベルギー、フランス、イタリア、日本、韓国、ドイツ、ラオス、オランダ、ポルトガル、台湾、タイ	
パートナーが最も多い国籍	ベルギー、フランス	
日本パートナーとの連携・協力等		
連携・協力等確立方法	相手側からのコンタクト、大学側からコンタクト、第三者からの紹介、大学上層部のネットワーク	
パートナーの数	11	
連携・協力等形態	<input checked="" type="checkbox"/> 企業	インターンシップ、採用契約
	<input checked="" type="checkbox"/> 教育機関	文化交流、研究、日本留学のための奨学金
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (自治体, 行政機関)	自治体: 日本語教育支援のための専門家の派遣 行政機関: 文化交流、日本語テストの実施、日本語教育支援のための専門家の派遣、書籍等の寄贈、日本語センター設立のための支援

C - 就職支援活動

ジョブフェア開催	5月
その他の活動	パートナーとのインターンシップおよび採用契約、講師・学部・就職支援部署による職業紹介、個別企業のための人材募集の実施、大学ウェブサイト上での求職情報の更新



クイニン大学

英語名 QUY NHON UNIVERSITY

略称 QNU

中部

公立

日本語教育あり

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
経済・経営	Accounting	○	○	
	Auditing	○		
	Business Administration	○	○	
	Finance - Banking	○		
	Economic Management		○	
	Economics	○		
教育	Political education	○		
	Preschool education	○		
	Physical education	○		
	Primary education	○		
	Education Management	○	○	
	Geography Pedagogy	○		
	Chemistry Pedagogy	○		
	History Pedagogy	○		
	Literature Pedagogy	○		
	Biology Pedagogy	○		
	English Pedagogy	○		
	English Subject Teaching Theory & Methodology		○	
	Informatics Pedagogy	○		
	Mathematics Pedagogy	○		
	Physics Pedagogy	○		

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
エンジニアリング・テクノロジー	Food Technology	○		
	Applied Chemistry	○		
	Applied Data Science		○	
	Applied Biology	○		
	Applied Mathematics (Data Science)	○	○	
	Materials Science	○		
	Control Engineering and Automation	○		
	Chemical Engineering Technology	○		
	Information Technology	○		
	Construction Engineering	○		
外国語	Software Technology	○		
	Electronic Engineering - Telecommunications	○	○	
	Electrical Engineering	○	○	
	English Language	○	○	
ホスピタリティ	Oriental Studies (Japanese, Chinese)	○		
	Language Studies		○	
	Chinese Language	○		
	Travel and Tourism Service Management	○		
ホスピタリティ	Vietnam Study (Tourism Culture)	○		
	Hotel Management	○		



クイコン大学

英語名 QUY NHON UNIVERSITY

略称 QNU

中部

公立

日本語教育あり

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
その他	Psychology	○		
	Natural Geography		○	
	Theoretical Chemistry & Physical Chemistry		○	○
	Inorganic Chemistry		○	
	Vietnam history		○	
	Experimental Biology		○	
	Literature (Journalism)	○		
	Vietnam Literature		○	
	Algebra and Number Theory		○	○
	Primary Mathematics Methodology		○	
	Calculus		○	○
	Solid Physics		○	
	State Management	○		
	Land Management	○		
	Agriculture Studies	○		
	Politics		○	
	Community Service	○		
	Statistics (Industry Statistics)	○		
Law	○			
Natural Resources & Environment Management	○			

特に強みのある学部・専攻は何ですか？

“化学教育学および数学教育学は、ベトナムや海外の名門大学出身の講師陣を擁しており、科学研究プロジェクト、国際的な出版を多数行っており、教育プログラムが充実しています。

経営学は、志望学生が多く、高度で経験豊富な講師チームを抱えています。

会計学は、ベトナム国内やフランス、ドイツ、アメリカ、オーストラリア、タイ、台湾等、海外の主要大学で教育を受けた、若く、ダイナミックな講師がいます。現在、准教授1人、博士号取得者8人、博士論文執筆中の学生20人、修士号課程の21名の計50名の講師が在籍しています。

会計学は18年間運営されており、これまで学部では14コース、修士では7コース、14の短期コースを用意し教育してきました。会計学の卒業生の就職率は85%超であり、多くの学生が企業や銀行の重要な管理職(チーフ・アカウント、ファイナンシャル・ディレクター、ディレクター)に就いています。会計学の学生の科学研究プロジェクト数は大学でもトップクラスであり、多くのプロジェクトが大学レベルの賞、省レベルの賞を受賞しており、専門誌や学会誌でも論文を発表しています。”

- Mr. Nguyen Van Thang (国際協力課課長)



クイノン大学

英語名 QUY NHON UNIVERSITY

略称 QNU

中部

公立

日本語教育あり

連携等事例

企業と協力等

- 連携先・協力先 J Test事務局
- 時期 2020年
- 専攻 東洋学 (日本語)
- 内容
- クイノン大学にて日本語テストを開催 (ベトナム側が、場所・施設を提供)
 - 大学ホームページ、メディア、SNS、掲示板、チラシ等を通じて、J.TESTに関する情報を大学生、日本語トレーニング機関、および日本語学習者に周知



調印式

企業と連携

- 連携先・協力先 Daiwa Resort
- 時期 2019年
- 専攻 ホテル経営、東洋学 (日本語)
- 内容
- 2020年4月、大和リゾートが日本で運営するホテルで6ヶ月間のインターンシップを企画し、ホテル経営および東洋学専攻の学生をインタビューした

写真なし

自治体と連携

- 連携先・協力先 大阪府泉佐野市
- 時期 2019年
- 専攻 日本語教育
- 内容
- 日本側は、ビンディン省の部局に専門家1人を派遣し、大学で日本語を教える
 - 日本語研修、観光・旅行サービス管理、ホテル経営、データサイエンス、情報技術等の分野で、クイノン大学の卒業生を日本側で受け入れることを検討



泉佐野市代表团による訪問



クイニョン大学

英語名	QUY NHON UNIVERSITY
略称	QNU

中部
公立
日本語教育あり

大学関係者へのインタビュー



Dr. Do Ngoc My
(学長)

「クイニョン大学が所在しているビンディン省は労働市場の観点から日本を主要パートナーとして位置付けており、投資誘致や文化交流に力を入れていますので、大学もまた日本との協力を拡大する方針があります。
日本との協力を戦略的指針として定めていますので、在ベトナム日本大使館の大使にも出席して頂き、2017年に日本語・日本文化センター(Japan Center)も開設しました。」

貴学が取り組んでいる研究活動について教えてください。

“科学研究はクイニョン大学の強みの1つとなります。以前は基礎科学に重点を置いていましたが、現在は応用科学へとシフトしています。クイニョン大学は強力な研究チームを組織しており、Vingroup等の大企業が投資しました。

クイニョン大学の数学科は、ビッグデータやデータサイエンスに強みを持っており、産業・農業等の全分野で全国的なデジタル化の動きに貢献したいと考えています。
クイニョン大学では「洪水予測システムの構築」、「有害な化学物質を使用しない果物の保存」、「サプライチェーンプロジェクト」等、省が抱える課題解決にも貢献しています。
2017-18年度、国家重点研究プロジェクト2件、NAFOSTED(国立科学技術開発財団)研究プロジェクト18件、省庁および省レベルの研究プロジェクト26件、大学レベルの研究プロジェクト108件を実施しています。また国内外の学術誌に掲載された科学論文は446本、SCI、SCIE、SSCI、A&HCI、ESCIの学術誌に掲載された科学論文は56本になります。

加えて、国内および国際レベルで学術会議を9件開催しています。学生の科学研究活動も目覚ましい成果を上げ、学生の科学研究トピックは99件となり、うち5件が賞を受賞しました。”

日本企業等との連携に、どのような内容を期待しますか？

対 企業

“様々な専攻の学生向けに、6か月～1年のインターンシッププログラムをもっと増やせればと考えています。”
“クイニョン大学は研究分野に非常に強く、多くの講師は海外でも教育を受けているため英語能力は高いです。社会科学、情報技術、アプリケーション開発といった研究で連携できる、と考えています。”

対 教育機関

“日本の教授によるオンライン高度人材育成プログラムを実施できればと考えています。また、研究プロジェクトや学生交換、セミナー・カンファレンスの開催等も連携を希望します。”

対 自治体 行政機関

“日本文化を紹介する文化交流フェスティバルやその他のイベントの開催を支援頂ければと思います。”

連携を期待する分野・専攻

“インダストリー4.0に関連する分野(情報技術、データサイエンス、ビッグデータ等)、また、観光、ホテル、レストラン管理、ハイテク農業等の分野・専攻で特に連携を希望します。”

人材採用について、日本企業等へのアドバイスがありますか？

“日本企業は、1年目、2年目、または3年目といった早期から支援をスタートすべきと感じます。そうすれば、学生の日本語学習意欲が高まり、4年次・5年次で優れた人材として採用できます。また、企業は「学生の企業に対する信頼性を高められる」よう、給与や生活条件等の雇用機会に関する情報を学生にしっかりと伝える必要があります。”

日本企業等との連携について、課題を教えてください。

“過去も現在もほとんどの学生が英語の勉強に専念しており、日本語を勉強する学生はごくわずかです。現在、日本企業は日本語ができる人材を求めています。地方部の学生は日本語を学ぶことを躊躇する傾向があります。日本語人材の需要に応えるため、クイニョン大学は「今後2、3年間で毎年3,000人の日本語を学ぶ学生を訓練する」ことを目標として定め、日本語教育への関心は強いですが、現在の課題は「学生にどうやって日本語を勉強したいと思わせるか」です。”



クアンチュン大学

英語名 QUANG TRUNG UNIVERSITY

略称 QTU

中部

私立

日本語教育なし

地域の特徴

- ビンディン省は、南中部地域に位置しており、家具製造業で有名となる
- 省都はクイユン市であり、ダナン市、ニャチャン市に次ぐ、地域で3番目の規模の産業都市となる

統計 (2019年)

ランキング

面積	6066.2 km ²	22/63
人口	1487.8 千人	20/63
FDI	96.6 百万 USD	36/63



クアンチュン大学

沿革

- 2006年、私立大学として設立
- 大学の名称・ロゴは、ビンディン出身の国民的英雄であるクアンチュン(阮恵)皇帝から由来
- 2014年、Hoan Cau Groupが経営権を取得

特色

- クイユン市にキャンパスを2つ構えている

特に強みがある専攻

- Construction Engineering Technology
- Finance – Banking
- Accounting
- Information Technology
- Business Administration



基本情報

所在地	317 Dao Tan, Nhon Phu Ward, Quy Nhon City, Binh Dinh (Phu Cat 国際空港から約23 km)				
URL	http://qtu.edu.vn/				
創立年	2006				
課程 専攻数	<input type="checkbox"/> 中等職業学校	<input type="checkbox"/> 短期大学	<input checked="" type="checkbox"/> 学部	<input type="checkbox"/> 修士	<input type="checkbox"/> 博士
	-	-	13	-	-
学生数	13,500				
教員数	230				
日本留学経験のある教員	人数	2			
	例示	Dr. Tran Thi Viet Ngan (バイオテクノロジー専攻の教授)			
年間研究予算	15億 VND (約673万円)				

窓口情報 (国際連携担当の部門)

部署代表番号・メール	-	phongqlkhdn@qtu.edu.vn
担当者 氏名・役職	Dr. Van Thien Hao	部長
担当者 電話番号・メール	(84) 905 170 411	vthao@qtu.edu.vn
対応可能な言語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (ロシア語)	

学長 略歴

准教授- Dr. Nguyen Dinh Phu
 専攻分野: 応用数学
 2019年-現在: 学長 クアンチュン大学
 1990年: 博士 Leningrad State University – ロシア
 1979年: 学部 Kishinop National University – ロシア





クアンチュン大学

英語名 QUANG TRUNG UNIVERSITY

略称 QTU

中部

私立

日本語教育なし

A - 教育体制

1. 教育状況の概要

教育方針(配分)	重点分野: 実用 (人材育成) 訓練時間の配分: 実践60%-理論40%	
インターンシップ	任意	まだ無い
	必修	専攻によって異なる
卒業生の状況	<p>“2020年の場合、卒業後数か月以内に81.4%が企業に就職しています。残りの学生はより良い仕事を求めて求職・選考中となるため、実際は81.4%を超えていると思います。大学には同窓会があり、学生に仕事を紹介したり等の支援を期待できます。全卒業生の状況については、ほとんどの学生がホーチミン市といった他の省・市で働いているため、データがなく、調査は簡単ではありません。”</p> <p style="text-align: right;">- Dr. Tran Thi Viet Ngan (副学長)</p>	

2. 外国語教育

概要			
外国語の授業	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他 ()		
必須の外国語科目	英語		
最も学習されている外国語 (英語を除く)	-		
英語の卒業要件	英語専攻	IELTS 7.0	英語専攻以外 IELTS 4.5

日本語の教育

授業種別	卒業要件	卒業生の能力	学生数/年
<input type="checkbox"/> 日本語学科・学部	-	-	-
<input type="checkbox"/> 単位認定授業	-	-	-
<input type="checkbox"/> 単位が出ない授業	-	-	-
指導教員の数/能力	ベトナム人 -	日本人 -	-

B - 国際連携・協力等の実績

概要	
連携・協力等パートナーの国籍	イギリス、カナダ、日本
パートナーが最も多い国籍	日本
日本パートナーとの連携・協力等	
連携・協力等確立方法	相手側からのコンタクト; 大学上層部のネットワーク
パートナーの数	4
<input checked="" type="checkbox"/> Corporation	日本における採用、日本語テストの実施
連携・協力等形態 <input checked="" type="checkbox"/> 教育機関	トレーニングプログラムの開発、生物学分野の修士・研究フェローシップ研修プログラムの研修資料の紹介、講師を日本で研究員として受入、日本で修士号を取得するため学生を受入、研究・技術移転の支援
<input type="checkbox"/> その他	-

C - 就職支援活動

ジョブフェア開催	3月/4月
その他の活動	講師・同窓生による職業紹介、大学ウェブサイト・Facebook上での求職情報の更新; パートナーとの採用契約;



クアンチュン大学

英語名 QUANG TRUNG UNIVERSITY

略称 QTU

中部

私立

日本語教育なし

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		中等職業学校	短期大学	学部
経済・経営	Agricultural Economics			○
	Finance - Banking			○
	Accounting			○
	Business Administration			○
	Economics			○
エンジニアリング・テクノロジー	Biotechnology			○
	Construction Engineering Technology			○
	Information Technology			○
言語	English Language			○
医学	Nursing			○
	Public Health			○
観光	Travel & Tourism Service Administration			○
	Hotel & Restaurant Administration			○

特に強みのある学部・専攻は何ですか？

“建設エンジニアリング技術、情報技術、農業経済学、会計、金融-銀行、経営学が、成功した学生を多く抱えており、強みがある専攻となっています。

建設エンジニアリング技術は、トレーニングおよび科学研究に注力している主要な専攻となり、外国人講師チームによる英語での授業もあります。卒業後、学生がベトナムまたは海外で働くことができるよう、教育のための近代的な機器・設備を設置しています。また、クアンチュン大学はQuang Trung University Consulting-Construction社を抱えており、学生は講師から学びながら、インターンシップに参加したり、パートタイムで働いて収入を得たりすることができます。

情報技術は、クアンチュン大学設立時からある学部の1つです。IT人材に対する市場の需要は非常に高いです。卒業する前でも、すべての学生は企業に雇われているか、大学内での仕事で働いています。クアンチュン大学は、人工知能についてのトレーニングを目的としたIT & AI研究所を設立しました。

農業経済学は、学校再編時に追加された主要専攻の1つです。同専攻は、5,000㎡のビニールハウスエリアを含む、学生が演習できるような近代的な施設を投資しています。また、企業や事業に対して技術を移転するため、クアンチュン技術移転センターを設立しています。

会計の教育プログラムは実践的な内容に構築されており、学生は「模擬会計室」で実際の書類と簿記システム、ベトナムで採用されている率が高い会計ソフトを実際の会計士が企業で働いているのと同じように利用することができます。会計および金融-銀行専攻の学生のためには、実践的なトレーニングをサポートするため、30億VND掛けてシミュレーションルームを整備しました。このシミュレーションルームは、南中部地域で最初の施設となります。

会計、金融-銀行、経営学の専攻の学生は、クアンチュン大学の運営母体であるHoan Cauグループ傘下の企業の採用が優遇されます(Hoan Cauグループは40超の企業を運営)。学生はまた、クアンチュン大学とトレーニング協力協定を結んでいる銀行や企業で働く機会もあります。”

- Dr. Van Thien Hao (国際協力部長)



バイオテクノロジー専攻の演習のためのビニールハウス



クアンチュン大学

英語名

QUANG TRUNG UNIVERSITY

略称

QTU

中部

私立

日本語教育なし

連携等事例

教育機関と協力等

連携先・協力先 京都コンピュータ学院

時期 2019年

専攻 情報技術

内容

- 情報技術専攻のトレーニングプログラムの開発
- 日本で修士号を取得するため学生を受入

写真なし

教育機関と連携

連携先・協力先 筑波大学

時期 N/A

専攻 バイオテクノロジー

内容

- 生物学分野の修士・研究フェローシップ研修プログラムの研修資料の紹介
- 講師を日本で研究員として受入
- 組織培養苗に関する研究
- 組織培養研究室、微生物学研究室の技術移転を支援

写真なし

企業と協力等

連携先・協力先 An Duong Group

時期 2019年

専攻 日本語教育

内容 日本語テスト(JCLT認定試験)の実施

写真なし



クアンチュン大学

英語名	QUANG TRUNG UNIVERSITY
略称	QTU

中部
私立
日本語教育なし

大学関係者へのインタビュー



Dr. Nguyen Dinh Phu
(学長)



Dr. Tran Thi Viet Ngan
(副学長)



Dr. Van Thien Hao
(国際協力部長)

人材採用について、日本企業等へのアドバイスがありますか？

“昨年、ある会社が日本での看護人材を求めて30人の看護卒業生を募集するため、クアンチュン大学を訪問しました。給与や宿泊施設、その他の条件等を明確に説明していましたが、誰も申し込みませんでした。地方の小さな省では、海外で働くことは一般的なことはありません。企業はトレーニング過程で大学と協力し、トレーニングカリキュラムの中に日本でのインターンシップを入れる等、日本の労働環境を体験できるプログラムを通じて日本へ赴く動機付けが必要です。学生はそれに関連した経験を持っていなければ、日本へ行くことを恐れるでしょう。大学でのトレーニングが完了した後に、企業が採用したい場合、もう遅いです。1年目、2年目から協力する必要があります。企業はポテンシャルのある学生に奨学金を与えたりすることも検討すべきです。大学が学生をよりよく訓練できるよう、企業が訓練プログラムの構築段階から支援することで、日本側もより良い人材を採用することができます。”

「ビンディン省は東アジアからの観光客誘致を拡大したい方針を掲げています。クイオン市と韓国間には既に直行便が飛んでおり、近い将来、日本との直行便も計画されています。クイオン市は温暖な気候であり、クアンチュン大学はクイオン市に高齢者向けの介護施設を建設したい日本パートナーを探しています。」

日本企業等との連携に、どのような内容を期待しますか？

対 企業

“学生のインターンシップへの受け入れ”
 “トレーニングへの協力：日本語教師の派遣、IT・看護分野の実習室設備の提供、提供企業への就職を条件とした日本への留学を希望する2・3年生への奨学金の提供 等を頂ければと思います。”
 “クアンチュン大学は、労働者に対して、農業技術の訓練が可能であり、具体的にはキノコの栽培および作物の収穫技術を6～12ヶ月間で訓練でき、また「短期のハイテク農業技術者認定証」も発行しています。このように、専門的な勉強と言語の勉強を並行して行い、その後、日本のハイテク農業施設で働くといった形も検討できます。ただ、クアンチュン大学では英語のみ教育が可能であり、日本語を教えたい場合、日本パートナー側が日本人の先生を派遣し、ビザ申請費用の負担を希望します。人材を海外へ送り出す業者を通じた場合、彼らは労働者に対して多額の費用負担を求めため、そういった業者を通じて労働者を日本に送ることは考えていません。”
 “クアンチュン大学は、ベトナム人および外国人の観光および療養に対する需要の増加を感じており、国際的な観光・療養センターを建設するプロジェクトを進めていますので、センターを建設するためのパートナーを探したいと考えています。現在、企業2社とその他の機関2つが傘下に持っていますが、この観光・療養センターも別途独立した形で運営する予定です。このセンターは6階より下が会議用、上から9階分をプライベートヴィラのようなペン트ハウスにする計画です。看護や観光学の学生の実習の場にもなる予定です。”
 “私の知る限り、組織培養の分野で日本側がベトナムに求める理由は、安価だからです。日本パートナーに組織培養苗を供給することができます。”

対 教育機関

“修士・博士号取得のため、日本の大学や研究機関からクアンチュン大学に対して奨学金を提供頂ければ有難く思います。また、講師・学生の交流もできれば、と思います。”

対 行政機関

“クアンチュン大学は地方にあるため、日本の政府機関からの情報が届かないこともあり。研修、技術移転、科学研究等の情報があればタイムリーに届くことを期待しています。”
 “高等教育を希望する講師のために、奨学金のようなものがあることを期待しています。日本政府がベトナム政府と協力しているプロジェクトが数多くあることを把握しているので、本学の専攻に関連したプロジェクトがあれば、そのプロジェクトに参加できればと考えています。それらのプロジェクトから、博士号を取得するための奨学金を探しています。例えば、日本のハイテク農業に関するプロジェクトに興味があり、クアンチュン大学は日本からその分野を学びたいと考えています。また、日本側がベトナムの固有種苗を開発したいと考えているのであれば、そのようなプロジェクトに参加し、博士課程を学ぶための奨学金に申し込むことも期待しています。”



ダラット大学

英語名 DA LAT UNIVERSITY

略称 DLU

中部

公立

日本語教育あり

地域の特徴

- ラムドン省は中部高原地域に属する
- 観光および茶・コーヒー・野菜を中心に農業が盛んである
- 省都はダラットであり、避暑地として有名な観光地となっている

統計 (2019年)

ランキング

面積	9783.3 km ²	7/63
人口	1299.3 千人	24/63
FDI	26.8 百万 USD	44/63



ダラット大学

沿革

- 1957年、民間投資によりダラット大学研究所が設立
- 1976年、同研究所を基盤として、ダラット大学が公立大学として設立
- ダラット大学には、傘下として教育大学、科学大学、文学大学、ビジネス・政治大学、神学大学がある

特色

- 中部高原地域の主要トレーニングセンター
- 放射能および原子力分野で質の高い人材を育成する国家任務を帯びた5大学のうちの1大学となる

特に強みがある専攻

- Language majors
- Nuclear Engineering
- Business Administration
- Information Technology



基本情報

所在地	8 Phu Dong Thien Vuong, Ward 8, Da Lat City, Lam Dong Province (Lien Khuong 国際空港から約33 km)				
URL	http://www.dlu.edu.vn/				
創立年	1976年				
課程 専攻数	<input type="checkbox"/> 中等職業学校	<input type="checkbox"/> 短期大学	<input checked="" type="checkbox"/> 学部	<input checked="" type="checkbox"/> 修士	<input checked="" type="checkbox"/> 博士
	-	-	32	8	6
学生数	11,000				
教員数	318				
日本留学経験のある教員	人数	N/A			
	例	Dr. Truong Binh Nguyen (ダラット大学ハイテク農業研究所所長)			
年間研究予算	20億 VND (約896万円)				

窓口情報 (国際連携担当の部門)

部署代表番号・メール	-	-
担当者 氏名・役職	Dr. Trinh Thi Tu Anh	部長
担当者 電話番号・メール	(84) 986 954 246	anhhtt@dlu.edu.vn
対応可能な言語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他 ()	

学長 略歴

Dr. Le Minh Chien
 1965年生まれ
 専攻分野：社会学
 2019年-現在：学長 ダラット大学
 2017年：博士課程修了 ベトナム社会科学院
 1999年：修士課程修了 ハノイ国立大学
 1987年：学部 ホーチミン市国家総合大学





ダラット大学

英語名 DA LAT UNIVERSITY

略称 DLU

中部

公立

日本語教育あり

A - 教育体制

1. 教育状況の概要

教育方針(配分)	重点分野: 実用 (人材育成) 訓練時間の配分: 実践28%-理論72% (専攻によって異なる)
インターンシップ	任意 他の国でのインターンシッププログラム
	必修 4年目に1回のインターンシップを1.5~2か月または少なくとも3か月 (専攻によって異なる)
卒業生の状況	“卒業後1年以内に90%の卒業生が就職しています。それが大学で学んだ専攻と一致する仕事かどうかは把握できていません。5~10%の卒業生が修士号を取得するために進学を選択しています。” - Dr. Trinh Thi Tu Anh (国際協力部長)

2. 外国語教育

概要			
外国語の授業	<input checked="" type="checkbox"/> 英語	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (韓国語)
必須の外国語科目	英語		
最も学習されている外国語 (英語を除く)	韓国語		
英語の卒業要件	英語専攻	C1	英語専攻以外 B2

Japanese Language Training

授業種別	卒業要件	卒業生の能力	学生数/年
<input checked="" type="checkbox"/> 日本語学科・学部	N3	N3	~120
<input type="checkbox"/> 単位認定授業	-	-	-
<input type="checkbox"/> 単位が出ない授業	-	-	-
指導教員の数/能力	ベトナム人 5	N2~N1	日本人 -

B - 国際連携・協力等の実績

概要	
連携・協力等パートナーの国籍	韓国、日本、ベルギー、台湾、オランダ
パートナーが最も多い国籍	韓国
日本パートナーとの連携・協力等	
連携・協力等確立方法	相手側からのコンタクト
パートナーの数	8
<input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> 教育機関 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (行政機関)	学生・講師の交換、日本語教育の支援、奨学金、日本語スピーチコンテストの開催、セミナーの実施、研究 行政機関 日本語教師ボランティアの派遣 協会 日本語教育の支援

C - 就職支援活動

ジョブフェア開催	3月
その他の活動	学生とパートナー間とで情報交換あるいは雇用するための面接を実施、講師による職業紹介



ダラット大学

英語名 DA LAT UNIVERSITY

略称 DLU

中部

公立

日本語教育あり

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
ビジネス	Business Administration	○	○	
	Accounting	○		
教育	Mathematics Pedagogy	○		
	Informatics Pedagogy	○		
	Physics Pedagogy	○		
	Chemistry Pedagogy	○		
	Biology Pedagogy	○		
	Literature Pedagogy	○		
	English Pedagogy	○		
	Primary Education	○		
	History Pedagogy	○		
	エンジニアリング・テクノロジー	Information Technology	○	
Electronic Engineering - Telecommunications		○		
Nuclear Engineering		○		
Postharvest Technology		○		
Biotechnology		○		
言語	Cultural Studies	○		
	Vietnamese Studies	○		
	Oriental Studies (Japanese - Korean)	○		
	International Studies	○		
	English Language	○		

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
科学	Mathematics	○		
	Calculus		○	○
	Physics	○		
	Technical Physics		○	○
	Chemistry	○		
	Analytical Chemistry		○	○
	Environmental Science	○		
	Biology (Applied Biology)	○	○	
	Ecology		○	○
	Vietnamese Literary		○	○
	Vietnamese History		○	○
	Sociology	○		
	History	○		
	観光	Travel & Tourism Service Management	○	
その他	Agriculture	○		
	Law	○		
	Community Service	○		

特に強みのある学部・専攻は何ですか？

「外国語専攻の学生のほとんどは、大学で外国企業から面接を受け、採用されています。原子力工学の卒業生は、韓国や日本のパートナーから奨学金を授与されています。経営営は、学生が卒業後に仕事を見つけられるようソフトスキルの教育・訓練を目標としています。情報技術は、教育および実際の仕事の経験が豊富で優秀な講師を抱えており、また、パートナーとの良好な関係を築いているため、学生は卒業後に簡単に仕事を見つけることができます。」

- Dr. Trinh Thi Tu Anh (国際協力部長)



ダラット大学

英語名

DA LAT UNIVERSITY

略称

DLU

中部

公立

日本語教育あり

連携等事例

教育機関と連携

連携先・協力先

大阪府立大学

時期

2014年

専攻

原子力工学

内容

- 大阪府立大学の日本人講師が長年、ダラット大学で従事
- 実験のため、ダラット大学の学生4~5名を大阪府立大学へ6週間派遣
- セミナーの実施
- 科学研究: 研究費用を確保するため、両大学で協力し、国際エネルギー機関への提案書を執筆

写真なし

教育機関と協力等

連携先・協力先

信州大学

時期

2017年

専攻

東洋学(日本語)、農業

内容

信州大学が日本語教育の支援のため講師を派遣

写真なし



ダラット大学

英語名	DA LAT UNIVERSITY
略称	DLU

中部
公立
日本語教育あり

大学関係者へのインタビュー



Dr. Trinh Thi Tu Anh
(国際協力副部長)

「日本のパートナーと協力していく過程で課題はありません。連携を始めるタイミングでは、日本パートナーは常に慎重に選択や契約を吟味するため容易ではありませんが、契約完了後は、何の問題もなく、非常にスムーズに展開を進めることができます。」

人材採用について、日本企業等へのアドバイスがありますか？

“学生は、給料や自分の能力を高められる機会など、将来のチャンスについて具体的な説明を求めています。”

貴学が目指している今後の方向性を教えてください。

“大学が所在する地域で注力されている分野は、ハイテク農業、バイオテクノロジー、観光業であり、これらの専攻はダラット大学の強みとなっています。今後数年で、バイオテクノロジー、アグロフォレストリー、観光、経営学等について、質の高い教育・研修プログラムを実施する予定です。さらに10年後の長期計画では、これらのプログラムを国際基準のAUN-QA評価に適用することを目指しています。”

日本企業等との連携に、どのような内容を期待しますか？

対 企業

“日本企業と連携し、インターンシップの実施、就職先の紹介、日本企業への就職をより進めたいと考えています。日本語、観光、農業、人工知能、法学等の専攻で特に連携できるのではないかと考えています。”

“ダラット大学では、ハイテク農業研究所の所長Truong Binh Nguyen博士が千葉大学で博士号を取得しており、ベトナムを代表するキノコの専門家の一人であり、特に冬虫夏草に詳しいです。彼は多くの研究を行ってきたので、これ以上の研究をすることなく、日本企業は彼と協力して製品化のためのテストを行うことができます。”

対 教育機関

“より多くの学術交流、より長い期間の学生・講師の交流、より実践的な研修プログラムを希望しています。日本の大学はより多くの日本人学生をダラット大学へ連れてきて文化交流をしたり、6～8週間の夏期講習に参加してベトナムの観光文化を学んだり、農場に行き体験したりすることができます。”

韓国や台湾のパートナーは、夏期講習に参加するために学生を派遣することが多いです。提携先の学生がベトナムに来ることは容易ですが、資金の問題によりダラット大学の学生が提携先の国に行くことは非常に難しく、もし学生が日本へ渡航する場合、全額あるいは最低でも70～80%の費用を負担して頂ければと思います。

本当は他の専攻の学生も対象として日本語の授業を開きたいのですが、講師の数が足りず、現在の講師が他の学部で日本語を教える時間がないことが課題です。そのため、より多くの日本語講師を必要としています。しかし、ダラット大学は宿泊費、光熱費、インターネット代および月給400万～500万ドンといった条件しか提示できないため、外国人講師を集めることができないという問題があります。外国人講師を招聘するための資金援助はとて有難いです。

現在、韓国、アメリカ、台湾、日本のパートナーから講師を受け入れており、主に語学研修、農林、原子力工学などを支援頂いています。また、農業科学、バイオテクノロジー、人工知能、農業観光などの分野で科学研究の協力を拡大していきたいと思っています。”

対 自治体 行政機関

“ダラット大学は、ベトナムや日本の大学の参加が必要とされる政府レベルの大きな研究プログラムに関与したいと考えています。九州大学を卒業したダラット大学の講師が、日本政府の生物多様性に関する基金を獲得してくれましたが、基金の額は十分ではありませんでした。JICAは大学の所在するラムドン省と大規模プロジェクトで協力しましたが、ダラット大学としての関与は限定的となっています。”

ダラットヤーシン大学

英語名 YERSIN DA LAT UNIVERSITY

略称 YERSIN

中部

私立

日本語教育あり

地域の特徴

- ラムドン省は中部高原地域に属する
- 観光および茶・コーヒー・野菜を中心に農業が盛んである
- 省都はダラットであり、避暑地として有名な観光地となっている

統計 (2019年)

ランキング

面積	9783.3 km ²	7/63
人口	1299.3 千人	24/63
FDI	26.8 百万 USD	44/63



ダラットヤーシン大学

沿革

- 2004年、私立大学としてダラットヤーシン大学が設立
- 2016年、Thanh Thanh Cong Group(TTC)傘下のThanh Thanh Cong Education Joint Stock Company(TTC Edu)の管轄下となる

特色

- 中部高原地域における最初の私立大学
- 教育・訓練方針は「実践的であり、企業の実際のビジネスに近いものとし、最新のテクノロジーの研究・展開」となる

特に強みがある専攻

- Nursing
- Business Administration
- Tourism Administration
- Foreign Language (English, Korean, Japanese)



基本情報

所在地	27 Ton That Tung, Ward 8, Da Lat City, Lam Dong (Lien Khuong 空港から約35 km)				
URL	https://yersin.edu.vn/				
創立年	2004年				
課程 専攻数	<input type="checkbox"/> 中等職業学校	<input type="checkbox"/> 短期大学	<input checked="" type="checkbox"/> 学部	<input checked="" type="checkbox"/> 修士	<input type="checkbox"/> 博士
	-	-	20	1	-
学生数	2,400				
教員数	100				
日本留学経験のある教員	人数	2			
	例示	Ms. Nguyen Thi Diem Ha (日本語講師兼日本パートナーシップの担当者)			
年間研究予算	10億 VND (約448万円)				

窓口情報 (国際連携担当の部門)

部署代表番号・メール	-	-
担当者 氏名・役職	Ms. Nguyen Thi Diem Ha	日本パートナーシップの担当者
担当者 電話番号・メール	(84) 908 419 250	diemhamikawa@gmail.com
対応可能な言語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他 ()	

学長 略歴

Dr. Phan Dinh Trung
 1977年生まれ
 専攻分野: AI および スマートシステム
 2018年-現在: 学長 ダラットヤーシン大学
 2015年-2018年: 学長 ファンティエット大学
 2012年: 博士 Cardiff University - イギリス
 2007年: 修士 Asia Institute of Technology - タイ
 2000年: 学部 ニャチャン大学



A - 教育体制

1. 教育状況の概要

教育方針(配分)	重点分野: 実用 (人材育成) 訓練時間の配分: 実践50%-理論50%
インターンシップ	任意 日本で3ヶ月~6ヶ月のインターンシップ
	必修 3ヶ月のインターンシップ
卒業生の状況	“進学する卒業生は多くなく、英語を教えたいと考える学生だけが修士号課程に進学します。在ベトナムの日本企業で働く卒業生の数も多くはありません。近年、日本へ渡航する卒業生の数は0.5%程度でしたが、日本のプログラムで看護を勉強している学生がN4に到達できれば、全員日本に行けるため、来年から数は増えていくと思います。” - Ms. Nguyen Thi Diem Ha (日本語講師兼日本パートナーシップの担当者)

2. 外国語教育

概要			
外国語の授業	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (韓国語, フランス語)		
必須の外国語科目	英語		
最も学習されている外国語 (英語を除く)	日本語		
英語の卒業要件	英語専攻	TOEIC 750	英語専攻以外 TOEIC 500

日本語の教育

授業種別	卒業要件	卒業生の能力	学生数/年
<input checked="" type="checkbox"/> 日本語学科・学部	N3	N3	23
<input checked="" type="checkbox"/> 単位認定授業	N5/N4*	N5/N4*	100
<input type="checkbox"/> 単位が出ない授業	-	-	-
指導教員の数/能力	ベトナム人 3	N3~N2 日本人 1	-

B - 国際連携・協力等の実績

概要

連携・協力等パートナーの国籍	日本、韓国
パートナーが最も多い国籍	日本
日本パートナーとの連携・協力等	
連携・協力等確立方法	大学講師のネットワーク
パートナーの数	6
連携・協力等形態	<input checked="" type="checkbox"/> 企業 インターンシップ、日本語クラスの開講、ジョブフェアの開催、日本セミナーでの勉強会の開催
	<input checked="" type="checkbox"/> 教育機関 日本語クラスの開講
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 インターンシップ、日本での仕事を紹介、日本語クラスの開講、日本文化フェスティバルの後援

C - 就職支援活動

ジョブフェア開催	6月/7月
その他の活動	大学ウェブサイト上での求職情報の更新、日本セミナーでの勉強会の開催、パートナーからの職業紹介

* 英語専攻の学生のうち、第二外国語として日本語を選んだ場合、卒業要件はN5となる。また、日本へ渡航を希望する看護学部の学生はN4が要件となる

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
経営・経済	Business Administration	○	○	
	Finance - Banking	○		
	Corporate Accounting	○		
医学・薬学	Nursing	○		
	Pharmacy	○		
	Food Technology	○		
外国語	English Language	○		
	Oriental (Japanese Language)	○		
	Oriental (Korean Language)	○		
テクノロジー	Information Technology	○		
	Environmental Technology	○		
	Biotechnology	○		
観光	Tourism Administration	○		
	Restaurant - Hotel Administration	○		
その他	Architecture	○		
	Environment Management	○		
	Environment Consultancy	○		
	Business Law	○		
	Public Relations	○		
	Interior design	○		

特に強みのある学部・専攻は何ですか？

“看護は、多くの志望学生がいます。また、卒業後、日本でインターンシップや就業プログラムを実施しています。経営学にも多くの学生がいますが、これはダラットヤーシン大学だけでなく、ベトナムの全大学のトレンドになります。将来の方向性がはっきりしておらず、またビジネスでお金を稼ぐことができる考えているため、この専攻は人気です。グローバル化により英語も人気があり、英語ができれば就職に役立つと考えています。通常、学生は英語の勉強を終えると、ツアーガイドの資格を取得するために勉強しています。”

- Ms. Nguyen Thi Diem Ha (日本語講師兼日本パートナーシップの担当者)



旅行演習室



日本語クラス



建築演習室



看護・薬学演習室

連携等事例

協会と連携

連携先・協力先 Asian Center for Human Resource Development

時期 2007年

専攻 看護、建築、バイオテクノロジー

- 内容
- 日本語クラスを開講
 - 看護およびバイオテクノロジーの学生を対象として日本での3ヶ月のインターンシッププログラムを実施
 - 看護および建築学の学生に日本での仕事を紹介
 - 連携10周年祝いとして、2017年にダラットヤーシン大学で開催された日本フェスティバルに資金を提供
 - ダラットヤーシン大学の学生を採用している企業を招待し、経験を共有



日本フェスティバル (2017年)

教育機関と協力等

連携先・協力先 Tokyo International Institute for Academic Research

時期 2008年

専攻 日本語

内容 日本語クラスの開講 (N3取得が目標)

写真なし

企業と連携

連携先・協力先 社団創生会 町田病院

時期 2020年

専攻 看護

内容 N4以上を取得した学生を対象に、日本の町田病院にて6ヶ月間の有給インターンシップを実施

写真なし

大学関係者へのインタビュー



Ms. Nguyen Thi Diem Ha
(日本語講師 兼
日本パートナーシップの担当者)

「日本パートナーとは長年にわたり協力を継続してきました。今年日本語学部を開設しています。ダラットヤーシン大学は、桜の国で働きたいという学生の夢を実現するため、日本パートナーとの連携を絶えず広げていきたいと考えています。」

人材採用について、日本企業等へのアドバイスがありますか？

“経済的に困窮している家庭(台風被害が頻繁に起きる地域の家庭も多い)に生まれ、勉強に励んでいる学生も多いです。そのため、学費の心配をしている学生も多い現状ですが、N4を取得し、日本で就職することができれば、親を助けることができます。企業が彼らを支援すれば、学生もそれに応え、忠実な人材を得られるかもしれません。また、企業からの1年生時からの奨学金支給があれば、しっかりと勉強ができ、また、卒業後の就職の心配もないといった形が実現できれば理想的だと考えています。”

日本企業等との連携に、どのような内容を期待しますか？

対 企業

“バイオテクノロジー、環境、IT、観光・旅行管理、日本語、看護といった分野で日本パートナーと協力できればと思います。インターンシッププログラムを学生に提供してくれるホテル等の企業があれば、とても良いと思います。

現在は貧困学生も多いため、学生が勉学に集中できるように奨学金制度を設け、また採用要件を満たした学生を卒業後に受け入れてくれる企業を待っています。

看護分野には研究室がありますが、設備はまだ十分ではありません。この分野に強い日本から看護関連設備を支援してもらえると嬉しく思います。”

対 教育機関

“1~2週間の文化交流プログラムを期待しています。日本人学生とダラットヤーシン大学の日本語学科の学生と一緒に学習することで相互に語学スキルの向上が期待できます。現在、ダラットでは日本人の数が非常に少ないため、学生は日本語を理論的に学ぶことしかできません。また、交換留学も期待しています。”

“ダラットヤーシン大学は日本の大学や研究機関と研究協力したいと考えています。以前は、看護学科の学生のみが日本語を専攻し、他学科の学生は第二外国語として日本語を学習していましたが、現在は日本語学科があるため、N3を取得した学生を留学させ、日本の研究に参画させられればと思っています。”

“日本から日本語講師を招聘することで、将来的に日本語学科が発展すると考えられますが、現在、フルタイムで働く講師が2名しかいないため、可能であれば日本語講師の育成支援を希望しています。”

“日本企業が参加するジョブフェアや就職説明会、日本文化フェスティバル等の開催を増やしたいと考えています。”

対 自治体 行政機関

“日本語学科の育成支援、日本語教師の派遣、日本文化の紹介、日本文化を紹介するギャラリーの建設等、学生が惹かれて日本語を勉強したくなるような、日本文化を紹介するための特別なイベント・施設といった何かがあればいいな、と考えています。”

“より多くの日本の企業・大学・自治体と、文化・言語の交流につながる支援を期待しています。”



ラクホン大学

英語名 LAC HONG UNIVERSITY

略称 LHU

南部

私立

日本語教育あり

地域の特徴

- ・ドンナイ省はホーチミン市から東北約40kmに位置する
- ・陸路・海路・空路へのアクセスが良い好立地にあり、外資誘致を積極的に進めてきたこともあり、GRDP(域内総生産)が国内トップクラスの省となる

統計 (2019年) ランキング

面積	5863.6 km ²	25/63
人口	3113.7 千人	5/63
FDI	2178.8 百万 USD	4/63



ラクホン大学

沿革

- ・1997年、ドンナイ省のビエンホアにてラクホン大学(私立大学)を正式に設立する決定に首相が署名
- ・設立当時の理事長は、ドンナイ省人民委員会副委員長Nguyen Trung Phuong氏であった

特色

- ・ドンナイ省で最大の私立大学
- ・東南アジアのAUN-QA品質基準を満たした最初の私立大学 (電気電子工学技術および情報技術専攻)

特に強みがある専攻

- ・Electrical and Electronic Engineering Technology
- ・Information Technology
- ・Travel & Tourism Service Administration
- ・Oriented Studies (Japanese Language)



基本情報

所在地	10 Huynh Van Nghe, Buu Long Ward, Bien Hoa City, Dong Nai (Tan Son Nhat 国際空港から約31 km)				
URL	https://lhu.edu.vn/				
創立年	1997年				
課程 専攻数	<input type="checkbox"/> 中等職業学校	<input type="checkbox"/> 短期大学	<input checked="" type="checkbox"/> 学部	<input checked="" type="checkbox"/> 修士	<input checked="" type="checkbox"/> 博士
	-	-	17	6	2
学生数	8,000				
教員数	358				
日本留学経験のある教員	人数	8			
	例示	Ms. Nguyen Thi Nhu Thuong (日本語学部の講師)			
年間研究予算	40億 VND (約1793万円)				

窓口情報 (国際連携担当の部門)

部署代表番号・メール	(84) 2513953128	qhqt@lhu.edu.vn
担当者 氏名・役職	Mr. Nguyen Thanh Lam	部長
担当者 電話番号・メール	(84) 979 709 024	lamnt@lhu.edu.vn
対応可能な言語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (中国語)	

学長 略歴

(政府公認の)人民を代表する教師 - Dr. Do Huu Tai

1948年生まれ

専攻分野: 経営管理

2012年-現在: 理事長兼学長 ラクホン大学

1997年-2012年: 副理事長兼副学長 ラクホン大学

1993年-1997年: 副局長 教育訓練局 ドンナイ省

1989年-1993年: 学長 Ngo Quyen高校

2003年: 博士 Southern California University - アメリカ





ラクホン大学

英語名 LAC HONG UNIVERSITY

略称 LHU

南部

私立

日本語教育あり

A - 教育体制			
1. 教育状況の概要			
教育方針(配分)	重点分野: 実用 (人材育成) 訓練時間の配分: 実践50%-理論50%		
インターンシップ	任意	海外でのインターンシップ	
	必修	2年目、4年目の2回インターンシップ	
卒業生の状況	<p>“卒業生の約20%がラクホン大学の修士課程へと進学します。日本語専攻では、学生の約80%が日本へ行き、約20%が在ベトナムの日本企業で働いています。その他の専攻では、約20%が日本へ行き、約15%が在ベトナムの日本企業で働いています。”</p> <p style="text-align: right;">- Dr. Lam Thanh Hien (副学長)</p>		
2. 外国語教育			
概要			
外国語の授業	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (中国語, 韓国語)		
必須の外国語科目	英語		
最も学習されている外国語 (英語を除く)	日本語		
英語の卒業要件	英語専攻	TOEIC 700	英語専攻以外 TOEIC 450
日本語の教育			
授業種別	卒業要件	卒業生の能力	学生数/年
<input checked="" type="checkbox"/> 日本語学科・学部	N2	N2	500
<input checked="" type="checkbox"/> 単位認定授業	-	N4	100
<input checked="" type="checkbox"/> 単位が出ない授業	-	N5~N4	80
指導教員の数/能力	ベトナム人	7 N2~N1	日本人 5 -

B - 国際連携・協力等の実績		
概要		
連携・協力等パートナーの国籍	日本、韓国、台湾、中国、フィンランド、タイ、カナダ、アメリカ等	
パートナーが最も多い国籍	台湾	
日本パートナーとの連携・協力等		
連携・協力等確立方法	相手側からのコンタクト、大学上層部・講師のネットワーク	
パートナーの数	8	
連携・協力等形態	<input checked="" type="checkbox"/> 企業	インターンシップ、奨学金、研究および技術移転
	<input checked="" type="checkbox"/> 教育機関	奨学金、日本語を学ぶため短期間の日本留学、日本で修士号を取得するための留学
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (行政機関)	行政機関 講師が日本で研修を受講、日本から専門家を派遣

C - 就職支援活動	
ジョブフェア開催	5月
その他の活動	大学ウェブサイト・Facebook上での求職情報の更新



ラクホン大学

英語名 LAC HONG UNIVERSITY

略称 LHU

南部

私立

日本語教育あり

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
経済・経営	Business Law	○		
	Business Administration	○	○	○
	Economics - Foreign Trade	○		
	Finance - Banking	○	○	
	Accounting	○	○	
エンジニアリング・テクノロジー	Information Technology	○	○	
	Construction Engineering Technology	○		
	Construction Engineering		○	
	Mechanical Engineering Technology (Mechatronics)	○		
	Control Engineering and Automation	○		
	Electrical and Electronic Engineering Technology	○		
	Computer Science			○
	Electrical Engineering		○	
	Food Technology	○		
Automotive Engineering Technology	○			
外国語	Chinese Language	○		
	Oriented Studies (Japanese, Chinese)	○		
	English Language	○		
医学	Pharmacy Studies	○		
観光	Travel & Tourism Service Administration	○		

特に強みのある学部・専攻は何ですか？

“電気電子工学技術および情報技術の専攻は2019年にAUN-QA(ASEAN大学連合-品質保証)品質基準を満たし、2022年にABET(Accreditation Board for Engineering and Technology・工学技術認定委員会)認定を受けられるよう準備を進めています。

旅行&観光サービス管理専攻および日本語専攻では卒業後の就職が容易なため、志望学生が多いです。”

- Mr. Nguyen Thanh Lam (国際協力部長)



日本図書室



機械実習室



空気圧回路演習室



マイクロコントローラ演習室



ラクホン大学

英語名 LAC HONG UNIVERSITY

略称 LHU

南部

私立

日本語教育あり

連携等事例

行政機関と連携

連携先・協力先 経済産業省(近畿経済産業局)、太平洋人材交流センター

時期 2017年

専攻 電気電子工学技術、機械工学技術(メカトロニクス)、制御工学&オートメーション、自動車工学技術

- 内容
- 「ベトナムにおける日本型ものづくりに基づく生産を支援する人材育成・育成プロジェクト」に参加し、関西地方(大阪、神戸、京都)の研修プログラムにラクホン大学のスタッフおよび講師を派遣
 - 経済産業省は専門家をラクホン大学へ派遣して、3S-5S標準を学生に指導



日本の専門家が大学で3S-5S講習を実施

企業と連携

連携先・協力先 Lixil VINA

時期 2016年

専攻 電気および電子専攻

- 内容
- Lixil VINA社と研究および技術移転を実施
 - 自動ドライバーの研究と生産ラインへの適用に成功し、従前の手動操作と比較して、労力を減らすと同時に3倍の生産性向上を実現
 - 製品品質が向上し、不良品の割合が0.01%になり、労働災害率低下へも寄与



Lixil VINA社に適用されたラクホン大学の開発機器

企業と連携

連携先・協力先 JTB group

時期 2018年

専攻 旅行・観光サービス管理、日本語専攻

- 内容
- 日本のホテル50施設にて6ヶ月~1年の有給インターンシップを実施 (これまでに108名の学生が参加)



写真なし



ラクホン大学

英語名 LAC HONG UNIVERSITY

略称 LHU

南部

私立

日本語教育あり

大学関係者へのインタビュー



Dr. Lam Thanh Hien
(副学長)

「ドンナイ省は、クリーンな工業工学およびハイテク分野を優先しています。ラクホン大学も省の方向性に沿っており、ハイテクオートメーション、IT、自動車工学、電子工学、言語に重点を置いています。人材需要は、もはや単なるワーカーではなく、質の高い労働力へとシフトしていますので、ラクホン大学はこの分野で日本パートナーと協力していきたいと考えています。」

貴学の特徴を教えてください。

「ラクホン大学は、工学分野を中心に多くの成果を上げており、ベトナムロボコン創作コンテストで9年連続優勝、アジア太平洋ロボコン優勝3回、アジア低燃費車コンテストで5回優勝(昨年はアジア太平洋代表4人のうち1人が世界大会に出場し4位入賞)、無人自動運転車プログラミングで2回国家賞受賞、アジア太平洋セキュリティネットワークコンテストで3回ベトナム代表として参加しています。」

ラクホン大学は私立大学となりますが、現在、国際的な科学論文の発表実績は、ベトナム全国の400大学中、50位以内に入っており、また科学技術移転の面では、プラス、三菱といった日本企業をはじめ、ドンナイ省に所在する企業に対して、大学が開発した機械設備を移転し、手作業を減らし、自動化への転換に貢献しています。ベトナムの私立大学60校の中で、ラクホン大学は技術移転の実績がトップとなります。またコロナ感染拡大時には、自動温度測定装置、マスク未着用検出装置、呼吸器、自動光線器も開発しています。

ビジネス専攻について、ベトナムのスタートアップコンテストで1回1位、2回2位を獲得、大臣レベルの研究テーマも2本あります。

外国語専攻について、全国大会に出場したラクホン大学の学生は、2位と3位となり、南部ではホーチミン教育大学、社会科学人文大学に次ぐ3位の成績を収めています。」

日本企業等との連携に、どのような内容を期待しますか？

対 企業

「インターンシップや日本企業への就職の機会を創出し続けたいと考えていますし、また企業からの技術革新や企業への技術移転などの研究依頼をより多く受けたいと考えています。」

対 教育機関

「科学研究への協力、セミナーの開催、ラクホン大学の教育力向上のための支援、学生や講師への奨学金の提供、日本の大学に講師を派遣して学びたいと考えているため、学生や講師の交換を期待しています。」

対 自治体 行政機関

「2017年に実施された近畿経済産業局のプロジェクトのように、日本政府が実施しているプロジェクトにもっと参加したいと考えています。国公立大学は参加機会が多いのですが、私立大学への関心はまだ高くありません。ラクホン大学には多くの実績を積み重ねており、参加に値すると考えています。」

日本企業への人材採用についてのアドバイスがありますか？

「日本の企業が大学を訪問し、学生とより良い関係を築くべきだと思います。優れた学生を選び、無料で日本語を教え、専門家を派遣して経験を共有し、学生に給料や日本文化についての情報を提供するべきです。日本の企業がそうすることができれば、欧米企業の給与はより高い傾向がありますが、たとえ給与がそれよりも低くても、学生は日本企業をもっと信頼し、愛着を感じ、日本企業を選んでくれるかもしれません。」



バリア・ブントウ大学

英語名 BA RIA - VUNG TAU UNIVERSITY

略称 BVU

南部

私立

日本語教育あり

地域の特徴

- バリア・ブントウ省は、ホーチミン市の南東約120kmに位置する
- エネルギー、重工業、観光、港湾物流といった産業が盛んであり、南部の主要経済地域となっている
- 同省沖には大規模な油井・ガス田があり、全国埋蔵量のそれぞれ93%、16%を占めている

統計 (2019年) ランキング

面積	1981 km ²	50/63
人口	1152.2 千人	38/63
FDI	1085.4 百万 USD	9/63



バリア・ブントウ大学

沿革

- 2006年、私立大学として設立
- 2016年、グエンホアン教育(Nguyen Hoang Education)グループ傘下となる

特色

- バリア・ブントウ省で唯一の私立大学
- ブントウ市に3キャンパスを構える
- 2020年6月、QS Stars(英国のQS社が、8つの評価指標に基づき、大学の特色等を点数化し総合的に評価、最高評価は5つ星)にて、3つ星評価を獲得

特に強みがある専攻

- Logistics and Supply Chain Management
- Tourism majors
- English Language
- Business Administration



基本情報

所在地	88 Truong Cong Dinh, Ward 3, Vung Tau City, Ba Ria - Vung Tau (Tan Son Nhat国際空港から約100 km)				
URL	https://bvu.edu.vn/				
創立年	2006年				
課程 専攻数	<input type="checkbox"/> 中等職業学校	<input type="checkbox"/> 短期大学	<input checked="" type="checkbox"/> 学部	<input checked="" type="checkbox"/> 修士	<input type="checkbox"/> 博士
	-	-	18	4	
学生数	5,000				
教員数	263				
日本留学経験のある教員	人数	5			
	例示	Dr. Lam Ngoc Nhu Truc (東洋学副部長、日本語講師)			
年間研究予算	15億VND (約672万円)				

窓口情報 (国際連携担当の部門)

部署代表番号・メール	(84) 2547 305 456- 3290	dbclhtqt@bvu.edu.vn
担当者 氏名・役職	Mr. Huynh Van Huy	部長
担当者 電話番号・メール	(84) 914 206 920	huyhv@bvu.edu.vn
対応可能な言語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他 ()	

学長 略歴

教授 - Dr. Nguyen Loc
 1953年生まれ
 専攻分野: 教育理論および歴史
 1988年: 博士 Russian Academy of Education - ロシア
 1984年: 学部 Hanoi National University of Education
 1976年: 学部 National Research University of Science and Technology - ロシア





バリア・ブントウ大学

英語名 BA RIA - VUNG TAU UNIVERSITY

略称 BVU

南部

私立

日本語教育あり

A - 教育体制			
1. 教育状況の概要			
教育方針(配分)	重点分野: 実用 (人材育成) 訓練時間の配分: 実践50%-理論50% (専攻によって異なる)		
インターンシップ	任意	海外でのインターンシップ	
	必修	1年目、4年目の2回インターンシップ	
卒業生の状況	“正確なデータを把握できていませんが、約70人が在ベトナムの日本企業に就職し、25人が在日本の日本企業に就職しています。” - Dr. Lam Ngoc Nhu Truc (東洋学副部長、日本語講師)		
2. 外国語教育			
概要			
外国語の授業	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (中国語, 韓国語)		
必須の外国語科目	英語		
最も学習されている外国語 (英語を除く)	日本語		
英語の卒業要件	英語専攻	IELTS 6.5	英語専攻以外 IELT 4.5
日本語の教育			
授業種別	卒業要件	卒業生の能力	学生数/年
<input checked="" type="checkbox"/> 日本語学科・学部	N3	N3	292
<input checked="" type="checkbox"/> 単位認定授業	N4	N4	350
<input checked="" type="checkbox"/> 単位が出ない授業	-	N5	90
指導教員の数/能力	ベトナム人 4	N3-N2	日本人 2 -

B - 国際連携・協力等の実績		
概要		
連携・協力等パートナーの国籍	日本、韓国、アメリカ、台湾、イギリス、オーストラリア	
パートナーが最も多い国籍	日本	
日本パートナーとの連携・協力等		
連携・協力等確立方法	相手側からのコンタクト、第三者からの紹介、大学上層部のネットワーク	
パートナーの数	11	
連携・協力等形態	<input checked="" type="checkbox"/> Corporation	インターンシップ
	<input checked="" type="checkbox"/> 教育機関	文化交流、奨学金、学生交換、3+1あるいは3+2プログラムの実施 (ベトナムで3年勉強+日本で1年あるいは2年留学)
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (行政機関)	行政機関: 日本語教育の支援のための専門家の派遣、書籍等の寄贈

C - 就職支援活動	
ジョブフェア開催	9月
その他の活動	パートナーとのインターンシップおよび採用契約



バリア・ブントウ大学

英語名 BA RIA – VUNG TAU UNIVERSITY

略称 BVU

南部

私立

日本語教育あり

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
経済・経営	Accounting	○		
	Logistics & Supply Chain Management	○		
	Business Administration	○	○	
	Real estate	○		
教育	English subject Teaching Theory & Methodology		○	
エンジニアリング・テクノロジー	Electrical & Electronic Engineering Technology	○		
	Chemical Engineering Technology	○		
	Mechanical Engineering Technology	○		
	Construction Engineering Technology	○		
	Food Technology	○		
	Control Engineering & Automation	○		
	Information Technology	○	○	
外国語	English Language	○		
	Oriental Studies	○	○	
医学	Nursing	○		
観光	Travel and Tourism Service Management	○		
	Restaurant & Food Service Management	○		
	Hotel Management	○		
その他	Psychology	○		

特に強みのある学部・専攻は何ですか？

“バリア・ブントウ省は、GRDP(域内総生産)が国内トップクラスとなっており、主要経済地域の位置づけとなります。大型船に対応できる水深が深い港湾を持ち、海洋経済が発達しています。また、クリーン・グリーン環境にも注力しており、観光産業も盛んです。そのため、バリア・ブントウ大学は、ロジスティクス、ホスピタリティ、観光、英語、経営等の専攻に強みがあります。”

- Mr. Nguyen Van Thang (国際協力部長)



バリア・ブントウ大学

英語名

BA RIA - VUNG TAU UNIVERSITY

略称

BVU

南部

私立

日本語教育あり

連携等事例

企業と連携

連携先・協力先 JTB group および Kyodai company

時期 2019年

専攻 観光、東洋学(日本語)

内容 N3以上を保有する3・4年生を対象として、日本側のリゾート施設、レストラン、ホテルにて6か月~1年間のインターンシップを実施

企業と連携

連携先・協力先 UDS Group

時期 2018年

専攻 観光、東洋学(日本語)

内容 日本語を学ぶ学生を対象として、沖縄県宮古島のホテルにて1年間のインターンシップを実施

教育機関と連携

連携先・協力先 共愛学園前橋国際大学

時期 2016年

専攻 東洋学(日本語)

内容

- 交換留学:
ベトナム側のN3以上の学生が日本側の大学に1年間、日本側の学生がベトナム側の大学に2週間留学する
- 日本側は、ベトナムの留学生のために、奨学金制度を整備



調印式

写真なし

写真なし



バリア・ブントウ大学

英語名	BA RIA - VUNG TAU UNIVERSITY
略称	BVU

南部
私立
日本語教育あり

大学関係者へのインタビュー



Mr. Huynh Van Huy
(国際協力部長)

「バリア・ブントウ大学単独でカリキュラム設計・教育を行うと主観的になってしまいます。ですが、日本パートナーからの支援・助言があれば、日本企業が求める要件を満たすために不足している部分を認識でき、それを満たすよう本学のカリキュラム設計・教育を修正することができます。」

人材採用について、日本企業等へのアドバイスがありますか？

“バリア・ブントウ大学のリソースは限られているため、積極的にアプローチしてくれる企業を求めています。我々が協力することで学生には有益な経験がもたらされ、将来的にはその学生が日本企業に還元する流れができます。学生との面接依頼は、国際部とジョブセンターでオンラインで受け付けています。学生の採用数が多い場合は、学長と直接面会することもできます。我々の一番の目標は、バリア・ブントウ大学の学生が日本企業で就職することです”

貴学が目指している今後の方向性を教えてください。

“バリア・ブントウ省 (Ba Ria Vung Tau) は、日本企業からの投資優遇措置をとっています。また、バリア・ブントウ大学は、日本語能力のある学生の割合を30%拡大する計画を進めています。そのため、入学前のカウンセリング段階で、専門技術に加えて、言語能力 (日本語含む) 向上の必要性を説いています。”

日本企業等との連携に、どのような内容を期待しますか？

対 企業

“IT、オートメーション、メカニクの研究に協力を期待しています。”

“ベトナムに渡航するか、あるいは、ベトナムの拠点から、日本企業の担当者に来て頂いて、直接、バリア・ブントウ大学の学生に1~2ヶ月の研修を実施頂ければ、と考えています。そうして頂ければ、バリア・ブントウ大学のカリキュラムが日本企業の求める要件を満たしているか評価でき、かつ、専門家視点でのアドバイス・コメントに基づいて、大学側でのトレーニングカリキュラム変更検討のために大変助かります。”

“学生を採用したい企業は、詳細な採用条件を大学側に開示してください。例えば、今後1~3年間で、どの専攻で、どのようなスキルを持つ学生を何人採用する計画なのか。また、時間やコストの削減のために、その採用計画に対応可能なカリキュラム設計の支援を頂ければと思います。我々はバリア・ブントウ大学に相応しい高校生を募集し、その就職要件を満たせるよう学生を教育したいと思います。”

対 教育機関

“学生交換もしたいですし、さらに年間2~3人の講師を送れば、と考えています。また、文化交流会や日本の大学との共同研究を行いたいと考えています。”

対 自治体 / 行政機関

“専門家を派遣したり、学生向けの奨学金制度を提供してくれることを願っています。”

連携を期待する分野・専攻

“特に、ロジスティクス、サプライチェーン管理、観光、言語、経営管理、会計などの分野で協力したいと考えています。”



ミエンタイ建設大学

英語名 MIEN TAY CONSTRUCTION UNIVERSITY

略称 MTU

南部

公立

日本語教育あり

地域の特徴

- ・ ヴィンロン省はメコンデルタ地域に属する
- ・ 肥沃な土壌を有しており、米や果物の栽培が盛んとなる

統計 (2019年)

ランキング

面積	1,525.7 km ²	56/63
人口	1,022.6 千人	41/63
FDI	150.5 百万 USD	29/63



ミエンタイ建設大学

沿革

- ・ 1976年、建設中等職業学校第8号が設立
- ・ 1995年、ミエンタイ建設中等職業学校へと改称 (ミエンタイは西洋という意味)
- ・ 2003年、ミエンタイ建設短期大学へと更新
- ・ 2011年、ミエンタイ建設大学へと更新

特色

- ・ 建設省管轄下の4大学の1つ
- ・ 土木建設、工業建設、橋・道路、建築といった建設関連分野の教育・訓練にフォーカスしている

特に強みがある専攻

- ・ Building Architecture
- ・ Interior Architecture
- ・ Graphic Architecture
- ・ Civil and Industrial Construction



基本情報

所在地	20B Pho Co Dieu, Ward 3, Vinh Long City, Vinh Long (Can Tho 国際空港から約47 km)			
URL	http://mtu.edu.vn/			
創立年	1976			
課程 専攻数	<input type="checkbox"/> 中等職業学校	<input type="checkbox"/> 短期大学	<input checked="" type="checkbox"/> 学部	<input type="checkbox"/> 修士
	-	-	9	-
学生数	2,300			
教員数	162			
日本留学経験のある教員	人数	5		
	例示	Dr. Do Duy Thinh (建築・企画科目の講師)		
年間研究予算	15億 VND (約672万円)			

窓口情報 (国際連携担当の部門)

部署代表番号・メール	(84) 270 3843 821	nckh-htqt@mtu.edu.vn
担当者 氏名・役職	Mr. Nguyen Ngoc Long Giang	部長
担当者 電話番号・メール	(84) 907 660 686	longgiang@mtu.edu.vn
対応可能な言語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> その他 ()	

学長 略歴

Dr. Nguyen Van Xuan
 1975年生まれ
 専攻分野: 教育管理
 2018年-現在: 学長 ミエンタイ建設大学
 2016年: 博士 教育管理専攻 フィリピン
 2006年: 修士 教育管理専攻 オーストラリア
 2002年: 学部 土木・工業建設専攻





ミエンタイ建設大学

英語名 MIEN TAY CONSTRUCTION UNIVERSITY

略称 MTU

南部

公立

日本語教育あり

A - 教育体制

1. 教育状況の概要

教育方針(配分)	重点分野: 実用 (人材育成) 訓練時間の配分: 実践20%-理論80% (専攻によって異なる)	
インターンシップ	任意	まだ無い
	必修	4~6週間のインターンシップ
卒業生の状況	“1,631人の卒業生のうち、約1%がベトナムで進学、2%が日本で働いています。” - Mr. Nguyen Quy Dong (学生管理部長)	

2. 外国語教育

概要	
外国語の授業	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他 ()
必須の外国語科目	英語
最も学習されている外国語 (英語を除く)	日本語
英語の卒業要件	英語専攻 - 英語専攻以外 B1

日本語の教育

授業種別	卒業要件	卒業生の能力	学生数/年
<input type="checkbox"/> 日本語学科・学部	-	-	-
<input type="checkbox"/> 単位認定授業	-	-	-
<input checked="" type="checkbox"/> 単位が出ない授業	-	N4~N3	30~40
指導教員の数/能力*	ベトナム人 3	N2	日本人 -

B - 国際連携・協力等の実績

概要		
連携・協力等パートナーの国籍	タイ、台湾、イギリス、日本、フィリピン、ラオス、その他の数か国	
パートナーが最も多い国籍	タイ	
日本パートナーとの連携・協力等		
連携・協力等確立方法	相手側からのコンタクト	
パートナーの数	5	
連携・協力等形態	<input checked="" type="checkbox"/> 企業	日本における採用、セミナーの実施、日本語教育の支援
	<input type="checkbox"/> 教育機関	-
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (行政機関)	行政機関 日本で働くためのスキル訓練プログラム開設のための専門家派遣

C - 就職支援活動

ジョブフェア開催	10月
その他の活動	大学ウェブサイト上での求職情報の更新、パートナーとの採用契約



ミエンタイ建設大学

英語名

MIEN TAY CONSTRUCTION UNIVERSITY

略称

MTU

南部

公立

日本語教育あり

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
経済・経営	Accounting	○		
建設	Building Architecture	○		
	Interior Architecture	○		
	Graphic Architecture	○		
	Civil and Industrial Construction	○		
	Urban and Building Management	○		
	Bridge - Road Construction	○		
	Water Supply and Drainage Technique	○		
Environmental Engineering	○			

特に強みのある学部・専攻は何ですか？

“土木建設・産業建設および建築専攻は、志望学生数が多く、優秀な学生を輩出しています。多くの企業が採用したいと希望していますがミエンタイ建設大学の供給数は間に合いません。”

- Mr. Nguyen Ngoc Long Giang (国際協力部長)



建設演習室



建築演習室



ミエントイ建設大学

英語名

MIEN TAY CONSTRUCTION UNIVERSITY

略称

MTU

南部

公立

日本語教育あり

連携等事例

企業と協力等

連携先・協力先 Phu Bac Construction and Trade社、東レインターナショナル

時期 2019年

専攻 建設

内容 日本式の建設手法等に関して、セミナーを開催



セミナー

企業と連携

連携先・協力先 エクセルシオール、Tsubaki社

時期 2019年

専攻 建設

内容

- 日本語の教育サポート
- N3を取得した学生は、日本でエンジニア職として従事(毎年10人規模で学生を送ることを計画)



調印式

企業と連携

連携先・協力先 建設技能人材機構

時期 2019年

専攻 建設

内容

- 日本側から専門家を派遣して日本語とスキル訓練プログラムを開設
- 特定技能ビザによる日本での就業が目標



ミエントイ建設大学の演習施設を日本側が視察



ミエンタイ建設大学

英語名 MIEN TAY CONSTRUCTION UNIVERSITY

略称 MTU

南部

公立

日本語教育あり

大学関係者へのインタビュー



Mr. Nguyen Ngoc Long Giang
(国際協力部長)

「ミエンタイ建設大学は、パートナーと教育・訓練、科学研究、職業紹介に関して連携を進め、地域あるいは世界の高度な教育水準へと大学レベルを引き上げられれば、と考えています。」

人材採用について、日本企業等へのアドバイスがありますか？

“日本企業の採用方法は優れており、またミエンタイ建設大学の学生の質も良いため、苦労はしていません。より多くの企業から連絡が来るようにして、学生に紹介し、学生の選択肢を増やしたいと考えています。”

ベトナム政府や関連当局との関係はどうか？

“ミエンタイ建設大学は、建設省およびヴィンロン省人民委員会から関心を寄せられています。ミエンタイ建設大学は建設省の管轄下となりますが、他に建設省の管轄下にある大学は、ハノイ建築大学、ホーチミン市建築大学、ミエンチュン土木大学(ミエンチュンは中央という意味)、ミエンタイ建設大学の4校です。うちミエンタイ建設大学が建設省本部から離れた場所にあるため、「遠くに住んでいる子供が親からより心配される」と同様に、建設省から多くのサポートを受けています。

また、大学はヴィンロン省を支援するための活動を多く実施しているため、省からも多くの活動を通じて、支援を受けています。”

日本企業等との連携に、どのような内容を期待しますか？

対 企業

“現在のパートナーとの間で行っているように学生を採用してくれる企業と多く知り合いたいと希望しています。また、学生が日本のような先進国を体験し、そこで学ぶ機会を増やせれば、と考えています。ミエンタイ建設大学は、日本に渡航してすぐに働ける学生を育成したいので、訓練プロセスの支援や適切な設備の提供をお願いできればと思います。”

対 教育機関

“日本の研究機関や大学と研究協力をしたいですが、ミエンタイ建設大学は学際大学ではなく、比較的小規模であり、類似性を重視されるため、日本の大学とつながるプロセスは容易ではないと認識しています。ミエンタイ建設大学は北海道大学の教授を名誉教授として招聘することを予定していますが、コロナ感染拡大により、ベトナムへの渡航が困難な状況にあります。そのような施策を通じて、教育・訓練の向上につながるような、より多くのコネクションを開拓したいと考えています。”

日本企業等との連携について、課題を教えてください。

“日本語の専任講師がおらず、客員講師のみであるため、日本パートナーとの打合わせは英語で実施したいと考えていますが、日本側は日本語でのコミュニケーションを好むという点が課題の1つとなります。”

“日本の大学との研究協力に関しては、日本側が多くの分野を研究している一方で、ミエンタイ建設大学は建設分野のみとなるため、日本の大学とのコネクションを確立するのは容易でないと感じています。”



アンザン大学

(ベトナム国家大学ホーチミン市校傘下)

英語名	VIETNAM NATIONAL UNIVERSITY HO CHI MINH CITY - AN GIANG UNIVERSITY	南部
略称	VNUHCM - AGU	公立
		日本語教育なし

地域の特徴

- アンザン省は、メコンデルタ地域に属する
- 省内には平野地帯が広がり、自然条件に恵まれ、農業が盛んとなる
- 米や淡水魚介類の生産量は国内トップクラスとなる

統計 (2019年) ランキング

面積	3536.7 km ²	37/63
人口	1907.4 千人	8/63
FDI	65.4 百万 USD	41/63



アンザン大学 (ベトナム国家大学ホーチミン市校傘下)

沿革

- 1976年、アンザン教育短期大学が設立
- 1999年、メコンデルタ地域2番目の公立大学としてアンザン大学へと改称・更新
- 2019年、アンザン省人民委員会管轄下からベトナム国家大学ホーチミン市校傘下へと変更

特色

- ASEAN大学連合に加入
- 教育訓練省の教育認定基準に準拠していると認定されている

特に強みがある専攻

- Information Technology
- Food Technology
- Business Administration



基本情報

所在地	18 Ung Van Kiem, Dong Xuyen Ward, Long Xuyen City, An Giang Province (Can Tho 国際空港から約60 km)				
URL	https://www.agu.edu.vn/				
創立年	1999年				
課程 専攻数	<input type="checkbox"/> 中等職業学校	<input checked="" type="checkbox"/> 短期大学	<input checked="" type="checkbox"/> 学部	<input checked="" type="checkbox"/> 修士	<input type="checkbox"/> 博士
	-	19	35	4	-
学生数	12,003				
教員数	427				
日本留学経験のある教員	人数	4			
	例	Dr. Nguyen Tran Thien Khanh (科学管理および大学院研究部門の責任者)			
年間研究予算	90~130億 VND (約4036万円~5829万円)				

窓口情報 (国際連携担当の部門)

部署代表番号・メール	-	-
担当者 氏名・役職	Ms. Le Hai Yen	副部長
担当者 電話番号・メール	(84) 945 707 225	lhuyen@agu.edu.vn
対応可能な言語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他 ()	

学長 略歴

准教授- Dr. Do Van Thang
 年生まれ1964
 専攻分野：哲学
 2012年-現在：学長 アンザン大学
 2005年：博士課程修了 Ho Chi Minh National Academy of Politics
 1999年：修士課程終了 Hanoi University of Social Sciences and Humanities
 1989年：学部 Ho Chi Minh City Central Propaganda School 2





アンガン大学

(ベトナム国家大学ホーチミン市校傘下)

英語名	VIETNAM NATIONAL UNIVERSITY HO CHI MINH CITY - AN GIANG UNIVERSITY	南部
略称	VNUHCM - AGU	公立
		日本語教育なし

A - 教育体制			
1. 教育状況の概要			
教育方針(配分)	重点分野: 実用 (人材育成) 訓練時間の配分: 実践40%-理論60%		
インターンシップ	任意	イスラエルでの1年間のインターンシッププログラム	
	必修	全専攻にインターンシッププログラムがそれぞれ規定 (例えば 教育学専攻では「3年目に3週間、最終年に2か月」の2回のインターンシップが規定されている)	
卒業生の状況	“就職率は95%超となっています。” - Ms. Le Hai Yen (国際協力部の副部長)		
2. 外国語教育			
概要			
外国語の授業	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (フランス語, 中国語)		
必須の外国語科目	英語/フランス語/中国語/ドイツ語/日本語/韓国語 (卒業要件として、これらの言語のいずれかについて、一定のレベルの証明書の取得が必要となる)		
最も学習されている外国語 (英語を除く)	中国語		
英語の卒業要件	英語専攻	C1	英語専攻以外 B1
日本語の教育			
授業種別	卒業要件	卒業生の能力	学生数/年
<input type="checkbox"/> 日本語学科・学部	-	-	-
<input type="checkbox"/> 単位認定授業	-	-	-
<input type="checkbox"/> 単位が出ない授業	-	-	-
指導教員の数/能力	ベトナム人 -	-	日本人 -

B - 国際連携・協力等の実績		
概要		
連携・協力等パートナーの国籍	アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、スウェーデン、オランダ、オーストラリア、アイスランド、イスラエル、台湾、韓国、シンガポール、インドネシア、タイ、日本、フィリピン	
パートナーが最も多い国籍	アメリカ、台湾、日本、韓国、タイ	
日本パートナーとの連携・協力等		
連携・協力等確立方法	相手側からのコンタクト、大学講師のネットワーク、JICAプロジェクトを通じて	
パートナーの数	8	
連携・協力等形態	<input checked="" type="checkbox"/> 企業	廃棄物処理・リサイクルプロジェクトでの協力
	<input checked="" type="checkbox"/> 教育機関	講師が日本で研修を受けるための日本政府機関が実施するプログラムへの応募支援、研究、学生交換、JICAプロジェクトの一環として講師が日本で研修を実施
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (行政機関)	行政機関 JICAプロジェクトへの参加

C - 就職支援活動	
ジョブフェア開催	8月
その他の活動	大学ウェブサイト・Facebook上での求職情報の更新、講師による職業紹介、パートナーとのインターンシップおよび採用契約、学生採用面接の実施



アンガン大学

(ベトナム国家大学ホーチミン市校傘下)

英語名	VIETNAM NATIONAL UNIVERSITY HO CHI MINH CITY - AN GIANG UNIVERSITY
略称	VNUHCM - AGU

南部
公立
日本語教育なし

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
農業	Aquaculture	○	○	
	Husbandry	○	○	○
	Crop Science	○	○	○
	Rural Development	○	○	
	Food Technology	○	○	
	Biotechnology	○	○	
	Applied Biology	○	○	
	Plant Protection	○	○	
ビジネス	Corporate Finance		○	
	Accounting	○	○	
	International Economics		○	
	Business Administration	○	○	
	Finance – Banking		○	
	Marketing		○	
教育	Mathematics Teacher Education		○	
	Physics Teacher Education		○	
	Chemistry Teacher Education		○	
	Biology Teacher Education		○	
	Literature Teacher Education		○	
	History Teacher Education		○	
	Geography Teacher Education		○	
	English Teacher Education	○	○	

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
教育	Informatics Teacher Education	○		
	Primary Teacher Education	○	○	
	Kindergarten Teacher Education	○	○	
	Political Education		○	
	Music Teacher Education	○		
	Physical Teacher Education	○		
	Art Teacher Education	○		
	Education Management			○
エンジニアリング・テクノロジー	Information Technology	○	○	
	Software Engineering		○	
	Environmental Engineering Technology		○	
	Chemical Engineering Technology		○	
言語	English Language		○	
観光	Vietnamese Studies (Tourism Culture)	○	○	
その他	Natural resources and environment management		○	○
	Literature		○	
	Law		○	
	Philosophy		○	



アンザン大学

(ベトナム国家大学ホーチミン市校傘下)

英語名	VIETNAM NATIONAL UNIVERSITY HO CHI MINH CITY - AN GIANG UNIVERSITY
略称	VNUHCM - AGU

南部

公立

日本語教育なし

特に強みのある学部・専攻は何ですか？

“アンザン大学では、情報技術、食品技術、経営学に特に強みがあり、これらの専攻が近年、最も多くの学生の人気を集めています。

情報技術が強みとなっている要因はいくつかあります。「労働市場のニーズ」、「インダストリー革命4.0という時代の流れ」、「ベトナム政府がデジタル政府を志向している」等です。この専攻を選択した場合、将来的に仕事の選択肢が多くあります。また、アンザン大学の講師陣も充実しており、96%が修士号を取得しており、うち15%が博士号を取得していますし、多くの講師が留学経験者です。

食品技術は農学・天然資源学部での専攻の1つです。沢山の種類の食品に対する市場需要が高まっているため、この専攻の雇用機会も多くあります。アンザン大学の農学部は体制が充実しており、博士号を取得している講師の割合が学内で最も高くなっています。さらに、アンザン大学は農業地域であるメコンデルタに位置しています。

経営学分野についても多くの仕事の機会があります。”

- Ms. Le Hai Yen (国際協力副部長)



実験・演習室



アンガン大学

(ベトナム国家大学ホーチミン市校傘下)

英語名

VIETNAM NATIONAL UNIVERSITY HO CHI MINH CITY - AN GIANG UNIVERSITY

略称

VNUHCM - AGU

南部

公立

日本語教育なし

連携等事例

教育機関と連携

連携先・協力先 岡山大学

時期 2018年

専攻 環境、農業

内容

- 環境分野に関する研究
- 学生交換
- ベトナム側の講師が日本で教育を受けるためのさくらサイエンスプラン(産学官の連携により海外の若者を日本に招聘し日本の科学技術を体験するという事業)への応募支援

教育機関と連携

連携先・協力先

- JICA
- 佐賀大学

時期 2013年

専攻 農業

内容

- ベトナム側の学生2名が、日本側の大学へ1年間留学
- 佐賀大学およびアンガン大学が関与しているJICAによる「アンガン省における農地の土壌改良と農民所得向上支援」プロジェクトの一環として、アンガン大学の講師を佐賀大学に派遣して、「日本の大豆およびハマミズナ」についての研修を実施

企業と連携

連携先・協力先 青南商事

時期 2019年

専攻 環境

内容 廃棄物処理・リサイクルプロジェクトを実施

写真なし



カンファレンスにて日本の大豆を紹介



調印式



アンザン大学

(ベトナム国家大学ホーチミン市校傘下)

英語名	VIETNAM NATIONAL UNIVERSITY HO CHI MINH CITY - AN GIANG UNIVERSITY
略称	VNUHCM - AGU

南部
公立
日本語教育なし

大学関係者へのインタビュー



Ms. Le Hai Yen
(国際協力副部長)

「国際パートナーの中でも、日本は多くの活動を活発に行っている重要なパートナーとなります。今後は、日本語教育を充実させたいと考えており、言語面および研究面での教育・訓練に関してパートナーからの支援を期待しています。」

人材採用について、日本企業等へのアドバイスがありますか？

“以前、日本の企業が機械工学の学生をインターンシップで募集しに来たことがありますが、アンザン大学にはそのような専攻がないため、その分野での労働市場のニーズに合っていないのかもしれない。また、加えて、日本では看護師のニーズが高いことも分かっていますが、アンザン大学ではその要望に応えることはできません。どのような人材が提供できるか、必要か、お互いに情報交換をできれば、と考えています。アンザン大学では、日本企業のニーズに合わせた学部・専攻・プログラムを構築し、適した人材を提供できるようにできれば、と考えています。”

日本企業等との連携について、課題を教えてください。

“日本企業等との連携では、言語面での課題があります。教育機関同士の連携は英語でのコミュニケーションが可能ですが、企業は日本語のみの場合も多く、通訳を雇わなければならないので、コミュニケーションが難しく、時間がかかります。また、アンザン大学は研究に関して一定の能力を保有していますが、日本語が強みではないため、日本側は「日本語と研究能力の両方を持っている大学」の方に魅力を感じてしまうようです。”

また、資金面も重要な課題です。双方が共通のアイデアを持っていても、ベトナムの大学にはそれを実行するための十分な資金がないことがあります。学生交流でもそうです。大都市の学生は経済力や外国語能力が高く、アンザン省・メコンデルタ地域の学生の両親は裕福ではなく、日本への留学を支援する資金が限られています。授業料が免除されても、日本へ渡航するための飛行機チケットや生活費を支払うのに十分なお金を持っていないのが現状です。”

日本企業等との連携に、どのような内容を期待しますか？

対 企業

“日本企業の人材ニーズが大きいと認識しています。アンザン大学の学生は日本語ができませんが、優秀な学生は多いです。ただ、メコンデルタ地域に位置しているため、「大都市の学生とは競争できない」と自信が持てない学生もいます。そのため、企業は積極的に学生を探し、積極的に事業紹介を行い、興味のある学生が時間をかけて努力し、自信をもって応募できるように具体的な条件を示してもらえれば、と思います。”

次に、学生のインターンシップの機会を増やし、日本語人材だけでなく、英語人材へと広げてもらえれば、と思います。「1年以内に一定レベルの日本語力を身につけなければならない」という条件を設定しても良いと思いますが、当初の参加条件は英語にしてもらえれば、と考えています。アンザン大学周辺では、日本語センター・講師が少なく、日本語を学ぶための条件が整っていません。”

“卒業生を採用している企業から、卒業生の実務能力についての評価を聞き、研修プログラムの改善につなげたいと考えています。アンザン大学が研修プログラムを新しく開発する際には、より労働市場や企業に適したプログラムを開発するために、企業からのアイデアを募りたいです。”

“研究プログラムを実施する際には、企業からの資金的な支援を期待しています。企業が大学の研究成果を商品化するために利用することも可能であり、研究技術を企業に移転する準備ができており、企業のニーズに合わせて商品を変更することも可能です。あるいは、企業が特定のソフトウェアを設計したい場合、アンザン大学には企業のニーズに応じてソフトウェアを開発するチームがあり、お互いのニーズに応じて協力することができます。また、日本語教育や環境教育など、お互いが共通して興味を持っているプロジェクトに協力することができます。”

対 教育機関

“セミナーなど、日本の大学との学術交流を増やしたいです。また、学生や講師のグローバルな能力を高めるため、2+2、3+1、4+2(ベトナムで数年勉強+日本で数年留学)といった合同研修プログラムを開くように調整できれば、と思います。学生や講師の交流プログラムを増やすため、双方が日本語の壁を乗り越える必要があります。留学希望の学生にとっては日本語が大きな課題となっており、英語圏と日本語圏のどちらかを選択できる場合、学生は英語圏を選択します。資金面では、授業料免除に加えて、両大学とも学生のための宿泊施設を支援すべきだと思います。”

対 自治体 行政機関

“活動、留学機会、文化交流等、学生に対して有益な情報について、より多くの情報を提供して頂ければ有難いと考えています。また、アンザン大学の発展方針を調整できるよう、また、お互いが共通して興味を持っている分野でパートナーを見つけることができるような情報の発信も頂ければと思います。”



カントー大学

英語名 CAN THO UNIVERSITY

略称 CTU

南部

公立

日本語教育あり

地域の特徴

- カントー市は中央直轄市(ベトナムでは5中央直轄市がある)であり、ホーチミン市から南西約160kmに位置する
- メコンデルタ地域における最大の都市であり、複数の川が巡っており、国際空港が開港されている

統計 (2019年) ランキング

面積	1439 km ²	57/63
人口	1236 千人	30/63
FDI	69.1 百万 USD	39/63



カントー大学

沿革

- 1966年、カントー大学研究所が設立
- 1975年、カントー大学へと変更

特色

- QS世界大学ランキング(英国のQS社が行う大学評価)にて、農林業分野の251-300位に入っている
- 国家重点大学
- メコンデルタ地域の文化および科学技術センター
- ASEAN大学連合に加入
- 2019年、JICA理事長賞(国際協力事業を通じて開発途上国の人材育成や社会発展に多大な貢献をされた個人・団体が対象)を受賞
- 教育訓練省の教育認定基準に準拠していると認定されている

特に強みがある専攻

- Agriculture
- Aquaculture
- Technology majors
- Environment majors



基本情報

所在地	3/2 Street, Xuan Khanh Ward, Ninh Kieu District, Can Tho City (Can Tho 国際空港から約10 km)				
URL	https://www.ctu.edu.vn/				
創立年	1966年				
課程 専攻数	<input type="checkbox"/> 中等職業学校	<input type="checkbox"/> 短期大学	<input checked="" type="checkbox"/> 学部	<input checked="" type="checkbox"/> 修士	<input checked="" type="checkbox"/> 博士
	-	-	109	48	19
学生数	47,907				
教員数	1,080				
日本留学経験のある教員	人数	120			
	例	Dr. Le Viet Dung (教育・研究委員会会長)			
年間研究予算	1,600億 VND (約7.1億円、大学予算および政府やパートナーとの研究プログラムの予算)				

窓口情報 (国際連携担当の部門)

部署代表番号・メール	(84) 292 3838 262	-
担当者 氏名・役職	Dr. Le Van Lam	部長
担当者 電話番号・メール	(84) 292 3872 160	lvlam@ctu.edu.vn
対応可能な言語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他 ()	

学長 略歴

教授 - Dr. Ha Thanh Toan
 1963年生まれ
 専攻分野: N/A
 2012年-現在: 学長 カントー大学
 2011年-2017年: 国会のメンバー
 1999年: 博士 University of Illinois at Urbana-Champaign - アメリカ
 1995年: 修士 University of Illinois at Urbana-Champaign - アメリカ
 1986年: 学部 カントー大学





カントー大学

英語名 CAN THO UNIVERSITY

略称 CTU

南部

公立

日本語教育あり

A - 教育体制			
1. 教育状況の概要			
教育方針(配分)	重点分野: 研究 訓練時間の配分: 実践10~40%-理論60~90%(専攻によって異なる)		
インターンシップ	任意	ベトナムおよびその他の国でのインターンシッププログラム	
	必修	2回のインターンシップ	
卒業生の状況	<p>“カントー大学では、これまでに累計70万人超の卒業生があり、その多くはメコンデルタ地域で働いています。同地域の地方自治体の職員の50%超がカントー大学出身者です。カントー大学の強みの1つは、地方自治体や企業との連携であり、95%を超える非常に高い就職率につながっています。学生の約30~40%がホーチミン市に行くか、進学するか、他の国で働いていますが、ほとんどは最終的にメコンデルタ地域に戻ってきますので、カントー大学は同地域の経済および社会的発展に貢献しています。”</p> <p>- Dr. Ha Thanh Toan (学長)</p>		
2. 外国語教育			
概要			
外国語の授業	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他(フランス語、中国語)		
必須の外国語科目	英語		
最も学習されている外国語(英語を除く)	フランス語		
英語の卒業要件	英語専攻	C1	英語専攻以外 A2
日本語の教育			
授業種別	卒業要件	卒業生の能力	学生数/年
<input type="checkbox"/> 日本語学科・学部	-	-	-
<input type="checkbox"/> 単位認定授業	-	-	-
<input checked="" type="checkbox"/> 単位が出ない授業	-	N/A	N/A
指導教員の数/能力	ベトナム人 10	N2 日本人	0 -

B - 国際連携・協力等の実績		
概要		
連携・協力等パートナーの国籍	日本、オランダ、ベルギー、デンマーク、フランス、台湾、タイ、オーストラリア、英国、米国、ドイツ、韓国、その他東南アジア	
パートナーが最も多い国籍	日本	
日本パートナーとの連携・協力等		
連携・協力等確立方法	講師・同窓生による紹介、大学上層部のネットワーク、第三者からの紹介、ODAや技術協カプロジェクトを通じて	
パートナーの数	40超	
連携・協力等形態	<input checked="" type="checkbox"/> 企業	機器・設備への投資、研究、カントー大学内に研究機関を開設、奨学金、インターンシップ、カンファレンスの実施、トレーニングプログラムの開発
	<input checked="" type="checkbox"/> 教育機関	研究、学生・講師の交換、奨学金、カンファレンス・セミナーの実施、トレーニングプログラムの開発
	<input checked="" type="checkbox"/> その他(行政機関)	行政機関 学科の開設支援、機器・設備への投資、研究、トレーニングプログラムの開発

C - 就職支援活動	
ジョブフェア開催	4月、12月
その他の活動	学部・同窓生による職業紹介



カントー大学

英語名

CAN THO UNIVERSITY

略称

CTU

南部

公立

日本語教育あり

専攻リスト

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
農業・水産業	Agricultural Extension	○		
	Breeding	○	○	○
	Agronomy	○		
	Crop Science	○	○	○
	Plant Protection	○	○	○
	Fruits, Vegetables & Landscape Technology	○		
	Plant Genetics And Varieties		○	
	Agricultural Business	○		
	Agricultural Economics	○	○	○
	Rural Development	○	○	○
	Agricultural System		○	
	Silviculture	○		
	Aquaculture	○	○	○
	Aquatic Pathology	○		
	Pathology & Treatment of Animal Diseases			○
	Fishery Management	○	○	
Veterinary	○	○		
ビジネス	Business Administration	○	○	○
	International Business	○		
	Marketing	○		
	Commercial Business	○		
	Finance - Banking	○	○	○

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
ビジネス	Accounting	○		
	Auditing	○		
	Economics	○		
教育	Primary Education	○		
	Civic Education	○		
	Physical Education	○		
	Mathematics Pedagogy	○		
	Informatics Pedagogy	○		
	Physics Pedagogy	○		
	Chemistry Pedagogy	○		
	Biology Pedagogy	○		
	Literature Pedagogy	○		
	History Pedagogy	○		
	Geography Pedagogy	○		
	English Pedagogy	○		
	Subject Teaching Theory & Methodology		○	
	Education Management		○	
French Pedagogy	○			
エンジニアリング・テクノロジー	Biotechnology	○	○	○
	Applied Biology	○		
	Applied Mathematics	○		
	Computer Science	○	○	



カントー大学

英語名

CAN THO UNIVERSITY

略称

CTU

南部

公立

日本語教育あり

専攻リスト

分野・専攻	課程		
	学部	修士	博士
Computer Network and Data Communication	○		
Software Technology	○		
Information System	○	○	○
Information Technology	○		
Chemical Engineering Technology	○	○	
Industrial Management	○		
Mechanical Engineering	○		
Mechatronic Engineering	○		
Electrical Engineering	○	○	
Electronic Engineering - Telecommunications	○		
Computer Engineering	○		
Control Engineering & Automation	○	○	○
Materials Engineering	○		
Technical Physics	○		
Food Technology	○	○	○
Postharvest Technology	○		
Seafood Processing Technology	○		
Construction Engineering	○		
Marine Construction Engineering	○	○	
Traffic Engineering Construction	○		
Water Resources Engineering	○		

エンジニアリング・テクノロジー

専攻リスト

分野・専攻	課程		
	学部	修士	博士
環境	Natural Resources & Environment Management	○	
	Soil & Water Environment		○
	Natural Resources Economics	○	
	Soil Science	○	○
	Environmental Engineering	○	○
	Environmental Science	○	○
	Land Management	○	
			○
言語	Vietnamese Studies	○	
	English Language	○	
	French Language	○	
薬学	Pharmaceutical	○	
観光	Travel & Tourism service Administration	○	
科学	Biology	○	
	Chemistry	○	
	Microbiology		
	Organic Chemistry		○
	Theoretical Physics & Mathematical Physics		○
	Theoretical Chemistry & Physical Chemistry		○
	Analytic Mathematics		○
	Probability Theory & Mathematical Statistics		○



カントー大学

英語名 CAN THO UNIVERSITY

略称 CTU

南部

公立

日本語教育あり

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
その他	Law	○		
	Economic Law		○	
	Philosophy	○		
	Ecology		○	
	Literary	○		
	Politics	○		
	Sociology	○		
	Information - Library	○		

特に強みのある学部・専攻は何ですか？

“カントー大学の強みは、科学研究およびトレーニングにおける国際的および地域的な協力からのリソースを得られている点になります。特に強みのある専攻は、農業と水産養殖となります。この2分野は、メコンデルタの社会・経済的発展に貢献しているため、多くのリソースが注がれています。

「国際社会の流れ」と「メコンデルタ地域の問題解決」という2つの背景から「技術を応用するという課題を解決するためのテクノロジー分野」および「環境科学、天然資源や土地保全等と環境分野」も盛んであり、カントー大学でも力を入れている専攻となります。”

- Dr. Ha Thanh Toan (学長)



農業専攻の実験室



自習室



リサーチセンター



カントー大学

英語名 CAN THO UNIVERSITY

略称 CTU

南部

公立

日本語教育あり

連携等事例

行政機関と連携

連携先・協力先 JICA

時期 1969年

専攻 農業、水産養殖、環境

内容 日本政府によるODAにより、農業、水産、環境分野における研究・教育能力強化を目標として、カントー大学強化附帯プロジェクトが実施される

企業と連携

連携先・協力先 ヤンマーベトナム

時期 2012年

専攻 テクノロジー

内容

- 2013年、農業の機械化に関する応用研究を目的として、カントー大学内にヤンマー農業研究所を開設
- ヤンマー社は、カントー大学の機械工学の学生・講師のための教育・トレーニング用の農業機器を寄贈
- 日本での1ヶ月間のインターンシップを実施
- 農業技術に関するカンファレンスの実施

企業と連携

連携先・協力先 三菱電機ベトナム

時期 2008年

専攻 テクノロジー

内容

- カントー大学内に、高度スキル人材の育成、オートメーション技術の移転等を目的としたFAソリューションセンターを開設
- 機器・設備の贈与 (2020年)
- 2017年・19年に学生に奨学金を授与



JICA理事長賞の授賞式 (2019年)



大学内に開設されたヤンマー農業研究所



大学内に開設されたFAソリューションセンター



カントー大学

英語名	CAN THO UNIVERSITY
略称	CTU

南部
公立
日本語教育あり

大学関係者へのインタビュー



Dr. Ha Thanh Toan
(学長)

「カントー大学は、国際的なパートナーとの間で200超のMOUを締結しており、国際協力が強みの1つとなっています。オランダ政府との1,500万ドル、ベルギー政府との800万ドル、デンマーク政府との700万ドルといった大規模プロジェクトを実施しています。また、日本からODAを通じてカントー大学農学部改善計画(1996年)が実施される等、継続して支援を受けており、これまで累計2,500万ドル、設備・施設や人材育成に多くの貢献を頂きました。」

日本企業等と貴学が共同で取り組んだ研究活動について教えてください。

“カントー大学は、日本との共同研究の経験が豊富です。近年、「カントー大学を国際的な大学水準まで発展させ、メコンデルタ地域の発展に貢献する」ことを目的として、日本のODAプロジェクト「カントー大学強化附帯プロジェクト」が実施されています。本プロジェクトは日本政府と約1億ドルの借款契約をし、2015年から2022年までの期間で進められています。本プロジェクトの内容は、人材育成、施設開発、研究機器購入、研究プログラムの実施、コンサルティングサービス等が含まれています。

研究プログラムについては、日本の9大学と協力し、メコンデルタの発展に不可欠な3分野である農業、養殖、環境の分野に焦点を当てた36の研究を総予算900億ドンで実施しており、日本人教授にも直接参加いただいています。そのプログラムに参加しているカントー大学の講師・学生は、日本に渡航し、研究・分析方法を学んだり国際的な水準の学術論文執筆を進めています。

他にも、多数の日本企業とも連携しています。例えば、ヤンマー社は学内にヤンマー農業研究所を開設し、カントー大学の講師・学生を雇用し、メコンデルタ地域の現実の課題を研究し、地域の特徴に合わせた設備設計に貢献しています。これまで累計200万ドルを投資し、研究プロジェクト10以上を実施しました。

また、タケショー社は押出機等の機器を持ち込み、カントー大学と共同で農業廃棄物を加工し、新製品を開発しています。最近、タケショーとカントー大学と共同で製品商標を日本で申請し、タケショー社はその製品を製造するために工場建設を進めています。”

日本企業等との連携に、どのような内容を期待しますか？

対 企業

“日本企業がメコンデルタ地域の利点を活用した形での投資を望んでいます。例えば「農業や養殖の副産物を活用しているタケショー社、「メコンデルタの農業・養殖・トラフィックの課題について、日本の設備で対応したいと考えている」ヤンマー社といったような形です。

メコンデルタ地域の未発達な分野である輸送や物流への投資、農・水産物やポストハーベスト加工技術の適用等、メコンデルタ地域の価値を高めることも期待しています。日本企業はこれらの課題について、非常に経験豊富であり、メコンデルタ地域に属する全省が日本からの投資を優先したいと考えていると思います。また、ベトナム政府は、メコンデルタ地域の製品を直接、国外に輸出できるよう、今後5年間で、空港・港湾整備に多額の投資を行う予定があります。”

対 全ての連携

“メコンデルタに属する各省およびカントー大学は、メコンデルタ地域から学生を受け入れている日本の都道府県や人材支援機関と連携を深めたいと考えており、また日本の大学・企業等については、スタッフ・学生をメコンデルタ地域に送り、文化・技術、現地のマネジメント知識を交換することを期待しています。

メコンデルタ地域は日本とより密接な関係を築きたいと考えており、日本側が適切な技術を導入頂くことができれば、地域の土地、人材、資源を活用して、日本市場に適した製品を作りたいと考えています。”

人材採用について、日本企業等へのアドバイスがありますか？

“日本企業との連携方法で最も効果的なのは、企業が学生を受け入れて3～6ヶ月間の実習を行う研修プログラムです。例えば、10名のエンジニアが必要な場合、20名程度の学生を受け入れ、3～6ヶ月間会社で働くことになりませんが、その間に、スキルの高い学生を見つけて選択することができます。この活動を通じて、学生が卒業した後、再訓練や追加訓練のための時間を無駄にすることなく仕事に就くことができ、訓練時間の短縮へとつながります。ベトナムの大学の欠点として、新卒学生の職務スキルがまだ十分でないという点が挙げられますが、そのようなプログラムを実施することで、企業のニーズを満たす形で学生のスキルを訓練することができます。”



カントー工学技術大学

英語名	CAN THO UNIVERSITY OF ENGINEERING AND TECHNOLOGY
略称	CTUET

南部
公立
日本語教育あり

地域の特徴

- カントー市は中央直轄市(ベトナムでは5中央直轄市がある)であり、ホーチミン市から南西約160kmに位置する
- メコンデルタ地域における最大の都市であり、複数の川が巡っており、国際空港が開港されている

統計 (2019年) ランキング

面積	1439 km ²	57/63
人口	1236 千人	30/63
FDI	69.1 百万 USD	39/63



カントー工学技術大学

沿革

- 1981年、ハウザン省人民委員会がハウザン経済技術学校を設立(2004年、カントー市はハウザン省から分離されて成立している)
- 2013年、複数回の改称を経て、既存の学校の人的資源および設備を利用し、カントー工学技術大学が設立

特色

カントー市人民委員会の管轄下となる唯一の公立大学

特に強みがある専攻

- Food Technology
- Software Technology
- Mechatronic Engineering Technology
- Electrical and Electronic Engineering Technology



基本情報

所在地	256 Nguyen Van Cu, An Hoa Ward, Ninh Kieu District, Can Tho (Can Tho 国際空港から約9 km)				
URL	https://ctu.edu.vn/				
創立年	2013年				
課程 専攻数	<input type="checkbox"/> 中等職業学校	<input type="checkbox"/> 短期大学	<input checked="" type="checkbox"/> 学部	<input type="checkbox"/> 修士	<input type="checkbox"/> 博士
	-	-	15	-	-
学生数	3,968				
教員数	200				
日本留学経験のある教員	人数	1			
	例示	Dr. Le Vu Lan Phuong (生化学プログラムリーダー)			
年間研究予算	10億 VND (約448万円)				

窓口情報 (国際連携担当の部門)

部署代表番号・メール	-	phongqlkhdn@ctu.edu.vn
担当者 氏名・役職	Dr. Nguyen Dang Hoa Nghiem	部長
担当者 電話番号・メール	(84) 935 611 408	ndhnghiem@ctu.edu.vn
対応可能な言語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ()	

学長 略歴

准教授- Dr. Huynh Thanh Nha
 専攻分野: 経済
 2018年-現在: 学長 カントー工学技術大学





カントー工学技術大学

英語名 CAN THO UNIVERSITY OF ENGINEERING AND TECHNOLOGY
略称 CTUET

南部

公立

日本語教育あり

A - 教育体制			
1. 教育状況の概要			
教育方針(配分)	重点分野: 実用 (人材育成) 訓練時間の配分: 実践3分の1-理論3分の2 (専攻によって異なる)		
インターンシップ	任意	ベトナムでのインターンシップ	
	必修	1回のインターンシップ あるいは 必修でない (専攻によって異なる)	
卒業生の状況	"データがありません." - Mr. Le Hong Tuyen (国際協力副部長)		
2. 外国語教育			
概要			
外国語の授業	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他 ()		
必須の外国語科目	英語		
最も学習されている外国語 (英語を除く)	日本語		
英語の卒業要件	英語専攻	英語専攻以外	TOEIC 450
日本語の教育			
授業種別	卒業要件	卒業生の能力	学生数/年
<input type="checkbox"/> 日本語学科・学部	-	-	-
<input type="checkbox"/> 単位認定授業	-	-	-
<input checked="" type="checkbox"/> 単位が出ない授業	-	N4	20
指導教員の数/能力*	ベトナム人 -	-	日本人 -

B - 国際連携・協力等の実績	
概要	
連携・協力等パートナーの国籍	ベルギー、ドイツ、ニュージーランド、韓国、タイ、台湾、日本
パートナーが最も多い国籍	(大体、同等)
日本パートナーとの連携・協力等	
連携・協力等確立方法	第三者からの紹介
パートナーの数	2
<input type="checkbox"/> 企業	-
連携・協力等形態 <input checked="" type="checkbox"/> 教育機関	日本語クラスの開講、 日本語を勉強するために日本に学生を送る、日本で日本語講師をトレーニングするための支援
<input type="checkbox"/> その他	-

C - 就職支援活動	
ジョブフェア開催	3月、9月
その他の活動	大学ウェブサイト上での求職情報の更新

* 日本語クラスを教えている講師はいるが、大学の講師ではなく、連携パートナー等から派遣される講師となる



カントー工学技術大学

英語名

CAN THO UNIVERSITY OF ENGINEERING AND TECHNOLOGY

略称

CTUET

南部

公立

日本語教育あり

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		学部	修士	博士
経済・経営	Logistics and supply chain management	○		
エンジニアリング・テクノロジー	Mechatronic Engineering Technology	○		
	Construction Engineering Technology	○		
	Control Engineering & Automation Technology	○		
	Data Science	○		
	Information Technology	○		
	Food Technology	○		
	Information System	○		
	Software Technology	○		
	Construction Management	○		
	Computer Science	○		
	Biotechnology	○		
	Industrial Management	○		
	Industrial System Engineering	○		
Electrical & Electronic Engineering Technology	○			

特に強みのある学部・専攻は何ですか？

“食品技術、ソフトウェア技術、メカトロニクス工学技術、電気電子工学技術が強みがある専攻です。これらの専攻の人材への市場ニーズが高いため、卒業生の就職率が高く、志望学生数が多いため、出願倍率も高くなっています。

食品技術専攻には研究所4つ、22人の講師を抱えており、設備には年間3億ドンを投資しています。

ソフトウェア技術専攻は、人材需要が非常に高いです。学生数も多く、コンピュータラボ8つ、およびカントー市情報通信部の職員を含む経験豊富な講師がいます。食品技術およびソフトウェア技術は現在、修士号課程の設置許可を求めて、品質認定を進めています。

メカトロニクス工学技術は、職業訓練トレーニングと技術移転を目指しており、施設に対する投資を行っています。”

- Mr. Le Hong Tuyen (国際協力副部長)



カントー工学技術大学

英語名

CAN THO UNIVERSITY OF ENGINEERING AND TECHNOLOGY

略称

CTUET

南部

公立

日本語教育あり

連携等事例

教育機関と連携

- 連携先・協力先 岡山外語学院
- 時期 2019年
- 専攻 日本語教育
- 内容 カントー工学技術大学と岡山外語学院とMinh Tu社の3者間での協力となる
- 岡山外語学院とMinh Tu社がカントー工学技術大学で日本語クラスを開講
 - 岡山外語学院は、岡山外語学院で日本語を学ぶためにカントー工学技術大学の学生を受入
 - 岡山外語学院は、日本語教師の養成を支援
 - Minh Tu社は日本での仕事を紹介

写真なし

教育機関と協力等

- 連携先・協力先 Kobe Computer Institute
- 時期 2019年
- 専攻 情報技術
- 内容 具体的な連携はこれからとなる



調印式



カントー工学技術大学

英語名	CAN THO UNIVERSITY OF ENGINEERING AND TECHNOLOGY
略称	CTUET

南部
公立
日本語教育あり

大学関係者へのインタビュー

写真なし

Mr. Le Hong Tuyen
(国際協力副部長)

「カントー工学技術大学はカントー市人民委員会の管轄下となる唯一の公立大学であるため、市としても大学が外国との連携体制を発展させ、カントー市により優れた人材を供給できるようにしたいと考えています。
またカントー市は日本とのパートナーシップを促進したいと考えています。」

ベトナム政府や関連当局との関係はどうか？

「カントー工学技術大学はカントー市人民委員会の管轄下となります。カントー市には7大学あり、うち公立は3校、カントー工学技術大学以外の公立大学は省庁の管轄下となっています(カントー医科薬科大学およびカントー大学)。
カントー工学技術大学の第1キャンパスは1.2ヘクタールと小規模になりますが、市から17.2ヘクタールの土地を提供され、第2キャンパスを現在建設中であり、今年中に運営を開始する予定です。」

日本企業等との連携に、どのような内容を期待しますか？

対 企業

「日本企業との応用研究での協力を希望しています。また、設立から7年が経過したばかりであり、設備は十分との声もありますが、海外の大学はおろか、ベトナムの主要大学と比較するとまだ不足している部分もあります。ですので、特にメカトロニクス、電子工学、情報技術分野の機器・設備のスポンサーをお願いできれば有難いと考えています。」

対 教育機関

「科学技術分野の講師や学生の文化交流および研究面での協力ができれば、と考えています。」

対 全ての連携

「学生の外国語力はまだ弱いです。(単位が出ない日本語コースを実施しましたが)日本語コースの履修を希望する学生も多くないため、大学側は日本語研修への投資を躊躇していますが、カントー工学技術大学と共に取り組む日本語研修に関しての協力者が現れれば、成功すると期待しています。」

人材採用について、日本企業等へのアドバイスがありますか？

「まず、日本の企業がN4といった日本語能力を求めるならば、大学の課外時間あるいは週末に、無料で日本語を勉強できるようにして、学生の日本語学習の意欲を上げなければなりません。もし、お金をかけて勉強しなければならぬのであれば、参加する意欲を減退させてしまうでしょう。」

第二に、企業および大学は「日本でインターンシップをした場合、ベトナムと比べてどれだけ多くの収入を得ることができるか」、「日本で働いた後にどれだけのお金を貯めることができるか」、「インターンシップの時間や場所などの具体的な情報」を学生に伝える必要があります。学生の日本語学習意欲が課題となっているため、やはり、最も大事なのは無料での日本語研修だと考えています。」



テイドー大学

英語名 TAY DO UNIVERSITY

略称 TDU

南部

私立

日本語教育あり

地域の特徴

- ・ カントー市は中央直轄市(ベトナムでは5中央直轄市がある)であり、ホーチミン市から南西約160kmに位置する
- ・ メコンデルタ地域における最大の都市であり、複数の川が巡っており、国際空港が開港されている

統計 (2019年)

ランキング

面積	1439 km ²	57/63
人口	1236 千人	30/63
FDI	69.1 百万 USD	39/63

テイドー大学

沿革

- ・ 2004年、カントー市の前指導者層であった人物達が、メコンデルタ地域およびその地域の人材育成に貢献するため、カントー市に大学を設立する計画について検討を進めることとした
- ・ 2006年、私立大学としてテイドー大学が設立

特色

- ・ メコンデルタ地域における最初の私立大学

特に強みがある専攻

- ・ Nursing
- ・ Pharmacy
- ・ Food Technology
- ・ Construction Engineering Technology



基本情報

所在地	68 Tran Chien, Le Binh Ward, Cai Rang District, Can Tho (Can Tho 国際空港から約16 km)				
URL	https://www.tdu.edu.vn/				
創立年	2006				
課程 専攻数	<input type="checkbox"/> 中等職業学校	<input checked="" type="checkbox"/> 短期大学	<input checked="" type="checkbox"/> 学部	<input checked="" type="checkbox"/> 修士	<input type="checkbox"/> 博士
	-	2	25	4	-
学生数	7,300				
教員数	499				
日本留学経験のある教員	人数	3			
	例示	Dr. Nguyen Van Ba (バイオテクノロジー専攻の講師)			
年間研究予算	110億 VND (約4933万円)				

窓口情報 (国際連携担当の部門)

部署代表番号・メール	(84) 2923 527 896	academicinfo@tdu.edu.vn
担当者 氏名・役職	Dr. Vo Thi Guong	部長
担当者 電話番号・メール	(84) 918 494 775	vtguong@ctu.edu.vn
対応可能な言語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他 ()	

学長 略歴

准教授- Dr. Tran Cong Luan
 1953年生まれ
 専攻分野: 薬学
 2015年-現在: 学長 テイドー大学
 1991年: 博士 Institute of Natural Fibres and Medicinal Plants – ポーランド
 1978年: 学部 ホーチミン市医科薬科大学





テイドー大学

英語名 TAY DO UNIVERSITY

略称 TDU

南部

私立

日本語教育あり

A - 教育体制

1. 教育状況の概要

教育方針(配分)	重点分野: 実用(人材育成) 訓練時間の配分: 実践30%~45%-理論55%~70% (専攻によって異なる)		
インターンシップ	任意	まだ無い	
	必修	1回のインターンシップ	
卒業生の状況	"13人の卒業生が日本で働いています。卒業生の就職率は80-90%となっていますが、進学率や日本企業での就業状況に関するデータがありません。" - Dr. Vo Thi Guong (国際協力部長)		

2. 外国語教育

概要

外国語の授業	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他()		
必須の外国語科目	英語		
最も学習されている外国語 (英語を除く)	日本語		
英語の卒業要件	英語専攻	TOEIC 850	英語専攻以外 TOEIC 450

日本語の教育

授業種別	卒業要件	卒業生の能力	学生数/年
<input type="checkbox"/> 日本語学科・学部	-	-	-
<input type="checkbox"/> 単位認定授業	-	-	-
<input checked="" type="checkbox"/> 単位が出ない授業	-	N5~N3	19
指導教員の数/能力	ベトナム人 2	N2	日本人 -

B - 国際連携・協力等の実績

概要

連携・協力等パートナーの国籍	日本、台湾、韓国、マレーシア	
パートナーが最も多い国籍	台湾	
日本パートナーとの連携・協力等		
連携・協力等確立方法	相手側からのコンタクト	
パートナーの数	1	
連携・協力等形態	<input checked="" type="checkbox"/> 企業	日本における採用、日本語および職業スキルを教えるために専門家を派遣
	<input type="checkbox"/> 教育機関	-
	<input type="checkbox"/> その他()	-

C - 就職支援活動

ジョブフェア開催	10月
その他の活動	大学ウェブサイト上での求職情報の更新、学内掲示板に求職情報を掲示、パートナーとの採用契約



テイドー大学

英語名 TAY DO UNIVERSITY

略称 TDU

南部

私立

日本語教育あり

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		短期大学	学部	修士
経済・経営	Accounting		○	○
	Finance - Banking		○	○
	Business Administration		○	○
	International Business		○	
	Hotel Management		○	
	Marketing		○	
外国語	English Language		○	
	Literature		○	
医学・薬学	Pharmacy	○	○	
	Pharmacology - Clinical pharmacy			○
	Nursing	○	○	
	Nutrition		○	
	Veterinary Medicine		○	
エンジニアリング・テクノロジー	Food Technology		○	
	Information Technology		○	
	Construction Engineering Technology		○	
	Electrical and Electronic Engineering		○	
観光	Vietnamese Studies (Tourism majors)		○	
	Tourism		○	
	Travel and Tourism Services Administration		○	

専攻リスト

分野・専攻		課程		
		短期大学	学部	修士
その他	Land Management		○	
	Aquaculture		○	
	Natural Resources and Environment Management		○	
	Economic Law		○	
	Multimedia		○	
	Livestock		○	

特に強みのある学部・専攻は何ですか？

“看護、薬学、食品技術、建設工学技術は、社会のニーズを満たすために、高度なトレーニングプログラムとなるよう継続的に改善を重ねています。講師の品質向上にも努めていますし、また、学生の演習に必要な教育用設備も整備しています。理論的研究に加えて、学生は大学と提携している企業で実習を積む機会を設けており、実際の就業状況を理解することで専門的なスキル向上へとつながっています。卒業前に、TOEIC試験と職業技能コースを受講しているため、より実践的な就職の準備ができているため、これらの専攻の卒業生は、大学で学んだ専攻と同分野で就職できる割合が高いです。”

- Dr. Vo Thi Guong (国際協力部長)



看護の実習機器



テイドー大学

英語名 TAY DO UNIVERSITY

略称 TDU

南部

私立

日本語教育あり

連携等事例

企業と連携

連携先・協力先 ツクイ

時期 2017年

専攻 看護、薬学

- 内容
- 10ヶ月間の日本語研修(N5、N4、N3) および2週間の日本の基準に沿った高齢者介護のための介護スキル研修への協力
 - ツクイグループが運営する日本の介護施設での従事を希望する卒業生の採用



日本語およびスキル講習

写真なし



日本での就業を説明するセミナー



テイドー大学

英語名 TAY DO UNIVERSITY

略称 TDU

南部

私立

日本語教育あり

大学関係者へのインタビュー



Dr. Vo Thi Guong
(国際協力部長)



Dr. Phan Ngoc Thuy
(訓練部長兼看護・薬学副部長)

「日本での就労プログラムは、学生にとって日本での学習・体験、高収入、日本語能力の向上につながる良い機会だと評価しています。テイドー大学は、今後も日本側と連携して、様々なプログラムの拡充に努めていきたいと考えています。」

人材採用について、日本企業等へのアドバイスがありますか？

“企業がテイドー大学を訪問し、企業の紹介や採用計画、その企業への就業要件等を紹介してくれることを期待しています。卒業前の3・4年生の学生に対しても、積極的に語学を学び、研究分野を選択肢、卒業後に何ができるか、日本企業といった外資系企業にアプローチできるか等、学生自身の方向性を決定するために、それらの情報を把握することは有益です。

企業が黙々と採用活動をしていて、多くの学生が知らない状況では、両者のマッチングがうまくできず、採用が難しくなります。企業と大学で協力し文化交流等を行い、学生が努力し、学び、何に投資すべきか知り、目標を立てることができるように、学生に求める条件を設定して周知頂ければ、と思います。それらを通じて、資質が高く、就業要件を満たす学生を採用することができます。”

日本企業等との連携に、どのような内容を期待しますか？

対 企業

“日本企業に就職したい、日本に留学したい学生(看護学生に限らず)のために、専門家を派遣し、日本語講座を開設するなど、日本語人材の育成への協力を期待しています。”

“日本へ輸出あるいはベトナム国内消費が可能な製品の商品化を実現するため、製品開発のための科学研究で協力したいです。そのような成功へとつなげるためには、企業側でニーズのある専攻・分野において、テイドー大学の教育・研修プログラム初期段階から連携を開始し、学生が日本やベトナムの日系企業で交流・実習できる環境を整えたり、また企業の要望に基づいて大学側で研修プログラムを調整したりできる協力体制を構築する必要がありますと考えています。また、企業は要件を満たした卒業生を採用することができます。テイドー大学では、学生の意欲を高めるために企業を招いてセミナー講演をしたり、企業にアンケートを送って研修プログラムの提案を求めたりしていますが、現在のところ、研修プロセスまで関与頂けている企業はありません。”

対 教育機関

“学生や講師の交流など、様々な形で協力が可能です。優秀な学生に対して日本での実習機会を与えたいですし、逆にテイドー大学で日本人学生を3～6ヶ月間のインターンシップに受け入れる等もできるかもしれません。また、双方の講師が互いの講義に参加する等も考えられます。”

“2+2あるいは3+1(ベトナムで2,3年勉強+日本に2,1年留学)形式での共同教育プログラムも実施したいと考えています。例えば、日本側の大学が規定する日本語能力等の要件を満たした場合、日本での学士課程への留学や修士号課程への入学ができるといった仕組みを導入したいです。”

“メコンデルタ地域の大学間の研究協力は非常に限られています。テイドー大学の講師は、国際会議に参加したり、九州大学等の他の大学と知り合いになったりし、研究テーマで協力していますが、それはあくまでも研究者個人間での関係であり、大学間の連携はできていません。

テイドー大学はメコンデルタ地域の科学研究において、日本の大学と協力していきたいと考えています。テイドー大学には研究に強い専攻も多くあります。看護学・薬学、経営学、金融・銀行学では、学士レベルの研究テーマ、修士課程の研究テーマを含む多くの研究が行われており、研究能力は優れています。次いで、バイオテクノロジー、養殖、食品工学がそれに続きます。また、電気電子工学、建設、IT等も強く、観光分野は研究に興味があります。”

対 行政機関

“相互訪問、研修のサポート、学生が日本の政府機関で勉強する機会があったり、公共経営・教育経営についてのセミナー開催等をして頂ければ、学生に役立つと考えています。”

第2章: 連携事例集 ~ベトナム地方大学との連携実績がある日本企業等へのインタビュー~

インタビュー概要(再掲)

ベトナム地方大学と連携実績を有する日本の企業・大学・自治体様にインタビューを実施し、連携に関する内容・経験を連携事例集として紹介しています

インタビュー実施数	12
選定方法	インターネット検索および地方大学からの情報提供等で地方大学と連携に関するニュースを参照し、実施された連携の概要を把握し、各種法人形態(企業・大学・地方自治体)、多様な業種の連携を紹介できるように選定した
注記事項	・連携事例については、4年制の地方大学との連携を主対象としているが、短期大学・職業教育訓練校およびハノイ市・ホーチミン市に所在する大学との連携も含めて聴取を実施している

ご利用上の諸注意(再掲)

- 日本の企業・大学・地方自治体に御協力頂き、御担当者様へのインタビューを通じて聴取した情報を基に、ジェトロで編集して掲載しています
- インタビュー協力者様への「ベトナム地方大学との仲介依頼」等、直接のお問い合わせは、お控え頂けますようお願い致します
- ジェトロは中立の立場で、各種法人形態(企業・大学・地方自治体)、多様な業種の連携を紹介することを目的としてインタビュー対象を選定したものであり、連携事例の網羅的な紹介を目的としておらず、本資料に記載されていない連携の成功事例も多数ある点に御留意ください

インタビュー先一覧

No	組織名	インタビュー御対応者の 所属法人	代表的な連携事例の連携内容
企業			
1	ジャパコリティ	ベトナム法人	- ベトナムおよび日本でのインターンシップ実施 等
2	三菱電機ベトナム	ベトナム法人	- 製造機器・装置に採用される当社製の制御装置(FA製品)の寄贈 - 大学教員に対するFA製品関連トレーニングの提供 等
3	SMCベトナム	ベトナム法人	- 機器(空気圧制御機器等)、教育プログラム、ソフトウェアといったトレーニング資料一式を提供 - 大学の講師に対して、機械操作技術のトレーニングの実施 等
4	トヨタ・モーター・ベトナム	ベトナム法人	- 校内にT-TEPセンターを開設し、学生が「自動車、特にトヨタ車の修理技術の全てのスキルを習得」するための、トレーニング資料・機器を提供 等
5	社会医療法人 愛仁会	日本法人	- 大学内にスキルラボを設置。同大学のカリキュラムを共同で検討し「3年生後期の半年～8ヶ月間で総合的生活援助技術および日本語を学び、4年生で日本の総合病院にて1年間インターンを実施後、帰国して卒業」というスキームを策定 等
6	タケショー	日本法人	- 共同研究契約を締結し、食資源の有効活用を目的として、新技術(高度利用加工技術)を用いた研究開発に取り組む 等
7	三谷産業	日本法人	- 産学共同研究を実施 - 学生インターンシップの受け入れや卒業生の採用 等
教育機関			
8	宇部工業高等専門学校 ※国立高専機構海外展開事業 ベトナム幹事校	日本法人	- 日本の高専教育システムの海外展開
9	大阪大学	日本法人	- 共同で学術研究を実施 等
地方自治体			
10	滋賀県	日本法人	- 琵琶湖環境科学研究センターをモデルとしたハロン大学に属する研究機関の設立について助言・技術交流を実施
11	美作市(岡山県)	日本法人	- 人材交流およびシンポジウム・ワークショップ共同開催を実施
12	横浜市(神奈川県)	日本法人	- 日本の特別養護老人ホーム等での9ヶ月間のインターンシッププログラムの企画・実施 - 海外からの円滑な介護人材受入を目的に、在留資格に対応できるよう、必要な日本語レベルや知識を習得するため、「訪日前日本語等研修」プログラムを提供 等

基本情報

ベトナム法人 本社所在地	16F, Da Nang Software Park, 02 Quang Trung, Thach Thang Ward, Hai Chau District, Da Nang
日本本社	株式会社ヒューマンクレスト (神奈川県)
ウェブサイト	https://www.japanquality.asia/
ベトナム法人 設立年	2015年
主要事業	- ソフトウェアのテスト・品質管理を主要事業とする株式会社ヒューマンクレスト(本社:神奈川県、2002年設立)による100%出資でダナンに設立 - 日本企業が開発もしくはベトナムでオフショア開発されているソフトウェアについて、開発フェーズ・リリース時・運用後のテスト・品質管理を実施している

主要商品・サービス等の関連写真



ベトナムでの大学等との連携事例数

ハノイ、ホーチミンに 所在する大学 等	0
その他の 地方大学 等	4 (ダナン大学外国語大学、ダナン工科大学等)

代表的な連携事例の概要

ダナン大学外国語大学との連携

連携の意図・目的:

- ・優秀な人材・日本語人材の採用
- ・学生に対して経験・機会の提供

連携内容:

- ・大学側とMOUを結び、大学卒業要件である企業研修として3~5ヶ月間の本海外インターンシップを企画・実施。学生の渡航費・滞在費・生活費を当社が負担(当社への就職等の条件は何も設定していない)
- ・2016年、海外インターンシップを開始し、2019年12月に第5陣が帰国。第6陣を検討している最中にコロナ感染拡大により渡航が難しくなったため休止となった
- ・本海外インターンシップを通じて、学生間で会社の知名度・評価向上につながり、求人・採用活動にポジティブな影響を得られた

その他の地方大学(ダナン近辺が中心)との連携

連携の意図・目的:

- ・優秀な人材・日本語人材の採用
- ・学生に対して経験・機会の提供

連携内容:

- ・ダナン工科大学・FPT大学と提携文書を交わし、当社ベトナム法人にてインターンシップを実施(常時、計10~15名のインターン生を受入)
- ・ダナン師範大学にて週1.5時間の日本語授業を担当

インタビュー：地方大学との連携に関する経験

インタビュー御回答者：
伊藤 仁 氏（代表取締役）

ベトナムで大学の連携を考えたい経緯・理由・狙いは何でしょうか？

“当社は開発されたソフトウェアのテスト・品質管理をしている企業となります。過去、中国やベトナム等にオフショアで出されている企業さんがいらっしや、受入テストを当社でやっていました。その品質がとても悪かったので「行って確認してきてくれ」ということも多くありました。その時、問題だったのは「言葉の理解」です。コミュニケーションミス・ロスによって品質が保たれていない。当社はIT企業ですが、開発に特化しているわけではなく、テスト・品質管理の会社ということもあり、「技術者に日本語を教える」、「日本語ができる人に技術を教える」どちらがいいのかを考えた時に、後者の方が早いという結論になりました。

それでベトナム国内に事業所を作ることを考え、場所はダナンを選びました。理由は、観光都市で語学に対する需要が高いエリア、ダナン大学外国語大学もあり、近くにFIEもある。外国語大学と連携して優秀な人材・日本語ができる人材を採用することを設立当初から計画に入れていました。

ベトナム拠点設立意図として「安い労働力をベトナムから持ってきてほしい」という理由も多いと思いますが、当社はそういった考え方が全くないです。横浜本社では外国籍の人がたくさん働いています。なので外国人、ベトナム人を安い労働力と全く考えていません。ただ、バランスが崩れてしまうので、いきなり日本人の新卒と同じ給与をベトナムで払うことはできない。ですので、その分を教育費に充てようと考え、教育予算を確保し、その一部を連携にも充てています。”

連携をどのように進めていきましたか？

“会社設立にあたって、まずIT経験者を募集し、FPT大学・ダナン工科大学の新卒人材2名を採用しました。また、日本語N2以上のテスターを募集し、ダナン大学外国語大学の2・3年生であった7名を採用しました。その学生に、先生を紹介してもらった形です。

そして教育予算を基にして、3～5ヶ月間の日本本社での海外インターンシップを企画しました。「学生の渡航費・滞在費・生活費を当社で負担するので、卒業要件となる企業研修として本海外インターンシップを認定してもらえますか？」という提案を大学側にしました。大学側の窓口は日本人講師と日本語学部の学部長の方でしたが、学校として初めての取り組みだったようで内部ではどうだったか分かりませんが、熱心に対応頂き、MOUを締結しました。

当社のインターンシップに参加している学生が10名程度いましたので、その中から希望者を募って選考を実施しました。就職等を条件にする場合も多いかもしれませんが、当社の場合、そうはしませんでした。やりたくない仕事を適当にされても困りますので、やってみて入社したいと思えばそれでいいし、やっぱり違う仕事をしたいならば、それで良いという考え方です。”

連携する大学をどのように選ばれましたか？

“当社は日本語人材を必要としていたため、設立当初は、外国語大学で日本語を勉強していて3年生でもN2取得者がたくさんいた、ということでダナン大学外国語大学を選びました。海外インターンシップを同大学と実施した理由は、当時、連携していたのは同校だけでしたので。”

連携の評価を教えてください。

“2016年、海外インターンシップを開始し、2019年12月に第5陣が帰国。第6陣を検討している最中にコロナ感染拡大により渡航が難しくなり現在は休止となっています。結果として、計19名が参加、うち12名が当社に入社しました。単に入社数だけでなく、もっと大きいのが「当社のファンを作れた」ということだと思います。「この会社はベトナム人ときちんとかき合ってくれてくれる」というイメージが構築できたからか、今でもインターンシップ等の募集を出すと申し込みが30名くらい来ます。それは先輩方が当社に良い印象を持って頂けたからだだと思います。入社希望の人も沢山おり、今年も半分くらいはお断りしています。「日本語人材に困る」と言う話も聞きますが、当社は45人中40人がN3以上、N2以上で考えると約30人です。日本の親会社に転籍した人材も6名おり、日本語人材の採用に困らなくなりました。”

これまで連携を進めてきて、感じた評価をいくつかの視点に分けて教えてください。

(ベトナム側の姿勢について)

“大学側は、当社の要求に対して「どうしたらそれができるか」をしっかり考えてくれており、自分たちの学生の教育を充実させていきたいという姿勢・熱意は感じます。そういった熱心な担当者・先生に出会えるかどうかは、連携がうまく進むかどうかの重要因子の1つと思います。逆に、熱意が薄い担当者であった場合、信頼関係を築くことが難しく、連携もうまく進まなかったかもしれません。”

(学生の能力・姿勢について)

“精神レベル等、まだ日本の高校生と見た方がいかなと思います。ただ、みんな真面目で習得能力は高いと思います。ベトナム人評でよく聞く「言われたいとしない」というのは確かにそういう部分もあるかもしれませんが、言われたことに関しては日本人以上にちゃんとしているので、導き次第かなと感じています。”

連携を進めるにあたって、何か課題等ありましたか？

“当社の連携提案は、学生に対して手厚い内容であり、大学側のデメリットはあまり考えられない内容ですし、相手方担当者の方も熱心に対応頂きましたので、基本的に課題はありませんでした。ただ、ベトナムではよくあることだと思いますが、ベトナム側での確認・調整が足りなかったことが原因だと思いますが「決まったものが途中で変わってトラブルになった」ことはありました。”

地方大学との連携を検討されておられる企業様等に対して、御社の経験からアドバイスを教えてください。

“進出検討中ということで、コロナ感染拡大前はダナンにも沢山の訪問があり、アテンドもしてきました。その多くは「安い労働力」を日本に連れて行きたい、現地の「安い労働力」を使って支社を作りたいという目的です。もちろん、その目的は理解できますが、ベトナムの学生自身、その意味をもう知っています。ですので、大学と提携し、学生が入社し、一時的に人材確保ができたとしても、彼らは「日本で仕事をしたい」「日系企業で働いた」という肩書を持って、ジョブホッピング(転職)をします。また人件費は上がっていきますので、直ぐに行き詰っていきます。折角、多くの労力と経費を掛けても長続きしません。地方大学との連携の目的は何なのか？をしっかりと考えて、長く続けていく為には、その地方に根差した提携をする必要があると思います。”

“特に公立の大学は予算面で潤沢な状況にありません。大学側は「学生への教育・機会」についても考えているとは思いますが、経済的なメリットを求めて日本と提携したいという側面があります。その大学側のメリットを提供できる連携内容の用意がありますか、継続性はどうか、というのもポイントだと思います。”

基本情報

ベトナム法人 本社所在地	Viettel Complex Building, 285 Cach Mang Thang 8 Street, Ward 12, District 10, HCMC
日本本社	三菱電機株式会社 (東京都千代田区)
ウェブサイト	https://vn.mitsubishielectric.com/
ベトナム法人 設立年	2011年
主要事業	ベトナムでの事業 - FA (Factory Automation) - LE (Life Environment≒住環境)設備

主要商品・サービス等の関連写真



FA機器(制御機器・加工機)

代表的な連携事例の概要

カントー大学等との連携

連携の意図・目的:

- ベトナム製造業の技術力向上への貢献
- 当社製品の認知度・利用熟練度の向上

連携内容:

- 製造機器・装置に採用される当社製の制御装置(FA製品)の寄贈
- 大学教員に対するFA製品関連トレーニングの提供
- (カントー大学の場合のみ、) 2020年7月、メコンデルタ地域に立地する大学内に当社製品の展示を行うFAソリューションセンターを開設。同センターでは21年初頭には大学教員を講師として地域のエンジニア向けに有料コースを開設予定



カントー大学内に開設されたFAソリューションセンター

(参考情報:ホーチミン市技術師範大学との連携)

連携の意図・目的:

- ベトナム製造業の技術力向上への貢献
- 当社製品の認知度・利用熟練度の向上
- イベントに参加する学生の意識・技術力の向上

連携内容:

- 製造機器・装置に採用される当社製の制御装置(FA製品)の寄贈
- 2020年8月、当社が中国で実施しているMitsubishi Electric Cup Automation (MECA)というイベントをホーチミン市技術師範大学と共に開催
- 同大学の学生に「機械設計・制御」に関する課題を与えて、チーム対抗式で、機械設計能力を競うイベントとなる



Mitsubishi Electric Cup Automationの授賞式

ベトナムでの大学等との連携事例数

ハノイ、ホーチミンに 所在する大学 等	5* (ハノイ工科大学、ホーチミン市技術師範大学等)
その他の 地方大学 等	8 (カントー大学、ダナン大学等)

*サイゴンハイテクパーク内開設のトレーニングセンター含む

インタビュー：地方大学との連携に関する経験

インタビュー御回答者：

黒木 重雄 氏 (General Manager, FA機器事業の責任者)

これまで何校のベトナムの大学と連携されておられますか？

“連携事例は計13件です。ハノイ、ホーチミンに所在する大学は5件、それ以外の地方大学は8件、チャービン大学、ダナン大学、カントー大学、トンドックタン大学、タイグエン大学、フンイエン大学等であり、他に短期大学との連携や、一般企業に勤務する技術者向けにサイゴンハイテクパーク内に開設したトレーニングセンター等もあります。”

ベトナムで大学の連携を考えた理由・狙いは何でしょうか？

“当社FA(=Factory Automation: 工場等の機械の自動化を行うための制御装置)部門の主要顧客は日系・韓国系企業です。ベトナムローカルの機械メーカーについては、FA製品を駆使した機械設計はまだ発展途中と認識しています。ただ、将来的なことを考えるとローカル企業の技術力も向上してくるのは間違いないと思っています。”

“そのため、先行して大学関係と連携し、学生に当社の製品を使って勉強して、将来、生産技術・機械設計の仕事に就いた時に「三菱電機の製品は大学の時に学んだので使える」と思ってもらいたいという狙いもあります。しかし、根本的には「ベトナムの技術力のポトムアップへの貢献」ができればという思いがあり、ここ数年、毎年、寄贈予算を計画して、当社FA製品の寄贈を行ってきました。”

最も連携が深い事例について教えてください。

“直近に進めている連携かつ設備投資も大きい事例でいうとカントー大学との連携があります。2020年7月、同大学内に当社製品の展示を行うFAソリューションセンターを開設しました。同センターを利用して、21年初頭には大学教員を講師として地域のエンジニア向けに有料コースを開設予定です。講師となって頂く先生には、当社のソフトウェア・製品の取扱方法、コースの進め方について、当社側でトレーニングを実施しました。他の大学にも、FA製品の寄贈を行っていますが、生徒の教育用であり、同センターとは違い、その地域の人が通えるような形にはなっていません。”

連携する大学をどのように選ばれましたか？

“基本的には、その地域で規模が大きな大学であり、ある程度の生徒の質が確保され、また技術系学科、中でもオートメーションを含んでいる大学を選んでいきます。例えば、カントー大学の場合、メコンデルタ地域の中でも大きい都市であり、また日系企業が多いわけではありませんが、漁業や農業等、第一次産業が盛んで、ローカルを含めて、それ由来の機械メーカーも多いといった背景もありました。”

どのように連携したい大学とつながりましたか？

“会社設立する前から、東南アジアを担当する代理店がありました。東南アジアのGDPも技術力が今よりも低い時代から、コソコソと草の根的にこういった大学に当社の製品をトレーニング用として活用頂いてきたという過去があったので、そのコネクションができていました。”

連携を進めるにあたって何か課題等ありましたか？

“言葉の壁もあるため、連携に関する実務部分はホーチミンの当社ローカルスタッフが大学側担当者と話を進めています。日本人スタッフは予算の工面等が主にはなりますが、連携に関しては草の根活動を通じて代理店が関係を構築していたため、各大学は当社に対して懇意に接していただき、上手く進んだと感じています。”

“課題について、強いて挙げるならば、先生方の技術レベルです。当社の製品を覚えてもらって生徒に完璧に教えられるレベルになるまではもう少しレベルアップが必要なのかな、と思ったことはあります。また、大学側に、もう少し詳細プランを用意してほしいと感じることがあります。例えば、「ロボットコースを導入するので、ロボットください」といった話をよく頂きます。「こういう計画でロボット技術者を育成していき、卒業生をこういった企業に就職させたい。なので、この部分に協力してほしい」といった具体的な企画が見えれば、当社としても予算化等、検討を進めることができます。ただ、特に地方大学の場合は、都市の大学と比べて、大学訪問時に突然そんな話が出てくることが多いという印象があります。”

地方大学との連携全体について、得られた効果等の評価を教えてください。

“これをやったから、いくらのリターンが得られたか、というのは測りづらいと思っています。また、まだ大学との連携協力事業自体が2014年くらいからの開始となるため、やっと卒業生が出てきたという状況です。”

“大学に寄贈した機器の活用状況については定期的な調査を行ってはいませんが、寄贈先からは「製品のバージョンアップ依頼」や「新しい機器の提供依頼」が来るため、そのタイミングで、活用状況を確認した上で、次の提供を検討するようにしています。また、ソフトウェアのアップデート依頼もあり、そういう追加依頼があるということは、大学の授業において何らかの活用がされているという風に理解しています。”

地方大学との連携を検討されておられる企業様等に対して、御社の経験からアドバイスを教えてください。

“すぐに刈り取れるかどうか分かりませんが、投資はほとんどやった方がいいと思います。ベトナムの方たちは素直で非常にまじめな人が多い。当社の活動で言えば、「最初に学んだ製品というものは残る。競合製品は世の中に沢山あるが、そこで愛着を持って接した会社の製品は長く使ってくれるのではないかと考えています。あまり直近でのリターンを気にせず、狙った方がいいと思うところには積極的に投資した方がゆくゆくは良いんじゃないかな、と考えています。”

“機器等の寄贈だけでなく、人的な交流も積極的に実施しています。例えば、ベトナムのカルチャーに合わせることも重要だと思います。ベトナムでは「飲んで仲良くなる」というカルチャーがありますが、「当社の製品がたまたまあったから使った」というのもありますが、「食事してお酒を飲んで話して、そこで仲良くなる」、そういったベトナム的なつながりは「大切にしてもらえ、関係性が深まる」と思っているの、そういう機会をどんどん作った方がいいと思ひ、私も実践しています。”

“経営的なマネジメントは日本人が関与すべきですが、大学のアカデミック強化はローカルが中心で進めることが、組織として成長につながると思っています。当社では、連携等の企画はローカルスタッフに任せており、「あそこの大学と連携したいです。行きましょう」という形で引っ張られていく。どちらかというと日本人スタッフは「やりすぎじゃない?」と感じているほどです。理想は、ローカルスタッフが、ベトナムでの活動を引き上げて行く方向性を自発的に考えてほしいと思っているため、このような意向が挙がってくる組織体制の確立は良いことだと思っています。”

基本情報

ベトナム法人 本社所在地	No. 63, Lo Lu Street, Truong Thanh Ward, District 9, Ho Chi Minh City
日本本社	SMC株式会社 (東京都千代田区)
ウェブサイト	https://www.smcworld.com/ja-jp/
ベトナム法人 設立年	2011年 (2008年: 駐在員事務所設立)
主要事業	<ul style="list-style-type: none"> 自動制御機器製品の製造加工および販売 焼結濾過体および各種濾過装置の製造および販売

主要商品・サービス等の関連写真



ベトナムでの大学等との連携事例数

ハノイ、ホーチミンに 所在する大学 等	4 (ハノイ工業大学、ホーチミン市技術師範大学等)
その他の 地方大学 等	3 (タイグエン工科大学、カントー大学等)

代表的な連携事例の概要

タイグエン工科大学、カントー大学等との連携

連携の意図・目的:

- 技術・工学専攻の教育・訓練レベル向上への貢献
- 高スキル人材の獲得
- ベトナム社会への貢献

連携内容:

- 機器(空気圧制御機器等)、教育プログラム、ソフトウェアといったトレーニング資料一式を提供
- 大学の講師に対して、機械操作技術のトレーニングの実施
- アドバイザー/スーパーバイザーとして、学生プロジェクト(学生による自主的なものづくり活動、企業等の依頼を受けて製品を作成する活動等)の支援
- インターンシッププログラムの実施、学生の採用



タイグエン工科大学との調印式



タイグエン工科大学内に開設された
SMCオートメーションラボ



カントー大学でのラボ開設記念式典



カントー大学内に開設された
SMCオートメーションラボ

インタビュー：地方大学との連携に関する経験

インタビュー御回答者：

Gerald Ho 氏 (General Director)

大村 望 氏 (Japanese User Support)

ベトナムで大学の連携を考えた経緯・理由・狙いは何でしょうか？

“ベトナムの教育・訓練の様子を見るため、複数の大学を訪問することがありましたが、大学の設備、教材、プログラムがかなり古く、正直、驚きました。教育用の機器すら設置されていない大学もありました。ベトナムの大学には予算がないことを実感し、教材として古い機器が修理されて利用されていることも理解できました。このような当時のひどい状況を背景として、当社は大学への貢献活動を始めることにしました。SMCグループは、中国等、他の国々でも、同様の活動を実施してきています。”

連携する大学をどのように選ばれましたか？

“最初は、ハノイ、ホーチミンの大学(ハノイ工業大学、ハノイ工科大学、ホーチミン市技術師範大学、ホーチミン市工科大学)への寄付から開始し、その後、地方大学(タイグエン工科大学、ダナン工科大学、カントー大学)へと寄付先を拡大していきました。ベトナムの大学間ネットワーク、コネクションは良好であり、大学のマネージャークラスの職員や講師は、他大学の講師もよく知っています。当社の場合も、既にパートナー関係にあった大学が、タイグエン大学、カントー大学を紹介してくれました。

当社と大学間とのコネクションに特に問題はありません。ほとんどの大学は、当社の評判、当社の目的、そして、当社が実施でき提供できる内容を理解しており、とても良い関係を築いてきました。”

“大学の所在地も選定する際に考慮しています。例えば、タイグエン工科大学は、ベトナム北部地域での大規模工場の1つであるSamsung工場のすぐ近くにあり、同社は多くの労働者を雇用しており、タイグエン大学の卒業生が多数、働いています。大学在籍時に空気圧制御機器に関するトレーニング・コースを受けられれば、機器に慣れることができ、工場で働き始める時には操作方法を把握できます。

また、当社の工場はロンタン(ホーチミン市中心部から東に約50km)に位置しているため、ホーチミン市技術師範大学の学生等、ホーチミン地域の学生を中心に雇用しています。ハノイやダナンでは支店(販売拠点)で働く学生を雇用しており、ダナンでは10名超の学生を雇用しました。

“ハノイ・ホーチミンの大学と地方大学とを差別せず、両方と連携しています。当社の流通ネットワークはベトナム全土に広がっているため、様々な省の様々な大学の学生も雇用する必要性があります。”

連携の内容について教えてください。

“初めて大学を訪問した際、各大学が各々独自の教育・訓練プログラムを構築しており、内容が異なっていることが分かりました。そのため、当社は標準的なトレーニングを支援したいと考えました。当社のトレーニング資料は、世界標準に準拠しています。

当社が各大学と結んでいるMOUは、ハノイ・ホーチミンあるいはダナン、タイグエンでもほぼ同じ内容となっています。

1. 標準品質を満たしているトレーニング機器の寄贈
2. 標準化された教科書、ソフトウェアといったトレーニング資料の提供
3. 当社は大学の講師をトレーニングし、講師は教材を使って学生を育成
4. 学生プロジェクトの支援
(機械の研究開発等を実施する学生プロジェクトに関して、当社がプロジェクトのアドバイザーを務める)
5. 最終学年の学生向けに、大学のジョブフェアに当社が参加し、インターンシップ実施。学生は2ヶ月間、当社に従事し、当社水準を満たせば事業所・工場に採用

また、ベトナム帰国後の5年間の労働契約を結んだ上で、採用した学生の一部が1年間の日本でのインターンシップに参加しています。日本赴任前に、日本語コースも提供しており、これまでに40名超の学生が日本に赴任し、ベトナムに帰国しています。”

連携の結果について、詳細を教えてください

“連携後、大学のトレーニング品質は改善しました。当社の雇用面での視点でみると、当社と連携している大学の卒業生を好ましく考えています。大学でトレーニングを受けているため、OJT(On the job training)の期間を短縮することができます。実際、連携大学の卒業生を雇用した後に必要な新規トレーニングは、他の工場での長期従事経験がある労働者よりも簡単に済んでいます。再トレーニングは、新規トレーニングよりも複雑な場合があります。また、新卒人材を雇い入れるための給与・社会保険料等のコストは、経験者よりも低いこともあり、大学と連携することのメリットの1つとなっています。”

連携を進めるにあたって何か課題等ありましたか？

“連携を進める際、課題等は特にありませんでした。今年はコロナ感染拡大のため、連携の進捗に遅れがみられますが、それ以前は特にありません。

今年は、コロナの影響もあり、Eラーニング、Eマテリアル等のオンラインでの手法を採用しました。もちろん、直接対面でのやり取りが最も効果的な方法ではありません。”

“機器は毎年、更新・変更がありますが、当社から毎年、寄贈することはできません。学校にある機器を使って学生は勉強・練習しますが、卒業後に働き始めると、機器は新しいモデルに更新されています。ただ、基本的な機能は同じなので、大きな問題ではありません。”

地方大学との連携を検討されておられる企業様等に対して、御社の経験からアドバイスを教えてください。

“当社が大学へ寄付する際、リターンや利益を期待してはいません。当社の活動は、社会貢献活動の1つであり、私たちが誰かを助け、その人が将来、他の人を助け、誰もがより良くなることを願っています。当社は、先進国よりも発展途上国への寄付を優先的に考えており、その国が良くなり、更に誰もが発展する事を願っています。”

基本情報

ベトナム法人 本社所在地	Phuc Thang Ward, Phuc Yen City, Vinh Phuc Province
日本本社	トヨタ自動車株式会社 (愛知県)
ウェブサイト	http://www.toyotavn.com.vn/
ベトナム法人 設立年	1995年
主要事業	<ul style="list-style-type: none"> 自動車の組立・製造・販売 メンテナンス・修理サービス 自動車および自動車部品・機器の輸入 当社グループおよびディーラー等へのコンサルティング、トレーニング等の各種支援

主要商品・サービス等の関連写真



ベトナムでの大学等との連携事例数

ハノイ、ホーチミンに 所在する大学等	13 (ハノイ工科大学、ホーチミン市技術師範大学等)
その他の 地方大学等	23 (ヴァンロン技術師範大学、サオドー大学等)

代表的な連携事例の概要

Toyota Technical Education Program (T-TEP)の導入

連携の意図・目的:

- 教育・訓練を通じて、ディーラー向けに高い技術を持った人材を供給
- 職業教育訓練機関の教育・訓練の質の向上への貢献
- 企業の社会的責任としての取り組み

連携内容:

2000年から、T-TEPプログラムを通じて、地方部を含む36大学/職業訓練学校等と連携し、以下の活動を実施している:

- 校内にT-TEPセンターを開設し、学生が「自動車、特にトヨタ車の修理技術の全てのスキルを習得」するための、トレーニング資料・機器 (中古車、修理・メンテナンスツールキット、修理マニュアル等)を提供
- スポンサーシップ・トレーニング・パッケージを効果的に運用でき、学生がトヨタ自動車のグローバル基準を満たすような教育・訓練ができるように、学校講師に対するトレーニングコースを提供
- ディーラーの需要に基づき、学生を対象としたインターンシップ・採用を計画

参考情報: ハノイ工科大学と連携した「ものづくり講座」

連携の意図・目的:

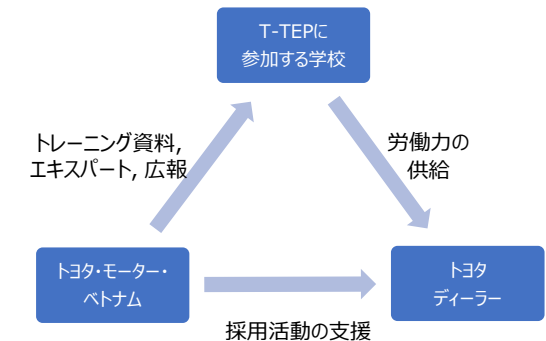
- 現地企業のリーダーに対して、製造業と事業運営に関する成功の秘訣の共有
- トヨタの現地サプライヤーを含む現地企業が、講座で得た知識を事業運営に活かすための支援

連携内容:

- ハノイ工科大学と協力し、2005年に「ものづくり講座」を開設
- トヨタ自動車のリーダー、ハノイ工科大学の主要教授が主導して運営
- 1週間の学習・インターンシップ後、専門家/講師が参加した研修生の工場での「カイゼンショーケース」等、研修生の抱える実際の問題を支援するフォローアップも実施している



T-TEPの開講セレモニー



ものづくり講座の一環として
実施されたセミナー (2008年)

インタビュー：地方大学との連携に関する経験

インタビュー御回答者：

Tran Xuan Thuy氏 (General Manager – Customer Service Operation Division, Strategic Planning & Service Group)
 Mac Quang Quyen氏 (Manager – Corporate Social Responsibility Dept, Communication & CSR Division)
 Hoang Tuan Hung氏 (Manager – Technical Training Dept, Communication & CSR Division)
 Dang Minh Duc氏 (Assistant Manager - Corporate Social Responsibility Dept, Communication & CSR Division)

Toyota Technical Education Program (T-TEP)

これまで何校のベトナムの大学と連携されていますか？

“T-TEPプログラムは、2000年から開始していますが、初期はCollege of Transport (現在はUniversity of Transportation)、HCM University of Technology and Education、HN University of Industry等、ハノイ・ホーチミンの大学で開始しました。その後、Vinh Long University of Technology and Education、Sao Do University、Danang Vocational Training College等、23の地方の大学/職業訓練学校にも拡大しています。”

ベトナムで大学の連携を考えた経緯・理由・狙いは何でしょうか？

“この質問に答えるために、TMV(トヨタ・モーター・ベトナム)の沿革から説明します。TMVは1995年に設立され、96年に自動車の組立、販売を開始しました。1996年から1999年にかけてのTMVの販売活動に伴い、代理店ネットワークが拡大していく中、2000年に、以下の目標をもって、T-TEPプログラムを開始しました。

- まず、ベトナムの大学と職業訓練学校等の実施する職業訓練の質の向上へ貢献したいと考えています。2000年代に各校を訪問した時、各校の行う職業訓練のレベルは非常に低水準でした。設備等は古く時代遅れであり、トレーニングプログラムは更新されておらず、実用的ではありませんでした。現在、長年の連携を通じて、すべてがはるかに良くなりました。
- 第二に、ディーラーで従事する高スキル人材を育成したいと考えています。ハノイ・ホーチミンといった大都市とは異なり、地方では自動車修理作業員が不足しています。
- 最後に、企業の社会的責任としての取り組みです。TMVはベトナム社会への責任を果たしたいと考えています。”

連携する大学をどのように選ばれましたか？

“TMVやT-TEPの評判のおかげで、多くの学校が連携したいと考えてくれていますが、当社は年に1校しか受け入れられないため、学校の選択にいくつかの基準を設定しています。まず、学術研究ではない職業教育としての自動車テクノロジーに関する専攻があることです。二番目は、評判が良く、評価の高い学校です。三番目は、設備等のインフラ面、講師の平均レベルです。四番目に、理事会の姿勢が重要です。T-TEP導入に意欲を示し、同プログラムを歓迎して頂く必要があります。具体的には、TMVが要求するワークショップ・工場等のインフラや、消耗品(塗料など)等のトレーニング資材の経費を学校側で準備・負担できることを示して頂く必要があります。最後は立地です。学生がインターンシップに参加できるようディーラー拠点が近くにある必要があります。”

当社は各校について、学生・講師数、当社に就職した卒業生数等のデータを収集して分析していましたが、ベトナムには自動車専攻がある学校がそれほど多くなかったため、候補者を簡単に見つけることができました。”

都市の大学ではなく、なぜ地方大学との連携なのでしょう？

“まず、会社設立当社は、販売店のほとんどはハノイ・ホーチミンにありましたが、地方の各省に代理店ネットワークを広げていったため、地方で従事する人材の質の向上を進める必要があります。第二に、人材のニーズから最初はハノイ・ホーチミンの学校と連携し、数年で高レベルへと発展させることができましたが、地方の学校ではまだ低く、ハノイ・ホーチミンよりも支援が必要です。そのため、当社は地方の学校に集中しています。最後に、大都市の学生は「工場での仕事に興味が薄く、オフィス(ホワイトカラー)で働くため研究志向の大学を好む傾向がある」と感じています。そのため、職業教育分野に関しては地方での利点もあると考えています。”

連携を進めるにあたって何か課題等ありましたか？

“課題や障害はそれほどありません。同プログラムは大学にとっても好ましい内容なので、どの大学の理事会も歓迎しています。課題と言えば、近年、職業訓練を実施する学校の学生数の減少傾向がみられる点です。職業訓練校は、学生にとって魅力を失いつつある可能性があります。特に、車体・塗装などの専攻です。当社は高校生を対象にして「キャリア・オリエンテーションプログラム」を推進する予定でいます。

二番目は同プログラムの費用です。基本的に、政府規定により、学校は高額の学費を設定することはできません。そのため、大学や職業訓練校は、T-TEPのトレーニング資料・機材に対して再投資することができません。

最後はベトナムの教育制度の現状です。職業訓練学校が大学へと変更する場合があります。その時、カリキュラムは職業教育から研究志向に変更されます。講師も博士号等の高位の資格保有が求められます。しかし、博士号を取得した講師は、職業訓練の担当を好まず、T-TEPの課題の1つとなっています。

連携の評価を教えてください。

“人材育成の観点では、特に地方のディーラー向けに高スキル人材の供給源を確保することができました。また、通常、整備工場での作業に慣れるまでに1年かかりますが、T-TEPを通じて、OJT(On the job training)の期間を短縮することができています。特に、板金や塗装といった、新しくニッチな技術を教える学校がなかったため、T-TEPは非常に効果的に機能しています。T-TEPを通じて、学生の質は向上しました。現在、トヨタのマネージャーには、多くのT-TEPプログラムの卒業生がいます。”

地方大学との連携を検討されておられる企業様等に対して、御社の経験からアドバイスを教えてください。

“当社の経験から、日系企業は単に機器/資金を寄付するだけでなく、長期的なプログラムを検討された方が良いと思います。企業PRの効果はあるかもしれませんが、寄付だけでは学校や社会に対する付加価値はそれほど大きくありません。人材育成の面にフォーカスして、学生の能力、卒業後の学生のキャリア等、プログラムを通じた成果をより考慮すべきと考えています。

例えば、当社の場合、T-TEPのトレーニング資料・設備の寄贈は、プログラムの一部に過ぎません。より多くの時間と労力をかけているのは、講師に対するトレーニングです。当社よりも高額な寄付をされている企業様もいるかもしれませんが、当社が学校にもたらした価値は、単に寄付した金額だけでなく「職業訓練プログラムを高い評価を維持しながら効果的に長期的に続けている」点だと考えており、その点を誇りに思っています。”

参考情報 (その他のプログラム)

T-TEP以外に地方大学と連携するプログラムがありますか？

“奨学金プログラム、音楽奨学金プログラム、ものづくり講座、インターンシップ等の社会貢献活動を継続的に行っています。

• トヨタ奨学金プログラム：

1997年から、大学生の学習と科学の研究興味を促進することを目的として、実施しています。これまでに、テクノロジー・環境分野の専攻の全国の優秀な大学生1921名以上に対して、奨学金を授与しています。University of Marine Vietnam、Thai Nguyen University of Technology、Hung Yen University of Technical Education、Da Nang University of Technology等、多くの地方の学生が含まれています

• 音楽奨学金プログラム：

文化スポーツ観光省と協力して、音楽アカデミー5校の優秀な学生に奨学金を授与しています。Tay Bac Arts and Culture College、Viet Bac Arts and Culture College、Hue Musical Collegeの地方大学3校も対象となりました

• ものづくり講座：

受講者の所属するローカル企業に対して「カイゼン(改善)ショーケース」を実施する等、実際に経営・生産イノベーションへとつなげられるような講座とすることを目標としています

• ベトナムロボットコンテスト：

当社がスポンサーとなっており、学生が学んだ知識を現実に応用し、科学技術分野における創造的なアイデアの創出機会となっています。Da Nang University of Technology(2007年優勝)、Lac Hong University (2010年から14年、16年に優勝)等、地方大学がこのコンテストの優勝者となっています。”

基本情報

本社所在地	大阪府大阪市西淀川区福町3丁目2番39号
ウェブサイト	http://www.aijinkai.or.jp/
設立年	1958年
主要事業	日本での事業 - 病院・介護施設および関連サービスの運営 - グループとして2法人70事業所を運営 - 総従業員数: 約6,450名 - 総ベッド数(病院および介護施設): 約2,600床

主要商品・サービス等の関連写真



高槻病院



社福) 愛和会

ベトナムでの大学等との連携事例数

ハノイ、ホーチミンに所在する大学等	0*
その他の地方大学等	1 (ドンア大学)

代表的な連携事例の概要

ドンア大学との連携

連携の意図・目的:

- ・4年生大学・看護学部の学生に対して、ワンランク質の高い教育の検討(短大・専門学校卒業の人材が多い介護技能実習生との比較・差別化)
- ・ベトナムで通じる知識・技術を習得させ、ベトナムの医療の質向上への寄与(日本で看護師業務をするには日本の看護師資格が必要だが、看護補助者業務であれば可能であり、看護師とペアで働くことで実際の症例・看護技術を経験できる)
- ・看護補助人材としての受入(日本では看護補助者の人材不足が見込まれている)

連携内容:

- ・大学内に日本からも設備を運び入れ、スキルラボを設置。同大学のカリキュラムを共同で検討し「3年生後期の半年～8ヶ月間でスキルラボにて総合的生活援助技術(看護・介護・リハビリ)および日本語(N3取得が目標)を学び、4年生で日本の総合病院にて1年間インターンを実施後、帰国して卒業」というスキームを策定
- ・スキルラボでの教育は、日本側から8名の講師を順次派遣して対応予定であったが、コロナ感染拡大の影響により渡航できなくなったため、オンラインで代替して実施中。上記のスキームも止む無く1年間延長し、5年生でのインターンシップ実施で進めることで合意した

(参考情報: APS大阪介護コンソーシアムでのベトナム送り出し機関との連携)

連携の意図・目的:

- ・時間と労力をかけて質の高い人材の育成・獲得
- ・介護職員が主体的に採用から育成に関わることによる日本側人材の教育
- ・近い将来、急速な高齢化が予想されているベトナムにて活躍できる人材の育成

連携内容:

- ・介護技能実習生の日本への送り出しに関して、愛仁会、ペガサス、生長会という大阪の大手民間医療法人がAPSコンソーシアム事業として組織し、ハノイの送り出し機関と連携
- ・日本での就労がよりスムーズに進むよう、事前教育を実施するスキルラボを送り出し機関内に開設。事前教育の内容に関しては、介護福祉士を常時1名派遣し、日本語教育、介護の基礎学習、心理面(介護技能実習・生活面)のサポートを柱としている
- ・現時点で一期生25名、二期生19名が既に来日しており、三期生から受入先としてコンソーシアム以外の外部法人も加わり、2021年1月以降、36名が来日予定となる



* APS大阪介護コンソーシアムという事業にてハノイの送り出し機関と介護技能実習生の送り出しに関して連携あり

インタビュー：地方大学との連携に関する経験

インタビュー御回答者：

山村 智和 氏 (局長付 ベトナム事業推進チーム 部長)
 宮本 典子 氏 (看護部 海外人材育成担当 部長)
 國光 智恵美 氏 (看護部 海外人材育成担当 主任)
 ゲン ティ チャム 氏 (学術人材開発部 ベトナム事業推進チーム)

ベトナムで大学の連携を考えた理由・狙いは何でしょうか？

“まず、当法人は2017年に内閣官房が策定したアジア健康構想の主旨に賛同し、これが海外に目を向けていくきっかけとなりました。そして、海外事業を検討する際に、当法人は大事にしている考えが3つあります。①双方の人材育成・教育に主眼を置く：単に、安い労働力補填ではなく、しっかりと教育を行うことを主眼に置いています。②相手国(人)と対等な立場：相手方の立場を低く考える人もいますが、パートナーという意味で対等な立場でしっかりと考えています。③社会医療法人として公益性の高い事業の展開：日本国内は勿論、海外事業においても同様に求められていると考えています。

その考え方をベースとして、現在まで海外では大きく2事業を展開しています。タイではサミティバート病院グループとの間で、特に小児医療分野で医師・看護師の相互派遣研修を実施しており、ベトナムでは人材育成事業を進め、ハノイでは送り出し機関と連携し介護の技能実習生の送り出しを実施中、ダナンでは4年生の看護学部を持つドンア大学と連携しています。”

(APS大阪介護コンソーシアムでのベトナム送り出し機関との連携について)

ベトナムに関してですが、2017年6月に現地の送り出し機関を訪問する機会があり、「台湾の介護産業に向けてトレーニングを行っている。日本も介護の技能実習が始まるため、ターゲットにしていきたい」という話を聞いて、日本向けにトレーニングを提供できれば質の高い人材が供給できるのではないかと考えたことが発想のはじまりでした。

介護の技能実習生としての教育については考慮すべき課題があると考えています。まず、①日本語教育です。日本語がベースとして出来ていないと、その上に介護等の専門的な教育が理解できません。②ベトナムではまだ介護という専門分野が開発途上であり、介護の専門性について基礎学習が必要です。③20代前半の人が海外で3年、5年過ごすというのはストレスが掛かると考えているため、日本に行く前に日本での生活や仕事内容を事前にインプットをしっかりと行い、安心して参加できるような心理面のサポートを考えました。この3点を考慮し、スキルラボを運営しています。

(ドンア大学との連携について)

上記のAPSの活動を聞いたドンア大学のSam副学長から「質の高い教育をしたく、日本に学生を留学させる事業を多く展開したい」ということで、当法人も協力できることがないかなと考えたのが、最初のきっかけです。その中で、ハノイと同じことをやってもあまり意味がないと考え、差別化を考えました。特に、4年制の看護学部向けにワンランク質の高い教育を検討すること、「日本の医療現場で就労したい」「ベトナム都市部の病院で働きたいが枠がない、田舎ではあるけど賃金が安い」という学生の希望を叶えられる方法を検討する必要がありました。であれば、「留学して1年間日本の医療現場で働いて、日本の医療の標準知識も持っているし、日本語もできる」という質の担保を実現できれば、ある程度ステータスの高いベトナムの病院で働けるようになるのではないかと考えました。無資格では日本で看護師として働くことはできませんが、看護補助者等の業務であれば働ける。看護補助者は看護師とペアで働くので実際の症例や看護技術を間近で経験できることから、ベトナムで通じる知識・技術を習得することも可能です。日本国内の看護補助者は高齢な方が多く、先細りしていく職種だろうという予測もあり、この事業スキームを考えました。”

連携する大学をどのように選ばれましたか？

“元々は、ベトナム事業に関して相談させて頂いている日本人の方から、Sam副学長を紹介頂きました。Sam副学長が来日し、当法人の理事長と話し、学生を日本に行かせて質の高い教育を受けさせてあげたいという思い、実際の行動力、当法人に対する評価を感じました。当法人も「持ち出しは大変なので、こまでは当法人でやるが、ここはドンア大学の先生が担当してください」とか「ここはドンア大学の出費でやってください」ということをしっかりと話し、パートナーシップをしっかりと分けられたというのが大きいと考えています。

また、ドンア大学の看護学部の4人の先生を日本に招聘し、学生がどのような環境でどのような教育を受けるか実際に体験いただくために2週間実習を行っていただきました。「この事業はずっと当法人が何十年やるものではなく、当法人の知識・技術をドンア大学の先生に伝授できれば、教育は全面的にお任せできる」とも考えていますが、Sam副学長が、教員に対してもしっかりとそういう教育を行うことに対して、同意してくれたところも大きいと思います。”

連携をどのように進めていきましたか？また、何か課題等ありましたか？

“元々の大学4年間のカリキュラムがあります。最初は、授業内容を検討するため、「何の授業があるの？」「本当にこんな授業あるの？」から紐解いていったので、精緻化する部分に苦労しました。その中から、1年間日本にインターンシップに行く。そのインターンシップの中で、実習やE-ラーニングのどれだけを当法人でやるか、を決めるのも非常に難しかったです。理由は、看護の専門用語なので翻訳の際、ベトナム語・日本語が意図していることが合わなかったということもあります。それを紐解く作業にかなりの時間と労力がかかりました。また、例えば、リハビリという概念がなかったり、看護と介護が誤訳されたりといった専門用語の問題があったため、先生との調整にも難しい部分がありました。何度も話し合いを重ね、時間をかけて構築していきました。”

“ハノイ大学出身の日本語が流暢な当法人のチャムさんが、本プロジェクトの真ん中に入って現地との架け橋になってもらっており、彼女の存在が大きいです。また、現地のパートナー、実務を担っている先生もキーです。4名の先生に2週間、当法人の高槻病院に来て頂いて実習を行ったことで「自分たちの意見を遠慮なく、タイムリーに情報共有・意見交換できるような関係」を作れたということが成功要因の1つと思います。”

“ベトナム人らしさというか、海外らしさというか、直前の変更が多くあります。「特別休校でなしになった」、「この教室に変更となった」、「やっぱりこの授業も教えてくれませんか」、みたいなことが多くある。そこは柔軟に対応しているつもりですが、受けきれないこともあるので、海外だと当たり前のかな、という柔軟な思考がいるのかな、感じています。”

連携全体について、得られた効果等の評価を教えてください。

“ドンア大学との連携については現在進行形なので、APSの活動の評価になりますが、まず、質の高い人材を育成できて獲得できました。ただ、時間と労力は大きかったです。これは仕方がないと考えており、逆に、時間と労力をしっかりとかけると質の高い人材を育てたい、と考えています。安価な労働力は期待できないし、期待してはいけないのかな、と思っています。絶対に無理ということではないですが、日本語力が低かったり、事前インプットが少なかつたりすると、日本に来た時に色々なギャップやジレンマを感じて日本での生活が幸せに送れないと思います。他には、人材教育の側面での効果を感じています。日本から介護福祉士を毎月派遣しており、その人たちが採用から育成に関われる。日本では、養成校から介護の資格を持った学生が入ってきて、受け身というか、そういったところに関わることが少なかったです。海外では最初の採用から育成まで関わるので、どこか閉塞感のある中で、キラキラ輝ける仕事になりつつあるのかな、と感じていますし、そういう教育をすることで、介護の専門性、介護に対する意識向上にもつながっていくのかな、と考えています。”

地方大学との連携を検討されておられる企業様等に対して、御社の経験からアドバイスを教えてください。

“(現地と日本との間のコミュニケーターとなっているチャム氏からのアドバイス)

実際に日本に来て、日越で文化の違いを感じ、そのため、「しっかりとコミュニケーションを採らないとスムーズに進まない」と思っています。ベトナム人の性格・習慣を理解した上で、協力プロジェクトを始めた方がいいです。当たり前と思うポイントが日本人とベトナム人で違います。例えば、時間の感覚、時間を守らないわけではないですが、ベトナムの方がノンビリしている傾向があります。協力プロジェクトに関しては通訳を入れるケースがほとんどだと思いますが、プロジェクトや日本側・ベトナム側の考え方を理解していない中で、本当の意味でのブリッジを務めることは難しいです。”

基本情報

本社所在地	新潟県新潟市北区西名目所5503番地1
ウェブサイト	https://www.takeshofood.co.jp/
設立年	1960年
主要事業	<ul style="list-style-type: none"> - 食品開発に関するサポート - ブレンド調味料の製造・販売 - 食品加工用副原料・副資材の販売 (調味料、食品素材、香料、香辛料、食品添加物など) - 療養食・介護食の開発、製造、販売 (自社ブランド：レシピ計画) - 包装資材・包装機材の販売、メンテナンス - 理化学機器の販売、メンテナンス

主要商品・サービス等の関連写真



製造室の様子

ベトナムでの大学等との連携事例数

ハノイ、ホーチミンに 所在する大学 等	0
その他の 地方大学 等	1 (カントー大学)

代表的な連携事例の概要

カントー大学との連携

連携の意図・目的:

- メコンデルタの豊かな食資源の有効活用や農産物・水産物の付加価値向上を目指し、加工用調味料や食品素材の開発、製造、販売を通して、現地企業の発展に貢献したい
- 優秀な人材の採用

連携内容:

- カントー大学との間で共同研究契約を締結
メコンデルタ地域(カントー大学が位置する地域)の豊富な食資源の有効活用を目的として、業務提携をしている日本企業の新技術(高度利用加工技術)を用いた研究開発に取り組む
- インターンシップの実施
2019年夏、カントー大学の学生4名・教員1名を日本に招聘し、加工食品メーカー見学も含めた1週間のインターンシップを実施
コロナ感染拡大の影響もあり、2020年夏には現地と日本本社をオンラインでつないでインターンシップを実施



インターンシップでの
グループワークの様子 (2019年夏)



インターンシップ発表の様子 (2019年夏)

インタビュー：地方大学との連携に関する経験

インタビュー御回答者：

川口 史 氏（総務部 人事広報課 ダイバーシティ推進担当）

阿部 美里 氏（総務部 人事広報課）

ベトナムで大学との連携を考えた経緯を教えてください。

“もともと、当社はベトナムに関心を持っておりました。ビジネス視察ツアーでカンター市を訪問した際に、同市にベトナムでも有数の大学であるカンター大学があると聞き、単独でカンター大学を訪問することにしました。訪問後、カンター大学の先生方とやり取りを重ねる中で、「メコンデルタの食品加工業の発展に貢献したい」という当社の思い、また、当社の企業理念にも強く共感いただくことができました。それならば「何かできないか」となり、さまざまな巡り合わせもあって、カンター大学との共同研究契約の締結に至りました。「カンター市の位置するメコンデルタ地域は農業・海産物が豊かな地域」だということで、当社本社のある新潟県との共通点を感じています。”

連携の内容について教えてください。

“2018年8月にカンター大学と共同研究契約を締結しました。具体的な研究内容はお伝えできないのですが、共同研究で取り上げるテーマの1つとして、ベトナム現地企業において水産加工の過程で出てくる残渣（例：エビの頭・殻など）を有効利用できないか、ということで、業務提携をしている日本企業や当社の技術を応用しながら研究を進めています。「捨てられている物の有効活用」といった内容ですので、研究を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の実現・社会貢献につながる成果を得たい、という目標があります。これはとても大きな目標となりますが、まずは、ベトナムの産業に貢献していきたいと考えています。”

また共同研究活動の一環で、インターンシップを企画・実施しています。JST(科学技術振興機構)が実施しているさくらサイエンスプラン(産学官の連携により海外の若者を日本に招聘し日本の科学技術を体験するという事業)に申請し、2019年夏には、カンター大学の学生4名、教員1名を日本に招聘、1週間のインターンシップを実施しました。2020年夏は、コロナ感染拡大により渡航できないこともあり、カンター大学と当社とをオンラインでつないで実施しました。当社社員にとっても「英語でのコミュニケーション」、「ベトナムを知る機会の創出」という面で、良い刺激になっており、今後も継続したいと考えています。インターンシップを通じて、当社に興味を持ってくださったり、就職したいとくださった学生もいますので、人材の採用に関しても期待しています。”

連携をどのように進めていきましたか？

“カンター大学内にオフィススペースを確保していただき、2019年1月から当社社員1名が赴任しています。その社員が教授や研究室の学生と共に実験・研究を進めています。”

また、当社は、カンター大学との共同研究と並行して、ベトナムでの事業化を見据えて、2019年にベトナム法人を設立しました。コロナ感染拡大の影響で遅れもありますが、現時点では2021年10月の工場稼働に向けて動いているところです。現地法人の立ち上げは、当社日本法人のプロジェクトチームが主体で進めており、共同研究とは別に進めています。”

これまで連携を進めてきて、感じた評価をいくつかの視点に分けて教えてください。

(ベトナム側の姿勢について)

“共同研究に関わる先生や事務局の担当者の方とやり取りを進めました。共同研究の契約等については主に事務局の担当者の方でしたが、スピード感を持って対応していただきました。英語でのコミュニケーションに慣れていない部分もあり、どちらかという当社側で時間がかかってしまい、フォローいただいた印象を持っています。”

(学生の能力・姿勢について)

“英語能力、コミュニケーション能力、学ぶ姿勢が高く、優秀な学生という印象を持っています。共同研究に対しても非常に積極的・前向きに取り組んでくれていると評価しています。”

(全体の進捗について)

“コロナ感染拡大によって研究ができなかった時期はありましたが、感染拡大前には、年に複数回、代表も含めて当社社員がカンター大学を訪問し、定期報告会を実施していました。いまのところ順調に進んでいると評価しています。”

また、共同研究については、事業に活かせるような成果が得られる感触でいますので、当社としては連携で得るものは大きいと感じています。”

連携を進めるにあたって、何か課題等ありましたか？

“日本国内の大学と連携した経験はありましたが、当社にとって「海外の大学との共同研究」は初めての取り組みですので、他と比較しての評価はできません。”

ただ、金銭に関わることなど、トラブルを避けるため、契約書の書面作成・確認については気をつけて進めました。その際、「言語の壁」を身を持って感じました。しかし、幸いなことに当社には日本語が堪能なベトナム社員が在籍しているため、英語に加えて、ベトナム語でのコミュニケーションが可能でしたし、カンター大学側からもフォローいただけたため、スムーズに進めることができました。”

地方大学との連携を検討されておられる企業様等に対して、御機構の経験からアドバイスを教えてください。

“当社も連携を始めたばかりなので、逆にいろいろとアドバイスいただきたい、というのが正直なところです。海外での経験が豊富な企業様から経験談等のお話を聞く機会があるといいと思います。”

当社も現地に社員を赴任させる時に、社内規定等、何も無いところからスタートしましたので、海外支社をお持ちの取引先企業様に相談にのっていただき、大変参考になりました。”

企業同士なので、情報共有できる部分とできない部分があると思いますが、そのように横でつながっていくことも重要だと考えます。”

基本情報

本社所在地	金沢本社: 石川県金沢市玉川町1-5 東京本社: 東京都千代田区神田神保町2-36-1 住友不動産千代田ファーストウイング
ウェブサイト	https://www.mitani.co.jp/
設立年	1949年
主要事業	- 情報システム関連 - 樹脂・エレクトロニクス関連 - 化学品関連 - 空調設備工事関連 - 住宅設備機器関連 - エネルギー関連事業

主要商品・サービス等の関連写真



Aureole Information Technology Inc.
(三谷産業100%出資)
フエ支店オフィス

ベトナムでの大学等との連携事例数*

ハノイ、ホーチミンに 所在する大学 等	4 (ハノイ貿易大学等)
その他の 地方大学 等	1 (フエ科学大学)

* MOUを締結していないものも含めると他にも複数の連携・協力等あり

代表的な連携事例の概要

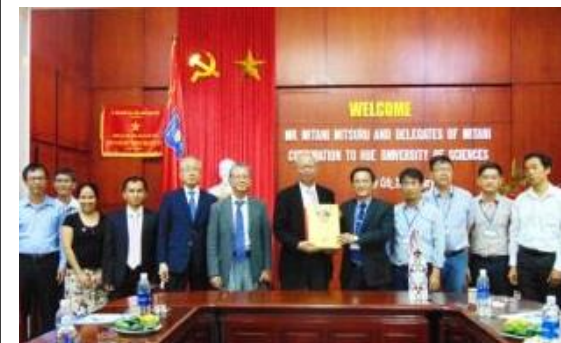
フエ科学大学との連携

連携の意図・目的:

- 研究投資としての産学共同研究の実施
- 企業の社会的責任としての取り組み
- 大学との友好関係の構築

連携内容:

- 2017年より「日本建築における3D関連作図分野に関する共同研究と能力開発」をテーマに産学共同研究を実施
- 学生インターンシップの受け入れや卒業生の採用



フエ科学大学とのMOU調印式

(参考情報: ハノイ貿易大学との連携)

連携の意図・目的:

- 研究投資としての産学共同研究の実施
- 企業の社会的責任としての取り組み
- 大学との友好関係の構築

連携内容:

- 2018年8月、ハノイ貿易大学と協力に関する覚書を締結
- 学生インターンシップの受け入れや卒業生の採用
- 協力協定のプロジェクトの一つとして、同大学の日本語学部との間で、「在ベトナム日系企業における採用の現状と課題」および「在ベトナム日系企業における新人教育の現状と課題」をテーマとした産学共同研究契約にも調印



ハノイ貿易大学とのMOU調印式

インタビュー：地方大学との連携に関する経験

インタビュー御回答者：

金山 純 氏（ベトナム広報戦略室長 兼 同室 ホーチミン駐在員事務所長 兼 同室 ハノイ駐在員事務所長）

ベトナムで大学の連携を考えた経緯・理由・狙いは何でしょうか？

“当社ベトナム事業の沿革から説明します。当社は1994年にベトナムの国営関連企業と合併で法人を設立した後、各事業領域に関連する会社を次々と立ち上げ、現在はグループ会社7社16拠点を抱えています。7社のうち、3社はオフィス系、4社は製造業業態であり、従業員数は計約2,400名となっています。

1994年は日系企業の進出もまだ少なかった時期となりますが、ベトナムの大学との最初の連携も古く、2001年まで遡り、ハノイ・ホーチミンに所在するベトナムトップクラスの大学との間で産学共同研究およびインターンシップ受入等を始めています。

現在まで、その連携を継続していますが、グループ会社であるACSD(Aureole Construction Software Development Inc)社が2018年12月にフエ支店を設立した際にフエ省人民委員会の方と懇談する機会がありました。その懇談にて大学との連携が話題に挙がり、当社社員にも同省のフエ大学・フエ科学大学の卒業生が多数いるということもあり、中部でも大学との連携を検討・注力していこうという流れになりました。

大学との連携については、人材確保という狙いもあります。どの業界もそうですが、中でもIT業界では、人材獲得競争が激化しています。「ベトナムは若手人材が豊富」とよく言われますが、当社としては「中でも優秀な人材、総合力を持った人材」を確保したいと考えています。大学とのリレーションがあり、当社の存在感が大学の中で増せば、優秀な人材の獲得につながることも有り得ます。人材確保は当社にとって非常に重要ですので、産学共同研究に関しては5,6校との実施となりますが、当社グループ企業7社によるインターンシップ受入等、覚書を交わしていない形での連携を入れれば他にも多数あります。また、ベトナムの場合、大学の理事職は政府当局の有力者が就くことも多いため、ごく稀にしかありませんが、政府当局に話をしたい時があれば、大学を通じてお願いすることも有り得ます。”

連携の内容について教えてください。

“産学共同研究に関しては、すぐにビジネスに直結させるというより、「将来チャンスがありそうな分野であれば積極的に研究・支援していこう」という姿勢で実施しています。研究テーマは、担当する先生の得意・研究分野がありますので、基本的には、まず大学側から提案を頂き、それに対して当社からの要望を伝え調整をして決定しています。1年あるいは2年といった期間を設定し、当社からは研究資金援助をすると共に、数か月に1回程度で報告会を実施し、そこに当社グループの社員が入り、方向性や進捗確認をしています。

特に国立大学の場合、資金がふんだんにあるという状況にはないことも理解しており、例えば、研究室の学生のための機材等も本産学共同研究の予算の中から捻出してもらって構いませんので、当社としての社会貢献活動の一環という側面もあるかもしれません。

フエ省およびフエの大学との連携に関しては、包括的な協力を約束しており、インターンシップ受入・産学共同研究の実施等、様々な協力が有り得ます。フエにはACSD社とAIT(Aureole Information Technology Inc)社、2社の支店があり、基本的に、当社グループ企業や大学側からのニーズに基づいて具体的な協力が進められています。”

これまで連携を進めてきて、感じた評価をいくつかの視点に分けて教えてください。

(地方大学の学生の姿勢・能力について)

“日本でもそうだと思いますが、北海道でも九州でも沖縄でも優秀な学生はどこにでもいます。特にベトナムは家族を大事にする価値観が日本よりも高いため「大都市の大学だから優秀な学生が多い」とか「優れた教育を受けている」という風には考えておらず、地方にも優秀な人が多くいると認識しています。”

(ベトナム側の姿勢について)

“ハノイ・ホーチミンには日系企業数が多く、当社グループだけでなく他日系企業もハノイ・ホーチミンの主要大学との連携をしています。一方で、その他の地域の大学との連携はまだ少ない、と認識しています。それもあり、当社と大学との距離感は縮まっています。中部の場合、先生や担当者から、親近感・親密さを感じます。私はホーチミンからの出張ベースでハノイやフエを訪問していますが、フエの場合、「ホーチミンからよく来てくれました」という第一声があります。中部の方はフレンドリーな方が多い印象もあり、好感を感じています。”

(連携全体の評価)

“産学共同研究に関しては、報告会での進捗・方向性確認を経て、終わった後は最終成果物が出てきます。その成果物への評価は当社ベトナム法人で実施し、最終的には日本の親会社の関係役員に稟議・報告書として上がります。結果について、例えば5段階評価で3の時もあれば5の時もあると思いますが、親会社や当社ベトナム法人で「不十分であり、次は継続しない」というような評価をすることはありません。当社は1度決定したことは余程のことがない限り継続する姿勢でいます。仮に低い評価だった場合、大学側が一方向的に悪いわけではなく、当社側にも反省点があるわけですから、その反省を活かして、次につなげるという姿勢でいます。”

“産学共同研究等の覚書等は結んでいないものの協力関係にある大学は他にも多くあります。例えば、ホーチミン市工業大学傘下の越日工業大学は金沢工業大学と協力していますが、当社本社が金沢にあることもあり、日本でのインターンシップ受入等も実施しています。先日は越日工業大学の記念式典に招かれました。当社はB2B企業であり、どうしてもB2C企業よりも知名度が低い傾向にありますが、連携を通じて、このようにお声掛け頂く機会が増えているというのは有難いことだと考えています。”

地方大学との連携を検討されておられる企業様等に対して、御社の経験からアドバイスを教えてください。

“先ほども申し上げましたが、人材獲得競争は激化しており、「少しでも給与が高ければ他に移っていく」という状況があります。当社として人材確保は非常に重要となっており、大学との連携は当社の人材確保手段の1つです。これから地方大学との連携を画策される日系企業が増えるということは、そこもまた競争になっていくのかもしれない。

正直に申し上げますと、地方への注目が集まることは、日本企業・ベトナムの地方大学双方にとって良い事ばかりではないと考えています。「次は地方だ」という形で注目が集まり、ハノイ・ホーチミンと同じような過密状態になっていき、大学と日本企業間での各連携が相対的に浅くなっていくことを懸念しています。”

基本情報

本社所在地	山口県宇部市常盤台2丁目14番1号
ウェブサイト	http://www.ube-k.ac.jp/
設立年	1962年
主要事業	- 第1期国立工業高専・全国12校のひとつとして、1962年4月1日に2学科(機械工学科、電気工学科)3学級で創設 - 現在は、5年制の本科5学科(機械工学科、電気工学科、制御情報工学科、物質工学科、経営情報学科)、2年制の専攻科3専攻(生産システム工学専攻、物質工学専攻、経営情報工学専攻)で運営

主要商品・サービス等の関連写真



代表的な連携事例の概要

高専教育システム導入に向けた地方大学との連携

連携の意図・目的:

- 日本の高専教育システムの海外展開
- 各国の要請に応じた経済成長、産業・技術の高度化を支える人材育成への貢献

連携内容:

- 商工短期大学(COIT: College of Industrial and Trade)、フエ工業短大(Hue-IC: Hue Industrial College)、カオタン技術短大(CTTC: Cao Thang Technical College)の3校と連携して、各校に日本の高専教育コースを導入
- 国立高等専門学校機構(高専機構)が海外展開を画策し、ベトナムにおいては宇部高専が幹事校として、函館高専、鶴岡高専、岐阜高専、有明高専が協力校として、高専教育制度による技術者教育支援を進めている
- 現地の教育制度に合わせて、現時点では、3年間での高専教育という形態になっており、専門科目に特化し、加えて、5Sといった技術者としての心構え等を含んだカリキュラムを各校と話し合いながら、作成、実施をしている。最終的には、中学を卒業して入学する日本と同様の5年制高専教育システムの導入を目指している
- 現在、3年制コースは、フエ工業短大が2019年度19名入学でスタートして、2020年度に商工短期大学が32名、フエ工業短大が59名(2年目)、カオタン技術短大が180名の入学生を迎えている

ベトナムでの大学等との連携事例数

ハノイ、ホーチミンに所在する大学等	2 (商工短期大学、カオタン技術短大)
その他の地方大学等	1 (フエ工業短大)



カオタン技術短大での高専モデルコースのメカトロニクス学科開講式



フエ工業短大での高専モデルコースの入学式

インタビュー：地方大学との連携に関する経験

インタビュー御回答者：

日高 良和 氏（ベトナムでの海外展開事業の幹事校となる宇部高専の副校長）

ベトナムで大学の連携を考えた経緯・理由・狙いは何でしょうか？

“元々、ある日本企業がベトナム中部に石油プラントを作るため、現地でオペレーターを養成したいという相談がJICAにありました。それを受けて、2013年、JICAの人材育成支援プロジェクトが開始され、高専機構が協力しました。日本の高専から先生が派遣されましたが、工業化学分野の学科を持つ高専が選ばれたため、宇部高専も参加しています。同プロジェクトが進む中で、石油プラントのオペレーターだけでなく、技術者の育成へとスコープが広がり、さらに「工業短期大学に高専教育の仕組みを導入していこう」という話にシフトしていきました。

2016年から宇部高専で工業化学を教えている先生がハノイに2年間常駐し複数校をJICAのプロジェクトが終了する2018年まで支援しました。また、高専機構による「高専の教育制度を海外に展開しよう」という海外展開事業が始まっており、2017年からベトナムも支援国と指定されました。JICAプロジェクトを引き継ぐ形で2018年から本格的にベトナムでの海外展開事業が開始され、ハノイにある商工短期大学、フエにあるフエ工業短大、ホーチミンにあるカオタン技術短大の3校をパイロット校として実施しています。高専機構による海外展開事業は、タイ・モンゴル・ベトナムを重点3か国として進められています。”

連携をどのように進めていきましたか？

“ベトナムの教育制度の都合上、まずは、3年制コースを開設しました。商工短期大学、フエ工業短大では電気系、カオタン技術短大ではメカトロニクスのコースを作りました。最終的には中学を卒業して入学する日本と同様の5年制の高専教育を導入したいといった思惑がありますが、制度上、現在は難しいため、カリキュラムの構築を進めながら、高専教育システムの周知活動およびベトナム当局との調整、ベトナムに進出している日系企業との連携といった活動を続けています。

カリキュラムに関しては、まず現地の既存カリキュラムを吟味し、高専教育としての専門科目・実験の授業を増やしたり、現地になかった整理整頓の5Sといった技術者としての心構え・職業観を教えるといったことを考えました。時間内にどれだけ科目を入れることができるかについて等も含めて、日本側・ベトナム側の教員間で情報交換・協議する形で進めています。とりあえず1年生のカリキュラムを作って、2年生はその間に作るというような自転車操業になってしまっていますが、実際の授業の様子を見て改善案を議論する等、日越お互いの教員で授業を作っていく形を採っています。学生・先生の質という観点で言えば、不足している部分も感じますので、それも考慮しながらお互いに納得できる範囲でやっています。現時点で、日本の高専教育と同等かと問われれば途上だと思っており、これからも向上させていきたいと考えています。”

連携する大学をどのように選ばれましたか？

“選んだというわけではなく、JICA時代から高専教育を導入したい意欲がある学校が最終的に3校残った形です。この3校に関しては、校長の意欲が最も影響していると感じています。例えば、商工短期大学の場合、自ら資金を工面して、工作機械や実習工場を作るという計画が進んでおり、高専教育を積極的に導入しようという強い気持ちがありました。”

“3校の違いについては、それほどないですが、カオタン技術短大はホーチミンという大都市に位置しているためか、就職というより進学志向が少し強いかな、と感じます。商工短期大学やフエ工業短大は近くに日系企業も多い工業団地があるので、日系企業に就職したいという要望が強いです。このような背景から学科コースは、社会基盤になる電気・機械だったり、カオタン技術短大の場合は、コースとしてメカトロニクスを選びました。また、「どのようなカリキュラムならば日本の高専の専攻科(5年制の本科が終わった後)に入れるか」といったことを模索しようとしています。”

これまで連携を進めてきて、感じた評価をいくつかの視点に分けて教えてください。

(ベトナム側の姿勢について)

“JICAのプロジェクト時代から基盤構築できていた点がスムーズに進んでいる要因の一つと考えています。その中で、現地事情に詳しいJICAから、アドバイスを頂いてすぐ助かりましたし、また、現地の商工省と良好な関係を築くことができ、現地オフィスの開設等にも御協力頂きました。

私の感覚としては、ベトナム当局も「これからのベトナム産業界を考えると技術者が必要になる。ベトナムの教育、特に技術者を育成する教育が必要なんだ」ということをヒシヒシと感じているのだと思います。その当局の考えと、高専教育システムの導入という本事業とがマッチしたことが、これまで連携をスムーズに進めることができています。”

“大学側も意欲が高い3校であるため、協力的でした。例えば、ベトナムの短大では就職支援をやっていないことが多いですが、日本ではキャリア支援室がある。そういった仕組みを作った方がいいと伝えると、始めは「それは短大として必要?」という感じでしたが、最終的には理解して頂いて、導入して頂きました。”

(学生の能力・姿勢について)

“物事に意欲的に取り組んでくれますが、少し不足している部分も感じます。例えば、「整理整頓をするといった習慣がない」、「理論より実践重視の傾向がある」といった部分です。「日本企業では5Sを習慣づけられないといけない」、「モノの原理が分かって使いこなせなければ、カイゼンができない」といった習慣づけ・姿勢の重要性を実感できるようなカリキュラムを考えたいと思っています。”

(全体の進捗について)

“コロナ禍で渡航できなかったこともあり、評価の段階までいっていません。昨年の状況でいうと、カリキュラムは完成、教える内容も確定しましたが、授業の改善、実験等の指導についてはお互いに模索しながらやっているのが現状となります。高専機構としては卒業後のことがあるので、「高専教育を受けているベトナムの若者がいるよ」といった周知、「工場見学・インターンシップの受け入れ等のお願い」を、日系企業中心に実施する必要があります。去年は取っ掛かりを始めましたが、今年、コロナ禍で渡航できないので予定通りには進められていません。”

連携を進めるにあたって、何か課題等ありましたか？

“政府とのやり取り・調整は大変でした。高専教育はベトナムの教育法と合わない部分があります。今、ベトナムの短大と協力して3年制コースを作っていますが、日本の高専は本来、中学卒業後の入学から5年間の課程になります。政府には、高専という教育制度の理解、それに伴う法整備を進めてもらわなければいけません。このところが最初の段階ですごく苦労しました。

最初は「商工省が企画する工業短期大学の校長先生が集まる年次会合の時に、高専教育の紹介をさせてもらう」から始まり、「どういったカリキュラムを進めて行くのか政府と話し合う」の段階までになり、「中学を卒業して、高等教育機関に入ることができる」という協定は作ってもらいました。ただ、教育の法律にはまだなっていません。”

“工業短期大学の運営には商工省が関わっていますが、制度自体は労働傷病兵社会省の管轄となっています。最初はそういった管轄省庁の違いも把握できておらず、日本大使館の人に色々教えて頂きました。教員ですから、省庁への働きかけなどがわからず、戸惑いました。”

地方大学との連携を検討されておられる企業様等に対して、御機構の経験からアドバイスを教えてください。

“良好な関係性を構築・維持するためにも、こちらの考えを押し付けるのではなく、相手の事情をよく理解した上で、こちらのやりたいことを伝えていく、というのが最も大事だと感じています。”

基本情報

拠点所在地	大阪府吹田市山田丘1-1
ウェブサイト	https://www.osaka-u.ac.jp/ja
設立年	1931年
主要事業	- 吹田・豊中・箕面キャンパスをもち、11学部、16研究科、6附置研究所を擁する国立の研究型総合大学

主要商品・サービス等の関連写真



ベトナムでの大学等との連携事例数

ハノイ、ホーチミンに所在する大学等	大学間協定: 6 部局間協定: 27 個別研究室レベル: 多数
その他の地方大学等	大学間協定: 1 部局間協定: 1 個別研究室レベル: 多数

代表的な連携事例の概要

共同研究プロジェクト (2011年-17年)

「薬剤耐性細菌発生機構の解明と食品管理における耐性菌モニタリングシステムの開発」

ベトナム側連携先:

- ・国立栄養研究所
- ・タイビン医科薬科大学
- ・カントー大学 等

プロジェクト概要:

- ・背景:
難治性の感染症を引き起こす薬剤耐性菌の増加には、医療に限らず畜水産における抗菌剤の濫用が指摘されている。特にベトナムでは、近年、住民の耐性菌保菌率が著しく増加している
- ・研究内容・目的:
本研究では、薬剤耐性細菌発生機構の解析ならびにその蔓延に関与する抗菌剤や関連諸要因を研究解明し、これを基盤とした耐性菌モニタリングシステムの構築を行い、それにより耐性菌の蔓延抑圧を図る

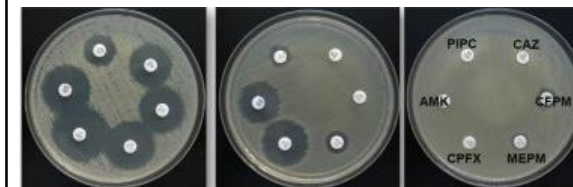
(参考情報: 大阪大学・ASEANキャンパスについて)

概要:

- ・学内外の国際連携・国際交流支援等を担当する部署グローバルイニシアティブセンターを改組して、ベトナム、タイ、ブルネイ、インドネシアにキャンパスを設置
- ・ベトナムでは、2017年末にベトナム科学技術アカデミーに開所 (他の大学も連携機関として協力)

ASEANキャンパスの構想:

- ・3Q (Quality of Life/Nature/Technology)を基本にした質の高い成長への貢献
- ・ASEAN地域での長年の教育・研究実績を現地高度人材育成に結実
- ・国際産官学民共創等の新機軸による社会実装基盤整備
- ・現地/日系企業を含めたイノベーション・ネットワークの構築による新たな価値の共創
- ・生物工学、応用物理、感染症、環境工学、ハラールサイエンス、生物多様性・生物資源、日本語・日本文化等の分野における国際共同学位プログラムの実施



細菌の抗生物質感受性試験:
菌が多剤耐性化するとほとんどの抗生物質が効かなくなる



大阪大学・ASEANキャンパス
(ベトナム科学技術アカデミー内に設置)

インタビュー：地方大学との連携に関する経験

インタビュー御回答者：

住村 欣範 氏（グローバルイニシアティブ・センター 准教授）

ベトナムで大学の連携を考えた経緯・理由・狙いは何でしょうか？

“大阪大学とベトナムの関わりは古く、1960年代に南ベトナム政府とODAで連携していた可能性があり、明確になっている部分で最も古くは1970年代、旧大阪外国語大学(2007年に統合)がベトナム語分野で連携しています。当大学は研究室が約千ありますが、その中のかんりの分野で交流が行われています。現在、当大学はASEANキャンパスという取り組みを実施しており、ベトナム、タイ、ブルネイ、インドネシアの4拠点にキャンパスを設立しています。私は主にベトナム・ブルネイを担当しており、ASEANキャンパスは多分野連携のプロジェクトを取り纏めるプラットフォームとしての役割もあります。”

連携をどのように進めていきましたか？

“ベトナムでは計7校と大学間協定を締結しています。ハノイ・ホーチミン以外の地域ではカントー大学と結んでいます。大学間協定を結ぶ場合というのは「大きな研究プロジェクトがあるか、学生交流が多面的に推進されるか」のどちらかです。カントー大学は両方となりますが、主に後者になります。協定の締結後は、基本的にプロジェクトベースで動くことが多いです。実際の研究プロジェクトは担当研究者がやりますし、学生を招聘する場合も招聘プログラムの担当者が現地と直接やっています。”

連携する大学をどのように選ばれましたか？

“部局間・研究室レベルだと多数の連携事例があるので、大規模となる薬剤耐性細菌の共同研究プロジェクトの例で説明します。同プロジェクトは、研究代表者となる先生から「市中の薬剤耐性プロジェクトをベトナムでできないか」というお声掛けを頂いたことが始まりとなり、私がカウンターパートの調整を実施し、現地の大学として、タイビン医科薬科大学・カントー大学(農学部)を選定しました。

私自身は1992年頃からベトナムとの付き合いが始まり、96-99年には留学もしていました。それも背景にあり、私は現在、学内外の国際連携・国際交流支援を担うグローバルイニシアティブ・センターに所属しています。同センターの前身機関の時代にも、理系の先生から多くの相談があり、2008年頃には既に、小規模とはなりますが共同研究プロジェクトが多数実施されていました。

その中の1つが、タイビン医科薬科大学です。選定理由は「ハノイから近く、食品が強い医科大学、農村部にある」ということからです。もう1校のカントー大学は、メコンデルタ地域の中核大学となりますが、同地域は気候変動も含めて脆弱性の高い地域ですので、2010年頃から学生も連れてフィールドワークをやっていたので関わりがありました。”

連携を進めるにあたって、何か課題等ありましたか？

“課題を挙げるとすれば、ベトナムの大学の国際交流部署について「担当者が変わっているのに、それが分からない」ことがよくあります。協定を確立する時もそうですし、更新する時にも生じます。「ホームページ見て担当部署に連絡しても返事がない」、「前の担当者に電話して、やっと担当が変わったことが分かる」等です。ベトナムは異動が多く、引継ぎがされていないケースが多いからだと思われます。”

協定は大きな枠組みなので、個々のプロジェクトの進行とは話が別です。研究者と直でやっている共同研究プロジェクト等は、1対1のコミュニケーションであり、プロジェクト自体は大体が、淡々とスムーズに進んでいきます。”

これまで連携を進めてきて、感じた評価をいくつかの視点に分けて教えてください。

(地方大学の学生の姿勢・能力について)

“当大学のASEANキャンパスは、政府の研究機関でもあるベトナム科学技術アカデミーの中にあります。同アカデミーには大学院があり、様々な大学の卒業生が入学してきますが、理系分野だと、地方大学から大学院に進む場合、ここに集まってくる流れができています。その学生を見て、理系の場合、地方大学に熱心な学生が多くなってきている気がしています。都市部の学生は、経済学等を選択する学生が多く、理系から転向する人も多い状況なので、案外、熱心な学生が地方大学に残っているのではないかと、思っています。

ベトナムは東南アジアの中では、ハノイ・ホーチミンに集中しつつはあるものの地方都市がまだ生きており、特に教育に関しては他国と比較して、一極・二極集中の度合いが弱いのかもしれません。”

“都市と地方で英語能力の差はあると思います。昔は、ベトナム人学生の英語は中途半端でしたが、最近、ハノイ・ホーチミンの学生は、英語を学ぶ機会が増えているのか、例えば、ハノイのトップクラスの高校だと、既に当大学の学生よりも上手いくらいのレベルになっていると感じました。地方から来ている学生は、必ずしもその環境が整っていないので、差が出ているのかもしれません。”

(地方大学の先生の能力・姿勢について)

“都市と地方での違いは感じます。先生個人の能力というよりは、大学の置かれた状況によるものです。学術研究をする上では学生が最も重要なのですが、理系の場合は加えて、機材も必要です。地方大学はどうしてもインフラ面が弱く、学生も大学院レベルに進まない。結局、先生も研究に手が回らない、という形になっています。

ただ、ダナン大学やカントー大学等の地方の中核大学レベルでは、インフラ面の整備が進んでいますので、話は別です。ですので、学生としては分散度が一定数残っていますが、学術研究としての大学という視点でみると、三・四極集中になっていると感じます。”

地方大学との連携を検討されておられる企業様等に対して、御社の経験からアドバイスを教えてください。

“当大学の連携は幸い、これまで大きな課題はないですが、他でうまく進まなかった事例を聞くこともあります。契約面が起因となっていることが多いようです。例えば、農業だと土地を使いますが、土地の賃貸借契約はどうなっているか、その事業サイトをどう管理するか、管理人材は適正か、その賃貸費用・人件費はどちらが負担するか等、事前にしっかりと契約を結んでおくべきだと思います。特に地方の場合、実際に行くことが難しく、コミュニケーション面がうまく行かなくなるケースもあるようです。”

“薬剤耐性細菌の共同研究プロジェクトは、SATREPS(地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム)というJST(科学技術振興機構)とJICAが研究開発マネージメントを実施するプログラムに申請して、採択されたプロジェクトとなります。採択されれば、JICAが関与するため色々な側面で支援を期待することができ、ベトナムの公的機関も入って後押しをしてもらうことができる枠組みとなっています。

SATREPSに限らず、例えばJICAの民間連携事業等、そういった支援を期待できる枠組みがありますので、それが利用可能な案件の場合、積極的に申請を検討されるべきだと思います。連携の際にそういった支援を受けられれば、連携プロジェクトを組む上ではより安心です。”

基本情報

所在地	滋賀県庁: 滋賀県大津市京町四丁目1番1号
ウェブサイト	https://www.pref.shiga.lg.jp/
概要	- 総人口: 1,412,846人 - 世帯数: 577,507世帯 - 基本構想: 「変わる滋賀 続く幸せ」 ✓みんなの力を合わせて、目指す未来をつくります ✓SDGsの特徴を生かします

主要商品・サービス等の関連写真



代表的な連携事例の概要

クアンニン省およびハロン大学との連携

連携の意図・目的:

- クアンニン省における環境保全と経済発展の両立に貢献
- 県内の産学官民で取組む水環境ビジネスを一層推進する

連携内容:

- 2016年、JICAによる技術協力プロジェクト「クアンニン省ハロン湾地域のグリーン成長プロジェクト」において、水環境の改善に関する研修や技術指導等を実施
そのプロジェクト中、クアンニン省は、琵琶湖環境科学研究センターをモデルとした研究機関をハロン大学内に設置する方針を立てた
- 2017年10月、クアンニン省と環境・経済分野の協力に関する覚書を締結
その協力事項には「琵琶湖環境科学研究センターをモデルとしたハロン大学に属する研究機関の設立」および「双方の大学・研究機関の連携」が含まれており、ハロン大学の活動を支援するため、助言・技術交流等を今後も継続していきたいと考えている

ベトナムでの大学等との連携事例数

ハノイ、ホーチミンに 所在する大学 等	0
その他の 地方大学 等	1 (ハロン大学)



2017年10月調印式



2019年11月、ハロン大学での琵琶湖環境科学研究センター研究員による講演

インタビュー：地方大学との連携に関する経験

インタビュー御回答者：

海東 聡 氏（滋賀県琵琶湖環境部 環境政策課 主席参事）

松本 寛 氏（滋賀県琵琶湖環境部 下水道課 課長補佐）

ベトナムで大学の連携を考えた経緯・理由・狙いは何でしょうか？

“2014年頃、クアンニン省の下水道分野の調査が企画され、滋賀県はその調査に協力しています。その経緯もあってか、JICAの技術協力プロジェクト「クアンニン省ハロン湾地域のグリーン成長推進プロジェクト(フェーズ1)」が実施される際に「水環境の保全と利用を進めながら、経済の発展を同時に可能にする」という考え方である「琵琶湖モデル」を謳っている滋賀県にJICAから協力打診がありました。また、2016年4月にクアンニン省人民委員会副委員長が琵琶湖環境科学研究センターを視察し「同様の機関を設立したい」と考えて頂いたという背景もあります。

JICAプロジェクトのフェーズ2は2016年頃から始まり、県庁内の関係各課連携し、担当する分野を分担して対応しています。長期プロジェクトで担当者の入れ替わりもあり、また各課で担当する分野が分かれているため、全体を把握できてはいませんが、例えば下水道課は、琵琶湖で培った経験を活かし、ハロン湾の汚濁負荷を軽減するために下水道システム、生活排水等に関する技術指導を行いました。

同プロジェクトの中で「琵琶湖環境科学研究センターをモデルとした研究機関の設立」がテーマの1つとなっていました。省側の検討により「ハロン大学の中に作る」となったため、ここからハロン大学との連携が始まりました。

加えて、2017年10月には滋賀県とクアンニン省との間で環境・経済分野の協力に関する覚書を締結しています。その協力事項には「琵琶湖環境科学研究センターをモデルとしたハロン大学に属する研究機関の設立」および「双方の大学・研究機関の連携」を含めており、JICAプロジェクトは2019年11月に終了していますが、今後もハロン大学に対する助言・人材交流等の連携を継続していきたいと考えています。”

連携をどのように進めていきましたか？

“クアンニン省人民委員会から「ハロン湾研究センターを作る」という任務を伝えられた時、ハロン大学の実務担当者はおそらく「どうしたらいいかわからない」という状況になったと思います。そのような中で、滋賀県の担当者がJICAプロジェクトの一環で年に複数回、現地訪問し「どのように設立していくか」、「滋賀県の研究所のノウハウ」等に関する助言を都度都度行いました。

加えて、こうした訪越の際にはハロン大学への訪問以外にも、滋賀県内企業のビジネスチャンス創出の観点から、県内水ビジネス企業等にもお声掛けをして、その紹介をする等、省人民委員会をはじめ、いろいろな分野で技術交流的な活動も実施しました。”

“2018年4月頃には、ハロン湾研究センターが大学内に設置されました。ですが、設置時においても具体的な中身はまだこれから段階であり、組織の研究方針等も決まっていなかったため、設立以降も、ハロン大学側からの質問に答えたり、研究者に対する助言等を中心に実施しました。

人材交流の活動ですが、ハロン湾研究センター側の実情は「人材育成・ノウハウがまだ確立できていない」ため、まず研修生を日本に送りたいという要望があり、今年度、研修生を滋賀県へ送るといった計画もありましたが、コロナ感染拡大の影響により、残念ながらまだ実現はされていません。また、研究者同士の研究交流も実施したいと考えていたため、その下地を作る取り組みとして、2019年のJICAプロジェクトの最終報告会のための訪越の際に、琵琶湖環境科学研究センターの研究員に同行してもらい、その研究成果の発表の場を設け、意見交換も実施しています。ですので、コロナの状況が収まれば、人材交流・研究交流の検討がまた再開される予定となっています。”

連携を進めるにあたって、何か課題等ありましたか？

“省人民委員会からの指令となるため、組織自体は立ち上がりました。ただ「研究センター」の看板は架かったものの、中身は、これからの後追いになっています。「琵琶湖でのモデルを参考に、ハロン湾の環境をどういう風に研究を進めたらいいか」の部分は整っていません。ハロン大学側の主な実務担当者は、環境学部学部長の先生となりますが、研究センターは元々大学に所属している環境学部の先生・研究者が集められており、研究ニーズに沿って人材が集められているわけではありません。人材募集や人材育成を進めていく必要があります。そのような段階では、例えば「琵琶湖でやっている調査手法を伝えたくても、まだ相手方にその専門家がいない」という状況になり、噛み合わない部分もありました。”

“クアンニン省側から滋賀県へ熱い協力要望が現在も続いていますので、その要望には応えたく、連携は継続する方針にあります。ただし、これまではJICAプロジェクトの枠組みがあったため、県から毎年複数回、人材を派遣する等ができていましたが、県単独の予算で、これまでと同規模の連携・交流を続けることは難しい部分もありますので、県としての成果をどうアピールするかを含め、どのように工夫して進めていくかを考える必要があります。”

これまで連携を進めてきて、感じた評価をいくつかの視点に分けて教えてください。

(ハロン大学側担当者の姿勢について)

“クアンニン省、特に副委員長の思いは強い一方で、大学側は「自身で自発的に」ということではなく、「上からの指令・目標に応えなければならない」という体制にあると思います。事務的なレベルでは「積極的に向こうから」ではなく「やや受け身」の印象を受けました。例えば、「日本側からの訪問日程が決まっても、なかなか先方の具体的なアクションが始まらない」といったようなことです。”

(ハロン大学との連携の進捗について)

“元々、滋賀県側で進捗計画を設定していたのではなく、あくまで「クアンニン省側のペースに合わせて、その要望に応じて対応していく」というのが基本スタンスですので、そういった意味では適切な対応ができていると考えています。

一方、「琵琶湖環境科学研究センターと同様の機関を作る」という目標設定ならば、まだまだ課題は多いです。ですが、クアンニン省として「どれだけ予算をかけられるか」、「優先順位をどうつけるか」、「省側の関係機関との役割分担や連携体制をどうするのか」といった事情・条件の中での進行となりますので、一步一步進めた、という意味では着実に進んだと思います。”

(連携全体の評価)

“個人的な感想とはなりますが、「(ハロン大学との連携だけでなく)様々な分野での連携が行えた」、「双方の友好関係を築けた」という意味で連携は成功している、と考えています。ハロン湾研究センターの評価としては、実際に機関が設立されたため、それをもって一定の成果と言えるとは思いますが、一方で「研究機関が一定の役割を果たす」、「研究機関としての活動を開始する」というのが重要だと思います。まだその段階に達していない中で、現在コロナ禍で中断している状況ですので、評価を出すには時期尚早と考えています。”

地方大学との連携を検討されておられる企業様等に対して、御社の経験からアドバイスを教えてください。

“ベトナムでは上層部が大きな影響力を持っています。例えば、当県のクアンニン省との連携は、副委員長の御意向に端を発しています。そこ意思疎通ができるということが、スムーズに進められる大きなポイントだろう、と思います。

またベトナムは人情豊かな人が多いので、ビジネス的なロジックだけでなく、人と人との信頼関係で話が進むという習慣・傾向もあると感じています。”

基本情報

所在地	美作市役所: 岡山県美作市栄町38番地2
ウェブサイト	http://www.city.mimasaka.lg.jp/
概要	<ul style="list-style-type: none"> - 岡山県の北東部に位置する - 総人口: 26,952人 (令和2年11月30日時点) - 世帯数: 12,356世帯 - 基本理念: 「豊かな自然や地域の個性をさらに磨くことで、地域の魅力を高め、住民が心豊かに誇りを持って暮らせる、夢と愛に満ちあふれた、人が輝くまちを目指します。そのためには、地域の人材交流や固有資源、産業の連携を図り、住んでいる人は住み続け、訪れる人はまた来なくなる、そんな真の豊かさを実感できるまちづくりを進めます」

主要商品・サービス等の関連写真



ベトナムでの大学等との連携事例数

ハノイ、ホーチミンに 所在する大学 等	0
その他の 地方大学 等	1 (ダナン大学)

代表的な連携事例の概要

ダナン大学との連携

連携の意図・目的:

- ・ 在市ベトナム人の人口増加を受けての「安心して暮らせるまちづくり」の構築のための一環
- ・ 人口減少下での労働力人口不足に対する対応の一環

連携内容:

- ・ 2015年4月、ダナン大学との間で相互協力協定を締結
- ・ 人材交流:
 - ✓ ダナン大学外国語大学の卒業生を美作市内の嘱託職員として採用
同職員は、在市ベトナム人の生活支援等を実施する総合相談窓口としての業務および配布物の翻訳・情報発信、要人来日時の通訳等を担当し、市が掲げる「安心して暮らせるまちづくり」の一環としての役割を担う
 - ✓ 美作市からダナン大学に対して、日本語教師を派遣
- ・ シンポジウム・ワークショップの共同開催:
 - ✓ 美作市長によるダナン大学での講演の実施
 - ✓ ダナン大学総長による美作市内での記念講演の実施

(参考情報: イエンバイ省との連携)

連携の意図・目的:

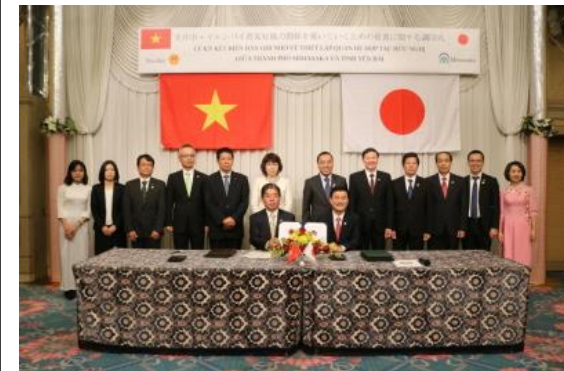
- ・ 経済・農業・観光・文化・教育、人材育成、人材交流の分野における情報共有及び協力関係強化

連携内容:

- ・ ベトナムの省庁から当市との連携に興味がある自治体としてイエンバイ省を紹介されたことがきっかけとなる
- ・ 2019年11月、イエンバイ省との間で友好関係を築いていくための覚書を締結
- ・ 同覚書の内容は「農業機関の相互交流強化や、専門学校等の教育機関や企業の協力関係強化、文化観光の宣伝支援」等となる
- ・ 2020年4月、当市の代表団が訪越し、正式な協定を締結予定であったが、コロナ感染拡大により延期
- ・ 連携内容の実行はこれからの調整が必要であるものの、イエンバイ省からのマスク寄贈、当市開催のベトナム写真展への協力等、遠隔で可能な小さな連携は既に開始している



ベトナム人嘱託職員
(ダナン大学外国語大学の卒業生)



MOU調印式

インタビュー：地方大学との連携に関する経験

インタビュー御回答者：
山本 勇士 氏 (企画振興部 営業課)

ベトナムで大学との連携を考えた経緯・理由・狙いは何でしょうか？

“ベトナムとの交流を開始した経緯から説明します。現市長の萩原市長は2014年に就任されました。当時、当市の人口推移の調査を実施したところ、多くの中山間地域と同様、少子高齢化等の影響により人口減少が著しくみられました。一方、在り外国人は年々増加がみられ、技能実習生として、特にベトナム人が増えていました。この状況を鑑みて、人口減少の抑止策の1つとして「外国人も安心して住めるまちづくり」を進めていこうという市長の発案が発端となり、ベトナムとの交流事業を計画することにしました。

そのような検討を進めている最中、2014年8月、萩原市長のつながりで御縁があり、ダナン大学の国際関係学部の学部長Hai先生に美作市を御訪問頂きました。そこでの話し合いを経て、2015年1月には、萩原市長がダナン大学を訪問し、大学にて基調講演を実施したり、同年4月には、日本の自治体としては初めて「ダナン大学との相互協力協定の締結」に至ることができました。

連携の内容について教えてください。

“具体的な連携活動の大枠は、人材交流およびシンポジウム・ワークショップ共同開催となっています。

人材交流については、2017年からダナン大学傘下のダナン大学外国語大学の卒業生を毎年1名募集し、美作市の嘱託職員として採用しています。在りベトナム人の生活支援であったり、ベトナムから要人が来られた場合の通訳、配布物の翻訳、情報発信等を担当しています。ベトナム人の総合相談窓口としての役割を果たしており、市が掲げる「外国人が安心して暮らせるまちづくり」の一環を担って頂いていると高く評価しています。美作市からもダナン大学へ日本語教師を派遣しています。これについては、昨年度から大学側から不要と言われ休止していますが、これまでに数名を派遣してきました。

シンポジウム・ワークショップの共同開催については、当市市長がダナン大学にて5・6回の講演を実施し、ダナン大学総長に「ダナン大学と美作市における人材交流協定の具現化について」という記念講演を市内で開催して頂きました。連携は問題なく進められており、大学との連携は当初5年の計画でしたが、本年度4月、5年延長の覚書を交わしています。”

連携をどのように進めていきましたか？

“営業課がベトナム交流事業を担当しており、ダナン大学との交流に関しては大学側との調整、採用するベトナム人嘱託職員の日本側受入全般を実施しています。

日本語が可能なHai先生との間で大枠を決め、その後、大学側の実務担当者との細部を進めた形となります。基本的に、Hai先生に対応頂いたため、日本語でのコミュニケーションが進められた部分も多いです。また、日本語が可能なベトナム人嘱託職員もいるため、必要に応じて通訳をお願いし、ベトナム語でのコミュニケーションも可能でした。”

連携を進めるにあたって、何か課題等ありましたか？

“個々の事業で考えると難しい点もありましたが、ダナン大学側は積極的に交流を推進してくださいましたし、当市側も積極的に取り組みましたので、スムーズに交流できたと考えています。

小さな点ですが、課題として敢えて挙げるならば、例えば、当市から日本語教師を派遣するためのビザ取得の問題です。当時、法律が変わったタイミングであったため、ベトナム側でビザ取得に時間が掛かり、最終的に就業予定者の経歴がビザ要件を満たしておらず、急遽、別のビザを申請する、ということがありました。当市側もビザについて詳しくなかったですし、ダナン大学側の担当者も必要書類等を把握されていなかったため、不慣れである当市側が主体となつての準備となり、戸惑ったというのありました。”

これまで連携を進めてきて、ベトナム側の姿勢について感じたことを教えてください。

“中心窓口として担当して下さったHai先生は、日本語も堪能であり、日本での長期留学経験もあることから、当市側の立場も鑑みて御配慮下さり、非常に心強く感じています。また、当市の訪問団が訪越する際は、ダナンだけでなく、ハノイも含めて、付きっきりで通訳して頂きました。そこまでフォローして頂ける手厚さには非常に感謝しています。本連携をここまで進めることができた要因として、欠かすことのできないキーパーソンだと思っています。”

“当市が訪越する際は、在大阪ベトナム総領事館に行き、関連省庁へのアポ取得をお願いしています。また、総領事に当市での「ふるさと祭り」というイベントで御挨拶頂いたり、ベトナムの料理・雑貨を販売して頂く総領事館ブースを出して頂いたり、密な連携を採らせて頂き、大変お世話になっています。”

連携の評価を教えてください。

“ベトナム人嘱託職員の方が非常に熱心に取り組んでくれており、「日本語可能なベトナム人が行政の窓口において生活支援」をしている点が、他の自治体にはあまりない、当市の強みだと思っています。技能実習生の受け入れが増えていることもあり、在りベトナム人の人数も2014年3月時点の52名から現時点で約240名に増えています。

市内の企業が技能実習生を受け入れやすいように、当市が補助する形で、美作市の商工会に受入機関としての認定を受けてもらったりもしています。当市の活動だけの効果ではないとは思いますが「ベトナム人技能実習生を安心して企業が受け入れることができる環境」が整いつつあるのかな、と評価しています。”

地方大学との連携を検討されておられる企業様等に対して、貴市の経験からアドバイスを教えてください。

“当市の場合、Hai先生やベトナム人嘱託職員がいたため苦労はなかったですが、おそらく言語・コミュニケーションの問題で苦労することが多いのではないかと想像しています。当市の場合、強力な協力者(Hai先生・ベトナム人嘱託職員)がいたため連携がスムーズに進んだのだと思います。そのような方との連携であったり、サポート体制を構築できれば良いと思います。”

“抽象的ですが、ベトナムの方は気のいい人が多いため、協力者を見つけた後は、ざっくばらんに話してみるのが良いと思います。日本では難しいと思うことでも、ベトナム側では案外実施できたりもします。”

基本情報

所在地	横浜市役所(市庁舎): 神奈川県横浜市中区本町6丁目50番地10
ウェブサイト	https://www.city.yokohama.lg.jp/
概要	<ul style="list-style-type: none"> - 総人口: 3,757,630人 - 世帯数: 1,731,071世帯 (令和2年9月1日現在) - 基本構想(長期ビジョン): 「市民力と創造力により新しい“横浜らしさ”を生み出す都市」 <p>新しい“横浜らしさ”を生み出す柱</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の知が集まる交流拠点都市 2. 新たな活躍の場を開拓する活力創造都市 3. 多様な働き方や暮らしができる生活快適都市 4. 市民の知恵がつくる環境行動都市 5. いつまでも安心して暮らせる安全安心都市

主要商品・サービス等の関連写真



代表的な連携事例の概要

ドンア大学との連携

連携の意図・目的:

- ・ 少子高齢化を背景として市内の介護サービス需要が増加を続ける一方で、不足していくと見込まれる介護人材の供給源の確保

連携内容:

- ・ 横浜市の特別養護老人ホーム等での9ヶ月間のインターンシッププログラムの企画・実施 (本インターンシップは学校側の単位として認定)
- ・ 海外からの円滑な介護人材受入を目的に、在留資格に対応できるよう、必要な日本語レベルや知識を習得するため、「訪日前日本語等研修」プログラムを提供
- ・ 現在までに、12名の学生が参加・来日している (コロナ感染拡大のため、入国が難しくなったため、現在滞在しているのは2名)
- ・ 「インターン経験者の一部に大学卒業後、技能実習あるいは特定技能の在留資格にて横浜で働いてもらう」というサイクルを想定

フエ医科短期大学との連携

連携の意図・目的:

- ・ 少子高齢化を背景として市内の介護サービス需要が増加を続ける一方で、不足していくと見込まれる介護人材の供給源の確保

連携内容:

- ・ 海外からの円滑な介護人材受入を目的に、在留資格に対応できるよう、必要な日本語レベルや知識を習得するため、「訪日前日本語等研修」プログラムを提供
- ・ 「学生がN4取得(技能実習生としての要件)・特定技能の試験に合格する等した後、横浜市が介護事業者とのマッチングを支援して就職を決めてもらう」というサイクルを想定
- ・ 研修内容および目標は以下となる
 - ✓ 日本語研修: 入国時に必要な日本語レベルとして、ある程度の日常会話ができ、生活に支障がない程度の日本語能力水準(N4以上)を目指す
 - ✓ 介護の日本語研修: 介護現場で介護業務に従事する上で支障のない程度の水準を目指す
 - ✓ 介護の技能実習: 介護業務の基礎となる能力や考え方等に基づき、利用者の心身の状況に応じた介護を一定程度実践できる水準を目指す

ベトナムでの大学等との連携事例数

ハノイ、ホーチミンに所在する大学等	2 (バクウォアナムサイゴン短期大学、レティエン職業訓練校)
その他の地方大学等	4 (ドンア大学、フエ医科短期大学等)



フエ省、フエ医科薬科大学、フエ医科短期大学とのMOU調印式

インタビュー：地方大学との連携に関する経験

インタビュー御回答者：

佐藤 泰輔 氏（健康福祉局 高齢健康福祉部 高齢健康福祉課長 外国人材受入・共生推進担当兼）

深野 昭江 氏（健康福祉局 高齢健康福祉部 高齢健康福祉課 人材確保等担当係長）

ベトナムで大学の連携を考えた経緯・理由・狙いは何でしょうか？

“我々は横浜市役所の中の健康福祉局の高齢健康福祉部に所属しており、高齢者の介護サービスの提供・確保が仕事の中心となります。「日本は少子高齢化で、これから益々、介護サービスを必要とされる人が増えていく一方でサービスを支える人材が少ない」といった課題があります。現実的に、介護サービスを提供している事業所が求人を出したとしても人が集まらない。そうした実態が増えてきています。都市部であればあるほどこの傾向は大きくなっていきます。このまま何もしないと、将来増え続ける高齢者に対する安定的な介護サービス提供が不可能になっていくため、何としても介護人材の確保をしなければならぬという思いがあります。

この課題に関して、国が先陣を切って、2008年からインドネシア・フィリピン・ベトナムの3か国を対象にEPA（経済連携協定）の取り組みの1つとして介護福祉士候補生の受け入れを始めています。横浜市はこの取り組みに真っ先に手を上げ、これまで市内の多くの事業所で候補生を受け入れ、人材の一員として活用させて頂いたという経験値がありました。そういった経験値もありながら、将来に向けての介護人材の確保が難しいという中で、国内だけでなく海外から介護人材を安定的に確保する必要があるだろうと考えました。そして、海外と言っても様々な国がある中で「EPAでの成功体験を持っている3か国から人材を求めるとのが最も効果的ではないか」と考えていました。

そうした中、2017年9月、市長がAPECの会議に参加するためにベトナムを訪れた際、現地の政府・自治体関係者との懇談で「いかに横浜市で介護人材が不足しているか」、「EPAの取り組みで来て頂いている候補生の方たちの評判がいかに素晴らしいか」をお伝えし、併せて、先方に対して「是非、横浜でベトナムの方に介護の世界で活躍してもらいたいんだ」というメッセージを残しました。その後、「実際にどのようなことができるか」ということで最初にお声掛け頂いたのがベトナム中部のダナン市になります。”

連携をどのように進めていきましたか？

“介護人材の確保に向けて色々な方法があると思いますが、ダナン市から「一緒に取り組みましょう」という申し入れがあったこともあり、まずは、自治体同士の間で取り組みを進められないかとテーブルに着きました。そして、介護人材として相応しい人材を話し合う中で、横浜市側から「看護の勉強をしている学生がいる学校」の紹介を要望し、ダナン市からドンア大学を紹介頂きました。2018年7月には、介護人材受入推進のために、同時に3自治体（ダナン市・フエ省・ホーチミン市）および5校と覚書を結んでいます。この5校は全て自治体からの紹介となります。覚書を締結した後は自治体同士のやり取りは状況報告が中心となり、各学校との間で直接やり取りをし、連携に関しての実務を進めていきました。”

連携の内容について教えてください。

（ドンア大学との連携）

“ドンア大学と覚書を結んだ時点で、横浜市での就業に興味を持つ学生が多いため、「どのように日本に連れてくるのか」から検討しました。当時、介護人材としての在留資格はEPA、留学生、技能実習生が考えられましたが、大学と話し合いを続けた結果として「学生が授業の一環として9ヶ月間、横浜市に来て介護の仕事をする。その経験が学校の卒業の単位として認められる」という新しい仕組みを作り上げました。2019年3月に2名、5月に8名、10月に2名が入国し、これまで12名のインターンに横浜市内の特別養護老人ホーム等で実習をして頂きました。「インターン経験者が帰国して大学卒業後、技能実習あるいは特定技能等の資格で、また横浜で働いてもらう」というサイクルを想定したものになっています。

インターン受入にあたっては、日本側での調整も必要でした。学生が横浜市で働くにあたって「どんなケアが必要で、どんな流れで、誰が責任を持って面倒をみるか、費用はどこが持つか」、決めておくべき点の洗い出しを1つ1つ実施しました。この連携プロジェクトは横浜市だけでは難しく、市内で特別養護老人ホームを運営している社会福祉法人の集まりである横浜市福祉事業経営者会の協力を得て、学生の受け入れに向けた諸条件の整備を進め、実際の受入施設の募集もお願いしています。”

（フエ医科短期大学との連携）

“2019年夏季から、将来、横浜市の介護施設で働きたいと希望する学生（現在は約30名が参加）に対して、「訪日前日本語等研修」という教育プログラムを現地で提供しています。「日本語・介護で使う専門用語・介護技術等」をベトナム国内で勉強できる場を横浜市が提供している形になります。学生は、授業料無料であり、テキスト代程度の実費のみで受講することができます。

「受講生が勉強して、一定レベルの日本語レベルに達する、あるいは、特定技能ビザの試験に合格する等で日本に来る資格を得た後、横浜市が市内の介護事業所とマッチングを行い、介護施設で働いてもらう」流れを想定しています。

ドンア大学と同様のインターンの仕組みの導入は「就学期間に占めるインターンの期間に制限」があり、また「短期大学では学位が出ないため、日本の在留資格取得が難しい」という状況があり困難でした。そのため、フエ医科短期大学の学生に本格的に活躍してもらうのは、今現在、現地で受講している学生が卒業した後だと考えています。”

連携を進めるにあたって、何か課題等ありましたか？

“現時点で、実際に横浜市で人材を受け入れている事例はドンア大学のみとなるため、ドンア大学の話が中心となります。外国人を受け入れるにあたって「日本に来る際に金銭的な負担を掛けたくない」ということを重視しており、なるべく費用は受入施設であったり、横浜市が負担する仕組みを設計しました。従って、「ベトナム人大学生が実習で9ヶ月間働く」というのは、受入施設側には不安に加えて金銭的な負担も掛かりますので、その折り合いを着けるのに苦労がありました。”

これまで連携を進めてきて、感じた評価をいくつかの視点に分けて教えてください。

（大学側の姿勢について）

“ドンア大学を例にとると、副学長に窓口になって頂いていますが、学生目線の視点も持って調整に臨んでくれていると感じ、ベトナム側の一体感が感じられました。また、コロナ感染拡大前には、定期的に来日され、インターンのケアをされていました。そういった姿勢で臨んでくれる大学とは大変やりやすく、我々としても助かっています。”

（学生の能力・姿勢について）

“現時点で受け入れた人数は計12名と少ないので判断が難しい部分もありますが、皆優秀でした。仕事自体もそうですが、取り組み姿勢が素晴らしいです。インターンはN4を取得して来日するのですが、来てすぐは皆、全然会話になりませんでした。働き始めて1ヶ月である程度、意思疎通ができるようになりました。また、国のモデル事業を活用して来日したインターンに対して、Eラーニングによる日本語学習・介護知識の教材を提供し、空き時間で自習してもらった形にしましたが、そのログイン履歴をみるとインターンは結構な時間、毎日、教材に触れていました。そのため、9ヶ月経って帰国する頃には、普通に喋っていました。”

（連携全体の評価）

“横浜市内で従事している海外からの介護人材はEPAも含めて500名程度いますが、総じて評判が良いです。利用者からは「東南アジアの方は明るい人が多い、高齢者を大事にする」、経営者からは「真面目で嫌なことがあってもコツコツ取り組んでくれる」と高評価であり、日本人の同僚からの評価は色々ありますが、良い評価の中に「懸命に取り組む姿勢を見て、仕事に慣れてしまった自分たちがリッパと目が覚めた」という感想もあり、単に人手確保だけでなく、職場環境への影響も期待できるのかもしれない。”

地方大学との連携を検討されておられる企業様等に対して、御社の経験からアドバイスを教えてください。

“当市の取り組みである介護分野で話しますと、介護人材の不足は日本だけでなく、他国も同じ課題に直面しています。ベトナムの方は、勤勉で真面目で明るくて、様々な国が人材として期待しています。そういった中で、まず、日本を選んでもらわないといけない、日本を選んでもらったとしても、工場・小売・宿泊、様々な業界が人手不足になっており、介護業界を選んでもらわないといけない。介護業界を選んでもらったとしても、次はどの自治体・企業で働いてもらえるか分からない。そういう風に考えると、選んでもらうため、相手の立場になって魅力的なプログラムを用意して、それを着実に実行していく必要があると思います。

また、今はSNS社会ですので、一旦悪い評判が立ったら打ち消すのは物凄く大変です。ですので、決まった約束は必ず履行する。それが成功する秘訣なんだと思っています。

横浜市は海外からの介護人材受入れ支援の取組では、現時点ではトップランナーだと自負していますが、ここで歩みを止めれば、どんどん抜かされてしまいます。その点をしっかり考えながらやっていく必要があると考えています。”

報告書名	:	ベトナムの地方大学と日本企業等との連携可能性に関する調査 ～日本との連携実績のあるベトナム主要大学および連携事例集～
発行	:	2021年2月
作成者	:	ジェトロ・ハノイ事務所 協力: 在ベトナム日本国大使館
委託先	:	B&Company Co., Ltd
		ご意見・ご質問等ございましたら下記までお願い致します。
お問い合わせ	:	ジェトロ・ハノイ事務所 TEL: 84-24-3825-0630 FAX: 84-24-3825-0552 E-mail: VHA@jetro.go.jp